

平成 28 年度（平成 27 年度対象）

逗子市教育委員会 点検・評価に関する報告書

逗子市教育委員会

【 目 次 】

○はじめに		
1 趣旨	1
2 点検・評価の対象	1

○学校教育		
1 点検・評価の実施方法	3
2 点検・評価の記載方法	3
3 報告内容の構成	4
4 点検及び評価の結果		

I	子どもたちの学力向上	5
	1 個に応じた指導の充実	5
	① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実	5
	② 「読解力」向上の取り組みの推進	10
	③ 読書活動の推進	14
	④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	18
	〈教育委員会分析結果〉	23
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	27
	2 健やかな心と身体の育成	29
	① 基本的な生活習慣の育成	29
	② 豊かな心を育む道徳教育の推進	33
	③ 豊かな体験活動の推進	37
	④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	41
	〈教育委員会分析結果〉	45
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	48
II	課題に迅速に対応する学校づくり	50
	1 多様な教育的課題への対応	50
	① 学校安全の推進	50
	② 問題行動等への対応の推進	55
	③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	60
	④ 国際教育の推進	64
	⑤ キャリア教育の推進	68
	⑥ 福祉教育の推進	72
	⑦ 環境教育の推進	76
	⑧ 情報教育の推進	80
	〈教育委員会分析結果〉	84
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	88
	2 地域に開かれた学校づくり	90
	① 地域への情報発信と学校公開の工夫	90
	② 地域教育力の活用	94
	③ 学校評価を生かした学校の改善	98
	〈教育委員会分析結果〉	102
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	105

Ⅲ	教員の指導力向上	107
	1 教員研修・研究の充実	107
	① 授業研究の充実	107
	② 授業評価の活用	111
	③ 研修事業の充実	115
	〈教育委員会分析結果〉	119
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	121

○社会教育

1	点検・評価実施方法	124
2	点検・評価の記載方法	124
3	報告内容の構成	124
4	点検及び評価の結果	
	施策の柱① 現代的課題に関する学習機会の提供	125
	施策の柱② 地域で取り組む課題に関する学習機会の提供	127
	施策の柱③ 地域で子どもを育てる環境づくりに向けた学習 機会の提供	129

○参考資料

	平成27年度の教育委員会の活動状況	132
	逗子市学校教育総合プラン全体図	135
	平成25年度～平成27年度 学校による点検及び評価の推移	
	逗子小学校	136
	沼間小学校	145
	久木小学校	151
	小坪小学校	157
	池子小学校	163
	逗子中学校	169
	久木中学校	176
	沼間中学校	182
	地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	188
	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について （抜粋）	189

〇はじめに

1 趣 旨

平成 19 年 6 月に公布された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成 20 年 4 月 1 日から、すべての教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

本報告書は、この法律の規定に基づき、委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関する学識経験者の意見及び助言をいただき、点検及び評価を実施し、結果を報告するものです。

本市の特色ある教育施策を広く市民の皆さまにお知らせすることにより、教育現場における課題や取り組みの方向性を明らかにし、また、社会教育の講座等の充実を図り、より一層効果的な教育行政の推進を図り、逗子のよりよい教育施策の実現に資するよう努めてまいります。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象については、学校教育に関わる対象事業は、「21世紀を生きる子どもの育成、未来を切り拓く子どもの成長を支えるために」を基調に策定された「逗子市学校教育総合プラン(第Ⅲ期)」(平成 25 年度改定)を対象とし、学校の教育活動に焦点をあてています。

また、平成 24 年度から社会教育に関わる事業についても、点検・評価の対象としてきました。

今年度からは、社会教育推進プラン 2015～2022 年度(前期)(平成 27 年 4 月制定)の施策の柱に位置づけられた事業を対象としています。

○学 校 教 育

1 点検・評価の実施方法

学校教育に関わる対象事業は、「逗子市学校教育総合プラン（第Ⅲ期）」に基づいて実施しています。

本計画は、「21世紀を生きる子どもの育成、未来を切り拓く子どもの成長を支えるために」を基調に、逗子の公立学校の取り組む方向性を示す「逗子市学校教育総合プラン」を平成18年3月に策定しました。その際、変わり行く社会情勢や教育改革に対応できるよう、プランの期間を3年とし、2年経過後見直しを図ることとしました。

平成24年度中に改訂作業を進め策定した第Ⅲ期のプランも、第Ⅰ期・第Ⅱ期同様、さらなる学校教育の充実に向け、これまでの本市の教育施策や各学校の取り組みを整理するとともに、理念的なプランではなく、「子どもたちの学力向上」「課題に迅速に対応する学校づくり」「教員の指導力向上」と大きく三つの柱を立て、これからの子どもたちに培う力、そのための学校教育の進め方などについて具体的・実践的なプランとなっています。

この三つの柱を中心に、基礎学力の定着、豊かな体験活動の推進、健康教育の推進、地域全体で学校を支援する体制づくりなどに重点をおき、平成27年度の取り組みについて点検・評価を実施しました。

* 予算や決算審査では見えにくい各学校の教育活動に焦点をあて、「逗子市学校教育プラン」の平成27年度における取り組みを点検・評価するものです。

2 点検・評価の記載方法

(1) 「逗子市学校教育総合プラン」の三つの柱に基づいて定めた各行動プランについて、平成27年度に各小・中学校が取り組んだ状況を明らかにするとともに、教育委員会が各小・中学校が取り組んだ事項を総合的に分析した結果を記載しています。

(2) 点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方の意見、助言を記載しています。意見をいただいた方々のお名前は、次のとおりです。

久保田 貢 氏（元鎌倉女子大学非常勤講師 元鎌倉市立西鎌倉小学校長）

福田 幸男 氏（横浜薬科大学薬学部教授）

3 報告内容の構成

(1) 項目

点検・評価の対象を「逗子市学校教育総合プラン」の「三つの柱」をさらに次の五つに分けた項目ごとに点検・評価を行っています。

- ア 個に応じた指導の充実
- イ 健やかな心と身体の育成
- ウ 多様な教育的課題への対応
- エ 地域に開かれた学校づくり
- オ 教員研修・研究の充実

(2) 目標

項目及び行動プランごとの目標を掲げています。

(3) 各小・中学校の実施計画取り組み概要

各小・中学校ごとの行動プラン「平成27年度の取り組み目標」を「達成した」かどうか、「達成した」とした場合、その判断をした状況、「達成できなかった」とした場合、その目標への取り組み状況や明らかになった課題を、「成果と課題」としてまとめています。

(4) 教育委員会分析結果

各小・中学校の取り組みの進捗状況（項目別達成率）などを踏まえ、教育委員会が評価を行い、今後の課題や対応の方向をまとめています。

教育委員会の自己評価のうち評定は、市立全校の実践評価での項目別達成率が90%を超え、顕著な成果が見られるものをS、同じく実践評価での項目別達成率が80%を超え、多くの成果を挙げていると判断できるものをA、同じく実践評価での項目別達成率が70%を超え、一定の成果を挙げていると判断できるものをB、同じく実践評価での項目別達成率が60%を超えているものをC、同じく実践評価での項目別達成率が60%に満たないものをD、としています。

(5) 学識経験を有する者の意見、助言

外部からいただいた意見を掲載しています。

4 点検及び評価の結果

I 子どもたちの学力向上

<目 標>

学校が、子どもたちの学力向上を果たすために、子どもの実態を踏まえた教育課程を編成し、個に応じた指導の充実を図り、指導法・評価活動の工夫をすすめるとともに、基本的な生活習慣の育成を家庭とともに連携し、進めていきます。

1 個に応じた指導の充実

① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実

【 目 標 】

「確かな学力」を育むためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成及び主体的に学習に取り組む態度の育成が求められます。このためには、授業の工夫・改善に取り組み、一人ひとりの子どもにどのように指導していくのかを考えていくことが大切です。

具体的には、各教科等の指導にあたり、基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を重視し、言語活動の充実を図ります。また、学習評価を通し、授業のあり方の見直しや個に応じた指導の充実を図るなど、指導と評価の一体化を進めます。

その際、一斉学習だけでなく少人数指導・チームティーチング等の多様な学習形態も活用し、個に応じた指導ができるよう取り組みます。また、子どもたちの学習習慣が確立するよう、家庭との連携を図ります。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①分析に基づいた個に応じた指導の充実を図る
- ②個に応じた指導の実践の充実
- ③逗子小の特別な学習環境を踏まえた学習指導の実践
- ④長期休業期間中の学習支援の充実
- ⑤支援教室の積極的な活用

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した
- ⑤達成した

【成果と課題】

- ①・②「自分の考えをもち、伝え合い、学び合う児童の育成」をテーマにブロック毎に校内研究に取り組み、児童の発達段階や発達特性に合わせ、「言葉」を大切にした指導の工夫の改善を図った。
- ③学年集会やチームティーチングなどでオープンスペースの積極的な活用が図られた。
- ④夏季休業中の学習支援では主に算数の補講を行い、3日間で2～6年生までの児童253名の参加があった。また、サマースクールでは、全19講座にのべ928名の申し込みがあり抽選を行うほどの盛況であった。今年度も学校支援地域本部のバックアップにより、多くのボランティアが集まり、安全に充実した内容で実施することができた。
- ⑤支援教育の一層の充実が図られた。特に、教育研究所の支援教育推進巡回指導員及び巡回スクールカウンセラーと本校教育相談コーディネーターとが連携して運営に携わったことで効果も上がった。

沼間小学校

【目標】

- ①基礎基本の定着に向けた「わかる授業」への工夫改善
- ②発達段階に応じた学習の仕方の指導

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①わかる授業ということについて、子どもたちはお互い仲間同士の学び合いの中でも築くことができるようになった。本校の授業の根幹を、構築することができた。（校内研究の取り組みについて、それが授業力の向上につながった）
- ②取り出し指導をしたり個別教材を使ったりして、個に応じたきめ細やかな指導をすることができた。

久木小学校

【目標】

- ①単元計画に基づき、毎時間の授業展開の工夫改善を図る
- ②少人数指導、チームティーチング、小集団活動等、多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①継続的な課題であり、引き続き取り組みを続けたい。
- ②児童の学力向上に取り組むべく、一単元の中においても学習集団の実態に合わせ、チームティーチングや少人数指導などを効果的に取り入れ、基礎・基本の定着を目指した。昨年度の調査に基づき、学年内で取り組みを進めた。

小坪小学校

【目標】

- ①教育課程の見直しをさらに進め、改善を図る
- ②基礎的・基本的な知識・技能活用を図る学習活動を重視し、検証する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ① 算数教科研究の成果を教育課程に活かすことができた。
- ② 基礎的・基本的な知識・技能が活用できる授業を目指し、考えを表現できる児童を育てる手立てについて研究を進めた。

池子小学校

【目標】

- ①他校・他地域の取り組み例等も積極的に学び、再度今までの取り組みの見直しを行い、教員が研究会だけでなく日常的にお互いの授業を見合うなど、授業改善の体制づくりを整える
- ②学習形態の工夫により育んだ基礎的・基本的な知識・技能を生かし、これらを活用した思考力・判断力・表現力を深める授業の工夫改善を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①昨年度の反省を踏まえ、様々な研究会へ積極的に参加しながら、校内においては全クラス公開の研究授業の実践を重ねた結果、指導力や職場内の研修意欲の向上につながった。
- ②校内組織を見直し、インクルーシブ教育を軸としながら、支援シートを効果的に活用した授業の工夫改善に努めることができた。

逗子中学校

【目標】

- ①指導法の工夫改善を図り、効果的な少人数・習熟度別・チームティーチング及び少人数学級の実践・検証
- ②学習支援情報（個人学習カルテ）の作成と、教科相談等の支援活動の実施
- ③校内研究と連動し、「生徒一人ひとり」に視点をあてた研修の実施と授業改善

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①英語を中心に、単元や授業のねらいとの関連で、少人数習熟度別授業やチームティーチングを実施した。
- ②個人学習カルテを作成し、保護者面談や教科相談に活用した。
- ③校内研究と連動し、各教科で教科デザインを作成した、また学びのプランを作成し、年間2回の公開授業と11月の授業研究（3クラス）を中心に校内研究を進めた。

久木中学校

【目標】

- ①3年間を見据えた系統立てた指導の在り方を探り、指導法の工夫改善を図る
- ②少人数指導での習熟度別指導とチームティーチング指導での指導工夫の充実と成果の明確化
- ③長期休業中及び日常的な補習に工夫改善を重ね体制を充実させる

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった
- ③達成した

【成果と課題】

- ①授業研究の実施により指導法の工夫改善を実施することができた。
- ②教員の疾病により実施できない教科ができてしまった。
- ③補習授業を計画的に実施することができた。

沼間中学校

【目標】

- ①夏季休業中に実施する発展的・補充的学習（サマーチャレンジ）の参加人数の増加を図る
- ②数学と英語の全学年、1・3年生の理科及び3年保健体育で、少人数指導、チームティーチング等、効果的な学習形態の工夫・改善を実施する

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①サマーチャレンジでは、生涯学習的な講座を18講座、参加人数276名で、地域講師の講座も3講座と目標を達成できた（一人2講座まで受講可とした）。今後一層、地域講師の講座も増やしていきたい。

②理科の実験などはチームティーチングを中心に数学と英語は習熟度別を基本にと、指導法の工夫を行うことが出来た。

② 「読解力」向上の取り組みの推進

【目標】

読解力を「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」（文部科学省2010）とするならば、この力を高めていくためには、テキストを理解・評価しながら読む力を高めること、様々な文章や資料を読む機会をもつこと、自分の意見を述べたり書いたりすることが必要になります。

新しい学習指導要領においては、言語活動の充実を図ることにより、これからの時代を担う子どもたちに、思考力、判断力、表現力等を身につけさせ、社会の変化に対応する能力やそれに伴う課題を自らの力で解決する能力を育成することを目指しています。これらの能力は、国語科のみならず各教科等においてその育成が重視されています。

どれも短期間で育成されるものではなく、長期的な視野を持ち、継続して取り組んでいくことが重要です。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①言語活動・コミュニケーション力向上に関する授業の検証
- ②発達段階に応じた課題図書の実施
- ③指導法の工夫改善

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①・③校内研究では昨年度に引き続き、「言葉」を大切にする指導の工夫に取り組み、実践家の講師を招聘し、ブロック毎に研究授業を実施した。その後の研究協議では成果や課題について検討したり、講師からアドバイスを受けていたりして、授業力の向上を図った。
- ②特に、学校図書館指導員や学校支援地域本部のボランティアによって充実した読み聞かせが出来た。今年度は、学年に応じた、戦争児童文学の特別版や、影絵による宮澤賢治の物語の上映など充実した内容で実施できた。

沼間小学校

【目標】

- ①各教科での言語活動の充実
- ②自分の考えを表現できる子の育成

③「学び合い」を大切にした授業づくり

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①各教科並びに特別活動等において、クラス全体または複数による「話し合い」「学び合い」「気づき合い」を授業の柱にした学習活動を、計画的・継続的に行うことができた。
- ②児童にとって、自分の言葉で意思伝達することが、様々な教育活動を通じて意識付けられている。
- ③「学び合い」と「集団作り」を一体化した指導目標で、各教科並びに特別教科等を行うことが定着した。

久木小学校

【目標】

- ①国語科、各教科、道徳、総合的な学習の時間を通して、言語活動の充実を図る

【評価】

- ①達成した

【成果と課題】

- ①言語活動の充実は学力を高める手段であって目標ではないが、重要な事柄であるとの認識に基づき、校内研究において取り組んでいる。

小坪小学校

【目標】

- ①読解力向上に向けて、学年ごとに授業実践を検討し、改善を図る
- ②各教科等において「言語活動の充実」をめざすうえで「育てたい力」を明確にした授業実践に取り組む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①各学年、テーマをもって授業研究に取り組み、改善を図ることができた。
- ②授業のねらいを明らかにし、児童と共有しながら学習を進める手立てを研究することができた。

池子小学校

【目標】

- ①前年度までの課題等を踏まえ、活発な言語活動を取り入れたよりよい授業実践の工夫改善を図る

②学年内の交流、また他学年との交流、さらに保護者・地域との関わりの中での活動・発表場面を設けるなど、より高度なコミュニケーション能力の育成に取り組む

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①特に生活科・総合的な学習の時間とも関連付けした学習内容を計画し、ペアや小グループでの対話を意識的に取り入れながら日々の授業改善を行った。
- ②コミュニケーション能力の育成を目指し、ペアや小グループでの対話から全体共有へのプロセス等、異なる他者との多様な対話を充実させるための取り組み方を、職員間で共有したり、研修したりする事を、今後も継続して取り組む必要がある。

逗子中学校

【目標】

- ①言語活動の充実を重視した各教科での年間指導計画の作成
- ②社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力の育成（生徒の自己評価）
 - ・言語、シンボル、テキストを活用する能力
 - ・知識や情報を活用する能力
 - ・テクノロジーを活用する能力
- ③6月・1月に行う生徒の自己評価の肯定的な自己評価を5ポイント程度上げる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①校内研究のテーマと関連付けて、年間指導計画を作成した。
- ②10月と1月の年間2回、全校生徒に自己評価をしてもらい、過半数を超える肯定的な自己評価を得た。
- ③各教科、前期と比較して後期には、ポイントがおおむね上昇した。

久木中学校

【目標】

- ①本校の言語活動の充実を教科指導全体で計画的かつ系統立てて進める
- ②教科の課題としてレポート作成、プレゼン発表をすすめる。その中で様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①言語活動を意図的に取り入れた授業を、各教科で実践することができた。
- ②教科だけでなく、道徳や総合的学習の時間にも実施する必要がある。

沼間中学校

【目標】

- ①本校の「目指す生徒像」と関連させて、あらゆる教育活動において「言語活動」の充実の取り組みを推進する

【評価】

- ①達成した

【成果と課題】

- ①前年度を受けて、今年度は「実践の年」と位置付け、横浜国立大学・米澤准教授をアドバイザーに年間6回の校内研修会、年間2回全員の公開授業と年間1回の研究授業を実施した。また、同大付属鎌倉中学校の教諭に模擬授業と講義をお願いし、研究テーマに沿った授業を実践した。次年度は、評価方法についても研究を継続したい。また、教科の年間指導計画と「目指す生徒像」との関連を図りたい。

③ 読書活動の推進

【 目 標 】

読書活動は「考えながら読む」「考えたことを表現する」という言語に関する能力を育むことに不可欠であり、本に接し読書に親しむことは、いろいろな考えに触れ、知識を蓄え、豊かな心を育むことの基盤となります。

学校においては、読書活動につながる教育内容・指導方法の工夫により、子どもたちに読書の楽しさを伝えるとともに、家庭・地域と連携し、読書の習慣付けを促進することが大切です。

また、学校生活をおくる子どもたちにとって、学校図書館は読書活動の重要な拠点と言えます。子どもの読書習慣の定着と読書意欲の向上のために、学校図書館を核として、市立図書館や地域の方々との連携を図り、子どもたちが活発に図書館を活用し読書に親しむことができるようネットワークの充実を図る必要があります。

各小・中学校における平成 27 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①学校図書館の整備と充実
- ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの各学年・クラスへの定着
- ③市立図書館の積極的な活用

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①「DATE DUE」に変更してから1年が経ち、子どもたちもシステムに慣れてきたためか、貸し出し数の増加が進んだ。また、「図書室だより」も低学年向けと中・高学年向けというように発達段階に応じた内容にしているため、児童にとって必要な本の情報が得られる。
- ②読み聞かせには、今年度は155名のボランティアが集まった。今年度は、6年生向けに、戦争児童文学の特別版や、影絵による宮澤賢治の物語の上映など充実した内容で実施できた。
- ③中学年を中心に市立図書館に行き、書庫の見学や貸し出しシステムについて学んだ。また、市立図書館の司書の方に来校いただき、本校の図書指導員や図書担当の教員を中心に図書の選定など指導を受けた。

沼間小学校

【目標】

- ①読書活動の日常化
- ②読書環境の充実
- ③学習活動に読書活動を位置づける

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①読み聞かせ指導及び各クラス内で朝の読書タイムを設けていて、読書の日常化が定着している。
- ②図書室及び調べ学習室が、児童にとって親しみやすい環境として整備されている。教室内における学級文庫についても、児童の興味や関心をもちやすいものが用意されている。
- ③わからないことや、より深く知りたいことに対して、各教科並びに特別活動等の中で積極的に図書室を利用するなど読書活動が行われている。

久木小学校

【目標】

- ①読書推進活動全体計画に基づき、児童の成長を踏まえた指導の充実を図る
- ②司書教諭、学校図書館指導員、学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する
- ③お話会による読み聞かせ等の活動を行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①計画通り実施することができた。引き続き、学年に応じた読書指導の充実を目指したい。
- ②朝読書が定着している。図書委員会の活動がより主体的になってきており、図書ボランティアは後期から入る必要はなくなった。
- ③学年の実態に応じた内容を設定することができた。

小坪小学校

【目標】

- ①市立図書館と連携し、学校図書館の学習情報センターとしての機能を高める
- ②発達段階に応じた読書活動のあり方を検討し、多様な活動を展開する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①各学年の学習内容に応じて、多くの教科の中で問題解決的な授業に取り組み、市立図書館での本を活用した。
- ②保護者にも読み聞かせのボランティア活動の協力をいただき、図書委員会でも低学年に向けて読み聞かせなどの活動を行った。

池子小学校

【目標】

- ①地域との連携を図りながら読み聞かせを行うなど児童の発達段階に応じた読書活動を推進する
- ②市立図書館と連携し、学校図書館の学習情報センター、読書センターとしての機能の充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①年間を通して、地域の方に素話をさせていただくお話会を実施した。低学年には、図書館指導員が図書の時間に読み聞かせや本の紹介を行った。中、高学年においては、朝読書の時間を設けたり、図書室の資料を用いて社会科や総合的な学習の時間に調べ学習を行った。
- ②学校図書館連携・支援サービスモデル校となり、市立図書館と連携をとり、多くの資料を子どもたちに提供することができた。

逗子中学校

【目標】

- ①学習情報センターとしての学校図書館機能の充実
- ②朝読書を中心とした読書活動の充実
- ③市立図書館との連携

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①総合的な学習の時間を中心に、特別活動の時間にも行った。
- ②年2回の読書週間で「朝読書」を行うことができた一方、「読み聞かせ」の実践はできなかった。
- ③市立図書館の図書の借り受けを中心に、連携を図った。

久木中学校

【目標】

- ①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める
- ②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化する
- ③学校支援地域本部事業の活用や全教職員・図書委員会による読み聞かせ活動を取り入れた朝の読書活動を推進する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①市立図書館との連携も始めることができた。
- ②学校支援ボランティアを活用することができなかった。
- ③全教職員による朝の読書活動は推進され、定着してきた。

沼間中学校

【目標】

- ①朝の読書週間を設定し、読み聞かせを実施する
- ②市立図書館等との連携・協力の下に、カリキュラムのねらいを把握し、学習情報センターとしての機能の充実に努める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①年間2回の朝の読書週間を実施し、2回とも読み聞かせやブックトークの実践を行った。市立図書館職員の協力も得られた。
- ②今年度は特に、沼中ラーニングと絡めて、1年生の横浜めぐりの資料を市立図書館から借り受けた。

④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進

【 目 標 】

支援を必要としている子どもたち一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切に対応するために、学校を中心とした総合的な支援体制の充実が求められています。

それに応えるために、学校では教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、ケース会議や校内委員会で検討した支援を具現化する必要があります。また、学校だけでは解決できない課題に対しては、専門家や専門機関と連携し協働することが大切です。

よりよい支援を行うために「支援シート」を活用し、子どもたちのライフステージを見通した指導の継続と様々な機関との連携による「縦」と「横」の支援が必要です。

各小・中学校における平成 27 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①校内支援チームの取り組みの充実
- ②中学校との連携を踏まえた支援教育の検討と実践
- ③スクールカウンセラー、支援教育推進巡回指導員、うるおいフレンドや外部専門機関との連携の充実
- ④支援教室の活用を進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①継続的に福祉的支援が必要な児童に対しては引き続き、教育研究所、児童相談所、市子育て支援課、スクールソーシャルワーカーと定期的にケース会議をもち、情報共有だけでなく、今後の具体的方向性についても検討を進めた。
- ②主な進学先2校の教育相談コーディネーターと連携を密に取った。特に課題のある児童については、進学先の中学校の教員に来校していただき、学習や生活の様子など行動観察をしてもらった。また、心の教室相談員も中学校と情報交換を積極的に行った。
- ③教育相談コーディネーターだけでは対応できないケースについては、積極的に外部専門機関を利用し、みとりと方向性を確認した。また、今年度は、心理検査を希望する親子が多く、巡回スクールカウンセラーに検査だけではなく、保護者に対して、丁寧にフィードバックを行っていただいた。

- ④支援教育推進巡回指導員が取り出し授業を行うだけでなく、心理検査や支援教育推進巡回指導員と教育相談コーディネーターとの情報共有の場としても多く利用した。

沼間小学校

【目標】

- ①校内支援体制の構築
- ②支援ニーズの把握と指導の充実
- ③児童理解に基づいたきめ細かな支援と保護者との連携・協働の推進

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①教育相談コーディネーターの二人体制が、校内支援体制の中核となって機能した。二人目の教育相談コーディネーターの授業時数を、授業者全体でカバーしてきた。
- ②児童一人ひとりのアセスメントを大切にし、年間を通じて支援ニーズのある児童の指導を協力的に行った。
- ③主に教育相談コーディネーターが中心になって個別指導を行ったり、保護者との教育相談を行ったりしてきたが、学級並びに授業担当者も協働して取り組んだ。

久木小学校

【目標】

- ①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちの教育的ニーズに応じ、具体的支援を行う
- ②教育研究所、子育て支援課、児童相談所等の外部機関と連携を深める
- ③幼・保・小・中連携を深め、情報交換を密にする

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①課題を抱えた児童等については定期的に、突発的な事案については適宜、情報共有を行い、必要に応じてケース会議等を設定し、具体的な対応について検討をすることができた。ケース会議を定期的実施することで、児童の変容や課題などを確認し、保護者の理解を得ることにつながる事案もあった。また、巡回指導員・スクールカウンセラーにつなげることができた。
- ②支援教育推進巡回指導員・スクールカウンセラーと連携し、支援に役立てることが出来た。児童相談所・子育て支援課とも連携が進んでいる。
- ③幼稚園、保育園、療育相談室との連携を深めることが出来た。中学進学に向け、中学校と

定期的に連携を図ることが出来た。

小坪小学校

【目標】

- ①校内支援体制のさらなる充実をめざし、研修等も設定し、教職員の指導力の向上を図る
- ②子どものニーズの多様化に対応し、地域の教育力の活用も検討する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①支援の必要な児童についての研修を随時行い、日々の授業に生かすことができた。
- ②学生ボランティアなども積極的に活用した。

池子小学校

【目標】

- ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、組織の連携を図るとともに、児童のニーズを適切に把握し、ケース会議・チーム会議等開いて支援に向けた具体的対応を進める
- ②巡回指導員を中心とした支援教室を充実させる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①学年・ブロック会、月1回の校内支援委員会、職員会議後の児童理解等で、個別に支援が必要な児童について全体で情報共有を図り、ケース会や支援会議で、具体的な支援計画を立てた。教育相談コーディネーターが中心となり、一斉授業の中での個別支援や、休み時間や放課後の個別学習、家庭学習のサポートを保護者と連携し行い、個に応じた指導が充実された。
- ②巡回チームによる学級観察のフィードバックにより、教育相談コーディネーターを中心に1次支援の向上に努め、児童の学習意欲を高めることができた。

逗子中学校

【目標】

- ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実
- ②学習支援員、スクールカウンセラー、心の教室相談員、ボランティア等の人的リソースを有効に活用した、支援教室等、個に応じた支援の実施
- ③学習環境・授業のユニバーサル化を図るための、スクールスタンダードの定着
- ④特別支援学級と個別支援・支援教室での協同学習の実施

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成できなかった
- ④達成した

【成果と課題】

- ①教育相談コーディネーターを中心に、巡回チーム等による支援体制を築いたので、昨年度以上に生徒理解が進んだ。
- ②支援教室の生徒利用の生徒が0名になり、それぞれが目的をもった生活ができるようになったことが成果である。
- ③去年の継続に留まった。
- ④協同学習により生徒の活動場所ができ、登校意欲につながり成果を上げた。

久木中学校

【目標】

- ①生徒の見立てを、一人ひとりの生徒の状況に応じた支援方法、指導法の研究に生かす
- ②生徒が安心して学べる学習集団を形成するとともに、生徒が授業に意欲的に参加でき「わかった」から「定着・活用」ができる授業づくりを進める
- ③学校支援地域本部や地域などと連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①一人ひとりに応じた支援法が浸透してきた。
- ②生徒が安心して学べる学習集団の形成に時間がかかってしまっている。
- ③学校支援ボランティアの協力数をさらに増やす必要がある。

沼間中学校

【目標】

- ①支援を必要とする生徒について具体的な支援プランを検討し、支援シートや支援教室を活用しながら支援を進める
- ②困り感を持つ生徒に対する個別の学習指導を必要に応じて進めていく
- ③授業のユニバーサル化に着手する

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった
- ③達成した

【成果と課題】

- ①支援教室でのソーシャル・スキル・トレーニング（SST）を2名の生徒対象に行い、支援シートを作成した。また、火曜日の「自学自習の会」も定着し、毎回10名程度の生徒が参加した。
- ②長欠生徒を対象とした個別の学習（1日2時間程度）を5名対象に実施し、上記支援教室でのソーシャル・スキル・トレーニング（SST）もスクールカウンセラー相談コーディネーターを中心に、週に1回程度、2名の生徒に実施した。結果として登校できるようになった生徒が1名いた。ただ、不登校生徒への対応が遅いという保護者からのご指摘もあり、「達成できなかった」としたい。
- ③明星大学の中田正敏先生の「インクルーシブな学校づくりにおける学習研究活動～支援というコンセプトの導入～」と題した講演を受け、校内研究とも関連させながら、授業のユニバーサル化に着手できた。また、クラス間で指導の差が出ないように、掃除の仕方や決まり等について「スクールスタンダード」をつくった。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成27年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な実施事業

- 少人数指導教員・教育指導教員派遣事業（13人）
- 学校教育支援ボランティア〈学校支援地域本部事業〉（4,694人）
- 授業研究推進校委託
 - 逗子小学校⇒「自分の考えをもち、伝え合い、学び合う児童の育成」
 - 沼間小学校⇒「自分から進んで取り組む子を育てる」
～表現する力を高め合う授業・かかわり合う喜びを味わう授業をめざして～
 - 久木小学校⇒「協同的・創造的な学びあいをめざして」
～よりよい人間関係の中で、考える楽しさ・わかるよろこびを味わえる
算数の授業のあり方～
 - 小坪小学校⇒「道筋を立てて考え、表現できる児童の育成」
～意欲を高める授業の工夫～
 - 池子小学校⇒「生き生きと自主性のある子にするために」
～子ども同士が学び合う学習の創造を目指して～
 - 逗子中学校⇒「学ぶ意欲を引き出し、自ら学び考える力を育成する授業」
～生徒一人ひとりの思考力・判断力・表現力等の育成を図る授業づくり～
 - 久木中学校⇒「3年間を見据え、系統立てた指導の在り方
生徒の立場に立ったわかりやすい授業を目指す」
 - 沼間中学校⇒「生徒から考え、判断し、創造する授業を目指して」
～input intake output を意識した授業づくり～StageⅢ
- 学校図書館指導員派遣事業（8人）
- 日本語指導講師派遣事業（11人）
- 特別支援教育充実事業
 - （学習支援員52人、特別支援補助教員3人、ことばの教室補助指導員1名）
- 支援教育推進巡回指導員（1名）、市費スクールカウンセラー（2名）の配置

(2) 主な指導内容

- ▲児童・生徒一人ひとりの課題に沿った学習指導のための教材や指導方法の工夫・改善
- ▲学習指導要領の実施にあたっての課題把握と改善
- ▲学習評価の妥当性、信頼性の向上
- ▲「読書活動推進計画」の実施
- ▲教育相談コーディネーターを中心とした校内児童・生徒支援体制の確立
- ▲校内支援体制の構築に向けた各校の課題把握
- ▲教育相談コーディネーター、心の教室相談員、学校図書館指導員、学習支援員等への研修会の実施
- ▲支援教室の運営等に関する支援

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果

(1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 94.5%）

(2) 主な成果等

【「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実】

- ・指導法の工夫を小・中ともに行った。中学校では数学と英語で習熟度別グループによる少人数指導を実施。また、理科の実験や技術・家庭科の作業時には、チームティーチングを行うなど工夫をした。小学校ではチームティーチングや少人数指導を算数で実施した。
- ・全ての小・中学校で補充的学習の機会を設定した。また、夏季休業中にサマースクールを実施し、発展的学習の機会とした。
- ・全国学力学習状況調査や、逗子市学習状況調査の結果分析を基に、授業改善に取り組んだ。

【「読解力」向上の取り組みの推進】

- ・学び合いの学習活動を意識した授業づくりを通して、以前よりも多くの教員が、児童・生徒の思考力・判断力・表現力を育てるという視点を持つようになった。

【読書活動の推進】

- ・学校図書館指導員が積極的に各担任や教科担任と連携し、授業の中に図書を取り入れたり、図書館を授業で活用する機会を増やすなど、活動の推進に努めた。
- ・学校図書館指導員は司書教諭と連携して、保護者のボランティアの協力も得ながら、校図書館が子どもの学習する際の望ましい環境となるように、整備や研修に努めた。
- ・地域住民や保護者ボランティアとの連携で、読みきかせやお話会など、読書の習慣づけのきっかけになる活動を積極的に行った。

【校内支援体制を活用した支援教育の推進】

- ・教育相談コーディネーターが中心となった、校内の支援体制がうまく機能するようになり、外部の専門機関とのネットワークづくりや校内の児童・生徒支援の充実が図られた。
- ・支援教育推進巡回指導員と市費スクールカウンセラーの、小・中学校巡回が定着し、個別支援の充実が進むとともに、校内での支援の幅が広がっている。
- ・支援教育研修会を通じて、児童・生徒理解や対応方法について、研修を深めることができた。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 学習指導要領に対応した学力を育むため、個に応じた学習指導の充実へ向けて努力した。また、授業研究、学習評価を通じた授業の工夫・改善に向けて努力した。

(2) 主な成果等

【「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実】

- ・全ての学校において夏休み中の児童・生徒への学習支援が定着した。

【「読解力」向上の取り組みの推進】

- ・言語活動の充実を図ることを意識した授業づくりが進み、授業に工夫・改善が見られた。

【読書活動の推進】

- ・子ども読書推進担当者会（2回）および、学校図書館指導員研修会（6回）を開催し、児童・生徒の読書活動に寄与するための研修や情報交換を行った。
- ・市立図書館との連携が進んだ。

【校内支援体制を活用した支援教育の推進】

- ・小・中学校に支援教育推進のために巡回指導員を派遣し、問題行動等の未然防止や学級内での一次支援のコンサルテーションを行った。小学校では全校でこの取組が定着してきている。
- ・各学校において、学校の実態に合わせた研修を適宜実施した。
- ・幼・保・小連携推進連絡調整会議における情報交換、小学校・中学校教員による情報交換、指導主事による就学相談および教育研究所の教育相談などを通じて、小1プロブレムや中1ギャップ解消に向けて取り組んだ。

4 平成28年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

(1) 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実

- ・平成28年度も神奈川県学習状況調査が小学校5年生対象に4教科、中学校2年生を対象に5教科で実施されるので、その調査用紙を活用し逗子市学習状況調査を実施する。

また、全国学力・学習状況調査も、小学校6年生を対象に2教科（国語・算数）、中学校3年生を対象に2教科（国語・数学）、全国悉皆で実施されるので、各学校におけるそれぞれ児童・生徒の学力把握のための一つの手段とし、個に応じたきめ細かい指導がより一層充実するように指導を継続して行く。

- ・校務支援システムの活用など、教職員の職務の合理化を図り、児童・生徒に直接向き合う時間を確保する。
- ・「確かな学力」を育むために必要な教員の指導力の向上に努める。
- ・アクティブラーニングをキーワードにした授業づくりに努める。

（2）読書活動の推進

- ・小学校、中学校それぞれの実態に即して、読書活動の推進を行う。
- ・学校図書室蔵書貸し出し数の推移
（H27年度 小学校 年間平均24冊／人、中学校8冊／人）
（H26年度 小学校 年間平均24冊／人、中学校8冊／人）
（H25年度 小学校 年間平均27冊／人、中学校6冊／人）
（H24年度 小学校 年間平均30冊／人、中学校6冊／人）
（H23年度 小学校 年間平均30冊／人、中学校6冊／人）

（3）校内支援体制を活用した支援教育の推進

- ・教職員一人ひとりが共通理解を持ち、児童・生徒・保護者に対し適切な対応を図るためにも、校内支援体制を整えチーム支援が十分できるような人的配置や研修が必要である。
- ・小・中学校9年間の支援教育が一貫性を持ち、小学校入学時および中学校卒業時における接続期の機関連携を含めて、児童・生徒・保護者が安心して学校生活を送ることができるよう個に応じた支援や予防的な関わりをめざし、子育て支援課をはじめとする関係機関との連携を含めた環境調整を行い、問題の未然防止を図る。
- ・支援教室を効果的に運営するために、教材の効果的な活用方法やソーシャルスキルトレーニングなど、指導方法の改善に取り組む。
- ・授業のユニバーサルデザイン化などの工夫を充実させ、「だれにでも分かりやすい授業」の実現に向けて取り組む。
- ・援助ニーズのある児童・生徒を含め、「お互いを認めあう学級集団」づくりに取り組み、通常学級における合理的配慮を実践する。
- ・集団と個とのバランスの良い支援を意識する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田 貢 氏〉

〔個に応じた指導の充実〕

各学校ともに、「分かる授業」「確かな学力の定着」を目指し、授業研究に努めきめの細かな学習指導を行っていることが伺える。中学校では学習カルテを、小学校では池子小学校のように支援シートを利用して、児童・生徒一人一人の学習状況等を記入するなどして、日々の学習活動支援や教育相談等に役立てていることは特筆すべきである。出来れば全ての学校で導入できたらと考える。

そうした中で、学習について行かれない子どもや興味関心のない子どもへのフォローについて、きちんとした対応策を考える必要がある。併せて、授業に立ち向かう学びの姿勢及び学習習慣の育成に努めることが大切である。

また、県・国が実施する学習状況調査について結果を分析し、課題解決に向けて指導のあり方や指導計画等について全教職員で検討し、9年間を見通した教育課程の作成に当たることが必要である。

〔読解力向上の取組〕

各学校ともに、読解力の充実を目指して、言語活動に力点を置いて日々の指導に努めていることが伺える。「言語活動」のねらいは、全教育活動を通じて「思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力」等の育成である。沼間小学校のように「気づき合い、学び合い、話し合い」を大切にした学習活動や中学校でみられるレポート作成やプレゼンを重視した学習活動など様々な取り組みがなされているが、今後とも小・中学校9年間を見通した「言語活動の充実」に向けた教育活動の実践に当たって欲しい。そのためにも、教師自身が言語能力やコミュニケーション能力や人間性など、豊かな教師力の向上に努める必要がある。

〔読書活動の推進〕

各学校とも、司書教諭が中心となって関係者と連携し、学校図書館の機能の充実を目指すとともに、児童・生徒の読書活動の推進や読書の日常化に努めていることが伺える。また、学校図書館が学習情報センターとしての機能を充実するよう取り組んでいることが伺える。今後は、市立図書館と各学校の図書館をオンライン化し、学習情報センターの機能を充実させる必要がある。

〔校内支援体制を活用した支援教育の充実〕

各学校ともに、「子ども一人ひとりに寄り添う支援体制」を目指して、支援教育推進巡回相談員等関係者及び関係諸機関等との連携を密にした取り組みによって一定の成果をあげていることが伺える。そのような中で、いじめや不登校や暴力行為等問題を抱えている子どもも少なくない。また、保護者の中には子育てで課題を抱えている人もいる。今後とも、学校・家庭・地域諸機関等の連携を密にし、支援体制の充実を図り、全教職員が支援すべき子どもの情報を共有し、サポート体制の組織化作りに努めることが大切である。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実

学力の向上を果たすために、子どもの実態を踏まえた教育課程を編成し、個に応じた指導の充実が求められる。各校とも、その取り組みに工夫を重ね、当初の目標を達成したことを評価したい。そのうえで、次年度以降にもその成果を確実に引き継ぎ、さらに、残された課題に積極的に取り組んでいただきたい。教育委員会には、その各校の取り組みを全市的に共有できる機会を設定していただきたい。

教育に関する継続的な検証改善サイクルの事例として、「逗子市学習状況調査」や「全国学力・学習状況調査」の活用があげられる。この調査で測ることができるのは「学力の一部」であるが、県や全国との比較等ができるデータであり、児童・生徒、学校、教育委員会のそれぞれのレベルで一層の活用が期待される。

② 「読解力」向上の取り組みの推進

「読解力の向上」は、長期的な視野を持って継続的に取り組むことが重要であり、「教科指導全体」で、計画的かつ系統立てた取り組みが実施されている点の評価する。逗子中学校が掲げた「社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力の育成」はユニークな学校目標であり、生徒の自己評価をアップするなどの成果をあげている点に注目したい。

③ 読書活動の推進

読書活動の推進に関して、各校で積極的な取り組みが認められる。担任、教科担任に加えて、司書教諭、学校図書館指導員、学習支援ボランティアを活用した活動が推進されてきていること、また学校図書館のみならず市立図書館との連携も進んでいること等々を評価したい。児童・生徒が主体的に読書活動に従事できる環境整備を一層目指していただきたい。

④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進

教育相談コーディネーターを中心とする校内支援体制の充実に加えて、外部機関との連携、さらには幼・保・小・中連携による情報の共有が全市的に定着してきたことを評価する。教育委員会には人的配置や研修などへの格段の配慮を要請する。

2 健やかな心と身体の育成

① 基本的な生活習慣の育成

【 目 標 】

子どもたちの心身の健康問題は、深刻かつ多様化してきており、気力や学習意欲の低下による、学校生活全般への影響が問題指摘されています。

基本的な生活習慣を確立し、子どもたちが活力ある生活を送るためには、健康3原則(食事・運動・休養及び睡眠)を十分に意識しながら、自らの生活課題を改善させるとともに、学校・家庭・地域が密接に連携し、実りある取り組みを進めることが大切です。

学校では子どもたちが規則正しい生活習慣を身に付けるよう、学校全体で協力し子どもに関わっていくことが求められています。

「食事をしっかり食べる」「外遊びを推進する」「睡眠時間を十分とる」をはじめ、「あいさつをする」「ルールや時間を守る」など、子どもたちの暮らしの根底づくりに関心を向けた取り組みを進めます。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①あいさつ運動を推進する
- ②マナー・ルールを守る態度を育てる
- ③基本的な生活習慣育成について学校から発信し、PTAとともに取り組んでいく
- ④学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①児童会を中心に「あいさつ運動」を継続するとともに、学校長も自ら登校時を中心に児童への挨拶指導を行った。
- ②道徳の時間を中心に全ての教科・領域、また学校行事等でも集団行動での規律やマナー等の指導に力を入れた。児童の中でもお互いに守っていきこうという意識が根付いてきているが、歩道の歩き方や、横断歩道・踏切の渡り方など地域の方から注意や指摘を受けることも多々有り、登下校中のマナーはまだ不十分である。

③④ホームページの充実にはまだ課題はあるが、学校からは「学校だより」「PTAだより」また「学年・学級だより」を定期的に発行し、情報の発信に努めている。また、年度末アンケートでもまずまずの評価をいただいている。保護者からは、懇談会やPTA運営委員会や保護者アンケート等で要望や意見を寄せていただき、改善を図っている。

沼間小学校

【目標】

①学校でのきまりや暮らし方の指導について、学校全体で計画的実践的に進める

②毎朝の食事を摂ること（90%以上）

家族の一員としての役割を果たす

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①年間で三回、児童指導研究全体会においてアセスメントや指導結果を共有し、望ましい学校生活や学習規律について、話し合いを持つことができた。

②児童を対象にした生活アンケートから、喫食率9割は超えていた。朝食の必要性や大切さにつき、各おたよりを通じて保護者に発信することができた。家族としての参画意識を持たせるために、お手伝いの大切さとそれを生活習慣化させていけるように発信することができた。

久木小学校

【目標】

①学級指導の中で基礎的な生活習慣等の指導を行う

②学校・保健だより等を通して情報を発信する

③学級懇談、個人面談等の機会を利用し、保護者と連携した取り組みを進める

【評価】

①達成した

②達成した

③達成した

【成果と課題】

①各学級において、担任が必要に応じ、現状に合った指導を丁寧に繰り返してきたことの成果が出てきている。基礎的な生活習慣の確立については家庭との連携を今まで以上に進めて行きたい。

②学校だより、保健だより、学校ホームページなどの情報発信は、効果的に行うことが出来た。

③保護者の理解には差があるので、引き続き、実態に応じた対応を図って行きたい。

小坪小学校

【目標】

- ①食育・健康教育・保健教育等の取組を通して、基本的な生活習慣の定着の成果を検証する
- ②児童自らが自分の生活習慣を見直し、自立への意欲を持てるような取り組みを行う

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した

【成果と課題】

- ①基本的な生活習慣の大切さについて様々な場面で指導をおこなったが、成果を検証するには至らなかった。
- ②「自分の健康は自分で守り育てる。」ことができる子どもの育成を目指して、給食・保健便りを発行し、掲示物等を作成した。

池子小学校

【目標】

- ① 前年度までの子どもの基本的な生活習慣の定着について実態調査をし、さらなる取り組みの工夫改善を図る
- ②保護者・地域・関係諸機関と協力し、講演会・懇談会等を計画し、より密接な連携・協力体制と丁寧な情報交換を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①子どもの実態を踏まえ、健康について、学校からの積極的な発信を重ね、家庭と学校が一体となって生活習慣の工夫・改善に努めることができた。
- ②今年度も保護者・地域・学校が一体となって様々な取り組みを行い、地域の中の学校としての存在を示すことができた。
また、子どもの健やかな成長を目指した活動に対してPTA・地域からは全面的な協力を受け、充溢した活動ができた。その成果は子どもの姿に反映されている。

逗子中学校

【目標】

- ①保護者等と連携した、生徒の基本的な生活習慣の育成
 - ・毎日の朝食を必ずとる（90%以上）
 - ・「孤食率」の低下を呼びかける（25%未満）
 - ・家庭でルールをつくり、子どもに家族の一員としての自覚を促す
- ②学校からの多様な手段による情報発信と、保護者・地域との密な連携

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①保護者と連携して、基本的な生活習慣の定着をめざしたが、食育についての取り組みは不十分であった。
- ②学校日より、ホームページ等で連携がとれた。

久木中学校

【目標】

- ①小学校との連携をおこないながら基本的な生活習慣の育成を図る
- ②学校からの情報発信をもとに保護者・地域で情報を共有し、課題を明確にし、その解決のために家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①小学校や保護者に基本的な生活習慣について共通認識を持つことができた。
- ②学校での出来事を家庭、学校、地域と共有することができた。

沼間中学校

【目標】

- ①各家庭に対して、睡眠確保・朝食の摂取・孤食を減らす・家庭のルールづくりを依頼し、状況を把握する
- ②学校生活において、睡眠不足等で体調が悪い生徒について、保護者と密に連絡をとりあう
- ③教職員からすすんであいさつをする

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①6月と1月で、生徒アンケートを実施したが、1月時点で睡眠が7割以上、朝食摂取が9割以上、家庭のルールづくりが4割程度の肯定的な回答を得た。孤食については、1・2年生の9割以上、3年生で8割がほぼ誰かと一緒に食事をしているという、本校生徒の実態がわかった。
- ②は定着している。③は生徒会とも連携して、「切り替えゾーン」をつくり、挨拶及び丁寧な言葉遣いの推進運動を展開した。学校評議員からも「沼中生は挨拶をきちんとしてくれる」という評価を頂いた。

② 豊かな心を育む道徳教育の推進

【 目 標 】

小・中学生のいじめや自殺等の問題が大きく伝えられている現在、学校だけにとどまらず、社会や家庭生活において、人を思いやり、相手の立場に立って考えることが求められています。目上の人を敬い、自分より弱い立場にいる人を大切にする心を育てるとともに、集団としての規範意識を高めることが大切です。また、集団の一員としての自覚を養うために、忍耐力や協調性などの社会性を身に付けさせることも大切です。

学校では道徳教育の重要性を教職員間で共通理解し、教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うように努めることが重要です。特に、道徳教育の要となる道徳の時間においては、他の学習活動と連携を図りながら、計画的・発展的な指導によって、道徳的実践力を高めていくように取り組みを進めます。

「いのち」を大切にする心、人を思いやる心、規範意識を持たせることなど、児童・生徒一人ひとりの豊かな心を育むために、学校・家庭・地域と連携を密に図りながら、心に響く教育を進めていくことが、より大切になってきています。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①各教科や総合的な学習の時間、特別活動などと内容の連携を図る
- ②児童会活動等を通して自ら取り組む主体的な姿勢を育てる
- ③異年齢集団の交流を推進する(たてわり集団によるグループ活動への取り組み)

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①逗子小児童の実態から、特に「自分の考えを持ち、受信発信を通して、ともに学びをつくりあげることができる児童の育成」「コミュニケーション力の向上」に視点を置き校内研究を推進している。今年度も国語科を中心に、全ての教科・領域で「言葉」を大切にする指導の工夫を系統的な視点をもって、授業実践を行った。
- ②③通常のたてわり活動をはじめ、たてわり交流デーやユニセフ活動等、児童が主体となって活発に活動することができた。

沼間小学校

【目標】

- ①各教科、総合的な学習、外国語活動等と連携を図りながら、計画的に道徳教育を推進する
- ②地域人材活用の授業実践（年間5回以上）
- ③学校内の縦割り活動を通して、異年齢交流を通して思いやりの心を育む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①各教科並びに特別活動等を通じて、計画的な道徳教育の推進を果たせた。
- ②4・5・6年生を中心に、各教科並びに特別活動等において、積極的に取り入れることができた。
- ③特別活動を中心に縦割り活動が推進され、内容の改善及び充実が果たした。

久木小学校

【目標】

- ①道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う
- ②日常のあいさつを心掛けたり、コミュニケーションを深めたりする取り組みを行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①道徳教育の全体計画に基づき、日常化を目指す取り組みを進めることが出来た。また、道徳の教科化について教員で情報共有を図った。
- ②「学校づくりアンケート」ではあいさつについて、保護者・児童とも「できている」との評価が高かった。更なる日常化を図るべく、保護者・地域の協力を得ながら継続した取り組みをしていきたい。

小坪小学校

【目標】

- ①教育課程全体を見直し、様々な教育活動におけるねらいを明確にする中で道徳授業の充実を図る
- ②全体計画を見直し、地域との連携の中で、6年間を見通した実践的な道徳教育の推進を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①様々な教育活動の中に道徳の視点を取り入れ取り組むことが意識されるようになった。
- ②6年間を見通した道徳教育の推進には至らなかったが、「特別な教科道徳」について理解を深める中で今後達成したい。

池子小学校

【目標】

- ①道徳教育の全体計画を見直し、道徳授業以外との密接な連携をとりつつ、日常的な学習の中で計画的・発展的な指導に取り組む
- ②6年間の全体計画を見直し、保護者・地域との連携の基に、児童一人ひとりの豊かな心を育むための道徳教育を推進する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①普段の生活の隅々まで道徳教育を意識した活動（学級・委員会・縦割り活動・学校行事全て）の実践を行った。規範意識や自己肯定感の高さはその成果と考える。
- ②6年間の全体計画をしっかりと構築し、出生地学習（地域学習）を意識した取り組みにより、保護者・地域からの評価が高まった。地域から愛される学校・児童として、豊かな心を育む道徳教育の推進も着実に進行している。

逗子中学校

【目標】

- ①道徳の時間における指導と、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育との連動
- ②全校道徳等、道徳の時間の新たな手法についての検討（全校道徳年間5回以上実施）
- ③地域人材活用の授業実践（年間4回以上）

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①学習情報で連携を図っている。今後、一覧表を作成する。
- ②全校道徳で教材及び内容を工夫した。
- ③全校道徳や学年道徳で、地域人材を活用した。

久木中学校

【目標】

- ①全ての教育活動の中で道徳性を培うように推進する
- ②道徳推進教師を中心に全教師がすべての教育活動の中で道徳教育を推進する。発達段階に応じた指導内容の重点化を行い、規範意識の向上に努める
- ③体験学習を重視し、地域講師の授業が生徒に感動を与える題材を開発し、その活用によって「命」を大切にすることを育てる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①道徳性の育成には全教職員が共通理解の元実施していく必要がある。
- ②一部の生徒に規範意識の定着が見られず、それが全校に波及している。
- ③地域講師による授業の普遍化を必要とする。

沼間中学校

【目標】

- ①発達段階に応じて、行事や体験学習との関連を図り、ねらいの深化を図る
- ②発達段階に応じて、地域講師や地域機関等との連携を利用して、ねらいの深化を図る
- ③道徳的判断力や実践力を養う授業の工夫を行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①年間指導計画に従って、各学年の担当を中心に継続的に取り組めた。また、今年度は生徒会と美術部に依頼して、本校のマスコットキャラクターを作成し、愛校心の醸成にも努めた。
- ②市の社会福祉協議会の協力を得て、1年生と3年生で「心の授業」を実施した。
- ③4月の授業参観では3年生が、11月の授業参観では2年生が道徳の公開授業を実施し、生徒に考えさせる授業に取り組んだ。

③ 豊かな体験活動の推進

【 目 標 】

少子化や地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、子どもたちの豊かな成長に欠かすことのできない、多くの人々との出会いや触れ合い、社会・自然・芸術などと直接ふれ合う体験が乏しくなっています。様々な体験活動を通して、人や社会等とのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、思いやりや信頼感を高めるようにすることが大切です。

体験活動は文字どおり、自分の身体・五感を通して実際に経験する活動のことです。子どもたちが、学校・家庭・地域社会を含めた生活空間の中で、他者、社会、自然、環境と直接的なかかわりを持ち、豊かな体験を重ねていくことが必要です。そして子どもたちが自分自身の体験の中から課題を見つけ、その課題解決に向けて自主的に取り組んでいけるように、体験活動を計画的に位置付け、その充実を図ることが大切です。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める
- ②作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を各学年クラスで工夫する
- ③宿泊行事やサマースクール（海洋体験教室）などを通じて児童の人間関係を深める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①「逗子文化プラザ」の事業である「アート便」が今年度も当たり、6年生が「能楽」、3年生が「落語」の鑑賞を行った。「能楽」では実際に衣装や面を着けて舞う実技指導も受けた。
- ②職員室前の廊下やオープンスペース等に、児童の作品や地域の方が撮影した富士山の写真や作品を展示した。また市役所の5階や文化プラザの1階ギャラリーでも児童の絵画作品を中心に展示してもらい期間中に見学に行った。
- ③宿泊行事（林間学校等）や夏季休業中に実施したサマースクールの海洋体験教室では児童の自主性を重んじ、協働して取り組むプログラムを多く用意し、相互の人間関係、信頼関係を深めることができた。

沼間小学校

【目標】

- ①集団宿泊体験を通して、互いのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、そして思いやりや信頼感を高める（自然体験活動、林間学校、修学旅行）

②校内において、芸術鑑賞会や福祉体験を開催し、体験型学習の推進を図る

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①様々な場面において、仲間づくりの大切さを意識させ、より良い集団作りに努めた。特に高学年では林間学校や修学旅行を通して、仲間同士の深い絆ができた。

②学年ごとに、芸術または福祉関係の観賞や学習会を設け、実体験をねらいにした計画を立てて実行した。

久木小学校

【目標】

①稲作り、大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う

②キャンプ、修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①学習支援ボランティアを活用し、体験学習に取り組んだ。稲作、大豆づくり、味噌作りは、久木小の体験学習として位置づいている。継続的な取り組みを大切にしていきたい。

②林間学校の取り組みについて、今年度、検討委員会を立ち上げて再検討を行い、教育課程上の課題について今後取り組んでいくことを確認した。

小坪小学校

【目標】

①たてわり集団での活動を積み重ね、主体的な人間関係作りに取り組むとともに思考力・判断力・表現力の育成も意識して取り組む

②体験活動で育てたい力を明確にし、6年間の指導の体系化を図る

【評価】

① 達成した

② 達成した

【成果と課題】

①高学年が低学年に適切にリーダーシップをとり、活動を行っている様子が見られた。低学年は高学年に協力しようという姿が見られるようになった。

②低、中、高とそれぞれのめあてを明確にして取り組んだ。

池子小学校

【目標】

- ①6年間を通じた地域の特性を生かした学習計画を作成し、それらが子どもたちの社会性や協調性の育成にどれだけ役立っているかの検証を行い、よりよい計画づくりに生かす
- ②各種体験活動を実施するにあたり、学校・保護者・地域が密接に連携し、子どもたちにとって豊かな体験となるよう、計画的で効果的な活動を推進する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①ねらいと子どもたちに付けさせたい力を明確にしながら教育課程に位置づけ、地域の特性も活かしながらズシップの方々との交流などの体験活動を実施することができた。
- ②総合的な学習、生活科など、地域コーディネーターを介して、保護者や地域の方の協力を得て、発展的な学習につながる体験活動を実施することができた。

逗子中学校

【目標】

- ①キャリア教育・市民性教育を柱として、総合的な学習の時間や特別活動を中心に、地域に根ざした体験活動の実施
 - ・現代的な教育課題
 - ・学校行事の縦割りブロック活動
 - ・自然体験活動
 - ・職業体験
 - ・修学旅行
- ②3年生で3年間の市民性教育の集大成としての発表会を保護者・地域に公開して行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①修学旅行を通して、学んできたことを発表する中で、逗子市との違いや奈良・京都の文化について学習した。
- ②保護者・地域に公開し、多数の来校者の中、発表会を実施できた。

久木中学校

【目標】

- ①行事を通して生徒会活動や、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める
- ②地域との連携によるボランティア活動や体験的な学習を積極的にすすめ、社会性や協調性を育てる取り組みを更に進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①生徒会活動の重要性をさらに伝えていく必要がある。
- ②さらに、地域との連携した取り組みを増やしていく必要がある。

沼間中学校

【目標】

- ①沼中ラーニングと自然体験学習、修学旅行等の取り組みを関連付ける（1・2年生）
- ②2日間の職場体験を継続し、これまで以上にキャリア教育のねらいの深化が可能なよう工夫・改善する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①1年生では前年度同様の取り組みが出来た。また、2年生の自然体験学習では、山梨と逗子の自然・文化比較、職場体験は「逗子の将来像」と絡めて取り組めた。
- ②2日間、29事業所での「2年生職場体験」を実施した。2日間の実施が継続できるよう、学校評議員や逗子市商工会等の協力をどう得られるかが今後の課題である。

④ 食育と体力づくり・健康教育の推進

【 目 標 】

社会状況の変化に伴い、子どもたちの健康を取り巻く問題が顕在化してきています。基本的な生活習慣の問題・心の健康の問題・食習慣の問題・飲酒や喫煙、薬物乱用などの問題・性に関する情報の氾濫・運動能力の低下など、様々な課題に対して、学校は家庭や地域と連携した教育を推進することが必要です。

学校においては、食に関する正しい知識と望ましい食生活・食習慣を身につけるための食育指導、体力づくり、及び心身の成長発達について正しく理解させるための取り組みを推進していく必要があります。これらの教育を、子どもたちの発達段階に合わせて進めていく中で、各課題に対する指導の充実を図り、子どもたちが生涯を通じて心身の健康を維持した生活が送れるよう、そのための知識・実践力を身に付けられるようにしていくことが大切です。

各小・中学校における平成 27 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①保健便り等を発行して健康について積極的に啓発し、疾病やケガの予防に努める
- ②健康教育の全体計画に従い体力作りを進めていく（運動能力調査の実施）
- ③食育の全体計画に従い、保護者と連携をとりながら食育を推進していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①2名体制の養護教諭を有効に活用し、特にインフルエンザ、溶連菌感染症等の流行性感冒についての未然防止・早期対応を迅速に図った。特にインフルエンザの流行する季節には、給食前に「手洗いの歌」を全校放送で流し注意喚起を促した。
- ②全校で実施した、運動能力調査は、学年全体で取り組み、本校の児童の特徴や向上すべき点を分析し、児童が相互に高め合えるような指導を工夫した。次年度はキャラバン隊の指導を受ける予定である。
- ③栄養教諭の配置校である本校では、各学年での食育の推進とともに、給食試食会等をおして、保護者向けの食育も充実させた。また、「給食室だより」を通して、旬の食材の紹介や栄養について子どもたちに分かり易く伝えることができた。

沼間小学校

【目標】

- ①健康教育を学校全体で、計画的・系統的に推進する
- ②食の指導に関する年間指導計画に基づいて、PTA と連携した食育指導の充実を実施する
- ③薬物乱用防止等の教育や、安全教育を推進する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①「保健だより」「学校だより」「学年・学級だより」等を通じて、計画的に健康管理に関する呼びかけを、児童並びに保護者に対して行った。
- ②学校栄養士並びに担当教諭が中心となり、夏季休業期間に課題提示（献立作りや調理する）して、食の大切さが生活に大きな影響をもたらせていることを学習した。
PTA とは給食試食会が恒例の企画として位置づいていて、学校給食への理解を深めることができている。
- ③各学年の発達段階にに応じて、幅広い意味で薬物乱用を防ぐための指導を、授業を通じて行うことができた。
安全教育については、インターネットやスマートフォンの適切な利用といったテーマで講師を招き、有意義な学習の場を設けることができた。
不審者対策は日ごろから注意喚起を呼びかけるとともに、校内に不審者が侵入したらという実体験をする訓練を実施した。

久木小学校

【目標】

- ①保健安全年間計画、給食指導年間計画等に基づいた指導を進める
- ②校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①計画通りに実施することが出来た。
- ②芝の管理は、地域の教育力を活用し、保護者・地域を中心に対応を図ることが出来た。次年度以降は、今年度、教育総務課と確認したことを踏まえて取り組みを進めていきたい。

小坪小学校

【目標】

- ①食育について、授業を保護者にも公開することで改善を図る
- ②健康教育を通して、自己認識を深める指導のあり方を探る

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した

【成果と課題】

- ①各学年で食育の授業を行ったが、保護者への公開は今後の課題である。

②自分の心と体について理解を深め、自他共に尊重することができる子どもの育成を目指した。

池子小学校

【目標】

- ①各学年の食育に関する取り組みを、継続的に推進し、家庭との連携を深め推進していく
- ②健康教育を推進する中で、家庭と連携し生涯を通じて健康・安全な生活を送れるための基礎が養われるよう継続的に推進していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①食育に関する全体計画に基づき、栄養士、養護教諭とも連携をとりながら、各学年が教科や季節の行事等との関連を持たせながら進めていくことができた。今後も、引続き食育の視点を持ち進めていく。
- ②児童の発達段階に応じた健康教育を様々な場面を通じ実践することができた。家庭との連携は、おたよりや試食会での説明などを通じて発信を行った。今後も引続き、より相互通行の連携がとれるよう工夫していきたい。

逗子中学校

【目標】

- ①体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践、充実
 - ・体育授業のチームティーチング（教員3名による指導）
 - ・ラジオ体操
 - ・マラソン大会
- ②地域やPTAと連携した食育の推進
- ③チャレンジデーの取り組みを学校として企画し、自主参加を呼びかける

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①体育科の人数を確保する必要がある。
- ②3学年では、2年次に調べ学習を行い、奈良・京都の食文化について学習した。支援学級では、引き続き畑を作るなどの活動を通して、充実させることができた。
- ③来年度は、参加方法を変更して行う。（エントリーカードを各クラスに配布し、その場で記入してもらう）

久木中学校

【目標】

- ①食育の推進のために各教科などの組織を使って学習に基づいた本校の食育について指導方針を明確にし、発達段階に応じた健康・体力作り等を系統的に推進する
- ②飲酒・喫煙、薬物乱用など、健康に関する問題など、家庭、学校、外部機関等との連携を図りながら積極的に健康教育を進める
- ③性教育について性教育全体計画に基づいて系統性を踏まえた正しい指導を進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①学校教育課と連携をして食育について推進していく。
- ②外部機関との連携により推進していくことができた。
- ③全体計画に則った取り組みを進めていくことができた。

沼間中学校

【目標】

- ①薬物乱用・喫煙防止等、発達段階に応じて学習させることと並行して、普段の食生活についてよりよく改善しようとする意識を持たせる
- ②身体的自立を目指し、自ら身体づくりや食育、健康づくりに取り組めるよう、学校全体で促す

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①学年ごと、また全校で、外部講師を招いたり養護教諭からの講演等を実施したりした。
- ②保健体育科では、「沼中スペシャル」（体力づくりの準備運動）や「私のバロメーター」（学習カード）をつくって計画的に取り組んだ結果、例年の本校の1年生のデータに比べ、「ハンドボール投げ」と「反復横跳び」に顕著に結果が表れた。また、部活動、チャレンジデーでの取り組みを実施した。

食育は、市の管理栄養士による授業及び給食指導の中で行った。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成27年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- 就学時健康診断業務委託
- 児童健康管理事業（小学校）
- 生徒健康管理事業（中学校）
- 自然教室推進事業
- 学校支援地域本部事業（学校支援ボランティア 4,694人）
- 授業研究を柱とした特色ある学校づくり
- 芸術鑑賞推進事業
- 学校体育振興事業

(2) 主な指導内容

- ▲道徳教育全体計画作成
- ▲特別活動全体計画作成
- ▲食育に関する教育全体計画作成
- ▲健康教育に係る各種研修会の実施
- ▲学校支援地域本部実行委員会の開催

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 93.6%）

(2) 主な成果等

【基本的な生活習慣の育成】

- ・すべての学校で、保護者、地域、学校とが一体となり、児童・生徒の規則正しい生活習慣改善のための工夫を行うなど、大人の意識が高まった。その際、学校からの情報発信を積極的に行った。

【豊かな心を育む道徳教育の推進】

- ・道徳の時間だけではなく、各教科・特別活動、学級生活での道徳的な実践が効果をあげている。
- ・道徳の教科化に向け、考えさせる道徳の授業を模索している。
- ・縦割り活動を通して、集団の一員としての自覚が育っている。その中で、ルールやマネー指導も定着してきている。

【豊かな体験活動の推進】

- ・小・中とともに総合的な学習の時間や、特別活動の中で、体験型の授業を意識して企画し、

また、中学校では、様々な分野での職場体験を継続実施している。

- ・小学校・中学校全校で友だち同士の共同生活を通して自然にふれあうことをねらいとした自然体験学習を実施した（1泊5校、2泊3校）。

【食育と体力づくり・健康教育の推進】

- ・体力づくりを意識した運動を各校で工夫し体育の準備運動等で継続して取り組んだ。
- ・栄養教諭が市内の小学校を巡回し、2年生を対象に食育の授業を行った。
- ・小学校5年生児童を対象に「食に関するアンケート調査」を行った。
- ・喫煙防止、薬物乱用防止等について、関係機関と連携しての取り組みが定着している。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

（1）教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 学校支援地域本部を軸にした家庭・地域との連携は、各本部の実情に合った定着が見られている。年に3回の学校支援地域本部実行委員会を持つことで、各学校の実践が共有され、学校間格差の軽減や、活動の形骸化を防ぐことに繋がっている。

食育では、小学校5年生への食に関するアンケートを継続してとりながら、食育の推進に生かす取り組みが進んでいる。

（2）主な成果等

【基本的な生活習慣の育成】

- ・「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の結果分析や、食に関するアンケートの分析などを活用し、それぞれの学校で取り組みを進めた。
- ・標準化検討会議の一つの柱として児童・生徒指導専門部会を持ち、小・中学校9年間を見通しての子どもの成長や指導の方向性について、教職員のイメージの共有を図っている。

【豊かな心を育む道德教育の推進】

- ・道德の教科化に向けて国や県から発信される情報を、各学校が校内で推進できるように随時提供している。

【豊かな体験活動の推進】

- ・各学年の体験学習のねらい、時期や期間の見直しを図り、特別活動全体計画の中でのそれぞれの活動の位置付けを確認するなど、子どもの成長にとってより効果的な活動となるよう取り組んだ。

【食育と体力づくり・健康教育の推進】

- ・食育推進ネットワーク会議を行い、栄養教諭を中核に各学校と連携を図りながら食育に取り組んだ。また、食に関するアンケートを5年生全児童対象に行い、分析し、食育の推進に活用した。

4 平成28年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

【基本的な生活習慣の育成】

- ・基本的な生活習慣を育成するため、家庭や地域への啓発と連携を強化する必要がある。

【豊かな心を育む道徳教育の推進】

- ・児童・生徒の社会性育成につながる異年齢交流を進める。
- ・地域の人材を活用するよう支援していくため、学校支援地域本部事業の活性化を図る必要がある。
- ・道徳の教科化に向け、準備を始める。

【豊かな体験活動の推進】

- ・「総合的な学習の時間」における、よりよい体験活動の在り方を探る。
- ・地域人材の効果的な活用のため、学校支援地域本部事業の活性化を図る。

【食育と体力づくり・健康教育の推進】

- ・食育と健康教育の推進のため、栄養教諭が中心となり、各校の栄養士と連携をする。
- ・小学校5年生対象に行った「食に関するアンケート調査」の分析結果を指導に活かす。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田 貢 氏〉

〔基本的な生活習慣の育成〕

子どもたちの学ぶ意欲や学習習慣や規範意識の低下、社会性やコミュニケーション能力の不足等が指摘されている現在、「基本的な生活習慣の育成」に向けて、各学校ともに具体的な目標を掲げ、全教育活動を通じて様々な取り組みを展開し、一定の成果を上げていることが伺える。

保護者の価値観が多様化する中で、学校への負担が年々増してきているが、マナー、ルールの育成に向けて、学校説明会や保護者会や地域連絡協議会等様々な機会を通じて現状と課題を発信し、学校・家庭・地域社会が連携して子どもを育てるという意識の醸成に努める必要がある。今後とも、それぞれの役割を理解しながら、学年の発達段階に応じたきめの細かな指導を期待する。

〔豊かな心を育む道德教育の推進〕

学校によって多少の差異はあるが、道德教育の重要性を踏まえ、道德教育の全体計画を作成し、道德教育を全教育活動に位置付け、道德性を培う取り組みを展開していることが伺える。特に、児童・生徒の発達段階に応じた指導内容の重点化を行い、道德教育推進教師を中心に全教師が全教育活動の中で協力して道德教育を推進し、人間性の育成に努めている。

今後、「道德の時間」の教科化に向けて、教材・資料等の整備や評価のあり方について研究するとともに、授業時数を確保し、保護者や地域の教育力を活用し、心豊かな児童・生徒の育成に努めることが大切である。

〔豊かな体験活動の推進〕

各学校ともに地域の教育資源や教育支援ボランティアを活用し、多岐にわたって取り組みがなされていることが伺える。体験活動は、「生きる力」を育む上で大事な要素である。多くの人との人間関係の育成はもとより自分の生き方を考える場でもある。単にイベントで終わらせることなく、「何を学び、それを将来どう活かすか。」キャリア教育と相俟って、教育活動を展開していく必要がある。

併せて、教育課程への位置づけを明確にし、学校教育目標の具現化に努める。

〔食育と体力づくり・健康教育の推進〕

各学校ともに、養護教諭、栄養士、栄養教諭を中心に、食育、喫煙防止教育、性教育、薬物防止教育、体力づくり等に力点を置き、「保健だより」や保健・体育の時間や給食等を通じて、児童・生徒の心身の健康増進に努めていることが伺える。

特に、性情報や薬物情報については、SNS 等を通じて様々な危険情報が流れ、犯罪に巻き込まれることもあることを伝え、関係諸機関はもとより保護者や地域社会の教育力を活用して、正しい情報選択能力を培う指導の充実を期待する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

① 基本的な生活習慣の育成

基本的な生活習慣の確立を目指すためには、実態調査を行い、問題点を明確にした上で、取り組みの工夫改善を図る必要がある。その取り組みには、学校のみならず保護者や地域との連携が不可欠である。丁寧な情報交換を行いながら、それぞれの役割に応じて、基本的な生活習慣の確立に資する指導を期待したい。逗子子どもたちが生き生きと活動する原点として、基本的な生活習慣の育成に力を注ぎたい。

② 豊かな心を育む道徳教育の推進

各校とも、道徳教育の重要性を理解し、その涵養のために、すべての教育活動を通じた取り組みを展開していることを評価する。

「生きる力」の要素である「豊かな心」を育むために、異年齢集団との交流、全校道徳、体験学習などの工夫した取り組みが定着しつつある。加えて、保護者や地域との連携をはかり、日々の生活の中で着実に規範意識などが醸成されてゆくことを期待する。

③ 豊かな体験活動の推進

各校で体験活動の内容は異なるが、児童・生徒が自身の体験の中から課題を見つけ、課題解決に向けて自主的に取り組めるよう工夫が図られていることを評価する。各校の特色ある活動の継続を望む一方で、活動のめあての明確化や小・中を通じた計画的なプログラムの作成についても検討を進めていただきたい。

④ 食育と体力づくり・健康教育の推進

心身の健康が問われる中で、健康教育の推進は喫緊の課題である。校種あるいは発達段階で課題は異なるが、栄養教諭、養護教諭を中心として、体系的な取り組みとなってゆくことを期待したい。食育に関しては、保護者の理解と協力が不可欠であり、そのための情報提供や具体の連携のために工夫が必要となる。

体力づくりでは、ユニークな取り組みが認められる。久木小学校の校庭芝生化、沼間中学校の「沼中スペシャル」や「私のバロメーター」の成果に注目したい。前年度も指摘したが、全国体力運動能力テストなどの客観的な指標を積極的に活用しながら、体系的かつ継続した指導の推進を期待したい。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

<目 標>

学校は今、様々な教育課題への対応を求められており、本市では迅速で的確な対応を目指します。また、教育は学校のみで完結するものではなく登下校の安全面なども含め、家庭・地域との連携や協働参画することによってさらに充実が図られます。

1 多様な教育的課題への対応

① 学校安全の推進

【 目 標 】

現在必要とされている教育環境として、子どもたちが安全・安心な質の高い空間で学び、生活できるということが求められています。

防災・防犯・不審者対応では、学校や通学路等において子どもたちが安全に過ごせるよう、学校と地域のボランティアや関係機関との連携により地域ぐるみで子どもたちの環境を整備する必要があります。

また、防災・安全教育を推進し、児童・生徒が現在や将来において自他のいのちを守るために、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができる能力の育成に努めます。

さらに、子どもたちの安全・安心を確保し、質の高い教育環境を整備できるよう、放課後や週末に子どもたちが体験・交流活動をするための場づくりを進められるよう取り組みを進めます。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①学校、PTA校外委員会、外部関係諸機関との連携を図り、地域にも働きかける
- ②安全点検、危険箇所の修理などの早期対応を図る
- ③総合的な防災計画に基づいて避難訓練等の定着と充実を図る
- ④児童への安全教育の推進と教職員の危機管理能力の充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①、③文化教育ゾーンの4施設と合同で地震と津波を想定した避難訓練を実施し、各職員の配置や緊急時の誘導の仕方等について確認できた。今年度は、児童は教室棟の3階へ、他の施設利用者は体育館への避難を原則としたが、課題も有り、次年度は、その改善に向けさらに安全な避難を目指していきたい。また、高台への二次避難についても訓練を実施していきたい。
- ②業者による遊具や防災設備の定期点検だけでなく、職員による月ごとの安全点検を徹底し、必要な場合は教育総務課の指示を受けながら、修理を早急に行うなどの対応を取った。
- ④「防災計画・消防計画」や「逗子小学校安全マニュアル」に沿って、津波や火災、不審者など様々な危険から回避する訓練を定期的実施した。また、児童には日常から「自分の命は自分で守る」という意識付けを行うような児童を行っている。

沼間小学校

【目標】

- ①沼間小学校防災計画に基づいた、安全体制確立のために、地域と連携した組織運営の整備を図る
- ②災害用伝言ダイヤル 171 年間三回実施
- ③自分の命は自分で守ることができるように、各学年の発達段階に応じた安全への啓発を高めていくようにする

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①過年度までにおける地域との取り組みに加え、本校の避難訓練に対して「合同・協働」という呼びかけを、学校だより等を通じて行った。
- ②災害があったときに、一つでも多くの連絡ツールを備えるために、今年度は2回実施ではあったが、内容の充実を果たすことができた。保護者が操作に慣れるというねらいから考えると、次年度は3回の実施できるようにしていく。
- ③様々な教育活動を通じて、児童一人ひとりが自己の心身を守るために、命の尊さについて適宜指導してきた。

久木小学校

【目標】

- ①防災教育年間計画の作成に取り組む
- ②防犯教室、不審者対応訓練を行い、子どもたち、教職員の防犯意識を高める
- ③PTA、地域パトロール体制と連携し、子どもの安全確保に取り組む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①前年度作成した「防災教育年間計画」に従い計画的に取り組んだ。
- ②年間計画通りに訓練等を実施した。継続的指導により、児童の防犯意識を育てたい。
- ③地域と連携した取り組みは継続している。今年度は、近隣の保育園との連携も進めることができた。

小坪小学校

【目標】

- ①地域の子どもを地域で守るという意識の醸成に向けた発信をより充実させる
- ②危険回避能力の育成を目指し、日々の教育活動のなかで意図的に取り組む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①防災教育に活用できる資料等そろえ、各学年での指導の充実に努めた。
- ②校外学習の際などに、大規模災害が起きた場合の行動について指導した。

池子小学校

【目標】

- ①児童が様々な体験を通して、危機予測・危機回避能力を養えるように、実地訓練を計画・実施していく
- ②様々な災害を想定し、安全確保のための環境整備をさらにすすめる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①防災・安全指導年間計画に基づき、避難訓練や5年生における総合学習、シェイクアウト訓練、低学年への新たな安全教室等、様々な場面を設定し危機予測・危機回避能力を培う指導を行ってきた。今後も教科の学習等と関連させながら計画的に行っていく。
- ②警察・消防等の外部機関や地域ボランティアと連携し、訓練や安全教室、総合的な学習の時間の授業等を行うことができた。教職員研修も安全防災に関する意識向上につなげる事ができた。今後も継続していく。

逗子中学校

【目標】

- ①逗子警察署生活安全課等を活用した不審者対策、安全教育の充実と逗子中学校防災計画の見直し
- ②大地震・津波を想定した避難訓練・災害時伝言ダイヤル訓練等の充実
- ③地域と連携した防災訓練における、中学生が主体的に活動する場面設定

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①不審者対策の講演会などを実施し、安全教育を徹底した。また、防災についても避難訓練等徹底した。
- ②年3回の避難訓練や災害伝言ダイヤル訓練を実施し成果をあげた。
- ③池子小学校区避難所運営訓練に参加し、成果をあげた。

久木中学校

【目標】

- ①防犯教室などに加え携帯電話、SNS 関連の新たな課題に積極的に取り組んでいく
- ②学校防災計画を見直し、市の防災マニュアルと連携できるよう取り組む
- ③校内の防災訓練を計画的に実施し、学区の避難所訓練や地域機関との連携を深める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①新たな方法での避難訓練を実施することができた。
- ②③学校防災計画を見直すことと地域と連携した訓練をすることができた。

沼間中学校

【目標】

- ①保健委員会等がリーダーシップをとり、生徒自らが危機管理意識をもち、安全点検に参加する
- ②地域講師を迎えての授業に避難所運営訓練を導入し、身近な体験活動等を通した防災教育を行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①毎月、教職員による安全点検は実施していたが、それに加え、保健委員会が毎日行っている清掃チェックと同時に、校舎内の安全点検を行う取り組みに着手した。
- ②ふれあいデーでは実施できなかったが、避難訓練に際して、逗子市消防署の協力を得て、救急搬送の方法・消火器の扱い方・煙体験等、様々な体験を行えた。

② 問題行動等への対応の推進

【 目 標 】

都市化や少子化、情報化などが進展し、社会全体で様々な課題がある昨今、子どもたちの問題行動等が生じています。その背景には、規範意識や論理性の低下が関係しているとも指摘されています。このような社会情勢の中で、学校は一人ひとりの子どもの人格を尊重し、個性の伸張を図りながら、子ども自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指します。

いじめや不登校、器物破損や暴力行為等はどの子にも、どの学校にも起こり得るものであることを十分認識し、地域・保護者とともにその未然防止や早期発見・早期対応への取り組みが、今各学校において求められています。さらに、いじめについては、学校は毅然とした態度で「いじめは許されない、いじめる側が悪い」ということを明らかにして、子どもの立場にたって、親身に、適切な指導を行う必要があります。

また、不登校児童・生徒など支援を必要としているすべての子どもたち一人ひとりの教育的ニーズを把握し、学校を中心とした総合的な支援体制の確立が望まれています。学校では子どもたちの心の問題に迅速に対応できるよう相談体制を充実させるとともに、校内の支援体制の充実と外部の専門機関との連携を図り、協働することが大切です。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①差別やいじめを許さない学級づくりを進める
- ②教育相談コーディネーターを中心とする組織的な対応と早期発見、予防を心がける
- ③外部専門機関との連携を密にするとともに、支援教育推進巡回指導員などの活用を進める
- ④全校体制のもと児童個々に応じた指導・支援の充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①「命の大切さ」「いじめ、暴力、差別の根絶」「ルールやマナーの徹底」の3つを児童への約束事として、校長室前の掲示板に掲げ、児童に啓発している。授業では、道徳の時間を中心に全ての教科・領域の中で、「命の授業」に取り組んだ。特に今年度は、高学年の理科の時間に「生命の誕生」を全員が模造紙にまとめ、校内に掲示し、全校児童へ取り組みの成果を発表した。また、児童には朝会での学校長の話の中で、保護者にはお便りで、職員には事故防止会議等で「いじめ」「暴力」「差別」の根絶を投げかけた。

②、③、④課題のある児童に対しては、教育相談コーディネーターが中心となって早期発見・早期対応に当たっているが、ケースによっては外部専門機関との連携を密にとり、連携して対応している。また、支援教室、相談室、校長室等を利用した取り出しの授業を行い、児童の特性や発達段階等、個に応じた丁寧な指導を実施した。

沼間小学校

【目標】

- ①問題行動への組織的対応を図る（教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、心の教室相談員の効果的活用及び校内の教育相談体制の再検討）
- ②定期的な実態把握に努め、未然防止・早期発見・早期対応・早期解決、そして根絶を進める（生活アンケートの工夫と充実した活用）
- ③教育ニーズの把握に努め、総合的な支援体制の確立を組織的に図る（他機関との連携の充実）

【評価】

- ① 達成した
- ② 達成した
- ③ 達成した

【成果と課題】

- ①問題行動を起こさない、起きたときの組織編制及び運営について、各担当者と密接で迅速な連携が図れるようになった。
教育相談コーディネーターの二人体制を、様々な教育活動の中で活かすことができた。
- ②児童に対する日々の観察を大切にすることはもとより、児童指導部による「生活アンケート」の内容の見直し及び事後指導の活用について、工夫改善をすることができた。
- ③児童の個に応じた学習及び生活ニーズについて、支援教育関係担当者が中心となった組織運営を推進した。

久木小学校

【目標】

- ①「久木小学校いじめ防止基本方針」に基づいた指導の充実を図る
- ②教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図り、子どもや保護者のニーズに具体的支援が行えるよう努めていく
- ③外部機関やスクールカウンセラー、巡回相談員等との連携を深める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①基本方針に基づいた指導を実践した。
- ②ケース会議等を踏まえ、課題を抱える児童（保護者）への対応を進めることが出来た。校内での情報共有・共通理解も進んだ。

- ③支援教育推進巡回指導員、スクールカウンセラー等を活用し、児童支援を進めることが出来た。必要な時にケース会議を持つことや、定期的に振り返りを行い、短期・中期目標を確認することなどが定着してきたと感じる。今後も一層の連携を図りたい。

小坪小学校

【目標】

- ①家庭や外部機関との連携を推進し、さらに組織的な対応を目指す
- ②児童理解に対して事例研究を中心に研修を進め、人権等に配慮した学級・学年・学校経営をすすめる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①必要な場面でケース会議を実施し、組織的な対応を行った。
- ②児童理解に関する研修を行い、それらを生かして人権などに配慮した学級・学年・学校経営を行う努力をしている。

池子小学校

【目標】

- ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立し、スクールカウンセラー・巡回指導員・うるおいフレンド等を活用しながらより充実した組織的対応を図る
- ②教育研究所・子育て支援課等の専門機関との連携をより密にし、子ども一人一人の課題に応じた支援を積極的に行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①支援や配慮が必要な児童には、巡回チームにアドバイスをいただきながら、早急・適切に対応ができた。心のアンケートについての内容の見直しを行った。年2回実施し、児童の実態に合わせて対応ができた。
- ②外部機関との連携、地域・保護者と連絡を密にし、各児童の個別の支援を行うことができた。

逗子中学校

【目標】

- ①スクールカウンセラー、うるおいフレンド（心の教室相談員）、学習支援員の効果的な活用と、継続的な校内相談体制の再検討
- ②いじめ・不登校への予防的な相談の実施と研究所等他機関との密な連携
- ③生徒指導連絡会の週1回開催

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①教育相談コーディネーターを中心に、人材の活用と情報の共有化を推進し、成果をあげた。
- ②教育研究所や支援教室の利用等で、全職員の共通理解のもとで成果をあげた。教育相談コーディネーターが相談に加わった。
- ③実施できた。

久木中学校

【目標】

- ①生徒指導を充実させ、生徒の規範意識を向上させ、温かい人間関係づくりを含め、全教職員が意図的・組織的に教育活動を進める
- ②いじめ対応等に関して生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となって管理職・全職員が連携を取りながら組織的な指導体制を確立し対応していく
- ③関係諸機関との連携を密に図り生徒一人ひとりの課題に応じた支援を計画的に行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①生徒支援に関して朝の打ち合わせで共通理解を図ることができた。
- ②いじめへの対応をすすめることができた。
- ③外部機関との連携と情報共有を進めることができた。

沼間中学校

【目標】

- ①安心安全な学級づくりに向けて、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の手法及び学級づくりの自己チェック表・解説を活用する
- ②本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、問題行動の防止に向けた取り組みを実施する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①研究所の協力の下、1年生で全クラス2回の構成的グループエンカウンターの手法を用いた、学級づくりの授業を実施した。今後の一層の展開が求められる。自己チェック表・解説の活用については、全教員で授業の自己チェックを実施し、学校の傾向を分析できた。

②定期的な生活アンケートを工夫し、氏名記載の調査に変えたことで、調査後の対応が図りやすくなった。

③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進

【 目 標 】

幼稚園・保育園から小学校に入学した子どもたちが、新しい環境になじめなかったり、授業中に立ち歩いたり騒いだりする問題を「小1プロブレム」といいます。

同様に、中学に入学した際に生じる問題を「中1ギャップ」といい、近年大きな問題となってきました。

これらの問題を解決し、子どもたちが希望に満ちた学校生活を送れるよう支援していく必要があります。

そのためには、幼稚園・保育園と小学校の連携、さらに小学校と中学校の連携を図り、子どもや保護者が、学びや生活が連続していると安心できるよう、相互の教育活動を理解し、協力していくことが大切です。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①幼稚園・保育園との効果的な連携についてカリキュラムの検討を進める
- ②幼稚園・保育園との交換行事を学年行事として実施していく
- ③中学校との交流行事を進める

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①②幼稚園、保育園との交流は、「学校へ行こう週間」や「ようこそ集会」などで1年生を中心に行事として行っているが、交換行事やカリキュラムの検討までは進んでいない。
- ③職業体験事業で中学生を受け入れ、小学生と交流を図る一方、外国語活動の授業では中学の英語教員の指導を受け、一部部活動の見学を行うなど、定期的な交流を進めることができた。

沼間小学校

【目標】

- ①幼稚園・保育園・小学校・中学校間で、教員の授業交流の実施
- ②小中9年間の学びの連続性に向けて情報交流の末にカリキュラムづくりを進める
- ③幼・保との連携では、授業交流や行事における子ども同士の交流を推進することで、一連の流れのあるつながりを推進する

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった
- ③達成した

【成果と課題】

- ①授業並びに行事の参観を主に、積極的な交流を行った。
- ②授業参観及び合同研修会（授業研究）を開き交流が盛んになったが、カリキュラム作りにまでは至らなかった。
- ③「ようこそ集会」という行事に、本校入学予定の園児を招くことが恒例となり、その一方で幼・保育園への参観に行き、新入生としての受け入れ態勢のために、入念な情報交換を行った。

久木小学校

【目標】

- ①小・中の連携を目指し、協議しながら取り組みを進める
- ②幼稚園・保育園と連携した支援教育に取り組む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①複数回にわたる小学校の授業見学、中学校教諭の6年生出前授業、夏休み中の部活体験など、年間を通して連携を深めることが出来た。
- ②新入学児童を迎える集会を開いたり、各幼稚園・保育園へ参観したりするなど、職員交流の手立ての充実を図った。

小坪小学校

【目標】

- ①幼稚園・保育園と相互の参観等を推進し、課題を共有しつつ個々の役割の明確化を検討する
- ②9年間を見通したカリキュラム上の連携や児童指導の情報交換を推進する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①秋祭りやようこそ集会に、幼稚園や保育園の年長児を招待し、小学校の教育内容を理解してもらえるように努めた。
- ②幼・保・小の連携推進委員会での情報交換や、新入学児童の聞き取りを行い、幼・保・小間で情報の共有化を図った。

池子小学校

【目標】

- ①幼・保連携では、行事での交流のみならず、児童に対する共通理解、情報の共有も図る
- ②小・中連携でも行事や授業だけでなく、児童指導、生徒指導でも理解と連携を推進する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①幼・保・小担当者会において、児童の情報交換を積極的に行うことで相互理解を図れた。
また、公開行事参観などを通して幼児・児童間の交流を推進することができた。今後も継続していきたい。
- ②中学校との外国語活動や体育科の出前授業など連携をはかり中学校入学に向けての児童の授業参観や部活動見学、生徒会活動についての説明会など学校間での交流は深まっている。
今後も継続的な連携と新たな連携方法を考えていく。

逗子中学校

【目標】

- ①小・中学校間で、教員の授業交流の実施
- ②小・中学校、9年間を見通した「学び方」のカリキュラムに基づいた実践
- ③湘南保育園との連携の充実

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①英語教諭が逗子小と池子小で、それぞれ授業を行った。
- ②モデルを掲示した。
- ③湘南保育園をはじめ、沼間愛児園、桜山保育園、双葉保育園で職場体験を引き続き実施した。また吹奏楽部・図書委員会や夏の講座などで逗子高校と連携を行った。

久木中学校

【目標】

- ①小学校への出前授業・夏休みの教室などの実施で新入生がスムーズに中学校生活をスタートができ、安心して学校生活を送れるよう一人ひとりの成長を支える。学区の小学校と個に応じた指導を進めるために必要な情報の共有と連携を積極的に進める。
- ②学区の小学校と協同して義務教育9年間を見据えたカリキュラムの工夫、授業体験、部活動体験などの活動を進め小・中連携をはかる。

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①小学校へ生徒理解のための授業参観を実施することができた。
- ②小学生への授業や部活動の体験をおこなうことができた。

沼間中学校

【目標】

- ①教職員研修等で小・中連携を深め、学びの連続性を追及し家庭学習の定着を図っていく
- ②小・中9年間を見通した、「学び方のカリキュラムづくり」を具体化する
- ③小・中での授業参観や出前授業等実施する
- ④小・中連携研修会で、小・中の模擬授業を行い研究する

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成できなかった
- ③達成した
- ④達成できなかった

【成果と課題】

- ①小・中連携研修のテーマが「アクティブラーニング」だったため、取り組めていない。
- ②中学校からの原案に対し、小学校からは未だ回答をもらっていない。
- ③英語や体育の出前授業や、複数回の相互の授業参観を実施した。
- ④中学校教員による模擬授業のみ行った。小学校は次年度に先送りした。

④ 国際教育の推進

【 目 標 】

今日、わが国では様々な面で多様な文化との接触や国際化が進展し、国際社会に生きる日本人としての資質の向上が重要な課題となっています。

これからの国際教育は、多様な文化や生活様式を知ることにとどまらず、多様な文化との共生に向けて、多様性を尊重し、多様な価値観を受容したり、ぶつかり融合したりする中、新しい価値観を創造したりすることができる等、国際社会においても自らの力を発揮できる資質や能力を育てることが必要です。

また、自分たちが生活している日本と世界の国々の現状や課題について、自分たちの思いや考えをもち、それらを自ら発信し、かつ多様な文化的背景をもった人々を理解し国際平和の実現に努める態度の育成とコミュニケーション能力の向上に努めます。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①外国語活動の在り方について職員研修を行い、実践力を高める
- ② I E A（国際教育指導助手）との連携について実践していく
- ③自己表現力・コミュニケーション能力の育成を目指した授業実践の実施

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①小学校と中学校の担当教員同士で相互に交流授業を行った。特に、外国語活動における小学校から中学校英語へのスムーズな繋がりを目指し、実践をとおして研究が深められた。
- ② I E A（国際教育指導助手）との連携については、高学年のほか、低・中学年にも実施し、第3学年からの外国語活動の導入を見据え、児童に興味・関心をもたせるような教材を担任と I E A（国際教育指導助手）が協働して開発に携わった。
- ③本校では「自分の考えをもち、伝え合い、学び合う児童の育成～国語科を中心に、「言葉」を大切にす指導の工夫を通して～」というテーマで研究を推進している。今年度は、「書くこと」を中心に自己表現力・コミュニケーション能力の育成を目指した授業の実践を行った。

沼間小学校

【目標】

- ①外国語活動の中で異文化を理解しながら、他文化との共存を図るコミュニケーション能力の育成を図る
- ② I E A（国際教育指導助手）の有効活用のもとで、授業実践の充実を図る
- ③ I E A（国際教育指導助手）と協力して、日常的な交流や新たな教材や題材の開発を進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①外国語活動の主旨を大切にした授業づくりを大切に、国際理解教育指導助手と連携したコミュニケーション能力の育成を推進した。
- ②③外国語活動以外の教科並びに特別活動等においても、国際理解教育指導助手と有効な教材や題材を作り、コミュニケーション活動中心の授業を推進した。

久木小学校

【目標】

- ①小学校外国語活動の授業を通し、コミュニケーション能力の育成を図る
- ② I E A（国際教育指導助手）の効果的活用を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①逗子市外国語活動ガイドラインに基づいて、外国語活動の実践に取り組んだ。
- ② I E A（国際教育指導助手）とのコミュニケーションに努め、より良い指導を考えることができた。課題は、I E A（国際教育指導助手）が毎年替わってしまうことである。今年度、教員とI E A（国際教育指導助手）との間で構築した関係を、また次年度は一からはじめなければならない。

小坪小学校

【目標】

- ①発達段階に応じた国際理解やコミュニケーション力の育成を推進する
- ②小坪小学校の国際教育のあり方をまとめ、6年間を通した学びを教育課程上に位置づける

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ① I E A（国際教育指導助手）を活用し、授業以外の場面（休憩時間・給食時間等）で子どもたちと関わってもらうことで国際理解やコミュニケーション力の育成を推進できた。

- ② I E A（国際教育指導助手）との意思疎通が難しく、授業担当者との打ち合わせと相違があるなど、授業の内容に課題があった。

池子小学校

【目標】

- ①外国語活動や国際理解の授業を通して、異文化理解、自分から他者と関わるコミュニケーション力の育成を推進する
- ②池子小学校の国際教育のあり方をまとめ、6年間を通した学びを教育課程上に位置づける

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①それぞれの学年の発達段階に応じて、I E A（国際教育指導助手）との協力の下、国際教育にて異文化を知ることに取り組んだ。また、何を言わんとしているのか理解しようと努める子どもたちの姿も育ってきた。
- ②校内職員研修を実施し、外国語活動への考え方や授業づくりについて学ぶ機会を設けた。また、年間計画を作成し、より発展的に学習が展開できるようにした。

逗子中学校

【目標】

- ①異文化を理解し、多文化と共生するために、地域人材の活用を図りながら、授業や行事を通したコミュニケーション能力の育成
- ② I E A（国際教育指導助手）の効果的な活用による生徒のコミュニケーション能力の育成及び国際教育の実施
- ③市民性教育の一環として、修学旅行において、在住の外国人や観光客に住みやすさのインタビューをして、観光都市逗子のあり方を考える

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した
- ③達成できなかった

【成果と課題】

- ①前年度と同様に、地域人材の活用まで及ばなかった。
- ②国際教育指導助手を活用し、アメリカの地域や文化を紹介した。
- ③国際教育の理念の周知から、はじめなければならない。

久木中学校

【目標】

- ①国際社会に生きる日本人としての資質の更なる向上を目指し、国際教育指導助手とともに様々な教育活動において積極的な活用を進める。

②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体・一般外国人との交流を図れるような工夫をし国際社会に生きる子ども達の育成を進める。

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①国際教育指導助手との連携はうまくいった。

②総合的な学習の時間に外国人留学生等と交流を持つことができた。

沼間中学校

【目標】

①学校として、国際教育・多文化共生教育に取り組む

② I E A（国際教育指導助手）のより効果的な活用を研究していく

【評価】

①達成できなかった

②達成した

【成果と課題】

①昨年度に続き、市の国際教育研究授業は本校で行ったが、学校全体としては取り組めていない。

②英語の授業で、 I E A（国際教育指導助手）を活用し、国際理解教育を実施した。

⑤ キャリア教育の推進

【 目 標 】

キャリア教育とは一人ひとりの社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育です。

新学習指導要領における『生きる力』には『社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力』が含まれるとした上で、その力について具体化されている要素を学校生活のあらゆる場面で育てていくことが必要です。

子どもたちそれぞれの発達段階に応じて勤労観や社会性を養い、将来の職業について正しく理解できるよう、学校・家庭・地域など関係機関の協力を得て、キャリア教育を進めていきます。

また、キャリア教育は職業学習だけでなく、将来を見据えた「生き方の教育」であり、子どもの発達に応じたさまざまな生き方の学習に取り組んでいきます。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①サマースクール等支援サポート活動を活用し推進を図る
- ②キャリア教育の全体計画に基づいて実践を行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①夏季休業中に実施したサマースクールでは、普段の授業では出来ない体験学習を中心に行った。サマースクールは、学校支援地域本部の主たる事業であり、地域本部の呼びかけにより、広く専門の講師を招聘でき、またボランティアの支援も得られた。
- ②中学年を中心とした福祉学習や低学年の買い物学習、また林間学校や遠足などでは、体験から学ばせることに主眼を置いて取り組んだ。

沼間小学校

【目標】

- ①発達段階に応じたキャリア教育を、計画的・系統的に計画し実践する
- ②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために、各教科や体験学習等を有効に活用する
- ③学校行事並びに児童会活動の充実を図る

【評価】

- ①達成した

②達成した

③達成した

【成果と課題】

①②各教科、特別活動、総合的な学習等を通じて、児童が自分の将来について見つめ課題解決を図ってきた。特に、ゲストティーチャーを招いた授業では、生きる力を育むための共通題材として実施することができた。

③各学校行事において、児童会の組織運営を中心に活動を行った。上級生が下級生をリードしていくことを基本に、各活動場면을指導してきた。

久木小学校

【目標】

①子どもの発達段階に応じたキャリア教育の在り方について研究・実践を図る

②教育活動全般を通じて、児童が自尊感情を高め、より良い人間関係を築くことに努める

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①社会科や生活科、総合的な学習の時間等の中で、ゲストティーチャーを招いて実践することが出来た。

②教育活動全般を通し、全教員が共通理解をして「キャリア教育」の視点を持ちながら指導に当たることができたと自信を持って言えない。今後も、日常的な取り組みの継続が必要と感じている。

小坪小学校

【目標】

①キャリア発達を意識した取り組みを実践し、カリキュラムとして残す

②生活科から繋がる6年間の教育活動全体をキャリアの視点で見直し、キャリア教育の充実を図る

【評価】

①達成した

②達成できなかった

【成果と課題】

①たてわり活動の充実を図る中で学年に応じたキャリア発達を意識した取り組みを実践できた。

②特別活動を中心に取り組んできたが 教育活動全体で取り組んでいることの共通理解は図られなかった。

池子小学校

【目標】

- ①教育活動全体をキャリア教育からの視点で見直し、カリキュラムとして残していけるようにする
- ②地域教育力のさらなる活用を図り、キャリア教育の充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①総合的な学習の時間の年間カリキュラムではなく4年生6年生の特別活動の中にキャリア教育を位置づけ教職員の共通理解を図った。
- ②地域支援本部事業などで地域や保護者の方を効果的に活用し、キャリア教育の充実を図ることができた。

逗子中学校

【目標】

- ①職業体験学習の実施等によりキャリア教育の推進
- ②学校行事・生徒会活動の充実
- ③キャリア教育・市民性教育のカリキュラムの実践と検証

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①事業所の協力を得て、45事業所の協力で職場体験を実施した。
- ②PTA及び学校支援地域本部の協力の下、ディベートなどを取り組んだ。
- ③修学旅行での学習成果を、逗子市への提言という形で発表できた。

久木中学校

【目標】

- ①職業の選択を始めとし、自分の将来を見据えた有意義な人生のあり方学ばせる。自らが体験し学ぶために中学校の指導計画を作成し系統だった指導を進める
- ②地域・保護者・関係諸機関との連携を図り職業についての理解を深め、発達に応じて地域社会での職業体験を進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①学年に応じた進路学習を行い、キャリアについて考えることができた。
- ②地域・保護者等の協力を得て、キャリア講演会や職業体験学習を実施することができた。

沼間中学校

【目標】

- ①3段階のカリキュラムの流れと並行して、市民性教育の実践とカリキュラム化を進める（1・2年生）
- ②職場体験を2日間実施し、ねらいをより深化していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①1年生は昨年度同様、2年生は「自然体験学習」で山梨と逗子の自然・文化比較、「職場体験」を「逗子の将来像」と絡めて取り組んだ。
- ②2日間の職場体験を「仕事を知る」ことと同時に、逗子市内の事業所・事業主が逗子市の将来像をどう描いているか、調査することで、3年次での市への提言につなげる活動に取り組んだ。

⑥ 福祉教育の推進

【 目 標 】

私たちの周りには、障がいを持つ方や高齢の方々が多く、ともすると福祉とはそのような方々のために何かをすることと、子どもたちはとらえられがちです。しかし、福祉は特別な人の誰かのためのものという限定されたものではなく、一人ひとりの

「 だんの らしの あわせ 」

を願うものという観点で、福祉教育を進める必要があります。

年齢の違い、障がいの有無にかかわらず、お互いに相手の立場を思いやり、声をかけ合える温かい人間関係をつくり、心を育てる教育を進め、誰もが住みやすい社会をつくる担い手を育成していくことが、これからの社会において大切です。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①人と人との温かい人間関係・コミュニケーションづくりに努め、思いやりの心、人権尊重の精神を育む教育の推進をはかる
- ②地域講師やボランティアを活用した、福祉教育の実践を進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①毎週の「朝の読み聞かせ」、また道徳の時間を中心に各教科・領域で取り組んだ。また、本校では、ルールとマナーの向上を目指した指導を推進しており、児童会でも「あいさつ運動」やユニセフ活動をとおして思いやりの心、人権尊重の精神を育むための推進を図った。
- ②中学年を中心に、逗子市社会福祉協議会や県立岩戸養護学校と連携し、身近な福祉について学んだ。また、障がい者スポーツの一つであるフライングディスクを障がい者とともに行ったり、点訳奉仕会の方とともに第2の言語である「点字・点訳」の体験を行ったりし、関心を深めた。

沼間小学校

【目標】

- ①外部人材を活用して、各学年における年間計画の作成のもとで、指導方法の工夫改善を図る
- ②外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善及び充実を図る
- ③社会福祉協議会と連携し、体験的な学習活動を推進する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①②各教科、特別活動等を通じ、福祉教育について、理解・認識する必要性について扱った。学年の発達段階に応じた題材という点では、引き続き検討事項としていく。
- ③社会福祉協議会との連携事業は、4・5・6年生を対象に実施した。

久木小学校

【目標】

- ①福祉学習年間計画をもとに、教科、総合的な学習の時間等を通して、福祉学習に取り組む
- ②社会福祉協議会との連携を図り、福祉教育の推進を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①年間指導計画に基づき、取り組みを行った。担当者が適宜、取り組みについて声をかけていた。次年度も継続して取り組みたい。
- ②福祉教育の計画・実施に関わって連携を図ることが出来た。

小坪小学校

【目標】

- ①体験からの学びを重視し、体験だけに終わらない日常的な実践力を育てる福祉教育の推進をめざす
- ②人権に対する研修を継続し、人権意識の向上を図るとともに、地域・保護者への発信も充実させる

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①総合的な学習の時間において、「アイアイボランティア」を活用し、日常生活に生かす学習を実践することができた。
- ②日頃から教職員の人権意識の向上には努められたが、地域・保護者への発信の充実には至らなかった。

池子小学校

【目標】

- ①体験からの学びを重視し、体験だけに終わらない日常に生きる福祉教育の推進を目指す
- ②人権に対する研修を継続し、人権意識の向上を図ると共に地域・保護者への発信も充実させる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①市の福祉協議会と連携し、発達段階に応じた体験的な福祉教育を積極的に取り組むことができた。体験だけで終わらず、ユニバーサルデザインについての学習へつなげることができた。
- ②教職員の人権意識を高める研修を実施し、また、ユニセフ募金、東日本特別募金などの児童会活動を通して、自分や他者を尊重する態度を培うことができた。

逗子中学校

【目標】

- ①福祉体験学習の実施による豊かな心の育成
- ②市民性教育の一環として、社会福祉の理解を深め、地域と協働した生徒の社会性の伸長
- ③地域ボランティアに積極的に参加するよう呼びかける

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①・②共に社会福祉協議会と連携し、3学年を対象に福祉教育を実施した。来年度は、他学年にも実施していきたい。
- ③逗子市民まつりや逗子サミット（携帯電話の使い方）などに参加した。次年度も継続して行っていきたい。

久木中学校

【目標】

- ①発達段階に応じた福祉教育を推進し、体験学習を通して理解を深め生活の中で活用が出来るようにする
- ②地域・仲間との活動を通して思いやりの心、ボランティアの精神などを育成し学校生活の中で活用ができるようにする

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①心プロジェクトの応援を得ながら福祉教育を実施することができた。
- ②地域でのボランティア活動に参加する生徒が増えてきている。

沼間中学校

【目標】

- ①学校生活のあらゆる場面で実践することで、福祉・人権への意識を高め、差別、偏見を許さない集団をつくっていく
- ②外部機関を積極的に導入し、性教育、精神障害やストレス回避について学習をさせる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①、②外部講師を招いて3年生を対象に授業を実施し、福祉・人権への意識を高めることができた。特に3年生では、社会福祉協議会の協力で「手話」の講座を設定し、聴覚障がい者への理解を深めることが出来た。

⑦ 環境教育の推進

【 目 標 】

逗子市では、今日、世界的に大きな課題となっている環境に関する諸問題の解決に向けて、逗子市環境基本計画がつくられています。

逗子市立小・中学校においても、一人の市民として自然と共生できる明るい未来の実現のために、身近な環境問題について自ら考え判断できる子どもたちを育てます。

さらに、子どもたちが自然に、環境にやさしい行動が取れるようになることを目指して、環境教育に取り組んでいきます。

また、環境教育の取り組みが、子どもたちだけの活動にとどまらず、各家庭・各地域へと広がっていくことを目指して、地域・保護者の方と、子どもたちとともに活動できるような具体的な取り組みを推進していきます。

各小・中学校における平成 27 年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①児童会活動等に盛り込んだ活動の実践を推進する
- ②節電・節約を意識した取り組みを児童中心に行う
- ③家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①児童会園芸委員会が取り組んだ「人権の花」運動では、種や苗を植えたり、毎日水やりをしたりして、成長を見守った。活動の成果は児童会朝会で低学年にも分かり易く、クイズを交えて発表した。また、環境委員会では、毎日気温の測定を続け、異常気象や温暖化について全児童に関心をもってもらうよう児童会掲示板に測定結果を掲示した。
- ②教室ではゴミ箱を分別できるように分けているが、副読本や「エコ広場ずし」を活用し、ゴミの減量化を推進する取り組みを一層進めた。また、教室から移動する際は、電気や冷暖房の電源をこまめに消すよう努めている。
- ③中学年では、浄水管理センターやクリーンセンターの見学をとおして、汚水やごみをリサイクルする過程を学んだ。そして、学んだことを家庭と連携し、ごみの分別や清掃活動などに積極的に取り組んだ。

沼間小学校

【目標】

- ①環境教育の推進に向けて、学年に応じた体験活動を計画的に推進する
- ②子どもたちの実践活動を通して、地域と協働した環境学習を推進する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①②ボランティアやゲストティーチャーによる体験型実践活動が、各教科並びに総合的な学習等において実施した。夏季休業期間中における環境問題に関する課題は、学年の発達段階に応じて行うことが定着した。

久木小学校

【目標】

- ①教科、総合的な学習の時間等を通して、環境学習に取り組む
- ②逗子市の施策（グリーンカーテン等）を環境教育に生かす

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①総合的な学習全体計画に基づき、各学年で取り組むことが出来た。
- ②今年度もグリーンカーテンを育てることで、環境教育の一助と成すことが出来た。

小坪小学校

【目標】

- ①環境教育の全体計画を作成し、各学年での取り組みを整理する
- ②児童の環境保護に対する意識を育て、環境保護への体験的な取り組みが日常化するような学びの手だてを構築する

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した

【成果と課題】

- ①4年生・環境保健委員会では計画的に取り組むことができたが、各学年の取り組みを整理することについては着手段階である。
- ②環境保健委員会では朝会で劇やクイズなどで環境保護を呼びかけ、川の清掃活動や廃油の石鹸作りを行った。4年生では体験学習や調査活動を充実して取り組み環境保護の意識が高まっている。

池子小学校

【目標】

- ①6年間を通した、地域の特性を生かした環境教育全体計画を作成し、よりよい環境教育の推進を目指す
- ②環境に対する意識を深めさせ、子どもたち自らが積極的に活動を展開できるような取り組みを目指す

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①発達段階に合わせ、各教科と総合と関連付けた環境教育を地域の方と協力しながら学校全体で取り組むことができた。
- ②逗子市の有料ゴミ袋の標語デザインコンクールに応募、逗子市環境フェスティバルに環境学習の作品を出展するなど、児童が積極的に環境教育に取り組んだ。

逗子中学校

【目標】

- ①生徒会活動を中心とした、ホタルの里づくりの推進
- ②市民性教育の一環として、地域と協働した環境教育の実践
- ③地域ボランティアに積極的に参加するよう呼びかける

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①ホタルの観察は、3回実施できた。餌のカワニナの育成やホタルの幼虫の捕獲にも取り組んだ。
- ②10月は、地域との連携がうまくできなかったが、3月は地域との連携を取り、実施できた。
- ③地域清掃を2回に増やした結果、ボランティア人数が増加した。

久木中学校

【目標】

- ①地域・保護者との連携により環境に対する意識、見識を育てる
- ②環境学習の指導計画に基づき目標を明確にし活動を積極的に行う
- ③太陽光発電施設を利用して、環境に対する意識を育て生活の中で生かせるようにする

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成できなかった

【成果と課題】

- ①ずしし環境会議のメンバーによる授業を実施することができた。
- ②生徒会が中心となり校内でのリサイクル活動を実施することができた。
- ③データ収集装置の故障により活用することができなかった。

沼間中学校

【目標】

- ①環境委員会から、企画を出させ、環境教育を進めていく
- ②学校支援地域本部、P&T（本校保護者と学校との連携組織）の方々の協力を仰ぎ、地域の大人たちが自然を守ろうとする姿勢をみせることで、自然を守る大切さを知らせる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①環境委員会が主導して、ゴミの減量化に取り組み始めた。
- ②校内の花いっぱい運動や地域清掃等、取り組みが定着した。

⑧ 情報教育の推進

【 目 標 】

逗子市では市内全校でコンピュータやインターネット、電子黒板、書画カメラ、プロジェクター、デジタルカメラなどのICT（情報コミュニケーション技術）が、多様な学習のための有効な手段として活用できる環境が整いました。ICTの急速な進歩により、情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を身に付けた子どもの育成が、授業の中でも重要な課題となってきました。

また、携帯電話やパソコンを持つ小・中学生が増加してきたことにより、ネット上の様々なトラブルに巻き込まれるケースも出てきています。このようなことを回避するためには、ネット上での情報交換の場におけるマナーやモラルの教育を図ることが求められてきています。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①発達段階に応じたIT機器やソフトを使用し系統性のある学習計画を実践していく
- ②情報モラルに対する意識の向上を図るため外部機関等を活用した授業を実施する

【評価と課題】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①今年度は、特別支援級にタブレット型端末2台が導入され、特に情緒に障がいをもつ児童にパズルなどで効果的な活用を図っている。また低・中・高のブロック別に目標と評価規準を設定し、コンピュータ室を効果的に活用し、年間をとおして取り組んだ。さらに、高学年では、「dbookPRO」など新しいソフトを試験的に導入し実践を行った。
- ②手引き書や副読本を活用し、授業を行った。また、教育研究所が主催する研修に情報担当教員が出席し、研修内容を共有した。

沼間小学校

【目標】

- ①ICT機器を有効に活用し、教科指導及び様々な教育活動においてプレゼン能力を中心とした効果が果たせるよう努める
- ②情報リテラシーの育成や、情報モラル教育に保護者を交えた理解の促進に努める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①各授業及び行事等において、ICT機器を活用した学習場面を増やし、児童が学習経過や結果について、発表する場面を大切に作る取り組みをした。
- ②情報モラルについて、これまで以上に重要視した指導を、外部講師を招いた授業をし、学年並びに学校だより等を通じて、保護者への理解と協力を求めた。

久木小学校

【目標】

- ①情報教育指導計画をもとに情報教育に取り組む
- ②情報リテラシーの育成に向けて、パソコン環境の整備を行うとともに、情報モラルの育成も図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①情報教育指導計画に基づいた指導を実践した。
- ②携帯やスマートフォンに関する課題など、校内で十分課題共有し、指導に当たるところまでは行かなかった。次年度への継続課題としたい。

小坪小学校

【目標】

- ①情報活用能力の発達段階に応じた指導のあり方を検討し、学校全体で取り組む
- ②学習の様々な場面でICT（情報コミュニケーション技術）の効果的な活用がなされるように意図的に取り組む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①職員研修でタブレットを使った情報モラル研修を実施し、児童の情報活用の実態を把握した。また、携帯電話教室の実施や、情報モラルについて指導し、児童の情報活用能力の向上を図った。
- ②各教室のICT機器を活用し、様々な授業場面で多くの実践がなされた。

池子小学校

【目標】

- ①情報活用能力の発達段階に応じた指導のあり方を検討し、学校全体で取り組む
- ②学習の様々な場面でICT（情報コミュニケーション技術）の効果的な活用がなされるように意図的に取り組む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①情報教育年間計画をもとに、発達段階に応じた指導の充実に取り組んだ。
- ②ICT（情報コミュニケーション技術）の効果的な活用、学校放送などを利用し児童の意欲や関心を高めるよう子どもたちに分かりやすい授業づくりに取り組んだ。

逗子中学校

【目標】

- ①市民性教育の一環として、ICT（情報コミュニケーション技術）を活用したプレゼンテーションを取り入れた授業を学年ごとに編成し、発達段階に応じた情報活用能力の育成
- ②ICT（情報コミュニケーション技術）の「光と闇」に関する情報セキュリティについて、生徒・保護者の理解促進

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①1年生は実物投影機、2・3年生はパワーポイントを活用して、行事などの発表会を実施した。
- ②神奈川県警察の協力の下、7月に全校生徒を対象として、携帯電話の危険性について講演会を実施した。

久木中学校

【目標】

- ①情報教育全体計画に基づいて機器を用いた授業を実施する。生徒が映像を活用したプレゼンテーションを、発達段階に応じておこなえるよう系統立てて指導する
- ②情報モラルの育成を図り、情報を取捨選択する能力を一人ひとりが正しく理解して、活用できる力を育てる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①機器は充実してきたが、パソコン室の収容人数に限りがあり、生徒が一斉に利用できる状況にはない。
- ②情報モラルについては、技術科だけでなく、他教科や特別活動でも指導を行った。

沼間中学校

【目標】

- ① ICT（情報コミュニケーション技術）を活用した指導の充実を図り、「分かる授業」の実践を検証し、改善する
- ② 教科における ICT（情報コミュニケーション技術）を活用した生徒の発表実践を増やしていく

【評価】

- ① 達成した
- ② 達成した

【成果と課題】

- ① 授業のユニバーサル化の取り組みと関連させて、視覚的な情報提供として、オーバーヘッドカメラやプロジェクターを活用した授業を多く取り入れた。
- ② 「目指す生徒像」のコンピテンシーを身に付けさせるべく、授業や行事の発表など意識的に ICT（情報コミュニケーション技術）を活用した。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成27年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- 児童生徒安全確保事業（体験型安全教室「すきっぷ」）
- 教育相談事業
（非常勤職員4人）
- 適応指導教室運営事業（非常勤職員2人）
- 心の相談・援助事業（心の教室相談員各校1人 非常勤職員）
- 国際教育推進事業（国際教育指導助手[IEA]中学校は各校1名、小学校は5校で3名、計6名配置）
- 教育用コンピュータ維持管理事業（コンピュータリース）

(2) 主な指導内容

- ▲教育相談コーディネーターを中心とした校内児童・生徒支援体制の確立
- ▲小学校外国語活動・中学校英語科の授業づくり研修
- ▲「逗子市学校防災計画」に基づく各学校の防災計画の作成

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 89.7%）

(2) 主な成果等

【学校安全の推進】

- ・学校行事を機会に、災害を想定した指導をするなど、各校で取り組みの工夫をした。
- ・小学校1年生と小学校2年生対象に、市内全クラスにおいて体験型安全教室「すきっぷ」を実施した。

【問題行動等への対応の推進】

- ・問題行動の未然防止・早期発見を目的に、児童・生徒の生活実態について、聞き取り調査や質問紙調査を行うなど把握に努めるとともに、その後の支援をきめ細かく行った。
- ・組織的な支援が各校で定着してきている。
- ・チーム支援の意識が定着してきており、外部機関と連携した取り組みを進めることができた。

【幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進】

- ・年度末に、小学校は関係幼稚園・保育園との情報交換を、中学校は校区の小学校との情

報交換を実施し、学びの連続性を意識した情報連携を図った。

- ・小・中の連携を図るため、合同研修会や情報交換の機会をもった。また、中学校の教員が小学校へ赴いて行う出前授業や部活体験（クラブ指導）等を実施した。

【国際教育の推進】

- ・外国語活動では、小学校を中心に、単なる語学指導に終始することなく、コミュニケーションや人権、異文化理解、国際教育に発展させることができた。また、小学校では英語の教科化に向けた授業づくりについて、研修を重ねているところである。

【キャリア教育の推進】

- ・中学校における職業体験は定着しており、生徒にとって地域教育力を活用した貴重な体験となっている。（1日実施・・・2校、2日間実施・・・1校）

【福祉教育の推進】

- ・各教科・生活科及び総合的な学習の時間の中で計画的に実践された。
- ・社会福祉協議会（地域の教育力）との連携が定着しており、児童・生徒の実態に応じ、学校ごとに取り組みが行われた。

【環境教育の推進】

- ・総合的な学習の時間、生徒会・児童会活動の中で計画的に実践された。
- ・子どもたちの環境に対する意識を高めるために、地域教育力を活用した環境学習授業が行われた。

【情報教育の推進】

- ・小・中学校において、外部関係機関と連携しての携帯電話教室や情報モラルに関する授業を実施した。
- ・教員が意識してICT機器を活用した学習場面を増やすことで、授業のユニバーサル化にもつながり、授業内容の充実が見られた。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

（1）教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 児童・生徒の問題行動等については、早期発見、早期解決に向けた個別対応に加え、未然防止を視点とした集団づくりに重点を置いた支援を推進した。

授業のユニバーサル化を基本とした授業づくりを各校が進めている中で、ICT機器の効果的活用を推進した。

(2) 主な成果等

【学校安全の推進】

- ・不審者情報が提供された際、臨機応変にFAXやメールで速やかにその情報を提供し、注意を喚起することができた。
- ・交通安全・不審者対応等の防犯に関わる諸機関との連携を密に行うことができた。
- ・全小学校1・2年生を対象に体験型安全教室「すきっぷ」を実施し、不審者から身を守る意識を高めることができた。
- ・校長会議、教頭会議など機会があるごとに学校の「安全・安心」をテーマにして、市教育委員会から教職員に話しをした。

【問題行動等への対応の推進】

- ・各学校において早期発見・早期対応の取り組みを進めるとともに、未然防止の取り組みにも力を入れるよう働きかけた。
- ・教員と児童・生徒、保護者とのよりよい信頼関係を構築することをねらいに、『信頼に基づいた指導推進担当者会』を年4回実施し、研修や情報交換を行うとともに、褒める指導を推進した。
- ・校内の情報共有の徹底と、適切な指導に向けた教員個々の指導力向上を引き続き目指す。

【幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進】

- ・幼・保・小連携の取り組みを進めるために、幼・保・小連携推進連絡調整会議を年間3回開催した。逗子市支援シートの活用を検討した。

【国際教育の推進】

- ・年間8回の小学校外国語活動指導者研修会（兼 教育研究所国際教育・英語教育研究員会）や夏季研修会を開催するなどして、逗子市小学校外国語活動ガイドラインに基づいた指導のあり方について共通理解を図った。また、小学校外国語活動・中学校英語科の授業づくりについて連携した。

【福祉教育の推進】

- ・逗子市社会福祉協議会と連携しながら、体験型の授業等、工夫をした取組をもとに福祉教育の推進を図った。

【環境教育の推進】

- ・各学校で、地域の方々と連携しながら、環境教育に係る取組を行うことが定着してきている。

【情報教育の推進】

- ・ICT機器（PC、プロジェクター、電子黒板、実物投影機等）の授業における活用、推進を図った。

4 平成28年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

(1) 学校安全の推進

- ・大規模地震及び津波の発生に備えて「逗子市学校防災計画」の見直しに引き続き取り組む。また、各校の防災訓練を工夫していく。
- ・自転車での事故防止のための啓発により一層取り組む。
- ・防犯教育を検討する。

(2) 問題行動等への対応の推進

- ・校内支援を実効性のあるものとするため、特別支援教育充実事業を充実させる。
- ・各学校と関係諸機関との有機的連携を進める。
- ・不登校の未然防止に向けた具体的な手立てを講じ、出現率を下げるため、各学校の教育相談体制を充実させるとともに、居心地のよい学級づくりに取り組む。

(3) 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進

- ・幼・保・小連携の取り組みを進めるために、幼・保・小連携推進連絡調整会議を継続する。
- ・小・中の教職員間に顔が見える関係を構築し、互いの教育への理解を深める。
- ・小・中9年間を通して育てる「逗子の子ども像」について、教職員間の話し合いを深める。
- ・支援シートの活用をさらに広げる。

(4) 国際教育の推進

- ・小学校での英語の教科化を見据え、小学校高学年の活動を中学年にまで広げる。
- ・中学校英語科の授業との接続と指導法の工夫・改善も視野に入れて、小学校外国語活動の授業づくり研究を継続する。
- ・小学校にも1校に1名ずつの国際教育指導助手を配置し、国際教育・英語教育の推進を図る。

(5) 福祉教育の推進

- ・インクルーシブ教育を視点とした研修を組むなど、教職員の意識改革を図る。

(5) 情報教育の推進

- ・ICT機器（PC、電子黒板、プロジェクター等）の授業における効果的な活用を推進する。
- ・スマートフォンの所持率増加に伴い、「情報モラル」についての小・中一貫した指導を検討する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田 貢 氏〉

〔学校安全の推進〕

防災・減災・防犯への心構えについて、家庭や地域社会との連携を密にし、児童・生徒の発達段階に応じたきめの細かな指導がなされていることが伺える。

昨今の世情を踏まえて、今後とも、関係諸機関と連携し、児童・生徒にとって「学校が安全安心な場」であるよう、学校安全の推進に努めて戴きたい。特に、不審者対応については、保護者や地域社会の協力を最大限に活かし「子どもを犯罪から守る」ことを最優先にした児童・生徒指導体制を整えて戴きたい。

〔問題行動等への対応〕

各学校とも、「いじめ」「不登校」「暴力行為」等の根絶に向けて、校内の支援体制の充実を図るなどして成果を上げていることが伺える。特に、昨今多発している「いじめ」については、毅然とした態度で指導に当たることが必要である。「いじめは、いじめられる人間の生き方を否定し、時には死に追いやる犯罪行為である。いかなる理由があろうとも、いじめは許さない、いじめる側が悪い。」ということ、保護者及び児童・生徒に毅然とした姿勢で指導することが必要である。最近、小・中学生が、SNS等を通して、「いじめや不登校や自殺」等に巻き込まれる事例も増えていることから、子どもの情報管理・選択・活用能力を高め、子ども相互のコミュニケーション能力を高める指導とともに、子どもにとって「学校は楽しい。自分の居場所がある。自分の存在が認められている。」等の安心感が味わえるような学級経営や授業経営に努めることが大切である。

また、保護者には、機会あるごとに様々な方法で子どもの状態情報を発信し、子育てにより一層関わってもらおうよう支援体制を充実する必要がある。

〔幼・保・小・中学校連携の推進〕

例年と変わらぬ取り組みであるが、それぞれが「連携」「接続」の必要性について理解を深めていることは大きな進歩である。「幼・保・小・中」12年間の教育課程編制の概要作成にも心掛けて戴きたい。

〔国際理解教育の推進〕

小学校教育課程に外国語が位置付けられるのを機会に小・中の連携の深化、IEAの効果的な活用や異文化理解、コミュニケーション能力の育成など多岐にわたって成果を上げていることが伺える。

〔福祉教育〕

各学校とも、インクルーシブな教育の充実に取り組んでいることが伺える。今後とも、全教育活動を通じて「福祉の心」を育む教育活動を推進し、「心豊かな児童・生徒の育成」に努めて戴きたい。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

① 学校安全の推進

安全・安心な質の高い空間で学び、生活することが学校に強く求められている。その実現には、学校のみならず、保護者、外部関係諸機関、地域との緊密な連携が必要である。その対応が着実に推進されていることを評価する。

一方で、児童・生徒の危機予測・危機回避能力の育成が求められる。その中には、久木中学校で取り上げている、携帯電話や SNS などにかかわる課題も含まれてくる。中学生が主体的に活動し、地域との連携をはかる訓練への参加が実施されるようになってきたことを評価したい。

② 問題行動等への対応

「いじめ」をはじめとする問題行動等がどこの学校でも起こることを認識した上で、その未然防止や早期発見・早期対応に取り組む必要がある。逗子小学校が、「命の大切さ」、「いじめ、暴力、差別の根絶」、「ルールやマナーの徹底」を掲示板に示したように、各校が明確な方針の下に、教職員が一体となって問題行動等に取り組んでいることを評価したい。一人で問題を抱えることなく、生徒指導担当や教育相談コーディネーターさらには、スクールカウンセラーや時には外部機関の力を借りながら、取り組む姿勢が大切である。もちろん、日々の児童・生徒への丁寧な指導が大前提であるが・・・。

③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進

ともすればかけ声だけに終わりがちな「幼・保・小連携、小・中連携」の推進が確実に進みつつあることを評価する。ただ、十分とはいえない。小・小連携、中・中連携についても課題が残る。「義務教育9年間の学び」を共通認識する必要がある。連携を阻む校種の壁は、大部分が教員の心に築かれた壁によるものである。

④ 国際教育の推進、キャリア教育の推進、福祉教育の推進、環境教育の推進、情報教育の推進

英語が小学校の教科となることから、外国語活動のあり方が注目され、中学校との緊密な連携が求められる。短期間での成果は望めないが、校内研修の一層の充実や IEA との連携をはかりながら、さらには地域の力を借りて、特色ある逗子の国際教育の展開を期待する。

2 地域に開かれた学校づくり

① 地域への情報発信と学校公開の工夫

【目標】

学校が様々な教育課題の解決に向けて取り組むとき、家庭や地域社会との連携はますます重要になってきています。

学校教育目標や重点課題等を積極的に公開し、開かれた学校運営に努めることや、保護者、地域住民に向けた学校説明会や授業公開の定例化を進め、学校を地域に十分に開くよう取り組みを進めていきます。

また、個人情報保護に十分注意しつつ学校から積極的に情報発信を行い、さらに保護者や地域住民の声に耳を傾けるなかで、地域と学校とが適切に相互理解を深めていくことを目指します。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①学校ホームページの充実を図る
- ②学校便り・学年便り・学級便りなど各種のお便りの充実を図る
- ③保護者だけでなく地域の方々の声も反映した情報公開を行う
- ④学校ナビ（逗子小ガイド）の改訂・充実を図る

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①「逗子だより」「給食献立」「学校教育目標」など継続して発信しているものは更新をしているが、年度末アンケートの結果では情報が不十分と感じている保護者が多いようである。次年度のCMSへの移行に伴い、リニューアルさせ一層の充実を図っていきたい。
- ②「学校だより」「PTAだより」また「学年・学級だより」を定期的に発行し、情報の発信に努めている。「学級だより」ではお知らせ情報にならないよう、学級の課題や授業の取り組みやゆめあて、教員の学級経営目標など掲載する教員も増えてきている。
- ③PTA運営委員会や学校評議員、学校関係者評価委員より改善点等の意見を出してもらい、意見に対する具体的方策について、学校便りやホームページを通じて発信をしている。また、「運動会」や「学校へ行こう週間」など保護者や地域の方に参加してもらえる行事にはアン

ケートを取り、出来るだけ意見を反映させた運営を行うようにしている。

- ④「逗子小ガイド」は学校支援地域本部及びボランティアによって毎年、変更点や項目の加除訂正を行っている。特に、新入生保護者説明会では「図解入りで分かり易い」と評判である。保護者にとって、逗子小学校の情報を知るためにより分かり易いガイドとなるよう今後も学校支援地域本部の力を借りながら進めていきたい。

沼間小学校

【目標】

- ①学校だより、ホームページ等により、学校の情報を積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進
- ②学校公開日を設定する中で、保護者及び地域との信頼関係を構築（5回以上設定）

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①学校だより、保健だより、給食だより、学年だより等を通じて、学校の情報をタイムリーに発信し、信頼される学校づくりに努めた。今年度から隔週で、校長だよりを発行した。ホームページの更新については、校務支援システムの導入にともなう準備期間として、次年度から多数が携われるように分掌において研修を重ねてきた。
- ②保護者並びに地域との信頼関係を深めていくために、常時、授業公開ができるようにした。

久木小学校

【目標】

- ①地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める
- ②学校だよりやホームページ等で、学校の情報を広く伝える

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①地域教育協議会での取り組みの結果、学校への理解・協力が進んでいると感じる。継続して取り組みたい。
- ②学校だよりを地域に回覧し始めて本校の教育活動等への理解が地域にも広がってきたと感じる。次年度に向けて、ホームページが市全体で変わるので、今後も、更なる改善を図り、適切な情報公開を目指したい。

小坪小学校

【目標】

- ①様々な公開において、意見を集約し、支援・協力を得るようにする
- ②個人情報に配慮しつつ、ホームページや学校便りによる、情報の公開をさらにすすめ、相互理解による協働体制を構築する

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①学校だよりや地域の会合等様々な場面で学校の教育活動の様子を情報発信し、協力を依頼してきた。
- ②ホームページの更新に時間がかかり、タイムリーな情報発信が難しかった。

池子小学校

【目標】

- ①学校、学年、学級便り等による保護者、地域への適正な情報発信の実施
- ②学校支援地域本部事業の継続性の確保と改善

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①学校・学年・学級だよりなどを通して、保護者や地域に定期的に情報を発信することができた。学校ホームページについても、随時更新しながら、学校の様子を発信することができた。
- ②地域コーディネーターと連携し、前年度踏襲ではなく、今年度の児童の様子や学習内容の見通しを持って学校支援地域本部事業の活動を行うことができた。

逗子中学校

【目標】

- ①毎日を「学校公開日」と設定し、家庭・地域との連携を図る
- ②授業を保護者・地域に授業公開する機会を年間5回以上設定
- ③情報を学校便り、ホームページ、校長通信等で積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進
- ④池子区総務会にも出向き、情報発信していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①2年を中心に、授業や行事練習の参観が行われ、学年の雰囲気づくりに効果があった。
- ②早めにお知らせを出し、参観しやすくした。
- ③ホームページは、移行のため調整中である。学校便りは予定通り発行したが、原稿担当者が締切前に出すことが課題である。

④学校長が参加した。

久木中学校

【目標】

- ①学校だよりを地域へ発信する。また、ホームページの構成を見直すとともに、更新を定期的に行う
- ②青少年育成団体等地域との関係を深め、学校への理解を深め地域と学校の支援・協力体制が確立できるようにする

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①ホームページの更新は計画的に実施することができた。
- ②青少年育成団体との関係を深め、学校との情報の共有を図ることができるようになった。

沼間中学校

【目標】

- ①P & T組織の強化を一層図る
- ②学校公開等あらゆる場面での地域・保護者との学校課題の共有を図り、情報発信していく
- ③関係機関との連携を密にとって、学校情報を発信していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①規約改正により、前年度に選出された運営役員三役を中心として、P & Tの活動が保護者主体のものに変わってきている。
- ②毎月2回程度、校長通信「こぶしの花Ⅱ」を発行し、学校経営や校長の思いなど情報提供した。（3月4日時点で26号発行）。
- ③学校評議員会の場や住民自治協議会へも参加して、「校長通信」や「学校便り」など配布し、情報発信した。

② 地域教育力の活用

【 目 標 】

都市化や核家族化、少子化の進行は、地域の連帯感を希薄にし、地域の教育力を低下させる要因の一つとなっています。しかし本来、地域には多彩な人的・物的なリソース（資源）があり、それを教育に生かすことは重要です。

地域の貴重なリソースを学校に取り込み、教育活動の充実を図ること、また、地域の中の活動等を通して子どもが豊かに育つことを大切にしていきたいと考えています。

これまで、市として「学校教育支援ボランティア登録制度」を立ち上げるとともに、2009年（平成21年）度に市立小・中学校全校で立ち上げた学校支援地域本部を通してボランティアを募るなど、学校支援を広く求める取り組みを進めてきました。その結果、各学校の教育活動の様々な場面で保護者や地域住民による協力を得られるようになってきていますが、今後もこの取り組みの一層の充実を図ります。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①地域協議会の活動の充実を図る
- ②サポート通信の発行を推進する
- ③地域コーディネーターを1名位置づけ、中心とした学校や児童のための支援についての取り組みの充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①学校評議会と学校関係者評価委員会を年3回開催し、学校経営案、各校務分掌の取り組み状況等の説明や授業参観、給食の試食等をとおして、広く意見をいただいている。また、改善点についても具体的に意見をいただき、全職員で共有し次年度へ繋げている。
- ②学校支援地域本部によるサポート通信は、学校支援地域本部の役割や活動内容の趣致はもちろん、ボランティアの募集の際、大変有用であった。
- ③地域コーディネーターには、4部門に分かれているサポーター運営委員の総括者として、全体をまとめ、逗子市が主催する実行委員会へ出席し、活動の報告をしてもらった。

沼間小学校

【目標】

- ①学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化
- ②地域コーディネーターを活用した新たなる人材発掘を進め、分野別に役割分担を果たしていく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①諸機関の協力と連携を、密に機能させることができた。特にPTAとの連携は、保護者からの情報収集手段として活かされた。
- ②学校のニーズに対し、地域コーディネーターが人材発掘及び活用を円滑に進めてきて、学校との連携事業が行われている。

久木小学校

【目標】

- ①久木小サポーターシステムを活用し、学習支援、学校環境整備支援活動を進める
- ②校庭の芝生管理等の作業をサポーターシステムの協力を得て行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①大豆作り、味噌作り、稲作は継続して取り組んだ。教職員と保護者・地域とのコミュニケーションを目的とした「わくわくフェスティバル」は、毎年参加者も多く、目的を十分に果たしていると感じる。次年度は、地域の行事に、管理職以外の教員が参加できるようにしていきたい。
- ②課題は多いが、地域の協力・連携は十分である。維持管理等々に関わって、より良い手立ての研究・試行を進めたい。

小坪小学校

【目標】

- ①児童の地域参加をすすめる中で、教職員と保護者・地域の方々との円滑なコミュニケーションの推進を図る
- ②地域教育力の活用を年間計画の中に位置づける

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①わかめの種付け、しめ縄づくりなどの活動を通して、地域の方とのコミュニケーションを図ることができた。
- ②学校支援地域本部事業の年間計画の中に地域の方の指導を仰ぐ学習を計画した。

池子小学校

【目標】

- ①地域コーディネーターを中心とした地域支援活動の調整と改善
- ②地域ボランティアの活動の充実と、学校との双方向の交流の継続

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①地域コーディネーターを中心に、学校地域行事や学校行事活動での支援や教育課程に沿った地域教育力の協力をいただいた。
- ②通年で地域を取り入れるべく、地域の教育力を活用した様々な教育活動を行うことができた。その活動は、各教科や特に生活科、総合的な学習の時間の具体的な場面で活かされ子どもの生きる力に繋がっている。

逗子中学校

【目標】

- ①地域の担い手としての生徒の育成と、地域行事への積極的な参加(参加者数150人以上)
- ②学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化
 - ・学校支援地域本部における地域コーディネーターの目的別複数配置
 - ・小、中、高連携の推進

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①池子小学校区避難所運営訓練や地域の運動会、せせらぎ祭りに100人以上が参加した。
- ②花壇整備、中高生ディベート大会、文化祭での餅つき、マラソン大会、平和イベントへの支援をいただいた。

久木中学校

【目標】

- ①地域コーディネーターを中心とした学校支援の具体的な方法を模索し地域と協力した活動を進める
- ②学校関係者評価委員会・地域教育協議会を通じて、保護者・地域の個々の意見を十分に把

握し、教育活動に反映していく

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①地域コーディネーターと学校の支援について具体的に進めることができた。

②次年度の教育活動に生かせるような意見をいただくことができた。

沼間中学校

【目標】

①学校支援地域本部の協力で、教科の授業等にも地域講師、学校教育支援ボランティアの活用を積極的に行っていく

②図書館ボランティアを継続し、開館時間を増やすとともに生徒の読書活動を保障する

【評価】

①達成した

②達成できなかった

【成果と課題】

①サマーチャレンジ、総合的な学習（沼中ラーニング）、特別活動、道徳の授業では多くの地域講師を活用したが、教科では理科のみで、今後の課題である。

②今年度は、図書館ボランティアが見つからず、開館時間を増やすことが出来なかった。

③ 学校評価を生かした学校の改善

【目標】

現在、学校はその教育活動全体について、絶えず自己点検・自己評価を行い、その結果を適切に分析、改善することで、教育の質を向上させていくことが求められています。そのためには、学校運営の状況について保護者や地域住民等に対して積極的に説明を行いまた保護者や地域住民の声を聞くなかで、社会の期待と信頼に応える学校づくりを目指していかねばなりません。

さらに、学校の自己評価に基づいた学校関係者評価に取り組み、評価の視点や重点をしぼり、児童・生徒・保護者・地域の方々による適切な評価を実施し、更なる教育活動の向上に取り組みます。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①検討された評価項目等による学校評価を実施する
- ②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の改善を行う
- ③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の充実を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①②年度末には保護者の他、全職員にも学校評価のアンケートを実施し、運動会や学校行こう週間等で実施したアンケートとあわせて学校関係者評価委員、学校評議員の意見を反映させ、次年度に向けた教育活動の改善を図った。
- ③「クリーンアップ作戦」「サマースクール」等でPTA及び、学校支援地域本部との連携は進んでいるが、さらに深めて行きたい。また、今年度は課題となっていたPTA活動と学校支援地域本部の事業との兼ね合いが、前PTA副会長が学校支援地域本部の運営委員に加わり、橋渡しとなったことで徐々に改善が図られてきた。

沼間小学校

【目標】

- ①重点を絞った目標設定に対して具体的な取り組みを進める
- ②学校評議員、学校関係者評価委員による学校理解を進めることによって、学校改善に対して積極的なアクションを起こしていく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①本校における教育活動の中で重点とする項目について、主に前・後期の二回、自己評価シートを作成・活用し、教職員全体で振り返りをしてきた。
- ②第三者評価を大切に、学校運営に反映させてきた。特に学識経験者からは、学校運営に係る様々な具体的なアドバイスを受けて、それについてアクションを起こしてきた。

久木小学校

【目標】

- ①学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす
- ②学校づくりアンケートを実施し、保護者・地域の意見・感想を踏まえ、学校運営の参考とする

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①年間3回の学校関係者評価委員会を開催し、学校運営についての助言を受けた。行事の日で開催するなど時期を工夫したことで、より具体的な助言を得ることが出来た。その助言を参考に、学校経営方針の振り返りと次年度に向けた確認を行っている。
- ②学校づくりアンケートを児童・保護者に実施し、集約することで、本校の課題を整理し、次年度の方向性を確認することができた。今年度は、ホームページの改修時期とアンケート結果の掲載時期が重なってしまい、まだ、結果を保護者や地域にお知らせすることができていない。

小坪小学校

【目標】

- ①PDCAサイクルの円滑な実施により、学校改善が図られているかどうかを検証する
- ②学校評価に基づき、明らかになった課題を次の3年間の計画に盛り込む

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①年2回の保護者・児童アンケートをもとに評価委員会での指導を受け、学校改善が図られているか検証した。
- ②学校評価に基づき、課題を明らかにし、学校経営案に反映してきた。次年度からの計画にも反映していく予定である。

池子小学校

【目標】

- ①改善された学校評価アンケートの実施方法の工夫と分析
- ②学校評価アンケートを生かした教育活動の点検と見直し

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①学校評価アンケートについては、毎年見直しを行い実施、分析している。ほぼ肯定的な意見をいただいているが、新たな教育的課題に向けて、今後も検討していく必要がある。
- ②学校評価、学校関係者評価委員会の指導、助言を受けて、教育活動に専念することができた。今後も外部の声に対して謙虚に耳を傾けながら教育活動を推進していきたい。

逗子中学校

【目標】

- ①年度の重点を明確にして評価のポイントを絞り、アクションにつながる学校評価を実施する
- ②学校評価保護者回答集計を保護者に協力を求める等、情報共有し、改善策を検討していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①年度の重点をお知らせし、保護者や学校関係者へのアンケートも実施した。
- ②集計結果は、学校だより等で全校配布した。課題については、関係する分掌で改善策を考え実施することができた。

久木中学校

【目標】

- ①生徒・保護者に学校評価アンケートを実施し、自己評価の中に取り入れ、学校運営への取り組みや計画に活かしていく
- ②自己評価に対して学校関係者評価委員会、地域教育協議会、PTA等からの改善に関して次年度の学校運営に反映していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①アンケート結果を学校運営に生かせる仕組みを作ることができた。
- ②学校評価などは時期を早めて実施することができた。

沼間中学校

【目標】

- ①学校関係者評価委員会での意見は必ず改善策を考え、実行していく
- ②保護者・地域からは、文章だけでなくマークシート方式のよさも加味しながら評価をいただき、改善につなげる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①昨年度末いただいたご意見を精査し、取り組めるところから早急に改善を図った。
- ②学校の重点取り組みを明示し、多数の保護者からご意見を頂戴できるように、今年度はマークシート方式を加味して実施し、回答していただいた人数が149名と、昨年度の51名を大きく上回った。ただ予想されたことだが、文章による回答は19名と少なくなってしまったことは課題である。また、「沼中ラーニング」「校内研究」「支援教育」の項目で「わからない」が30%を超えており、情報提供・周知に課題があった。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成27年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

●学校支援地域本部事業

逗子小学校⇒学校図書館ボランティア、読み聞かせボランティア、サマースクール、逗子小ガイドの編集（更新）、花壇づくり など

沼間小学校⇒お米づくりボランティア、自転車教室、草刈りボランティア、手縫いボランティア、長柄・桜山古墳見学講師、七夕集会、ペンキ塗り事前準備、夏祭り灯籠づくり、校外学習支援、ミシンボランティア、お店見学見守り、福祉教育、被爆体験講演、邦楽鑑賞会、調理実習、防災学習、読み聞かせボランティア、図書貸し出しボランティア、グリーンボランティア（園芸飼育委員会支援）、沼間地区見守り隊 など

久木小学校⇒校庭芝生手入れサポーター、久木地区見守り隊、お話会（読み聞かせ）、学習・生活支援ボランティア、図書館ボランティア、稲作プロジェクト（代掻き・田植え）、大豆づくりサポーター、ミシンサポーター、豆腐工場見学、豆腐づくり、味噌づくり、久小わくわくフェスティバル、鎌倉見学サポート、歴史学習ゲストティーチャー、昔遊びサポート など

小坪小学校⇒環境出前授業、JA庄内みどり訪問授業、校舎内ペンキ塗り、NISSANものづくりキャラバン、フラダンス講習、小坪の漁や若命の生産について指導、プレイバックシアター、邦楽鑑賞体験、わかめの種付け、しめ縄づくり、福祉体験、わかめの収穫見学、歴史学習、夏休み図書室開放の当番、「図書ボランティアだより」の発行）、逗子音頭の講習（ズシップ連合長生会）、着衣泳（リヴィエラ逗子マリーナ）、登下校見守り（小坪見守り隊）、サマースクール、運動会前日清掃ボランティア、交通安全教室（逗子警察、見守り隊）、自転車安全教室（逗子警察、見守り隊）、家庭科ミシンボランティア、津波避難経路環境整備、社会科鎌倉めぐり、学校へ行こう週間受付とパトロール、小坪小まつり、敷地内花壇整備 など

池子小学校⇒ひろがり音楽、池子の歴史、長柄・桜山古墳見学（長柄・桜山古墳を守る会）、福祉講話、福祉施設見学、福祉体験、池子探検、邦楽鑑賞、豆腐作り体験、小坪漁港見学、昔遊び体験、お正月飾り体験、もちつき大会、キャリア講師、田植え体験（名越里山の会）、稲刈り（名越里山の会）、ふれあい運動会、見守り隊、シャボン玉と遊ぼう、池子買い物学習、久木里山訪問、池子健康祭り など

逗子中学校⇒図書ボランティア（図書館の貸し出し返却補助）、部活動指導補助、餅つき、敷地内草取り、マラソン大会、ディベート大会練習支援 など

久木中学校⇒部活動指導補助、情報モラル教室、美術館との連携による学習、環境学習、
熱中症予防講習会、法律教室、地域清掃 など

沼間中学校⇒ふれあいデー（地域講師）、沼中花いっぱい計画、沼中ぴっかぴか計画、サマ
ーチャレンジ、苗植付・芽かき、柔道着洗濯ボランティア など

●学校支援ボランティア（4,694人）

●学校評議員事業

●学校関係者評価事業

（2）主な指導内容

▲学校評議員会報告書の提出

▲学校関係者評価の報告書の提出

▲学校支援地域本部実行委員会（年3回）の開催

▲地域教育協議会の設置

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

（1）市立全校の実践評価（項目別達成率 94.6%）

（2）主な成果等

【地域への情報発信と学校公開の工夫】

- ・学校へ行こう週間等、学校の日常の取組を公開するなど、学校を知ってもらう機会を積極的に活用した。
- ・ホームページや学校だより・学年だより・学級だより、メール配信、学校説明会等により、学校の情報を積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進に努めた。

【地域教育力の活用】

- ・各学校の地域教育協議会のメンバーが学校評議員の一員となり、学校長の求めに応じて学校運営に関する意見を述べる等、地域との協働による学校づくりに向けた取り組みが定着してきている。
- ・学校支援ボランティアを活用した学習等の取り組みが進んでいる。
- ・学校支援地域本部実行委員会を年間3回開催し、情報交換や方向性の確認、課題の整理等を行った。

【学校評価を生かした学校の改善】

- ・学校評価や学校関係者評価を活用して課題を確認し、修正をし次の取り組みに生かすというPDCAサイクルの学校運営をすすめた。
- ・開かれた学校づくりを進め、保護者・地域に情報発信をし、そこから得られた評価をさらなる教育活動の向上に生かしていった。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 開かれた学校づくりが全ての学校で進められている。情報が分かりやすく伝わるように、ホームページの改訂を検討した。

また、学校支援地域本部の働きにより各校の様々な取り組みが進み、教育活動も活性化している。

(2) 主な成果等

【地域への情報発信と学校公開の工夫】

- ・ホームページを改定することで、情報を分かりやすく伝える見込みができた。
- ・保護者向けのメール配信サービスを活用し、保護者や地域に向けてのきめ細かい情報発信が行われた。

【地域教育力の活用】

- ・各学校にて学校支援地域本部事業が活性化し、学校教育支援ボランティアを活用した学習の取り組み等が定着し、ボランティアが充実している。また、実行委員会で情報交換や方向性の確認を行い、学校間格差も小さくなっている。

【学校評価を生かした学校の改善】

- ・「逗子市学校教育総合プラン（第Ⅲ期）」で学校評価の整理をし、学校運営をPDCAサイクルで見直せるようになった。

4 平成28年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

(1) 地域への情報発信と学校公開の工夫

- ・ホームページを刷新し、定期的な更新を促し充実に努める。

(2) 地域教育力の活用

- ・学校支援地域本部を中心に、防犯教育や防災教育、福祉教育など地域との協働により効果が上がる活動を検討していく。

(3) 学校評価を生かした学校の改善

- ・学校改善に、より良く生かす学校評価を推進していくため、一層の評価の具体化を図る。
- ・学校評価の結果を、学校教育総合プランの実施計画作成に反映する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈久保田 貢 氏〉

〔地域への情報発信と学校公開の工夫〕

各学校ともに、ホームページの充実はもとより、学校便り、校長便り、学年・学級便り、保健室・給食室便りなどを保護者、地域住民や関係諸機関等に配布するなどして、自校の教育活動への理解を深める努力をし、地域住民との関係が年々深まっていることが伺える。特に、保護者や住民からの建設的な意見や要望を真摯に受け止め、学校運営に活かしていることが伺える。

また、「学校へ行こう週間」以外にも「学校公開日」や「授業参観日」を設けている学校もあるが、大事なことは、「学校公開の日常化」である。いつでも誰もが学校参観や授業参観や学校教育活動に参加できる体制づくりが必要である。このことが「開かれた学校」であり、学校運営の質的な改善につながる。

〔地域教育力の活用〕

学校支援地域本部等を通して、4694 人の方が学校支援教育ボランティアとして、学校教育活動の活性化に関わっており、他に類をみない。学校によって活用度に差異はあるが、学校教育活動の活性化に向けて前向きに取り組んでいることが伺える。興味を引いたのは、池子小学校避難所運営訓練、久木中学校の防災教室や逗子中学校のディベート大会練習支援などである。先を見通した取り組みとして評価する。

地域の教育力を活用に当たって、昨年も指摘したが、次のことに留意し、信頼される学校づくりに努めて戴きたい。

○教育課程の位置付け及び教育内容の精選及び授業時数を明確化する。

○教師と支援ボランティアの役割分担を明確化する。

〔学校評価を生かした学校の改善〕

各学校ともに、学校評議員、学校支援ボランティア、地域教育協議会、スクールサポーター、学校関係者評価委員、保護者、児童・生徒、地域住民等の学校運営に対する思い・意見や日々の教育活動に対する評価等を精査し、学校運営の質的改善に努めていることが伺える。

評価方式もマークシート方式の他、記述式を導入しているが、記述式については、保護者からは十分な協力が得られていないことから、学校が保護者に何を期待するかが見える問いについて内容を精査し、簡単に記述できるような工夫が必要である。今後とも、学校評価を生かして、地域との協働による信頼される学校づくりに努めることを期待する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

① 地域への情報発信と学校公開の工夫

各校が、学校公開をすすめ、学校から情報を積極的に発信する取り組みを進めていることを評価する。ホームページの更新や管理に苦勞している学校もあるが、紙媒体を含めて様々な発信の手段があることも忘れないでほしい。学校に対する理解と信頼は、保護者や地域に対して「開かれた学校」であること、さらには「基本的な人間関係」に依拠する。定期的な情報発信もさることながら、日常的な信頼関係の構築に努力を払い続けていただきたい。

② 地域の教育力の活用

学校教育は学校だけでは成立しない。地域の多彩な人的・物的なリソースを生かすことが肝要であり、逗子市はその条件が十分に整っている。

各校が、人材の確保に工夫を重ねているが、小坪小学校のように、児童が「地域へ参加」する活動、教職員が「保護者・地域の方々とのコミュニケーション」を深める活動に注目した。これまでは、学校への参加協力をもっぱら求めてきた中で、児童・生徒のみならず教職員が積極的に地域に出向くことで、地域の教育力を広く生かす道が拓かれる可能性が示唆される。

③ 学校評価を生かした学校の改善

学校評価を学校運営の改善に生かす方向で積極的に活用していることを評価する。「評価項目の見直し」、「複数回の実施」等の工夫が重ねられている点にも注目したい。

「評価のための評価」に終わらず、いわゆる PDCA サイクルを回すための評価とする姿勢が明確になりつつある。指摘された課題については、関係者間で共有し、学校経営に速やかに反映するよう努力していただきたい。それらのアクションが、学校への信頼と協力をもたらすことに繋がる。耳の痛い声にも応える必要もある一方で、学校として、教育委員会として応えられない点については、毅然とした対応が必要である。相互理解が新たな課題解決につながる道と考える。

Ⅲ 教員の指導力向上

<目 標>

教育において、教員一人ひとりが専門家としての高い指導力と教育に対する情熱と使命感、そして豊かな人間性を持って教育に打ち込むことが大切です。一人ひとりの力量を高めることで教員、ひいては学校全体の信頼を高めることにつながります。

1 教員研修・研究の充実

① 授業研究の充実

【 目 標 】

学校教育において、中心となるのは授業です。授業は、教育の専門家である教職員が計画し、知識・技能の習得、活用そして子どもの自発的な探究活動を重視して展開されるものです。そのため、教職員には、具体的な授業計画の立案と優れた実践力が必要です。学習指導の充実に向けた校内研究は多岐にわたりますが、支柱をなすものは授業研究です。その成果の一つとして行う研究授業では、視点を明確にし、提案性のあることが重要なポイントとなります。また、研究授業は、授業者だけでなく全員が積極的にかかわり研究を推進し、成果を共有することに大きな意義があります。

授業研究の活性化を図り、質の高い授業を構築するためには、外部講師の招聘や他校の研究授業、研究発表会への積極的な参加が求められます。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①本校の研究テーマ（伝え合う心の育成）を踏まえた授業実践の充実を図る
- ②外部講師による授業評価等を参考にした授業改善を進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①、②校内研究では、「自分の考えをもち、伝え合い、学び合う児童の育成」をテーマに昨年度からスタートさせた。今年度もブロックごとに授業研究を中心に行った。授業では、伝え合う一つの手立てとして、「書く」ことを積極的に取り入れた。その結果、多くの児童が、自分の考えを取捨選択し、どのようにすれば相手に伝えることができるのか、考えて書くこ

とができるようになってきた。

沼間小学校

【目標】

- ①授業研究の日常化（毎日が参観日）を目指す
- ②外部講師を招聘し活用した、授業研究の実践を進める
- ③授業研究を公開（年間二回以上）し、学校内における実践交流を進める
- ④学年ブロックを中心とした、授業研究の推進

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①④お互いに授業を見合うことを大切に、授業準備時間等を利用して参観することが日常化している。授業づくりという点では、本校の伝統的な文化が定着している。
授業づくりを四ブロック編成で行い、研究体制の基盤を作った。
- ②逗子市教委委託研究1の総括の年であったこともあり、スーパーバイザーを有効活用し、大きな実績を上げることができた。
- ③指導案を添えた公開授業を、各自が年間で2回以上行った。校長、教頭、教育指導教員が、それぞれの指導・助言にあたること定着した。

久木小学校

【目標】

- ①本校の研究テーマを踏まえて授業研究に取り組み、授業力の向上をめざす
- ②外部講師の活用を積極的に行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①全担任が算数科を中心に公開授業を実施した。研究を通して確認できた子どもの姿をもとに、次年度以降の2年間の研究の取り組み方向性を明確にすることが出来た。
- ②外部講師の研修を受けることで、授業づくりの具体について学ぶことが出来た。（講師：横浜国立大学 池田敏和教授）今後も指導を仰いでいきたい。

小坪小学校

【目標】

- ①授業研究を通して、更に研究を深め、授業改善に取り組む
- ②学校全体としての指導力向上に向けた取り組みの成果を検証し、改善を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ① どの学年も授業提案を行い、授業研究会を行った。研究の成果を日々の授業に生かすことができた。
- ② 授業研究会の成果や課題を各学年でまとめた。それらを、学校全体で共有する機会をもち、次年度の授業改善に役立てられるようにできた。

池子小学校

【目標】

- ①授業研究を通して研究の推進を図り、授業改善にさらに取り組んでいく
- ②学校全体としての指導力向上・授業改善の取り組みの成果を検証し、成果と課題を明らかにする

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①生活・総合の校内研究では、各教科との関連と子どもたちの見取りから授業改善に取り組んだ。
- ②担任が年一回以上の研究授業を行い、指導力の向上に努めた。そして、授業実践をもとに、次年度の年間計画見直し、改善案を示し、全職員で共有した。

逗子中学校

【目標】

- ①学習状況調査等、客観的な評価を学習評価の工夫による授業改善にいかしていく
- ②授業研究の積極的実践（1人年2回以上）の実施
- ③スーパーバイザー、横浜国立大学附属横浜中学校を活用した研究の充実と保護者・学校関係者による授業評価の実施
- ④教科会を中心とした組織的授業研究

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した
- ④達成した

【成果と課題】

- ①校内研究の中で取り組んだ。次年度は指導と評価の一体化を目指し取り組んでいきたい。
- ②一人年間2回の研究テーマに沿った授業公開を実施した。
- ③校内研究の中で実施した。
- ④教科情報を見直すとともに、「まなびのプラン」を新たに作成した。

久木中学校

【目標】

- ①研究授業の積極的な実践をおこない指導方法の工夫改善を進め教師個々の授業力向上を図る
- ②研究会には指導助言に適切な助言者を依頼し、教員研修の充実と教師個々の指導力向上を図る
- ③研修、研究会の成果を共有し教職員全員の資質向上と授業力向上を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①研究授業を実施し、授業の工夫改善を行うことができた。
- ②校内研究会という組織を使った研究会を実施することができた。
- ③校内研究会で研究研修の成果の共有を図ることができた。

沼間中学校

【目標】

- ①グランドデザインに基づいた授業実践の成果と課題を明らかにする
- ②年間1人2回以上、研究と関連させた公開授業を実施するとともに、年間指導計画に生徒主体の授業を明示する

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった

【成果と課題】

- ①授業実践の成果と課題は、校内研究の中で明らかにしてきた。ただ、「目指す生徒像」のコンピテンシーを、授業の年間指導計画に明示するつもりであったが、教科用図書の採択の年でもあったので、次年度に先送りした。
- ②年間一人2回以上の公開授業は行えたが、①に書いた理由で、生徒主体の授業を年間指導計画に明示することは先送りした。

② 授業評価の活用

【目標】

著しく変化する社会の中で、子どもたちの「確かな学力」を育むためには、日々の授業改善が必要です。多くの教職員が、よりよい授業を実践するためには、日々の不断の努力や研鑽を重ね、教職員一人ひとりの力量を高める必要があります。

それには、PDCAサイクルを意識した授業改善が大切です。つまり、授業のねらいを明確に示し(P)、実践し(D)、その過程や結果に対して適切な評価を行い(C)、次の計画や授業の改善を進めていくこと(A)です。

授業を適切に評価することが次の授業改善につながり、子どもたちの「確かな学力」の育成へと発展していきます。

そこで、日常の授業を質的・量的に評価し、指導に生かしていく体制づくりと、授業評価の活用に向けた教職員の取り組みを進めます。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①学校評価に関連した授業評価を実施し、授業改善に役立てるとともに授業作りの工夫と改善についての検証を行う
- ②学習指導要領に即した評価規準の充実及び指導と評価の一体化を図る
- ③家庭との連携による家庭学習の充実を進める

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①PDCAサイクルのもと、自己評価、学校関係者評価を生かした授業改善は日々行っており、成果も上がっている。今後も一層の授業力向上を図りたい。
- ②経験者研修に当たっている教員は、指導と評価の一体化を意識して、指導計画・評価計画を練り、研究授業でも意識して取り組めた。また他の教員についてもノートやプリント、テスト等により授業ごとの評価を行ってはいる。依然教員間の差はあるものの、OJTや教育指導教員の活用で効果は上がってきている。
- ③漢字や計算、日記など、学級によって家庭での課題は様々であるが、家庭との連携はよく図られている。学年・学級懇談会を通じて家庭への周知を図っている。

沼間小学校

【目標】

- ①学習状況調査の分析を活用する
- ②保護者及び関係諸氏の評価を受けることで、授業実践の見直しを図る
- ③子どもの授業評価と教員相互による授業評価の実施と、それにもなう授業改善

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①調査結果を速やかに分析し、本校の児童の学習実態などを検証し、児童及び保護者に対して事後に活かしていった。
- ②校内研究のスーパーバイザーを中心として、学校関係者評価委員、学校評議員等からの指導・助言・感想を、授業改善に活かした。
保護者からのアンケート結果を受けてふり返りをしつつ、本校の児童に対する学力向上につながる授業づくりや指導法について研究を進めてきている。
- ③仲間づくり、集団づくりを基盤にして、子どもたち同士で学び合う授業づくりを目指した。
授業者のねらいと子どもたちの授業評価を、その後の授業改善に活かした。本校の児童の実態に相応しい授業づくりを、今後も模索していく。

久木小学校

【目標】

- ①学習状況調査の分析を活用する
- ②外部講師による授業評価を生かした授業づくりを行う
- ③評価規準を生かした授業実践に取り組み、評価規準の見直し、検討を行う

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①逗子市の分析、学校独自の分析を踏まえ、課題については共有し、指導の工夫改善に取り組んだ。
- ②研究授業の際の指導助言を授業に生かすよう、主に、ブロック研究に取り組んだ。研究会でも意見が活発に交わされ、取り組む意識も更に高まった。
- ③指導と評価の一体化を踏まえ、評価規準を意識した授業づくりを進めることが出来た。

小坪小学校

【目標】

- ①指導と評価の一体化に基づくカリキュラムの改善を実施する
- ②授業評価についても学校評価を行い、成果と課題を明らかにする

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した

【成果と課題】

- ① 指導と評価について意識した授業研究を行ったが、カリキュラムに十分反映されているとは言えない。
- ② 学校評価アンケートや全国学力学習状況調査の結果を精査し、成果や課題を明らかにすることができた。

池子小学校

【目標】

- ①学校の教育力の向上につながるような評価のあり方を検討していく
- ②指導と評価の一体化に基づくカリキュラムの改善を検討していく

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①講師（巡回指導員も含む）の指導の下、全クラス授業公開を重ね、他の教員や講師からの評価を授業力向上に結びつけることができた。
- ②今年度は特に生活科・総合的な学習の時間におけるカリキュラムの改善と充実に心がけ、昨年度作成した年間指導計画を活用し、効果的な授業実践ができた。

逗子中学校

【目標】

- ①保護者・関係者による授業評価の実施と授業改善
- ②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」の実施と、課題を明確にした授業改善
- ③教員相互による授業評価用紙の検討
- ④教科会としての授業評価用紙の活用を図る

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成できなかった
- ④達成できなかった

【成果と課題】

- ①授業公開日に実施した。
- ②校内研究に関連させ取り組んだ。
- ③今後作成していく。
- ④今後作成していく。

久木中学校

【目標】

- ①校内研究における授業評価をもって授業改善に活用し、授業に活かす
- ②生徒、保護者、学校関係者による授業評価を行い、より良い授業づくりに取り組み教育活動の向上につなげる
- ③保護者・地域と連携した授業評価の取り組みを行い、教育活動を向上させる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①教科毎の授業アンケートにより授業改善を図ることができた。
- ②③生徒自らが答えた授業アンケートや、保護者・外部関係者が公開授業を参観した際の意見を授業改善につなげている。

沼間中学校

【目標】

- ①前期・後期に年間2回の授業アンケートをとり、前期の課題を後期に活かしその成果を検証する
- ②授業参観では地域・保護者が評価しやすいように、新しい書式でアンケートを作成する

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①年間2回の授業アンケートをとり、1回目の分析・検証から改善、2回目の検証へとつなげることが出来た。
- ②アンケートは例年通り実施したが、回収率の向上は図れていない。

③ 研修事業の充実

【 目 標 】

一人ひとりの教職員がより一層専門性を高め、その力を最大限に発揮しながら学校の組織力を高めることが益々重要になってきています。そのため、各学校においては様々な研修が計画され、教育委員会においても教職員のニーズに応える研修事業を実施しています。教職員はこれら学校内外での研修会に積極的に参加し、質の高い授業を計画、実践することが大切です。

現在、教職員の大量退職と大量採用の時代にあって、ここ数年間で多くの教職員が入れ替わります。そのため、教職員のスキルアップを着実に図っていくために、学校内においてOJTを組織的に推進していくことが必要です。OJTは、勤務校で職務をとおして行う研修であり、すべての教職員を対象として、身に付けるべき力を、意識的・計画的・継続的に高めていくものです。教職員一人ひとりが専門性の向上を図ることで、学校全体として質の高い教育を提供することができます。

各小・中学校における平成27年度の取り組み目標、評価及び成果と課題

逗子小学校

【目標】

- ①各自が積極的に授業公開を行う
- ②自己研修の目的を明確にして研修を受け、レベルアップを目指す
- ③初任者や経験の少ない教員に対して学校全体で育てる

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①初任研、年次研、臨任・非常勤研等の授業公開はもちろん、今年度も、校内研究のテーマに即し、各ブロックで積極的に授業公開、研究協議が進められた。
- ②引き続き、自己の課題に即した、学校教育課や教育研究所主催の研修会への積極的な受講を呼びかけ、研修後はその成果を授業改善に取り入れることができた。
- ③初任者や臨任教員、非常勤教員については、OJTはもちろん、教育指導教員の指導を受け、指導力のアップを図るとともに、学年全体でフォローする体制をつくり、チームとして取り組むことができた。

沼間小学校

【目標】

- ①校内研修体制を構築し、積極的に研修を進めることによる人財育成
- ②児童理解、授業づくり等では、学年会を日常的な研修の場としていく
- ③校内人財育成の強化（メンター・メンティー、BS（Brother and Sister）の関係を位置づける）

【評価】

- ①達成した
- ②達成した
- ③達成した

【成果と課題】

- ①委託研究Ⅰの二年目ということもあり、昨年度から編成した四ブロック体制を基盤にして、学習研究部が全体を統括している。授業力向上に向けた研修体制が、人材育成に大きく機能している。
- ②学年会並びにブロック会で、授業づくりや児童理解、学年・学級運営について研修していくことは、日常的なこととなっている。
- ③自己観察書の面接時を中心に、BS（Brother and Sister）制やメンタリングのことについてはキャリアプランを交えて話題提示して、人材育成の効率を高めた。

久木小学校

【目標】

- ①初任研、年次経験者研修において、校内協力体制を作り、研修指導に当たる
- ②校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する
- ③逗子市教育指導教員を積極的に活用する

【評価】

- ①達成した
- ②達成できなかった
- ③達成した

【成果と課題】

- ①計画的な研修を実践し、まとめることが出来た。
- ②校内研究において全担任が算数を中心に授業実践をしてきている。研修会及び教育研究所主催各種研修会への参加は、以前より増えてきているが、平日に複数の研修会・研究会が重なった場合には学校事情として参加を控えてもらうこともあった。
- ③学校所属の「少人数指導・校内指導教員」及び研究所所属の「教育指導教員」を、臨任・非常勤、経験の浅い教員への指導に十分活用することができ、指導を受けた教員も含め、学校としてその指導に感謝している。

小坪小学校

【目標】

- ①研修による指導力の向上が核となるような学校運営組織の改善に取り組む
- ②教員の自主的な研修が、授業に活かされ、学校全体の指導力の向上につながるような体制作りを目指す

【評価】

- ①達成できなかった
- ②達成した

【成果と課題】

- ① 指導力の向上を意識した研修を実施することはできたが、学校運営組織の改善までには至らなかった。
- ② 普段から職員室内等において、指導力向上につながる自主研修のような形が見られるようになった。

池子小学校

【目標】

- ①学校内のOJTが日常的に有効に機能しているかを検証し、さらなる工夫改善した取り組みを推進する
- ②研究・研修が教職員一人ひとりの専門性を高めるとともに学校の組織力を高め、質の高い授業実践ができているかを検証し、今後の改善に生かす

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

【成果と課題】

- ①初任者に対しては、学校全体で指導・支援していく体制が作られている。授業力向上研修や教育指導教員の方にも初任者の指導をしていただくなど体制の充実を図った。
- ②計画的に校内の研修会を設定することにより、教職員の指導力の向上を図ることができた。校内研究では一人ひとりが授業を行うことにより実践的な力をつけることができた。

逗子中学校

【目標】

- ①計画的な校内研修会を通じた人材育成
- ②校内の人材育成（OJT）の取り組み強化・メンター制、BS（Brother and Sister）制
- ③自主参加研修の企画運営

【評価】

- ①達成した
- ②達成した

③達成した

【成果と課題】

①授業指導における、支援のあり方にも目を向け、実践できた。

②一定の成果はあったが、次年度は時間を確保することも必要である。

③夏季および冬季休業期間中に設定し、年2回実施できた。

久木中学校

【目標】

①教育活動全体で教師が身につけておくべき資質や能力の向上を図る研修を計画的に進め教職員の力量のたかめる

②本校生徒に合わせた「教師のスタンダード」づくりを進める

【評価】

①達成した

②達成できなかった

【成果と課題】

①学びたいという自主研修会を実施することができた。

②年々の生徒の変化に教師側の研修内容の変化が追いついていない。

沼間中学校

【目標】

①授業のユニバーサル化に向けた研修に着手する

②横浜国立大学・米澤准教授を授業研究のスーパーバイザーとして依頼し適切なアドバイスをいただくとともに、同大附属鎌倉中学校の協力を仰ぎ、授業研究を進める

【評価】

①達成した

②達成した

【成果と課題】

①明星大学の中田正敏先生の「インクルーシブな学校づくりにおける学習研究活動～支援というコンセプトの導入～」と題した講演を受け、校内研究とも関連させながら、授業のユニバーサル化に着手できた。

②横浜国立大学・米澤准教授をアドバイザーに年間6回の校内研修会、年間2回全員の公開授業と年間1回の研究授業を実施した。また、同大附属鎌倉中学校の教諭に模擬授業と講義を依頼し、研究テーマに沿った授業を実践した。次年度は、アクティブラーニングにおける評価方法についても研究を継続したい。また、教科の年間指導計画と「目指す生徒像」との関連を図りたい。

〈教育委員会分析結果〉

1 平成27年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- 研究推進校委託事業
- 校内研究事業
- 教育講演会

「子どもたちの豊かな感情を育む環境づくり」

講師 渡辺 弥生 氏（法政大学文学部心理学科教授）

- 少人数指導教員・教育指導教員派遣事業
- 学校教職員研修資料費

(2) 主な指導内容

- ▲初任者研修、経験者研修、OJTによる若手教員研修の充実
- ▲夏季研修、授業力向上研修
- ▲臨任・非常勤教員への研修

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 88.2%）

(2) 主な成果等

【授業研究の充実】

- ・ほとんどの学校で、研究授業を軸として授業力向上に努めた。年間複数回の授業公開を課す学校が増えている。

【授業評価の活用】

- ・児童・生徒からの授業評価を活用し、検証することで授業改善につなげることができた。

【研修事業の充実】

- ・外部講師を計画的に活用し、授業改善に生かすことができた。また、自主研修会を充実させた学校もあり、経験年数の浅い教員の力量向上につながった。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 教員の授業力向上のために、少人数指導教員・教育指導教員の各学校への派遣や、市内全小・中学校への授業研究委託をした。

また、授業力向上、支援教育推進の講座を夏季に計画し、教職員の力量向上を図った。

(2) 主な成果等

【授業研究の充実】

- ・ 授業改善のための研究が積極的に行われるように、テーマを明確にした校内研究を委託したことで、各校で多くの研究授業実践が行われ、授業力の向上に寄与した。
- ・ 少人数指導教員・教育指導教員派遣事業による経験の浅い臨時的任用教員及び非常勤講師に対する研修を実施した。

【授業評価の活用】

- ・ 児童・生徒からの授業評価、保護者からの授業評価をはじめ、研究授業での同僚からの評価等を活用し、授業改善に努める意識がより高まった。

【研修事業の充実】

- ・ 支援教育に関する研修は、支援教育研修会や子育て講演会を通して、学校現場のニーズや今日的課題に対応した講座を設定した。
- ・ 教科等に関する研修は、夏季研修会や授業力向上研修を通して、実践的に進めた。

4 平成28年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

【授業研究の充実】

- ・ 授業研究を柱とした校内研究を全ての学校に委託し、「わかる授業」をキーワードに授業力の向上と授業研究の充実を図る。

【授業評価の活用】

- ・ 児童・生徒の評価等に加え、授業についての自己チェックリストの活用をより一層促し、PDCAサイクルでの授業改善に努める。

【研修事業の充実】

- ・ 初任者研修のより効果的なあり方と内容を考える。
- ・ OJTの一層の推進を図る。
- ・ 夏季研修、授業力向上研修等の一層の充実を図り、教職員のニーズや経験年数に応じた研修の質的向上を図る。
- ・ 研修への参加率を上げる工夫をする。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈久保田 貢 氏〉

〔授業研究の充実学校評価を生かした学校の改善〕

授業研究は、児童・生徒の「分かる授業」「確かな学力の育成」を目指して、日々の授業を通して、工夫すべき点や配慮すべき点を洗い出し、指導の改善を目指すものである。そのためには、授業研究の視点を明確にすることである。具体的には、教材なり素材、発問・説明、口調、板書、学習形態(指導形態)、学習の展開等が適切であるかなどの授業評価が必要である。授業を通して、外部講師や保護者、地域住民、児童・生徒、教職員からの観点別評価を真摯に受け止め、より質の高い授業を目指すことである。

各学校ともに、授業評価を大切にした授業実践に取り組んでおり、一定の成果を上げていることが伺える。今後とも、継続して取り組んで戴きたい。併せて授業公開を日常化し、誰もがいつでも参観できる学校づくりに努めて戴きたい。

〔授業評価の活用〕

各学校ともに、教職員一人ひとりが、「指導と評価の一体化」「授業改善」「確かな学力」の関連性を重要視し、質の高い授業を目指して、日々、授業活動に取り組んでいることが伺える。

その上で、今後は、次のことに留意して一層取り組むことを期待する。

○授業(指導)のねらい、それに伴う評価の在り方について検討

○小・中学校9年間を見通した全教科・領域の評価規準の作成

○一人教科へのフォローアップ

○国・県が実施する学習状況調査の結果を分析し、補完・発展させるための手立てを検討、それによる授業の改善について検討

○教師力の向上につながる授業評価のあり方について検討

○PDCAの必要性の理解と日常的な取組み

〔研修事業の充実〕

各学校ともに、OJT、メンター制、BS制などを取り入れて、教師力の向上に取り組んでいることが伺える。

教員構成が、正規、臨任、非常勤、再任用と複雑化し、更に経験年数の浅い教員が増えてきている現状を考えたとき、校内外の研修は、教職員のキャリアアップますます重要である。特に、校内の指導役となる教職員の資質向上は、学校経営上極めて重要である。管理職は、学校教育活動に支障を来さない限り、全教職員に研修の機会を与え、教師力の向上とともに学校力の質的レベルアップに努めることが大切である。なお、臨任や再雇用の教員の中には、指導力の高い方もいることから、彼らの力を活用して、経験年数の浅い教員の教師力の向上に役立てるような方策も必要であると考えます。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈福田 幸男 氏〉

① 授業研究の充実

各校が授業研究に積極的に取り組んでいることを評価する。前年度も指摘したが、小学校では学年ブロックごとの研究授業に加えて、学年ブロックを超えて6年間で育てたい力を明確にして、全教員で課題を共有する必要がある。中学校では、教科の壁を超えることも求められる。逗子中学校で実施されている、保護者や学校関係者による授業評価に注目したい。

授業研究の実施のみならず、その成果や課題が次年度の授業改善に繋がること、さらには逗子市の教員に向けた情報発信に繋がることを期待する。

② 授業評価の活用

各校で授業評価等を活用して、PDCA サイクルを意識した授業の改善に取り組んでいることを評価する。さらに、学習状況調査の分析・活用や外部講師による授業評価なども積極的に取り入れていただきたい。沼間中学校で試みられた、年2回のアンケートや、アンケートの書式の変更などの工夫に今後注目したい。成果を検証するためのデータの取り方や、実施時期などを各校が検討する余地がある。

③ 研修事業の充実

教員の入れ替わりに伴う、特に新任教員のスキルアップが喫緊の課題となる。加えて、臨任教員、非常勤教員もスキルアップの対象となる。そのために、各校とも、校内研修に工夫を重ね、一定の成果を上げつつあることを評価する。

校内研修のみならず、校外での研修も重要であり、その機会や時間を確保できるような配慮が必要である。

当然ながら、一般教員についても、経験年数などを勘案して、各人のレベルに応じた研修が求められる。すべての教員が、その専門性の向上を図るために自己研鑽を重ねる一方で、質の高い教育を維持していくための研修の体系化を教育委員会に求めたい。

○社 会 教 育

1 点検・評価の実施方法

逗子市教育委員会における社会教育の充実に向け、平成 27 年度の実施状況について評価を実施し、お知らせするものです。

なお、評価は、社会教育推進プランに位置付けられた事業のうち社会教育課で所管するものを対象として行っています。

2 点検・評価の記載方法

社会教育推進プランの施策の柱ごとに目標を掲げ、取り組みの概要を記載しています。

3 報告内容の構成

施策の柱に位置付けられた事業における「目標の反映度」、「対象者の満足度」、「広報の充実度」、「目標の達成度」の4つの項目について評価を行うとともに、今後の課題をまとめています。

「目標の反映度」とは、事業内容が目標を反映したのになっているかどうか、「目標の達成度」とは、事業を実施した後に成果を得られたか否かを評価するものです。

4つの項目については、受講者のアンケートを基礎資料として数値化し、社会教育委員会議で討議した上で評価しています。

さらにそれぞれの項目の評価が「A」であるものは3点、「B」は2点、「C」は1点として平均値を出し、その平均値が2.5点以上を「A」、1.5点以上2.5点未満を「B」、1.5点未満を「C」とした総合評価を行っています。

なお、総合評価「A」は、事業効果があり今後も継続する事業、「B」は、若干の問題点があるため改善を加えた上で継続する事業、「C」は、問題点があり廃止も視野に入れた大幅な見直しが必要な事業とし、次年度以降に反映します。

また、社会教育委員会議からの意見・提言を付記しています。

4 点検及び評価の結果

施策の柱①

現代的課題に関する学習機会の提供

【目標】

逗子市の政策に係る重点課題や、現代的課題について、市民団体や、学校、企業、近隣の自治体、市長部局等と連携を図りながら学習機会を充実させます。

【位置付けられている事業】

人権教育等事業、各種講座事業[現代的課題]、文化財保存活用事業

【評価】 総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A

広報の充実度…A 目標の達成度…A

【成果と課題】

人権教育講座については、市民団体と連携してフェアトレードをテーマにした講座、市長部局（生活安全課）、近隣自治体（葉山町）と連携して映画会&人権作文表彰式、市長部局（生活安全課）と連携して性的マイノリティをテーマにした講座を行った。いずれも、独自の予算で行うよりも内容を充実させることができ、広い範囲からの参加者があったので、今後も連携を強めていきたい。

各種講座事業[現代的課題]については、SNS、タブレット、パソコンをテーマにした講座を行った。いずれも受講者の満足度が高かった。さらにテーマ設定について幅広く検討していきたい。

文化財保存活用事業については、名越切通まんだら堂やぐら群の限定公開に市内外から多くの見学者が来訪しており、各種講座事業の教材としての活用も検討していきたい。

〈社会教育委員会議からの意見、助言〉

人権教育講座については、バランスの良い企画だったと思う。デリケートな課題については、参加者の多寡ではなく、講座を続けていくことに意義がある。

文化財保存活用事業については、逗子市文化振興基本計画、逗子市自然の回廊プロジェクトと関連しているので、情報交換を密にしてほしい。また、まんだら堂の公開については、保存と活用のバランスを取りながら、公開を継続してほしい。

社会の変化への問題意識を持ち続け、社会の変化に対応した現代的課題をテーマとして取り上げる努力をしてほしい。

施策の柱②

地域で取り組む課題に関する学習機会の提供

【目標】

市内の各地域において、諸課題についての学習機会を充実させることで、地域で取り組む課題の解決を担える人材の育成を図り、地域活動へのきっかけづくりを行います。

【位置付けられている事業】

各種講座事業[人材育成]、各種講座事業[地域活動]、社会教育出張講座事業

【評価】 総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A

広報の充実度…A 目標の達成度…A

【成果と課題】

各種講座事業[人材育成]（サードエイジ連続講座）については、市民団体と協働して実施した。また図書館の協力を得ることができた。歴史、文学、自然、商業などの様々なテーマを設定し、好評だった。また、ワークショップ形式を取り入れたことで、参加者同士の距離が縮まり、次年度の講座運営に加わるメンバーも出てきた。

各種講座事業[地域活動]については、親子向けの料理教室を行った。地元の食材を使う、魚のさばき方を学ぶ、親子で調理する、子どもが進んで野菜を食べる工夫をする等、食育の面からも充実していると好評だった。

社会教育出張講座事業については、今年度から公民館学級講座に代わり、コミュニティセンターで始めたものである。従来よりも、市内他域からの参加者が増えているので、さらに市内全体への認知度を上げて充実させていきたい。テーマについては趣味・教養的なものは要望が多く人気もあるが、プランに基づき地域課題の要素も入れてゆきたい。

〈社会教育委員会議からの意見、助言〉

各種講座事業[人材育成]については、ワークショップを取り入れたことで充実した内容になったと思う。修了生の活動の場に向けて、次年度以降のステップを明確にできるとよい。

若年層を新たな活動の担い手として育成し、社会に関わり、社会に向けてのアクションにつながる講座を企画してほしい。

施策の柱③

地域で子どもを育てる環境づくりに向けた学習機会の提供

【目標】

市民団体、学校、市長部局等と連携しながら、青少年の健全育成を図るとともに、家庭教育に関する学習機会を充実させ、学校、地域、家庭のつながりを強化します。

【位置付けられている事業】

家庭教育講座事業

【評価】 総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A

広報の充実度…A 目標の達成度…A

【成果と課題】

市民団体と連携して逗子の地域性を活用した子育てをテーマにした連続講座（ずし親子アフタースクール）、教育研究所と連携して特別支援教育に関する講座、市長部局（生活安全課）と連携して育児中の母親向けの講座を行った。いずれの講座の参加者も子育て世代である30代、40代が8割以上を占め、すぐに生かせる内容であると評価が高かった。

講座をきっかけに、子育てに関わる団体や市民が結び付きを深め、次のステップにつながるよう努めていきたい。

〈社会教育委員会議からの意見、助言〉

参加者が交流でき、充実した内容になった。参加者同士でサークルを立ち上げたことは、大きな成果だと思う。

〈社会教育委員会議からの意見、助言〉

事業について

- 知識の習得にとどまらず、次の行動に結びついている講座が多くあることが、社会教育として評価できる。
- 周知に向けての一層の努力、発信の工夫を重ねてほしい。
- 関連する所管との連携はまだ不十分である。また、市民との協働もさらに進めてほしい。連絡会議を持つなど具体的な連携の仕組みを作り、連携による情報の活用、コーディネート力、企画力の向上に努めてほしい。
- 例えば各種講座事業[地域課題]のサードエイジ連続講座と、家庭教育事業のずし親子アフタースクールは、逗子のまちを基本においている点で視点が共通している。今後、世代間交流が図れる事業に展開できるとよい。

評価について

- 評価のための評価ではなく、今年度の評価が次年度以降の改善に結び付くような評価を工夫してほしい。
- 同じ様式でアンケートを実施することで、継続して受講者からのデータをとっており、評価のための基礎資料にしていることは評価できる。

○参 考 資 料

平成 27 年度の教育委員会の活動状況

1 教育委員（右欄の（ ）内は委員任期）

教育委員長	竹村 史朗（平成 19. 11. 13～27. 11. 12）（委員長 H23. 6. 26～27. 11. 12） 山西 優二（平成 20. 12. 17～28. 12. 16）（委員長 H27. 12. 8～）
委員長職務代理者	山西 優二（平成 20. 12. 17～28. 12. 16）（職務代理者 H23. 6. 26～H27. 12. 7） 桑原 泰恵（平成 21. 12. 1～29. 11. 30）（職務代理者 H27. 12. 8～）
委 員	横地 みどり（平成 23. 6. 26～31. 6. 25） 塚越 暁（平成 27. 11. 13～31. 11. 12）
教 育 長	村松 雅（平成 26. 6. 21～30. 6. 20）

2 教育委員会開催状況（平成 27 年度実績）

定例会 1 2 回開催

3 教育委員会審議案件

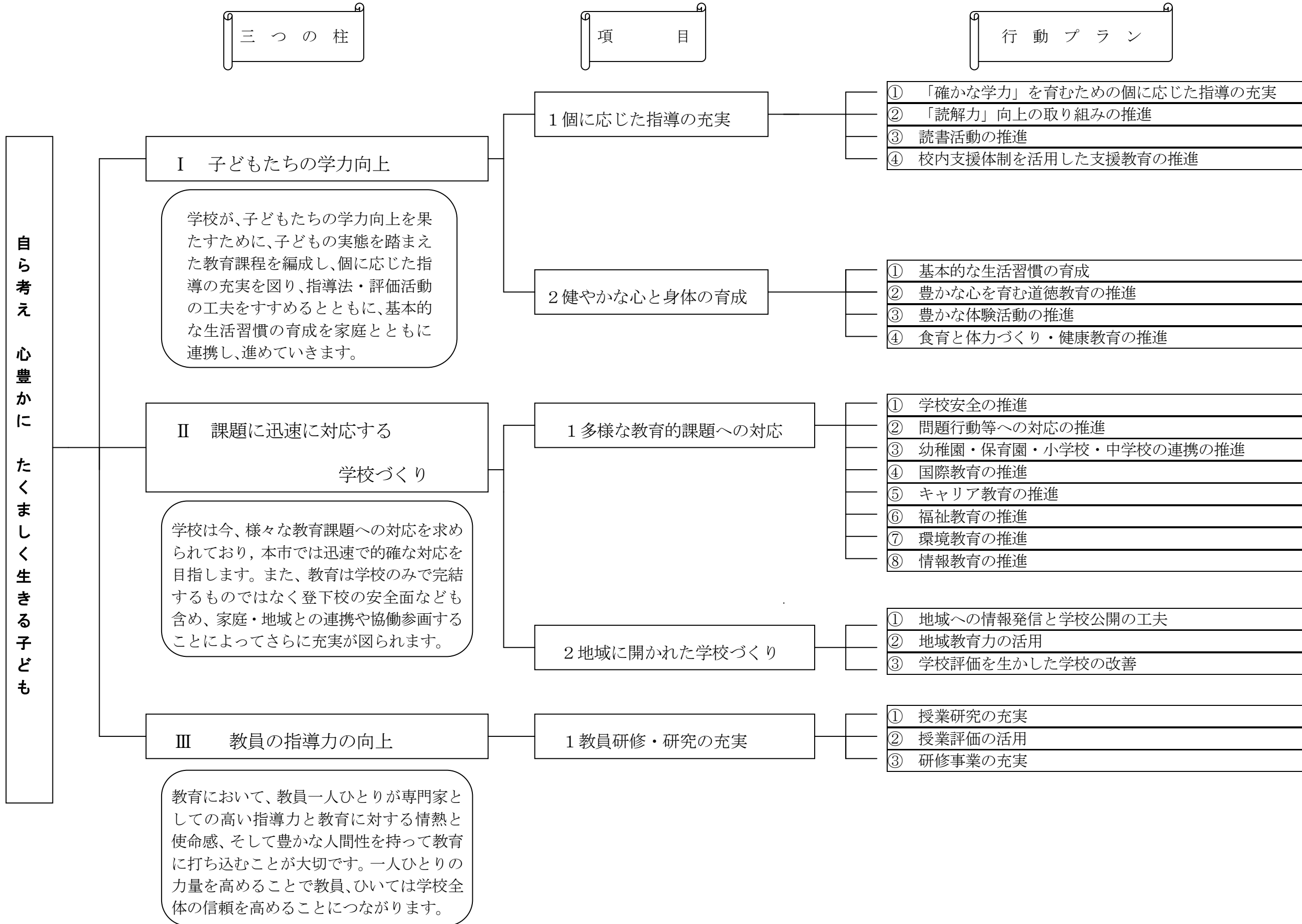
4 月定例会	平成 27 年 4 月 8 日（水）
日程第 1	教育長報告事項について
日程第 2	報告第 8 号 教育委員会職員の人事について
日程第 3	報告第 9 号 平成 27 年度逗子市奨学金受給者の給付決定について
日程第 4	報告第 10 号 逗子市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部改正について
日程第 5	報告第 11 号 逗子市非常勤の図書館長の職務等に関する規程の一部改正について
日程第 6	報告第 12 号 事務の委任及び補助執行について
日程第 7	議案第 10 号 平成 27 年度工事計画の策定について
日程第 8	その他
5 月定例会	平成 27 年 5 月 12 日（火）
日程第 1	2 月定例会会議録の承認について
日程第 2	教育長報告事項について
日程第 3	報告第 13 号 逗子市立図書館協議会委員の辞任及び任命について
日程第 4	報告第 14 号 逗子市社会教育委員の辞任及び委嘱について
日程第 5	議案第 11 号 平成 28 年度逗子市立中学校使用教科用図書の採択方針について
日程第 6	その他
6 月定例会	平成 27 年 6 月 10 日（水）
日程第 1	3 月定例会会議録の承認について
日程第 2	教育長報告事項について
日程第 3	報告第 15 号 議案（平成 27 年度逗子市一般会計補正予算（第 1 号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第 4	委員長の選挙について
日程第 5	委員長職務代理者の指名について
日程第 6	その他
7 月定例会	平成 27 年 7 月 13 日（月）
日程第 1	4 月定例会会議録の承認について
日程第 2	5 月定例会会議録の承認について
日程第 3	教育長報告事項について
日程第 4	報告第 16 号 教育委員会職員の人事について
日程第 5	報告第 17 号 逗子市教育委員会職員の職名に関する規則の一部改正について
日程第 6	報告第 18 号 逗子市教育委員会事務決裁規程の一部改正について

日程第7	報告第19号	逗子市教育委員会職員の勤務時間の特例に関する規程の一部改正について
日程第8	報告第20号	逗子市教育委員会会議規則の一部改正について
日程第9	報告第21号	逗子市教育委員会傍聴人規則の一部改正について
日程第10	報告第22号	逗子市教育委員会公告式規則の一部改正について
日程第11	報告第23号	逗子市教育委員会教育長に委任する事務等に関する規則の一部改正について
日程第12	報告第24号	逗子市教育委員会事務分掌規則の一部改正について
日程第13	報告第25号	逗子市教育委員会公印規則の一部改正について
日程第14	報告第26号	逗子市教科用図書採択検討委員会の設置及び運営に関する規程の一部改正について
日程第15	議案第12号	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方針について
日程第16	その他	
8月定例会	平成27年8月5日(水)	
日程第1	教育長報告事項について	
日程第2	請願第1号	平成27年度義務教育諸学校使用教科用図書採択に関する請願
日程第3	議案第13号	教科用図書の採択について
日程第4	その他	
9月定例会	平成27年9月3日(木)	
日程第1	6月定例会会議録の承認について	
日程第2	教育長報告事項について	
日程第3	報告第27号	議案(平成27年度逗子市一般会計補正予算(第3号))作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第4	その他	
10月定例会	平成27年10月6日(火)	
日程第1	7月定例会会議録の承認について	
日程第2	8月定例会会議録の承認について	
日程第3	教育長報告事項について	
日程第4	報告第28号	教育委員会職員の人事について
日程第5	議案第14号	逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について
日程第6	その他	
11月定例会	平成27年11月11日(水)	
日程第1	教育長報告事項について	
日程第2	議案第15号	逗子市社会教育委員の選任について
日程第3	その他	
12月定例会	平成27年12月8日(火)	
日程第1	9月定例会会議録の承認について	
日程第2	10月定例会会議録の承認について	
日程第3	教育長報告事項について	
日程第4	報告第29号	議案(平成27年度逗子市一般会計補正予算(第6号))作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第5	委員長選挙について	
日程第6	委員長職務代理者の指名について	
日程第7	その他	
1月定例会	平成28年1月13日(水)	
日程第1	11月定例会会議録の承認について	
日程第2	教育長報告事項について	
日程第3	報告第1号	教育委員会職員の人事について
日程第4	その他	

2月定例会	平成28年2月16日(火)
日程第1	12月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	報告第2号 議案(平成27年度逗子市一般会計補正予算(第8号))作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第4	議案第1号 議案(逗子市立図書館条例の全部改正について)作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第5	その他
3月定例会	平成28年3月24日(木)
日程第1	1月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	報告第3号 議案(平成28年度逗子市一般会計予算)作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第4	報告第4号 議案(逗子市職員の退職管理に関する条例の制定について及び逗子市職員定数条例の一部改正について)作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第5	報告第5号 県費負担教職員の任免の内申について
日程第6	議案第2号 逗子市学校教育総合プラン(第IV期)について
日程第7	議案第3号 逗子市文化財保護委員会委員の任命について
日程第8	その他

4 教育委員 主な活動状況

	教育委員会会議	その他の主な活動
4月	定例会(4/8)	勉強会(4/27)
5月	定例会(5/12)	勉強会(5/19) 小学校運動会(5/30)
6月	定例会(6/10)	勉強会(6/23) 総合教育会議(6/23)
7月	定例会(7/13)	学校訪問(7/4.5.7.13)
8月	定例会(8/5)	
9月	定例会(9/3)	中学校体育祭(9/19)
10月	定例会(10/6)	勉強会(10/6) 小学校運動会(10/17) 神奈川県市町村教育委員会連合会研修会(10/30)
11月	定例会(11/11)	勉強会(11/11) 学校訪問(11/25.26.30,12/1)
12月	定例会(12/8)	
1月	定例会(1/13)	勉強会(1/7)
2月	定例会(2/16)	勉強会(2/10)
3月	定例会(3/24)	勉強会(3/14) 中学校卒業式(3/14) 小学校卒業式(3/18) 市長との懇談(3/24)



平成25年度～平成27年度 学校による点検及び評価の推移(逗子小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①基礎・基本の定着に向けた授業改善 ②言語活動の充実に向けての研究推進 ③外国語活動の計画的な実践の推進</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①校内研究を通して、学年を単位とした教材研究や指導法の検討を進め、授業改善につとめた。 ②委託研究と並行して思考力・判断力を育て高めるための言語活動の充実について取り組みを進めた。また、体育科授業研究を進め11月に研究発表を行った。 ③担当を中心に研修会を行い、時間割表の位置づけと年間計画を作成、実践に取り組んだ。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①分析に基づいた個に応じた指導の充実を図る ②個に応じた指導の実践の充実 ③返子小の特別な学習環境を踏まえた学習指導の実践 ④長期休業期間中の学習支援の充実 ⑤支援教室の積極的な活用</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した ④ 達成した ⑤ 達成した</p> <p>成果と課題 ①・②校内研究をおして低・中・高ブロックを単位とし充実を図った。 ③オープンスペースの積極的な活用が図れた。 ④サマースクールについては、今年度「海洋教育」に力を置いて実施した。海での活動が主体であったが、学校支援地域本部のバックアップにより、多くのボランティアが集まり、安全に充実した内容で実施することができた。 ⑤支援教育推進巡回指導員と教育相談コーディネーターが連携して積極的に活用した。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①分析に基づいた個に応じた指導の充実を図る ②個に応じた指導の実践の充実 ③返子小の特別な学習環境を踏まえた学習指導の実践 ④長期休業期間中の学習支援の充実 ⑤支援教室の積極的な活用</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した ④ 達成した ⑤ 達成した</p> <p>成果と課題 ①・②「自分の考えをもち、伝え合い、学び合う児童の育成」をテーマにブロック毎に校内研究に取り組み、児童の発達段階や発達特性に合わせ、「言葉」を大切に指導の工夫の改善を図った。 ③学年集会やチームティーチングなどでオープンスペースの積極的な活用が図られた。 ④夏季休業中の学習支援では主に算数の補講を行い、3日間で2～6年生までの児童253名の参加があった。また、サマースクールでは、全19講座にのべ928名の申し込みがあり抽選を行うほどの盛況であった。今年度も学校支援地域本部のバックアップにより、多くのボランティアが集まり、安全に充実した内容で実施することができた。 ⑤支援教育の一層の充実が図られた。特に、教育研究所の支援教育推進巡回指導員及び巡回スクールカウンセラーと本校教育相談コーディネーターとが連携して運営に携わったことで効果も上がった。</p>
② 「読解力」向上の取り組みの推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①言語活動・コミュニケーション力向上に関する研究推進 ②思考力・判断力・表現力の向上に向けての取り組みの検討</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①・②委託研究において思考力・判断力を育てるという視点から効果的な言語活動の在り方について研究を進め、研究成果については研究発表を行った。 ②授業参観等で管理職も積極的に指導に当たった。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①言語活動・コミュニケーション力向上に関する授業の検証 ②発達段階に応じた課題図書の実践 ③指導法の工夫改善</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①・③国語科を中心に行った「言葉」を大切に指導の工夫では、横浜国立大学から講師を招聘し、授業研究を中心に検証を実施し、一定の成果を得た。 ②学校図書館指導員の尽力により課題図書の整理や紹介とともに図書の時間の有効活用が図られた。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①言語活動・コミュニケーション力向上に関する授業の検証 ②発達段階に応じた課題図書の実践 ③指導法の工夫改善</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①・③校内研究では昨年度に引き続き、「言葉」を大切に指導の工夫に取り組み、実践家の講師を招聘し、ブロック毎に研究授業を実施した。その後の研究協議では成果や課題について検討したり、講師からアドバイスを受けたりして、授業力の向上を図った。 ②特に、学校図書館指導員や学校支援地域本部のボランティアによって充実した読み聞かせが出来た。今年度は、学年に応じた、戦争児童文学の特別版や、影絵による宮澤賢治の物語の上映など充実した内容で実施できた。</p>
③ 読書活動の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①学校図書館の整備と充実 ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの活用推進 ③市立図書館との連携の推進</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①学校図書館指導員の指示のもと図書委員・図書館ボランティアにより、図書室の整理整頓を進めた。 ②各学年と連絡調整を行い、年間実施計画を立てて取り組みを進めた。 ③使用学年・学級が増え活用が進んだ。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①学校図書館の整備と充実 ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの各学年・クラスへの定着 ③市立図書館の積極的な活用</p> <p>(評価と課題) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①今年度より貸し出し方法をこれまでの「ブックカード方式」から「DATE DUE」に変更したが、手続きの簡素化が出来、貸し出し数の増加にも繋がった。 ②今年度も多くの読み聞かせボランティアによる朝の読み聞かせを全学年で実施した。 ③児童への周知が不十分なこと、ネットワークを介した検索システムが確立していないことなどが挙げられる。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①学校図書館の整備と充実 ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの各学年・クラスへの定着 ③市立図書館の積極的な活用</p> <p>(評価と課題) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①「DATE DUE」に変更してから1年が経ち、子どもたちもシステムに慣れてきたためか、貸し出し数の増加が進んだ。また、「図書室だより」も低学年向けと中・高学年向けというように発達段階に応じた内容にしているため、児童にとって必要な本の情報が得られる。 ②読み聞かせには、今年度は155名のボランティアが集まった。今年度は、6年生向けに、戦争児童文学の特別版や、影絵による宮澤賢治の物語の上映など充実した内容で実施できた。 ③中学年を中心に市立図書館に行き、書庫の見学や貸し出しシステムについて学んだ。また、市立図書館の司書の方に来校いただき、本校の図書指導員や図書担当の教員を中心に図書の選定など指導を受けた。</p>

【逗子小学校】

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
④ 校内支援体制を活用した支援教育の充実	①校内支援会議等を通して情報共有と組織的な取り組みを推進 ②保護者との密な連携による支援の実践 ③校内支援体制を確立し外部専門機関との連携を推進	①校内支援チームの取り組みの充実 ②中学校との連携を踏まえた支援教育の検討と実践 ③スクールカウンセラー、支援教育推進巡回指導員、うるおいフレンドや外部専門機関との連携の充実 ④支援教室の活用を進める	①校内支援チームの取り組みの充実 ②中学校との連携を踏まえた支援教育の検討と実践 ③スクールカウンセラー、支援教育推進巡回指導員、うるおいフレンドや外部専門機関との連携の充実 ④支援教室の活用を進める
	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した
	成果と課題 ①年3回の児童理解研修会を行うとともに、毎月の職員会議で情報交換を行った。また、校内支援会議では教育相談コーディネーターを中心に具体的な支援の手立て等を検討し、実施した。 ②支援が必要な児童の保護者と心理の専門家や外部機関と連携を図り、支援の方法や内容について職員間で共通理解を行い、巡回指導員の手も借りて実践した。 ③心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容についてアドバイスを受けた。また、保護者の対応についても支援してもらった。	成果と課題 ①3名の教育相談コーディネーターを中心に児童相談所、市子育て支援課、スクールソーシャルワーカーと定期的にケース会議をもち、情報共有だけでなく、今後の具体的な方向性についても検討を進めた。 ②主な進学先2校の教育相談コーディネーターと連携を密に取った。また、心の教室相談員も中学校と情報交換を積極的に行った。 ③教育相談コーディネーターだけでは対応できないケースについては、積極的に外部専門機関を利用し、みとりと方向性を確認した。 ④支援教育推進巡回指導員と教育相談コーディネーターが連携して積極的に活用した。	成果と課題 ①継続的に福祉の支援が必要な児童に対しては引き続き、教育研究所、児童相談所、市子育て支援課、スクールソーシャルワーカーと定期的にケース会議をもち、情報共有だけでなく、今後の具体的な方向性についても検討を進めた。 ②主な進学先2校の教育相談コーディネーターと連携を密に取った。特に課題のある児童については、進学先の中学校の教員に来校していただき、学習や生活の様子など行動観察をしてもらった。また、心の教室相談員も中学校と情報交換を積極的に行った。 ③教育相談コーディネーターだけでは対応できないケースについては、積極的に外部専門機関を利用し、みとりと方向性を確認した。また、今年度は、心理検査を希望する親子が多く、巡回スクールカウンセラーに検査だけでなく、保護者に対して、丁寧にフィードバックを行っていただいた。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①あいさつ運動の推進 ②基本的な生活習慣育成について学校から発信していく ③学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①児童会中心に取り組みを進めた。学校評価アンケートでも保護者に評価を聞き指導に生かしている。 ②児童への指導をやPTAと連携を進めてきたが、保護者を巻き込んでの取り組みは今後さらに進める必要がある。 ③各クラスで取り組んでいる。</p>	<p>①あいさつ運動を推進する ②マナー・ルールを守る態度を育てる ③基本的な生活習慣育成について学校から発信し、PTAとともに取り組んでいく ④学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題 ①児童会を中心に「あいさつ運動」を継続して行った。 ②道徳の時間を中心に全ての教科・領域、また学校行事等でも集団行動での規律やマナー等の指導に力を入れた。児童の中でもお互いに守っているという意識が根付いてきているが、登下校中のマナーはまだ不十分である。 ③④お便りや懇談会、PTA運営委員会で呼びかけ連携した取り組みを進めている。</p>	<p>①あいさつ運動を推進する ②マナー・ルールを守る態度を育てる ③基本的な生活習慣育成について学校から発信し、PTAとともに取り組んでいく ④学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題 ①児童会を中心に「あいさつ運動」を継続するとともに、学校長も自ら登校時を中心に児童への挨拶指導を行った。 ②道徳の時間を中心に全ての教科・領域、また学校行事等でも集団行動での規律やマナー等の指導に力を入れた。児童の中でもお互いに守っているという意識が根付いてきているが、歩道の歩き方や、横断歩道・路切の渡り方など地域の方から注意や指摘を受けることも多々有り、登下校中のマナーはまだ不十分である。 ③④ホームページの充実にはまだ課題はあるが、学校からは「学校だより」「PTAだより」また「学年・学級だより」を定期的に発行し、情報の発信に努めている。また、年度末アンケートでもまずまずの評価をいただいている。保護者からは、懇談会やPTA運営委員会や保護者アンケート等で要望や意見を寄せていただき、改善を図っている。</p>

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①各教科や総合的な学習の時間、特別活動など内容の関連を図る ②児童会活動を活性化させていく ③異年齢集団の交流を推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①各学級における道徳の時間や学級生活での道徳的な実践は行われ、成果も上がっている。各教科・特別活動指導における道徳との関連についても配慮できた。 ②児童会担当教員がよく児童を指導し、縦割り集団やユニセフ募金、マダガスカル小学校支援活動などにも取り組むことができた。 ③縦割り集団活動の内容充実を図ることができた。</p>	<p>①各教科や総合的な学習の時間、特別活動など内容の連携を図る ②児童会活動等を通して自ら取り組む主体的な姿勢を育てる ③異年齢集団の交流を推進する(たてわり集団によるグループ活動への取り組み)</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①各教科・領域を横断的に取り上げ積極的に実践を行った。 ②特にユニセフ活動を中心に全校をととして活発に活動した。 ③今年度より異学年集団の交流のねらいをより明確にしていいため、活動内容を祭系系からグループ活動系に変更した。活動については工夫・改善が必要であるが、ねらいはほぼ達成できた。</p>	<p>①各教科や総合的な学習の時間、特別活動など内容の連携を図る ②児童会活動等を通して自ら取り組む主体的な姿勢を育てる ③異年齢集団の交流を推進する(たてわり集団によるグループ活動への取り組み)</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①逗子小児童の実態から、特に「自分の考えを持ち、受信発信を通して、ともに学びをつくりあげることができ児童の育成」「コミュニケーション力の向上」に視点を置き校内研究を推進している。今年度も国語科を中心に、全ての教科・領域で「言葉」を大切に指導の工夫を系統的な視点をもって、授業実践を行った。 ②③通常のたてわり活動をはじめ、たてわり交流デーやユニセフ活動等、児童が主体となって活発に活動することができた</p>

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める ②校内に作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を行う ③宿泊行事などを通じて児童の人間関係を深める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①文化庁巡回体験事業や市のアウトリーチ事業などに応募し芸術体験を行った。また学年独自で邦楽鑑賞なども行って来た。 ②職員室前の廊下や階段等に、児童の作品や地域の方々の作品を展示した。 ③高学年で行った宿泊行事は児童間の人間関係を深めるなどの成果を上げた。</p>	<p>①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める ②作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を各学年クラスで工夫する ③宿泊行事やサマースクール(海洋体験教室)などを通じて児童の人間関係を深める</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①今年度も高学年を対象に「影絵」、低・中学年を対象に文化庁巡回公演の劇を鑑賞した。 ②職員室前の廊下やオープンスペース等に、児童の作品や地域の方々の作品を展示した。 ③夏季休業中にも関わらず多くの参加があった。体験活動では、児童が協働して取り組むプログラムも多く用意し、相互の人間関係、信頼関係を深めることができた。</p>	<p>①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める ②作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を各学年クラスで工夫する ③宿泊行事やサマースクール(海洋体験教室)などを通じて児童の人間関係を深める</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①「逗子文化プラザ」の事業である「アート便」が今年度も当たり、6年生が「能楽」、3年生が「落語」の鑑賞を行った。「能楽」では実際に衣装や面を着けて舞う実技指導も受けた。 ②職員室前の廊下やオープンスペース等に、児童の作品や地域の方が撮影した富士山の写真や作品を展示した。また市役所の5階や文化プラザの1階ギャラリーでも児童の絵画作品を中心に展示してもらい期間中に見学に行った。 ③宿泊行事(林間学校等)や夏季休業中に実施したサマースクールの海洋体験教室では児童の自主性を重んじ、協働して取り組むプログラムを多く用意し、相互の人間関係、信頼関係を深めることができた。</p>

【逗子小学校】

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	①保健便り等を発行して健康について積極的に啓発していく ②健康教育の全体計画に従い健康教育について学校として推進していく ③早寝・早起き・朝ご飯等、家庭生活の充実について保護者に働きかけていく	①保健便り等を発行して健康について積極的に啓発し、疾病やケガの予防に努める ②健康教育の全体計画に従い体力作りを進めて行く(運動能力調査の実施) ③食育の全体計画に従い、保護者と連携をとりながら食育を推進していく	①保健便り等を発行して健康について積極的に啓発し、疾病やケガの予防に努める ②健康教育の全体計画に従い体力作りを進めていく(運動能力調査の実施) ③食育の全体計画に従い、保護者と連携をとりながら食育を推進していく
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①養護教諭や担任を中心に、学校として取り組むことができた。 ②運動能力の測定等を行い、児童の実態を把握することができた。 ③栄養教諭配置となり、学年ごとの食育授業やサマースクール講座なども開催して、保護者とも連携し進めることができた。	成果と課題 ①2名体制の養護教諭を有効に活用し、特にインフルエンザ、溶連菌感染症等の流行性感冒についての未然防止・早期対応を迅速に図った。 ②運動能力調査を実施し、本校の児童の特徴や向上すべき点を分析し、指導に役立てた。 ③栄養教諭の配置校である本校では、各学年での食育の推進とともに、給食試食会等とおして、保護者向けの食育も充実させた。	成果と課題 ①2名体制の養護教諭を有効に活用し、特にインフルエンザ、溶連菌感染症等の流行性感冒についての未然防止・早期対応を迅速に図った。特にインフルエンザの流行する季節には、給食前に「手洗いの歌」を全校放送で流し注意喚起を促した。 ②全校で実施した、運動能力調査は、学年全体で取り組み、本校の児童の特徴や向上すべき点を分析し、児童が相互に高め合えるような指導を工夫した。次年度はキャラバン隊の指導を受ける予定である。 ③栄養教諭の配置校である本校では、各学年での食育の推進とともに、給食試食会等とおして、保護者向けの食育も充実させた。また、「給食室だより」を通して、旬の食材の紹介や栄養について子どもたちに分かり易く伝えることができた。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 学校安全の推進	<p>①学校、PTA校外委員会、外部関係諸機関との連携の充実を図る ②安全点検、危険箇所の修理などの早期対応を図る ③大規模地震・大規模津波を視野に入れた総合的な防災計画を作成する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①、②PTA校外委員と連携し、危険箇所の点検をし、改善要望を市等にあげた。また、関係機関との合同点検を実施できた。 ③防災アドバイザーの助言のもと津波避難の在り方を検討し具体化した。</p>	<p>①学校、PTA校外委員会、外部関係諸機関との連携を図り、地域にも働きかける ②安全点検、危険箇所の修理などの早期対応を図る ③総合的な防災計画に基づいて避難訓練等の定着と充実を図る ④児童への安全教育の推進と教職員の危機管理能力の充実を図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題 ①、③文化教育ゾーンの4施設と合同で避難訓練を実施し、各職員の配置や緊急時の誘導の仕方等について確認できた。今後は不審者が侵入した際の対応訓練も、各公施設と連携して行ってきたい。 ②月ごとの安全点検を徹底し、必要な場合は修理を早急に行うなどの対応を取った。 ④引き続き、「逗子小学校安全マニュアル」に沿って、津波や火災、不審者など様々な危険から回避する訓練を定期的にも実施し、児童には「自分の命は自分で守る」という意識付けを行っていく。</p>	<p>①学校、PTA校外委員会、外部関係諸機関との連携を図り、地域にも働きかける ②安全点検、危険箇所の修理などの早期対応を図る ③総合的な防災計画に基づいて避難訓練等の定着と充実を図る ④児童への安全教育の推進と教職員の危機管理能力の充実を図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題 ①、③文化教育ゾーンの4施設と合同で地震と津波を想定した避難訓練を実施し、各職員の配置や緊急時の誘導の仕方等について確認できた。今年度は、児童は教室棟の3階へ、他の施設利用者は体育館への避難を原則としたが、課題も有り、次年度は、その改善に向けさらに安全な避難を目指していきたい。また、高台への二次避難についても訓練を実施していきたい。 ②業者による遊具や防災設備の定期点検だけでなく、職員による月ごとの安全点検を徹底し、必要な場合は教育総務課の指示を受けながら、修理を早急に行うなどの対応を取った。 ④「防災計画・消防計画」や「逗子小学校安全マニュアル」に沿って、津波や火災、不審者など様々な危険から回避する訓練を定期的にも実施した。また、児童には日常から「自分の命は自分で守る」という意識付けを行うような児童を行っている。</p>
② 問題行動等への対応の推進	<p>①差別やいじめを許さない学級づくりを行う ②教育相談コーディネーターを中心とする組織的な対応をはかる ③外部専門機関との連携を密にしておく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①毎月の校務分掌会議や職員会議の中で確認し合った。 ②支援教育の推進と同様に考えている。 ③支援教育の推進と同様に考えている。</p>	<p>①差別やいじめを許さない学級づくりを進める ②教育相談コーディネーターを中心とする組織的な対応と早期発見、予防を心がける ③外部専門機関との連携を密にするとともに、支援教育推進巡回指導員などの活用を進める ④全校体制のもと児童個々に応じた指導・支援の充実を図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題 ①、④「命の大切さ」を児童に伝えるため、道徳の時間を中心に全ての教科・領域の中で、「命の授業」に取り組んだ。また、児童には朝会での学校長の話の中で、保護者にはお便り、職員には事故防止会議等で「いじめ」「暴力」「差別」の根絶を投げかけた。 ②、③問題行動のある児童に対しては、教育相談コーディネーターが中心となって早期発見・早期対応に当たっているが、ケースによっては外部専門機関との連携を密にとり、連携して対応している。</p>	<p>①差別やいじめを許さない学級づくりを進める ②教育相談コーディネーターを中心とする組織的な対応と早期発見、予防を心がける ③外部専門機関との連携を密にするとともに、支援教育推進巡回指導員などの活用を進める ④全校体制のもと児童個々に応じた指導・支援の充実を図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題 ①「命の大切さ」「いじめ、暴力、差別の根絶」「ルールやマナーの徹底」の3つを児童への約束事として、校長室前の掲示板に掲げ、児童に啓発している。授業では、道徳の時間を中心に全ての教科・領域の中で、「命の授業」に取り組んだ。特に今年度は、高学年の理科の時間に「生命の誕生」を全員が模造紙にまとめ、校内に掲示し、全校児童へ取り組みの成果を発表した。また、児童には朝会での学校長の話の中で、保護者にはお便り、職員には事故防止会議等で「いじめ」「暴力」「差別」の根絶を投げかけた。 ②、③、④課題のある児童に対しては、教育相談コーディネーターが中心となって早期発見・早期対応に当たっているが、ケースによっては外部専門機関との連携を密にとり、連携して対応している。また、支援教室、相談室、校長室等を利用した取り出しの授業を行い、児童の特性や発達段階等、個に応じた丁寧な指導を実施した。</p>
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<p>①幼稚園・保育園との情報交換を密にしておく ②幼稚園・保育園との交換行事を実施していく ③中学校との交流行事を検討する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった ③達成した</p> <p>成果と課題 ①就学予定園児について、幼稚園・保育園と連携ができた。 ②次年度就学予定の園児との交流を行い高い評価を頂いているが、こちらから出かけていく交換行事は行っていない。 ③職業体験事業で中学生を受け入れ、外国語活動の授業では中学の英語教員の指導を受け、一部部活動の見学を行うなど、交流を進めることができた。</p>	<p>①幼稚園・保育園との効果的な連携についてカリキュラムの検討を進める ②幼稚園・保育園との交換行事を学年行事として実施していく ③中学校との交流行事を進める</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成できなかった ③達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①、②幼稚園、保育園との交流は、「学校へ行く週間」や「ようこそ集会」などで単発で行っているが、交換行事やカリキュラムの検討までは進んでいない。 ③中学校との交流も、外国語活動や生徒指導の引継ぎ等で行っているが、今後他の教科、行事にも広げて行きたい。双方の日程調整が課題となっている。</p>	<p>①幼稚園・保育園との効果的な連携についてカリキュラムの検討を進める ②幼稚園・保育園との交換行事を学年行事として実施していく ③中学校との交流行事を進める</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①②幼稚園、保育園との交流は、「学校へ行く週間」や「ようこそ集会」などで1年生を中心に行事として行っているが、交換行事やカリキュラムの検討までは進んでいない。 ③職業体験事業で中学生を受け入れ、小学生と交流を図る一方、外国語活動の授業では中学の英語教員の指導を受け、一部部活動の見学を行うなど、定期的な交流を進めることができた。</p>

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
④ 国際教育の推進	①外国語活動の在り方について職員研修を行う ②IEA(国際教育指導助手)との連携について検討を進める ③評価等について検討を進める	①外国語活動の在り方について職員研修を行い、実践力を高める ②IEA(国際教育指導助手)との連携について実践していく ③自己表現力・コミュニケーション能力の育成を目指した授業実践の実施	①外国語活動の在り方について職員研修を行い、実践力を高める ②IEA(国際教育指導助手)との連携について実践していく ③自己表現力・コミュニケーション能力の育成を目指した授業実践の実施
	(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①、② 校内で研修を進め、また、IEA(国際教育指導助手)とのコミュニケーションも担当が調整しながら、担任を中心とした授業実践を進めている。 ③各学年で検討を試し試行しているが、学校全体としての計画を定めるには至っていない。	成果と課題 ①、③ 中学校の英語教員と相互に交流授業を行い、特に自己表現力・コミュニケーション能力の育成を目指した外国語活動における小・中連携のあり方やカリキュラムの繋がりについて吟味した。 ②IEA(国際教育指導助手)との連携については、高学年のほか、低・中学年にも実施し、今後の外国語活動の導入を見据え、児童に興味・関心をもたせるような教材を開発した。	成果と課題 ①小学校と中学校の担当教員同士で相互に交流授業を行った。特に、外国語活動における小学校から中学校英語へのスムーズな繋がりを目指し、実践をとおりて研究が深められた。 ②IEA(国際教育指導助手)との連携については、高学年のほか、低・中学年にも実施し、第3学年からの外国語活動の導入を見据え、児童に興味・関心をもたせるような教材を担当とIEA(国際教育指導助手)が協働して開発に携わった。 ③本校では「自分の考えをもち、伝え合い、学び合う児童の育成～国語科を中心に、「言葉」を大切に指導の工夫を通して～」というテーマで研究を推進している。今年度は、「書くこと」を中心に自己表現力・コミュニケーション能力の育成を目指した授業の実践を行った。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①小学校におけるキャリア教育の在り方について職員の研修を行う ②2分の1成人式など、生き方を見通した学習等について検討する</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①一定程度のキャリア教育に係る個別の研修も行い教職員間の共通理解が進んでいるが、校内研修で取り上げて研修を深めるまでには至っていない。 ②2分の1成人式の取り組みが定着し、児童や保護者にも好評である。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①サマースクール等支援サポート活動を活用し推進を図る ②キャリア教育の全体計画に基づいて実践を行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①サマースクールの工作や給食献立づくりなど保護者や学校支援地域本部事業を効果的に活用し、推進を図った。 ②全体計画のほか、学級によっては「ふれあい授業」などで扱う場合もあり、同学年でも学級ごとに内容が異なる場合がある。今後は、学校支援地域本部事業を活用し、講師の派遣など一層の充実を図りたい。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①サマースクール等支援サポート活動を活用し推進を図る ②キャリア教育の全体計画に基づいて実践を行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①夏季休業中に実施したサマースクールでは、普段の授業では出来ない体験学習を中心に行った。サマースクールは、学校支援地域本部の主たる事業であり、地域本部の呼びかけにより、広く専門の講師を招聘でき、またボランティアの支援も得られた。 ②中学年を中心とした福祉学習や低学年の買い物学習、また林間学校や遠足などでは、体験から学ばせることに主眼を置いて取り組んだ。</p>
⑥ 福祉教育の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①地域講師やボランティアを活用し、福祉教育の実践を行う ②児童の生活に根ざした福祉教育について検討する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①外部講師を活用し実施した。 ②福祉教育担当者会で確認されている「ふつうのくらしのしあわせを」を踏まえて実践を進めた。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①人と人との温かい人間関係・コミュニケーションづくりに努め、思いやりの心、人権尊重の精神を育む教育の推進をはかる ②地域講師やボランティアを活用した、福祉教育の実践を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①道徳の時間を中心に各教科・領域で取り組んだ。また、児童会でも「あいさつ運動」やユニセフ活動をおして推進を図った。 ②第4学年を中心に、逗子市社会福祉協議会や県立岩戸養護学校と連携し、身近な福祉について学んだ。また、東京で開催されるパラリンピックへの関心を高めるため、障がい者スポーツの一つであるフライングディスクを障がい者とともにに行った。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①人と人との温かい人間関係・コミュニケーションづくりに努め、思いやりの心、人権尊重の精神を育む教育の推進をはかる ②地域講師やボランティアを活用した、福祉教育の実践を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①毎週の「朝の読み聞かせ」、また道徳の時間を中心に各教科・領域で取り組んだ。また、本校では、ルールとマナーの向上を目指した指導を推進しており、児童会でも「あいさつ運動」やユニセフ活動をおして思いやりの心、人権尊重の精神を育むための推進を図った。 ②中学年を中心に、逗子市社会福祉協議会や県立岩戸養護学校と連携し、身近な福祉について学んだ。また、障がい者スポーツの一つであるフライングディスクを障がい者とともに行った。点訳奉仕会の方とともに第2の言語である「点字・点訳」の体験を行ったりし、関心を深めた。</p>
⑦ 環境教育の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①授業だけでなく、児童会活動等に盛り込み、学校生活全体で取り組める内容を検討する ②家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①児童会の「ミックスペーパー回収」など児童が参加する取り組みや気温の計測などの取り組みを行った。 ②5年生を中心に家庭と連携してのエコノートやエコクッキングの取り組みを進めた。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①児童会活動等に盛り込んだ活動の実践を推進する ②節電・節約を意識した取り組みを児童中心に行う ③家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①児童会の環境委員会が中心となり、田越川沿いの清掃活動を行った。ごみの多さとマナーの低下を身をもって感じ、環境問題について関心を高めた。 ②教室のゴミ箱を分別できるように分けている。また、教室から移動する際は、電気や冷暖房の電源をこまめに消すよう努めている。 ③4年生では、浄水管理センターやクリーンセンターの見学をおして、汚水やごみをリサイクルする過程を学んだ。そして、学んだことを家庭と連携し、ごみの分別や清掃活動などに積極的に取り組んだ。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①児童会活動等に盛り込んだ活動の実践を推進する ②節電・節約を意識した取り組みを児童中心に行う ③家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①児童会園芸委員会が取り組んだ「人権の花」運動では、種や苗を植えたり、毎日水やりをしたりして、成長を見守った。活動の成果は児童会朝会で低学年にも分かり易く、クイズを交えて発表した。また、環境委員会では、毎日気温の測定を続け、異常気象や温暖化について全児童に関心をもってもらうよう児童会掲示板に測定結果を掲示した。 ②教室ではゴミ箱を分別できるように分けているが、副読本や「エコ広場ずし」を活用し、ゴミの減量化を推進する取り組みを一層進めた。また、教室から移動する際は、電気や冷暖房の電源をこまめに消すよう努めている。 ③中学年では、浄水管理センターやクリーンセンターの見学をおして、汚水やごみをリサイクルする過程を学んだ。そして、学んだことを家庭と連携し、ごみの分別や清掃活動などに積極的に取り組んだ。</p>
⑧ 情報教育の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①発達段階に応じた系統性のある学習計画の検討を行う ②必要に応じて情報モラルについて外部機関との連携を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①情報教育担当者を中心に取り組んでいる。 ②資料を基に高学年で指導した。今年度は外部機関を招へいしての学習は行うことができなかった。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①発達段階に応じたIT機器やソフトを使用し系統性のある学習計画を実践していく ②情報モラルに対する意識の向上を図るため外部機関等を活用した授業を実施する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①低・中・高のブロック別に目標と評価規準を設定し、コンピュータ室を効果的に活用し、年間をおして取り組んだ。 ②情報モラルについては、一部児童が問題のある画像を検索してしまった経緯があったので、今後一層の危機意識をもって指導に当たる必要性を感じた。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①発達段階に応じたIT機器やソフトを使用し系統性のある学習計画を実践していく ②情報モラルに対する意識の向上を図るため外部機関等を活用した授業を実施する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①今年度は、特別支援級にタブレット型端末2台が導入され、特に情緒に障がいをもつ児童にパズルなどで効果的な活用を図っている。また低・中・高のブロック別に目標と評価規準を設定し、コンピュータ室を効果的に活用し、年間をおして取り組んだ。さらに、高学年では、「dbookPRO」など新しいソフトを試験的に導入し実践を行った。 ②手引き書や副読本を活用し、授業を行った。また、教育研究所が主催する研修に情報担当教員が出席し、研修内容を共有した。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	<p>①学校ホームページの更新・発信を行う</p> <p>②学校便り・学年便り・学級便り等による保護者への情報発信</p> <p>③保護者だけでなく地域への情報発信(掲示板等の活用)</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①教務部が担当し発信・更新を行った。</p> <p>②学校・学年・学級の便りの充実が図れた。</p> <p>③行事等で保護者アンケートを実施し意見の反映を心がけた</p>	<p>①学校ホームページの充実を図る</p> <p>②学校便り・学年便り・学級便りなど各種のお便りの充実を図る</p> <p>③保護者だけでなく地域の方々の声も反映した情報公開を行う</p> <p>④学校ナビ(逗子小ガイド)の改訂・充実を図る</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①、②根拠のない噂やツイッターによって混乱や学校への不信感をもたれないよう、学校からの情報を出来るだけ早く、正確にお知らせするため、様々な媒体をとおして発信を行った。</p> <p>③保護者や学校評議員、学校関係者評価委員より改善点等の意見を出してもらい、意見に対する具体的方策について、学校便りやホームページを通じて発信をした。</p> <p>④今年度学校支援地域本部及びボランティアによって逗子小ガイドの変更点や項目の加除訂正を全ページに渡って行い、大幅な改訂を行った。保護者にとって、逗子小学校の情報を求めるためにより分かり易いガイドとなった。</p>	<p>①学校ホームページの充実を図る</p> <p>②学校便り・学年便り・学級便りなど各種のお便りの充実を図る</p> <p>③保護者だけでなく地域の方々の声も反映した情報公開を行う</p> <p>④学校ナビ(逗子小ガイド)の改訂・充実を図る</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①「逗子だより」「給食献立」「学校教育目標」など継続して発信しているものは更新をしているが、年度末アンケートの結果では情報が不十分と感じている保護者が多いようである。次年度のGMSへの移行に伴い、リニューアルさせ一層の充実を図っていきたい。</p> <p>②「学校だより」「PTAだより」また「学年・学級だより」を定期的に発行し、情報の発信に努めている。「学級だより」ではお知らせ情報にならないよう、学級の課題や授業の取り組みやめあて、教員の学級経営目標などを掲載する教員も増えてきている。</p> <p>③PTA運営委員会や学校評議員、学校関係者評価委員より改善点等の意見を出してもらい、意見に対する具体的方策について、学校便りやホームページを通じて発信をしている。また、「運動会」や「学校へ行こう週間」など保護者や地域の方に参加してもらえる行事にはアンケートを取り、出来るだけ意見を反映させた運営を行うようにしている。</p> <p>④「逗子小ガイド」は学校支援地域本部及びボランティアによって毎年、変更点や項目の加除訂正を行っている。特に、新入生保護者説明会では「図解入りで分かり易い」と評判である。保護者にとって、逗子小学校の情報を求めるためにより分かり易いガイドとなるよう今後も学校支援地域本部の力を借りながら進めていきたい。</p>
② 地域教育力の活用	<p>①これまでの学校支援地域本部事業の整理</p> <p>②サポート通信の発行</p> <p>③地域コーディネーターを中心とした学校や児童のための支援についての検討と取り組み</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①、②、③学校支援地域本部事業の中で実施できた。今年度は『逗子小ガイド』の改定作業を行い、その中で地域との連携も進んだ。</p>	<p>①地域協議会の活動の充実を図る</p> <p>②サポート通信の発行を推進する</p> <p>③学校支援地域コーディネーターを1名位置づけ、中心とした学校や児童のための支援についての取り組みの充実を図る</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①サマースクールをはじめ、逗子小ガイドの改訂、読み聞かせなど本校における学校支援地域本部の役割は大きい。</p> <p>②学校支援地域本部によるサポート通信は、ボランティアの募集の際、大変有用であった。</p> <p>③今年度、本校における学校支援地域本部の規約を設け、学校支援地域コーディネーターを1名位置づけ、全体の調整役になってもらった。</p>	<p>①地域協議会の活動の充実を図る</p> <p>②サポート通信の発行を推進する</p> <p>③地域コーディネーターを1名位置づけ、中心とした学校や児童のための支援についての取り組みの充実を図る</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学校評議員と学校関係者評価委員会を年3回開催し、学校経営案、各校務分掌の取り組み状況等の説明や授業参観、給食の試食等とおして、広く意見をいただいている。また、改善点についても具体的に意見をいただき、全職員で共有し次年度へ繋げている。</p> <p>②学校支援地域本部によるサポート通信は、学校支援地域本部の役割や活動内容の趣意はもちろん、ボランティアの募集の際、大変有用であった。</p> <p>③地域コーディネーターには、4部門に分かれているサポーター運営委員の総括者として、全体をまとめ、逗子市が主催する実行委員会へ出席し、活動の報告をしてもらった。</p>
③ 学校評価を生かした 学校の改善	<p>①学校評価の場面、内容、項目等についての再検討</p> <p>②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の見直し</p> <p>③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の推進</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①、②教務部を中心に評価について検討を行い、集約も行い、学校の教育活動に反映するようになった。</p> <p>③クリーンアップイベント、サマースクール・サマーコンサート等で実践できた。</p>	<p>①検討された評価項目等による学校評価を実施する</p> <p>②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の改善を行う</p> <p>③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の充実を図る</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①年度末には全職員にも学校評価のアンケートを実施し、授業参観等で実施したアンケートとあわせて学校関係者評価委員、学校評議員の意見を反映させ、次年度に向けた教育活動の改善を図った。</p> <p>②春の授業参観、秋の学校へ行こう週間、そして年度末に保護者、地域に学校評価に関するアンケートを実施した。</p> <p>③PTA及び、学校支援地域本部との連携は進んでいるが、さらに深めていきたい。また、PTA活動と学校支援地域本部の事業との兼ね合いが課題として挙がっている。</p>	<p>①検討された評価項目等による学校評価を実施する</p> <p>②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の改善を行う</p> <p>③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の充実を図る</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①②年度末には保護者の他、全職員にも学校評価のアンケートを実施し、運動会や学校行こう週間等で実施したアンケートとあわせて学校関係者評価委員、学校評議員の意見を反映させ、次年度に向けた教育活動の改善を図った。</p> <p>③「クリーンアップ作戦」「サマースクール」等でPTA及び、学校支援地域本部との連携は進んでいるが、さらに深めていきたい。また、今年度は課題となっていたPTA活動と学校支援地域本部の事業との兼ね合いが、前PTA副会長が学校支援地域本部の運営委員に加わり、橋渡しとなったことで徐々に改善が図られてきた。</p>

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>①本校の研究テーマを踏まえた授業実践、又は、文化教育ゾーンの中にあるという立地条件を生かした授業実践を行う</p> <p>②外部講師による授業評価等を参考にした取り組みを進める</p>	<p>①本校の研究テーマ(伝え合う心の育成)を踏まえた授業実践の充実を図る</p> <p>②外部講師による授業評価等を参考にした授業改善を進める</p>	<p>①本校の研究テーマ(伝え合う心の育成)を踏まえた授業実践の充実を図る</p> <p>②外部講師による授業評価等を参考にした授業改善を進める</p>
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	<p>成果と課題</p> <p>①体育を中心とした研究推進の中で授業公開・授業研究を行った。また、文化教育ゾーンの施設活用を行った。</p> <p>②研究授業および事前検討等で指導助言等を受け、授業に活かすよう心がけた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①、②教育課題部(研究部)を中心に校内研究の推進が図れた。今年度は、昨年度までの研究に一区切りを付け、「自分の考えをもち、伝え合い、学び合う児童の育成」というテーマで、国語科を中心に、「言葉」を大切に指導の工夫を追究した。低・中・高学年ブロックごとに授業研究を行い、研究講師の指導・評価を受けながら授業改善に努め研究内容の共通理解が図れた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①、②校内研究では、「自分の考えをもち、伝え合い、学び合う児童の育成」をテーマに昨年度からスタートさせた。今年度もブロックごとに授業研究を中心に行った。授業では、伝え合う一つの手立てとして、「書く」ことを積極的に取り入れた。その結果、多くの児童が、自分の考えを取捨選択し、どのようにすれば相手に伝えることができるのか、考えて書くことができるようになってきた。</p>
行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
② 授業評価の活用	<p>①学校評価に関連した授業評価を実施する</p> <p>②外部講師による授業評価を活用する</p> <p>③児童の学力把握の調査を活用する</p>	<p>①学校評価に関連した授業評価を実施し、授業改善に役立てるとともに授業作りの工夫と改善についての検証を行う</p> <p>②学習指導要領に即した評価規準の充実及び指導と評価の一体化を図る</p> <p>③家庭との連携による家庭学習の充実を進める</p>	<p>①学校評価に関連した授業評価を実施し、授業改善に役立てるとともに授業作りの工夫と改善についての検証を行う</p> <p>②学習指導要領に即した評価規準の充実及び指導と評価の一体化を図る</p> <p>③家庭との連携による家庭学習の充実を進める</p>
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	<p>成果と課題</p> <p>①授業参観や学校へ行こう週間などの際に、授業に関する評価を保護者にしてもらった。</p> <p>②研究授業の際の指導助言を授業に生かすよう取り組んだ。</p> <p>③学年ごとに児童の学習状況を把握し活用を図った。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①自己評価、学校関係者評価を生かした授業改善は日々行っているが、今後も一層の授業力向上を図りたい。</p> <p>②経験者研修に当たっている教員は、指導と評価の一体化を意識して、指導計画・評価計画を練り、研究授業でも意識して取り組めた。また他の教員についてもノートやプリント、テスト等により授業ごとの評価を行っているが、次の授業へそれをどう生かし改善を図るのかは教員間でも差があり課題である。</p> <p>③漢字や計算、日記など、学級によって家庭での課題は様々であるが、家庭との連携はよく図られている。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①PDCAサイクルのもと、自己評価、学校関係者評価を生かした授業改善は日々行っており、成果も上がっている。今後も一層の授業力向上を図りたい。</p> <p>②経験者研修に当たっている教員は、指導と評価の一体化を意識して、指導計画・評価計画を練り、研究授業でも意識して取り組めた。また他の教員についてもノートやプリント、テスト等により授業ごとの評価を行っている。依然教員間の差はあるものの、OJTや教育指導教員の活用で効果は上がってきている。</p> <p>③漢字や計算、日記など、学級によって家庭での課題は様々であるが、家庭との連携はよく図られている。学年・学級懇談会を通じて家庭への周知を図っている。</p>
行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
③ 研修事業の充実	<p>①各自が積極的に授業公開を行う</p> <p>②自己研修の目的を明確にして研修を受ける</p> <p>③初任者や経験の少ない教員を学校全体で育てる</p>	<p>①各自が積極的に授業公開を行う</p> <p>②自己研修の目的を明確にして研修を受け、レベルアップを目指す</p> <p>③初任者や経験の少ない教員に対して学校全体で育てる</p>	<p>①各自が積極的に授業公開を行う</p> <p>②自己研修の目的を明確にして研修を受け、レベルアップを目指す</p> <p>③初任者や経験の少ない教員に対して学校全体で育てる</p>
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	<p>成果と課題</p> <p>①校内研究推進においてほぼ全員が授業公開を行った。</p> <p>②自己観察書研修目標で課題を明確にし、それに応じて研修を行うことができた。</p> <p>③初任者の育成には学校全体で取り組んだ。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①校内研究のテーマに即し、積極的に授業公開、研究協議が進められた。</p> <p>②自己の課題に即した、学校教育課や教育研究所主催の研修会への積極的な受講を呼びかけ、研修後はその成果を授業改善に取り入れている。</p> <p>③初任者や臨任教員、非常勤教員については、教育指導員の指導を受け、指導力のアップを図るとともに、学年全体でフォローする体制をつくり、チームとして取り組んでいる。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①初任研、年次研、臨任・非常勤研等の授業公開はもちろん、今年度も、校内研究のテーマに即し、各ブロックで積極的に授業公開、研究協議が進められた。</p> <p>②引き続き、自己の課題に即した、学校教育課や教育研究所主催の研修会への積極的な受講を呼びかけ、研修後はその成果を授業改善に取り入れることができた。</p> <p>③初任者や臨任教員、非常勤教員については、OJTはもちろん、教育指導教員の指導を受け、指導力のアップを図るとともに、学年全体でフォローする体制をつくり、チームとして取り組むことができた。</p>

平成25年度～平成27年度 学校による点検及び評価の推移(沼間小学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実		
行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容	
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実	①基礎・基本の定着に向けた「わかる授業」への工夫改善 ②発達段階に応じた学習の仕方の指導	①基礎・基本の定着に向けた「わかる授業」への、具体的な工夫改善 ②発達段階に応じた学習の仕方の指導、並びに家庭学習の充実 ③校内研究と連動した研修の実施と授業改善	①基礎・基本の定着に向けた「わかる授業」への工夫改善 ②発達段階に応じた学習の仕方の指導	(評価) ①達成した ②達成した
	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した	成果と課題 ①わかる授業ということについて、子どもたちはお互い仲間同士の学び合いの中でも笑うことができるようになった。本校の授業の根幹を、構築することができた。(校内研究の取り組みについて、それが授業力の向上につながった) ②取り出し指導をしたり個別教材を使ったりして、個に応じたきめ細やかな指導をすることができた。
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①各教科での言語活動の充実 ②自分の考えを表現できる子の育成 ③「学び合い」を大切に授業づくり	①各教科における、言語活動の充実を目指した年間指導計画及び授業づくり ②自分の考えを、自分の言葉にして表現しようとする子どもの育成 ③各教科並びに様々な教育活動を通じて、「学び合い」を大切に授業づくり	①各教科での言語活動の充実 ②自分の考えを表現できる子の育成 ③「学び合い」を大切に授業づくり	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	成果と課題 本校の校内研究のテーマに沿って全教員が取り組んだが、継続することで読解力のさらなる向上を図る。 ①各教科並びに特別活動等において、クラス全体または複数による「話し合い」「学び合い」「気づき合い」を授業の柱にした学習活動を、計画的・継続的に行うことができた。 ②児童にとって、自分の言葉で意思伝達することが、様々な教育活動を通じて意識付けられている。 ③「学び合い」と「集団作り」を一体化した指導目標で、各教科並びに特別教材等を行うことが定着した。
③ 読書活動の推進	①読書活動の日常化 ②読書環境の充実 ③学習活動に読書活動を位置づける	①読書活動の日常化を果すことにより、子どもたちの学校生活の基盤を養う ②子どもたちが、読書に親しみやすい環境を整備していく(学習情報センターとしての、図書館機能の充実) ③学習活動の中に、子どもの発達段階に応じた読書活動を位置づける	①読書活動の日常化 ②読書環境の充実 ③学習活動に読書活動を位置づける	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	成果と課題 本校の読書活動が全教職員の共通理解の下で進められていることや、児童による図書委員会の取組、学校支援地域本部事業での取組が定着していることが児童の読書環境の充実に役立っている。 ①読み聞かせボランティアが日替わりで、各クラスの朝の会において、読み聞かせを行うとともに、教室内に書物が整備されていて親しまれている。 ②図書室及び調べ学習室が、児童にとって親しみやすい環境として整備されている。教室内における学級文庫についても、児童の興味や関心をもちやすいものが用意されている。 ③わからないことや、より深く知りたいことに対して、各教科並びに特別活動等の中で積極的に図書室を利用するなど読書活動が行われている。
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	①校内支援体制の構築 ②支援ニーズの把握と指導の充実 ③児童理解に基づいたきめ細かな支援と保護者との連携・協働の推進	①校内支援体制における円滑な組織運営 ②児童並びに保護者に対する支援ニーズの把握と指導の充実 ③児童理解に基づいたきめ細かな支援及び保護者・外部機関との連携・協働の推進	①校内支援体制の構築 ②支援ニーズの把握と指導の充実 ③児童理解に基づいたきめ細かな支援と保護者との連携・協働の推進	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心とした組織運営及び体制作りを、今年一年をかけて確立してきた。次年度は二人体制をとって、更なる実用化を図っていく。 ②③同じく教育相談コーディネーターが中心にはなるが、児童個々の学習障害や児童指導的な問題や行動に対するアセスメントは、学級並びに授業担当者が行う中で、児童または必要に応じて保護者への支援を外部機関とつなぎながら行っている。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①学校でのきまりや暮らし方の指導を学校全体で計画的に進める</p> <p>②学校だより・保健だより・給食だより等を発行して積極的に啓発活動を進める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>各グループの担当が適切な話題を取りあげて進めることができ、保護者への啓発活動も保護者に理解されている。</p>	<p>①学校でのきまりや暮らし方の指導について、学校全体で計画的実践的に進める</p> <p>②学校だより・学年及び学級だより・保健だより・給食だより等を発行して、保護者への啓発運動を推進する(保護者と連携した児童の生活習慣の確立)</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学年会一児童指導部において観察・話し合いを進めてきた結果を、職員会議の中で進めてきた。生活のきまりや基本的な生活習慣の確立を図ることをねらいとするために、「沼間小スタンダード」となるものを、次年度を通じて創っていく計画である。</p> <p>②各お便りが定期的に発行されていたことで、学校の情報や共通理解を依頼することについて、確かな発信を果たすことができた。</p>	<p>①学校でのきまりや暮らし方の指導について、学校全体で計画的実践的に進める</p> <p>②毎朝の食事を摂ること(90%以上) 家族の一員としての役割を果たす</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①年間で三回、児童指導研究会全体においてアセスメントや指導結果を共有し、望ましい学校生活や学習規律について、話し合いを持つことができた。</p> <p>②児童を対象にした生活アンケートから、喫食率9割は超えていた。朝食の必要性や大切さにつき、各おたよりを通じて保護者に発信することができた。家族としての参画意識を持たせるために、お手伝いの大切さとそれを生活習慣化させていけるように発信することができた。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①各教科、総合的な学習の時間、外国語活動と連携を図りながら、計画的に道徳教育を進める</p> <p>②学校・家庭・地域が一体となったあいさつ運動を推進する</p> <p>③学校内の縦割り活動を通して異年齢交流を進める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①道徳教育への関心も高いが、教職員全員が適切な指導を進めていくために研修等を進め、共通理解を促したい。</p> <p>②あいさつ運動は校内での指導が反映されているが、定着するまでには至っていない。継続指導が望まれる。</p>	<p>①各教科、総合的な学習、外国語活動等と連携を図りながら、計画的に道徳教育を推進する</p> <p>②地域人材活用の授業実践(年間3回以上)</p> <p>③学校内の縦割り活動を通して、異年齢交流を通じて思いやりの心を育む</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①各教科並びに特別活動等との兼ね合いを考慮しながら、道徳教育を精力的に推進してきた。</p> <p>②4・5・6年生で、教科または生活指導の一環として取り扱うことができた。</p> <p>③特別活動を中心にして、その他多くの場面を通じて、縦割り活動の推進を果たすことができた。内容の更なる充実という意味では、再考の余地があることを共通認識している。</p>	<p>①各教科、総合的な学習、外国語活動等と連携を図りながら、計画的に道徳教育を推進する</p> <p>②地域人材活用の授業実践(年間5回以上)</p> <p>③学校内の縦割り活動を通して、異年齢交流を通じて思いやりの心を育む</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①各教科並びに特別活動等を通じて、計画的な道徳教育の推進を果たせた。</p> <p>②4・5・6年生を中心に、各教科並びに特別活動において、積極的に取り入れることができた。</p> <p>③特別活動を中心に縦割り活動が推進され、内容の改善及び充実が果たした。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①逗子の豊かな自然にふれ、自然の大切さを学ぶ自然体験学習を進める</p> <p>②集団宿泊体験を通して、互いのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、思いやりや信頼感を高める機会とする</p> <p>③校内において芸術鑑賞会を開催する</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>各学年とも意図的な取り組みを進め、豊かな体験活動が展開されている。</p>	<p>①集団宿泊体験を通して、互いのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、そして思いやりや信頼感を高める(自然体験活動、林間学校、修学旅行)</p> <p>②校内において、芸術鑑賞会や福祉体験を開催し、体験型学習の推進を図る</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①意図的・計画的な取り組みの末に、各学年とも確かなねらいを果たすことができ、それを通常の学級運営に活かすことができた。</p> <p>②学年の発達段階に応じた芸術系並びに福祉系の団体を招聘し、実体験ができる企画・推進ができた。</p>	<p>①集団宿泊体験を通して、互いのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、そして思いやりや信頼感を高める(自然体験活動、林間学校、修学旅行)</p> <p>②校内において、芸術鑑賞会や福祉体験を開催し、体験型学習の推進を図る</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①様々な場面において、仲間づくりの大切さを意識させ、より良い集団作りに努めた。特に高学年では林間学校や修学旅行を通して、仲間同士の深い絆ができた。</p> <p>②学年ごとに、芸術または福祉関係の観賞や学習会を設け、実体験をねらいにした計画を立て実行した。</p>
④ 食育と体づくり・健康教育の推進	<p>①健康教育を学校全体で推進する</p> <p>②食の指導に関する年間指導計画に基づいて食育を実施する</p> <p>③薬物乱用防止教育や安全教育を推進する</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>各学年とも意図的な取り組みを進めていることから、成果が感じられる。</p>	<p>①健康教育を学校全体で、計画的・系統的に推進する</p> <p>②食の指導に関する年間指導計画に基づいて、PTAと連携した食育指導の充実を実施する</p> <p>③薬物乱用防止等の教育や、安全教育を推進する</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①養護教諭からの「保健だより」を通じての発信、並びに保健委員会の活動を通じて、計画的な取り組みを果たすことができた。</p> <p>②栄養士並びに担当教諭が中心となり、生活の中における食の大切さについて、各学年に応じた教材や課題を提示して取り組むことができた。PTAとは給食の試食会で子どもたちの配膳の様子を参観し、学校給食への興味と理解を深めることができた。</p> <p>③薬物乱用については学年の発達段階に応じて、特別活動の中で取扱い、意識を高めることができた。安全教室は、インターネット、携帯電話、不審者対策というねらいで、それぞれ実施することができた。</p>	<p>①健康教育を学校全体で、計画的・系統的に推進する</p> <p>②食の指導に関する年間指導計画に基づいて、PTAと連携した食育指導の充実を実施する</p> <p>③薬物乱用防止等の教育や、安全教育を推進する</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①「保健だより」「学校だより」「学年・学級だより」等を通じて、計画的に健康管理に関する呼びかけを、児童並びに保護者に対して行った。</p> <p>②学校栄養士並びに担当教諭が中心となり、夏季休業期間に課題提示(献立作りや調理する)して、食の大切さが生活に大きな影響をもたらせていることを学習した。</p> <p>PTAとは給食試食会が恒例の企画として位置づいていて、学校給食への理解を深めることができていた。</p> <p>③各学年の発達段階に応じて、幅広い意味で薬物乱用を防ぐための指導を、授業を通じて行うことができた。</p> <p>安全教育については、インターネットやスマートフォンの適切な利用といったテーマで講師を招き、有意義な学習の場を設けることができた。</p> <p>不審者対策は日ごろから注意喚起を呼びかけるとともに、校内に不審者が侵入したらという実体験をする訓練を実施した。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 学校安全の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①学校防災計画に基づいた安全体制の整備 ②教職員、保護者による通学路の点検 ③自分の命は自分で守ることができるように安全への啓発活動を実施</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 防災アドバイザーを活用して安全教育の評価を進め、より良い計画案ができています。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①沼間小学校防災計画に基づいた、安全体制確立のために、地域と連携した組織運営の整備を図る ②不審者対策、安全教育の実施、災害用伝言ダイヤル171の訓練等の充実 ③自分の命は自分で守ることができるように、各学年の発達段階に応じた安全への啓発を高めていくようにする</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①小学校区における避難所運営会議並びに年に一回の訓練について、地域と連携した取り組みを推進することができた。 ②不審者安全対策については、校内における実地訓練並びに実体験型の安全教室(2・3年生を対象とした「スキップ」)を行った。防災ツールを増やすために、「災害用伝言ダイヤル171」に取り組んだ。次年度は3回の実施を計画している。 ③道徳・学級指導・特別活動等を通じ、命の大切さをもとにした自己防衛について意識を高めさせることができた。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①沼間小学校防災計画に基づいた、安全体制確立のために、地域と連携した組織運営の整備を図る ②災害用伝言ダイヤル171年間三回実施 ③自分の命は自分で守ることができるように、各学年の発達段階に応じた安全への啓発を高めていくようにする</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①過年度までにおける地域との取り組みに加え、本校の避難訓練に対して「合同・協働」という呼びかけを、学校だより等を通して行った。 ②災害があったときに、一つでも多くの連絡ツールを備えるために、今年度は2回実施ではあったが、内容の充実を果たすことができた。保護者が操作に慣れるというねらいから考えると、次年度は3回の実施できるようにしていく。 ③様々な教育活動を通じて、児童一人ひとりが自己の心身を守るために、命の尊さについて適宜指導してきた。</p>
② 問題行動等への対応の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①問題行動への組織的対応を図る ②定期的な実態把握に努めるとともに、早期発見・早期対応を進める ③教育ニーズの把握に努め、総合的な支援体制の確立を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 児童指導に関わる一次支援として、各学級とも学級を開き、スクールカウンセラーや、巡回指導員を積極的に受け入れて問題行動への対応を進めていることから、未然防止・早期対応が進められている。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①問題行動への組織的対応を図る(教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、心の教室相談員の効果的活用及び校内の教育相談体制の再検討) ②定期的な実態把握に努め、未然防止・早期発見・早期対応・早期解決、そして根絶を進める(生活アンケートの工夫と充実した活用) ③教育ニーズの把握に努め、総合的な支援体制の確立を組織的に図る(他機関との連携の充実)</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①校内における教育相談に関することとして、教育相談コーディネーターの位置づけと立ち回り、具体的な役割について、一年間を通して確立を図ることができた。次年度は二人体制を作ることで、更なる効率と実績を高めていくようにする。 ②児童指導部の中で生活アンケートの内容見直しは勿論のこと、記名方式を試みて実態把握の充実にも努めた。 ③支援体制の確立は、校外を含めた連携を積極的に執り行うことで、個に応じた総合的な見地に立った支援体制をとることができた。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①問題行動への組織的対応を図る(教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、心の教室相談員の効果的活用及び校内の教育相談体制の再検討) ②定期的な実態把握に努め、未然防止・早期発見・早期対応・早期解決、そして根絶を進める(生活アンケートの工夫と充実した活用) ③教育ニーズの把握に努め、総合的な支援体制の確立を組織的に図る(他機関との連携の充実)</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①問題行動を起こさない、起きたときの組織編制及び運営について、各担当者と密接で迅速な連携が図れるようになった。 教育相談コーディネーターの二人体制を、様々な教育活動の中で活かすことができた。 ②児童に対する日々の観察を大切にすることはもとより、児童指導部による「生活アンケート」の内容の見直し及び事後指導の活用について、工夫改善することができた。 ③児童の個に応じた学習及び生活ニーズについて、支援教育関係担当者が中心となった組織運営を推進した。</p>
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①担当者が年間計画を立てて進める ②小中9年間の学びの連続性に向けて情報交流を進める ③幼・保との連携では授業交流や行事での子ども同士の交流を推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 幼・保・小・中連携の意義は浸透し、継続し取り組みとなっている。今後は組織的な分掌として統合整理する方向で進めている。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①幼・小・中学校間で、教員の授業交流の実施 ②小・中9年間の学びの連続性に向けて、情報交流を進める ③幼・保との連携では、授業交流や行事における子ども同士の交流を推進することで、一連の流れのあるつながりを推進する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①各機関との連携は、行事の参観及び追跡調査といった形で取り組んできた。 ②沼間中との連携で、義務教育「9か年の学び作り」という点で、一小一中を利点とする連続性のある学び方について、その取り組みが夏季合同研修会において始まったところである。 ③毎年、本校に入学予定の大多である幼稚園・保育園児を招き、1年生がゲームや合唱等を行い、歓迎の意を表わす会を催している。本校からは、該当の保育園・幼稚園を訪れ、保育参観や情報交換を行っている。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①幼稚園・保育園・小学校・中学校間で、教員の授業交流の実施 ②小中9年間の学びの連続性に向けて情報交流の未だカリキュラムづくりを進める ③幼・保との連携では、授業交流や行事における子ども同士の交流を推進することで、一連の流れのあるつながりを推進する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった ③達成した</p> <p>成果と課題 ①授業並びに行事の参観を主に、積極的な交流を行った。 ②授業参観及び合同研修会(授業研究)を開き交流が盛んになったが、カリキュラム作りには至らなかった。 ③「ようこそ集会」という行事に、本校入学予定の園児を招くことが恒例となり、その一方で幼・保育園への参観に行き、新入生としての受け入れ態勢のために、入念な情報交換を行った。</p>
④ 国際教育の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①外国語活動を生かしコミュニケーション能力の育成を図る ②外国語活動ガイドラインに沿った授業の充実を図る ③IEA(国際教育指導助手)と協力して日常的な交流や教材開発を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 外国語活動の趣旨を理解した授業づくりが進んでいて、IEA(国際教育指導助手)と担任が連携・協力して児童の学ぶ意欲が向上してきている。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①外国語活動の中で異文化を理解しながら、他文化との共存を図るコミュニケーション能力の育成を図る ②IEA(国際教育指導助手)の有効活用のもとで、授業実践の充実を図る ③IEA(国際教育指導助手)と協力して、日常的な交流や新たな教材や題材の開発を進める</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①外国語活動の時間を通じて、毎時間において異文化理解を深める題材を扱い、コミュニケーション能力の必要性を大切にしながら取り組みを進めてきた。 ②③外国語活動の授業以外でも、全学年を通じて、IEA(国際教育指導助手)が授業並びに特別活動の時間に参画し、授業実践を進めることができた。 題材の共有化については、そのための手段・方法を考えていくことを課題として考えている。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①外国語活動の中で異文化を理解しながら、他文化との共存を図るコミュニケーション能力の育成を図る ②IEA(国際教育指導助手)の有効活用のもとで、授業実践の充実を図る ③IEA(国際教育指導助手)と協力して、日常的な交流や新たな教材や題材の開発を進める</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①外国語活動の主旨を大切に授業づくりを大切に、国際理解教育指導助手と連携したコミュニケーション能力の育成を推進した。 ②③外国語活動以外の教科並びに特別活動においても、国際理解教育指導助手と有効な教材や題材を作り、コミュニケーション活動中心の授業を推進した。</p>

【沼間小学校】

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	<p>①発達段階に応じたキャリア教育を実践する</p> <p>②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために各教科や体験学習等を有効に活用する</p> <p>③キャリア教育への保護者の理解を促す</p>	<p>①発達段階に応じたキャリア教育を、計画的・系統的に計画し実践する</p> <p>②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために、各教科や体験学習等を有効に活用する</p> <p>③学校行事並びに児童会活動の充実を図る</p>	<p>①発達段階に応じたキャリア教育を、計画的・系統的に計画し実践する</p> <p>②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために、各教科や体験学習等を有効に活用する</p> <p>③学校行事並びに児童会活動の充実を図る</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>いろいろな教育活動場面を活用してキャリア教育が進められている。特にゲストティーチャーを招いた授業ではキャリア教育の幅が広がっている。</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①各教科、特別活動並びに総合的な学習の中で、自己の将来について見つめ直したり、課題解決を目的とした取り組みをしたりすることができた。更なる具体的なキャリア教育として位置づけられるものを、模索しているところである。</p> <p>②各教科において、将来における職業観について見つめさせ、勤労観の大切さを学ばせてきた。体験学習については、一部の学年で実施することができた。</p> <p>③様々な学校行事を通して、児童会組織を中心とした活動の推進を果たすことができた。</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①②各教科、特別活動、総合的な学習等を通して、児童が自分の将来について見つめ課題解決を図ってきた。特に、ゲストティーチャーを招いた授業では、生きる力を育むための共通題材として実施することができた。</p> <p>③各学校行事において、児童会の組織運営を中心とした活動を行った。上級生が下級生をリードしていくことを基本に、各活動場面を指導してきた。</p>
行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	<p>①日常的に人を思いやる教育から始める</p> <p>②外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善を図る</p> <p>③社会福祉協議会と連携し、体験的な学習活動を推進する</p>	<p>①外部人材を活用して、各学年における年間計画の作成のもとで、指導方法の工夫改善を図る</p> <p>②社会福祉協議会と連携し、地域と協働した児童の体験的な学習活動を推進する</p>	<p>①外部人材を活用して、各学年における年間計画の作成のもとで、指導方法の工夫改善を図る</p> <p>②外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善及び充実を図る</p> <p>③社会福祉協議会と連携し、体験的な学習活動を推進する</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果と課題</p> <p>信頼に基づく指導を大切に取り組んでいることから、学級運営では人を思いやる教育が基本となっている。福祉学習における体験的な学習についても工夫して取り組んでいるが、学年によって今年度は、社会福祉協議会との連携事業を見送った学年もある。</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①教科並びに特別活動を通して、福祉に対する理解及び必要性について扱ってきている。指導方法の工夫・改善については、今後の課題としている。</p> <p>②社会福祉協議会との連携事業は、4・5・6年生で行うことができた。</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①②各教科、特別活動等を通じ、福祉教育について、理解・認識する必要性について扱った。学年の発達段階に応じた題材という点では、引き続き検討事項としていく。</p> <p>③社会福祉協議会との連携事業は、4・5・6年生を対象に実施した。</p>
行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	<p>①環境教育の推進に向けて、学年に応じた体験活動を進める</p> <p>②子どもたちの実践活動を通して、家庭や地域での環境に関わる理解を深める</p>	<p>①環境教育の推進に向けて、学年に応じた体験活動を計画的に推進する</p> <p>②子どもたちの実践活動を通して、地域と協働した環境学習を推進する</p>	<p>①環境教育の推進に向けて、学年に応じた体験活動を計画的に推進する</p> <p>②子どもたちの実践活動を通して、地域と協働した環境学習を推進する</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①家庭科や理科、総合的な学習で環境教育に取り組み、児童の意識改革が進んだ。</p> <p>②夏休みの課題として取りあげ、実践的な取組を進める等主体性も見られる。</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①特に、生活科、家庭科、理科、総合的な学習の時間等において、環境問題に対する興味・関心が高まった。</p> <p>②夏季休業期間中の課題として、各学年の発達段階に応じて、環境問題について考えさせ、自己の考えを持つように促した。地域との具体的な協働については、今後の課題として考えていく。</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①②ボランティアやゲストティーチャーによる体験型実践活動が、各教科並びに総合的な学習等において実施した。夏季休業期間中における環境問題に関する課題は、学年の発達段階に応じて行うことが定着した。</p>
行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	<p>①情報機器活用能力の育成に努める</p> <p>②情報リテラシーの育成や情報モラル教育に努める</p> <p>③情報機器を有効に活用し、授業効果を高める</p>	<p>①ICT(情報通信技術)機器を有効に活用し、教科指導及び様々な教育活動においてプレゼン能力を中心とした効果が果たせるよう努める</p> <p>②情報リテラシーの育成や、情報モラル教育に保護者を交えた理解の促進に努める</p>	<p>①ICT機器を有効に活用し、教科指導及び様々な教育活動においてプレゼン能力を中心とした効果が果たせるよう努める</p> <p>②情報リテラシーの育成や、情報モラル教育に保護者を交えた理解の促進に努める</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>・積極的に情報機器の活用は進められていることから、授業効果を高めることができています。</p> <p>・情報リテラシーや情報モラルについては基本的な指導は学校で行うが、家庭との連携を積極的に進めていきたい。</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①様々な授業において、ICT(情報通信技術)機器を活用した学習形態並びに児童の学習経過や結果を発表する場面として、機器の存在価値を果たす取り組みがなされていた。</p> <p>②特に情報モラルについては、各学年の中で適宜学習が進められている。外部講師を招いての情報教育は、今後は下の学年までを考えた計画が必要だと感じている。</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①各授業及び行事等において、ICT機器を活用した学習場面を増やし、児童が学習経過や結果について、発表する場面を大切にしている取り組みをした。</p> <p>②情報モラルについて、これまで以上に重要視した指導を、外部講師を招いた授業をし、学年並びに学校だより等を通して、保護者への理解と協力を求めた。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①年間通した学校状況の適切な公開を進める ②ホームページの更新を月1回程度とする ③地域と学校の相互理解が進むよう、コミュニケーションの場を大切にす</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題 学校だよりや学年だより等ではきめ細かな学校からの発信が進められたが、担当者が変わり月1回程度のホームページの更新は難しかった。今後は役割分担の引き継ぎを確認し、組織的な対応の継続を図る。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①学校だより、ホームページ等により、学校の情報を積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進 ②学校公開日を設定する中で、保護者及び地域との信頼関係を構築(5回以上設定)</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①顔の見える、間口を開いた学校をモットーにしていることから、本校における教育活動については諸機関を通じて、こまめに発信することができた。 ②今年度からの重点の一つとして取り組んできたが、少しずつ成果を上げることができている。保護者との人間関係の構築が、安定した学年・学級運営を推進していくこと並びに信頼関係の構築につながる根源であることを、共通認識することができた年であった。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①学校だより、ホームページ等により、学校の情報を積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進 ②学校公開日を設定する中で、保護者及び地域との信頼関係を構築(5回以上設定)</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①学校だより、保健だより、給食だより、学年だより等を通じて、学校の情報をタイムリーに発信し、信頼される学校づくりに努めた。今年度から隔週で、校長だよりを発行した。ホームページの更新については、校務支援システムの導入にともなう準備期間として、次年度から多数が携われるように分掌において研修を重ねてきた。 ②保護者並びに地域との信頼関係を深めていくために、常時、授業公開ができるようにした。</p>
② 地域教育力の活用	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①地域コーディネーターを活用して、開かれた学校支援地域本部事業を展開する ②学校支援ボランティアとの円滑なコミュニケーションに努める ③学校と地域との連携・協力関係のパイプを強くする</p> <p>(評価) ①:達成した ②:達成した ③:達成した</p> <p>成果と課題 学校支援ボランティアと適切なコミュニケーションができ、円滑な運用が進められている。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化 ②地域コーディネーターを活用した新たな人材発掘を進め、開かれた学校支援地域本部事業を展開する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①多くの見守りの手を感じる。本校の学校運営状況であり、諸機関の連携は密接に機能していた。 ②新たな人材発掘については、人員の増員ということで各機関の強化を果たすことができた。学校支援地域本部の取り組みについては、子どもたちの生活環境整備並びに学習効果の効率を上げるために、広範囲における活動の足跡を残すことができた。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化 ②地域コーディネーターを活用した新たな人材発掘を進め、分野別に役割分担を果たしていく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①諸機関の協力と連携を、密に機能させることができた。特にPTAとの連携は、保護者からの情報収集手段として活かされた。 ②学校のニーズに対し、地域コーディネーターが人材発掘及び活用を円滑に進めてきて、学校との連携事業が行われている。</p>
③ 学校評価を生かした 学校の改善	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①重点を絞った目標設定をして取り組む ②子どもたちの姿を通して学校改革・改善を進める ③学校評議員、学校関係者評価委員の学校理解を進め、積極的な支援を活用して学校改善を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ① 学校評価について職員の理解が進みつつあり、保護者や児童アンケートの結果を分析的に見て活用しようとしてきた。 ②学校評議員や学校関係者評価委員の学校理解が進み、現状把握と学校改善への提言が活用されるものとなってきている。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①重点を絞った目標設定に対して具体的な取り組みを進める ②学校評議員、学校関係者評価委員による学校理解を進めることによって、学校改善に対して積極的なアクションを起こしていく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①保護者との人間関係の構築のために、懇談機会を増やすことをはじめとして、年度当初に重点行動目標としたことについて、意識的に結果を残せるよう取り組めた。 ②学識経験者からは授業アドバイス、学校評議員及び地域教育協議会の方からは、読み聞かせをはじめとする様々なボランティアという形で、学校運営の改善に対して積極的な参加を果たしてもらった。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①重点を絞った目標設定に対して具体的な取り組みを進める ②学校評議員、学校関係者評価委員による学校理解を進めることによって、学校改善に対して積極的なアクションを起こしていく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①本校における教育活動の中で重点とする項目について、主に前・後期の二回、自己評価シートを作成・活用し、教職員全体で振り返りをしてきた。 ②第三者評価を大切に、学校運営に反映させてきた。特に学識経験者からは、学校運営に係る様々な具体的なアドバイスを受けて、それについてアクションを起こしてきた。</p>

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①授業研究の日常化をめざす ②外部講師を招聘し、授業研究を開いた形で進める ③授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 本校の学校文化として授業づくりは定着している。今年度も積極的に専門的な講師を招聘し進めていて、参加職員の満足度も高い。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①授業研究の日常化(毎日が参観日)を目指す ②外部講師を招聘し活用した、授業研究の実践を進める ③授業研究を公開(年間二回以上)し、学校内におけるの実践交流を進める ④学年ブロックを中心とした、授業研究の推進</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題 ①校長及び教頭はもちろんのこと、教育相談コーディネーター、うるおいフレンド、そして授業準備時間等を利用して、お互いの授業公開に努めていた。保護者に対しては、必要に応じて積極的な公開を行っていたが、どの学年でいつでもという体制を作るには、様々な条件整備が必要である。 ②逗子市委託研究Ⅰに取り組みすることで、スーパーバイザーを指導・助言の柱にして、充実した授業実践を果すことができた。 ③指導案を添えて前後期を通じて一回ずつ以上、全体に呼びかけた授業公開を行うことができた。 ④校内研究を推進していくための基盤として、三つの学年ブロックを中心とした取り組みを進めてきた。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①授業研究の日常化(毎日が参観日)を目指す ②外部講師を招聘し活用した、授業研究の実践を進める ③授業研究を公開(年間二回以上)し、学校内におけるの実践交流を進める ④学年ブロックを中心とした、授業研究の推進</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題 ①④お互いに授業を見合うことを大切に、授業準備時間等を利用して参観することが日常化している。授業づくりという点では、本校の伝統的な文化が定着している。授業づくりを四ブロック編成で行い、研究体制の基盤を作った。 ②逗子市委託研究Ⅰの総括の年であったこともあり、スーパーバイザーを有効活用し、大きな実績を上げることができた。 ③指導案を添えた公開授業を、各自が年間2回以上行った。校長、教頭、教育指導教員が、それぞれの指導・助言にあたることで定着した。</p>
② 授業評価の活用	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①学習状況調査の分析を活用する ②研究授業では授業評価も含めた観点から外部講師による指導助言を図る ③子どもの授業後の振り返りを活用した授業評価を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 授業評価の活用については児童の特性を生かし、視点を与えた感想記入等でも授業評価として活用している。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①学習状況調査の分析を活用する ②保護者及び関係諸氏の評価を受けることで、授業実践の見直しを図る ③子どもの授業評価と教員相互による授業評価の実施と、それにとりまう授業改善</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①学状の結果が出た後に、早い段階で全体及び児童個々についての分析を済ませて、事後の指導に活かすことができた。 ②スーパーバイザーからの指導・助言を得て、その結果を授業改善に活かすことができた。保護者からの意見や感想を拾い上げるために、感想用紙を用意して記入を求めて振り返りをする事ができた。 ③校内研究及び児童からは視点を絞った質問項目に対して記入方式で授業評価を得て、授業改善へとつなげていくことができた。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①学習状況調査の分析を活用する ②保護者及び関係諸氏の評価を受けることで、授業実践の見直しを図る ③子どもの授業評価と教員相互による授業評価の実施と、それにとりまう授業改善</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①調査結果を速やかに分析し、本校の児童の学習実態などを検証し、児童及び保護者に対して事後に活かしていった。 ②校内研究のスーパーバイザーを中心として、学校関係者評価委員、学校評議員等からの指導・助言・感想を、授業改善に活かした。 保護者からのアンケート結果を受けて振り返りをする、本校の児童に対する学力向上につながる授業づくりや指導法について研究を進めてきている。 ③仲間づくり、集団づくりを基盤にして、子どもたち同士で学ぶ授業づくりを目指した。授業者のねらいと子どもたちの授業評価を、その後の授業改善に活かした。本校の児童の実態に相応しい授業づくりを、今後も模索していく。</p>
③ 研修事業の充実	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①校内研修体制を構築し、積極的に研修を進める ②児童理解、授業づくり等では学年会を日常的な研修の場としていく ③公開授業研究会等の研修の機会を生かし、期を逃さずに積極的な取り組みを促す</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 本校の学校文化として授業づくりは定着している。今年度も積極的に専門的な講師を招聘して進めている。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①校内研修体制を構築し、積極的に研修を進めることによる人財育成 ②児童理解、授業づくり等では、学年会を日常的な研修の場としていく ③校内人財育成の強化(メンター・メンティー、B・Sの関係を位置づける)</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①学習研究部、低・中・高学年ブロックを中心として、スーパーバイザーを交えた校内研究会を通じた組織運営の基盤を確立することができた。研究授業者は勿論だが、研究会の司会や発表を通じて、幅広い年齢層に渡って組織内で人財育成を果すことができた。 ②本校における仕事の基本スタイルとして、日々のライフワークとして定着している。 ③自己観察書の面接の折に、キャリアプランを含めてメンタリングやB・S(ブラザー & シスター)関係のことを話題提示し、人財育成の効率化を図ることができた。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①校内研修体制を構築し、積極的に研修を進めることによる人財育成 ②児童理解、授業づくり等では、学年会を日常的な研修の場としていく ③校内人財育成の強化(メンター・メンティー、BS(Brother and Sisiter)の関係を位置づける)</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①委託研究Ⅰの二年目ということもあり、昨年度から編成した四ブロック体制を基盤にして、学習研究部が全体を統括している。授業力向上に向けた研修体制が、人財育成に大きく機能している。 ②学年会並びにブロック会で、授業づくりや児童理解、学年・学級運営について研修していくことは、日常的なこととなっている。 ③自己観察書の面接時を中心に、BS(Brother and Sisiter)制やメンタリングのことについてはキャリアプランを交えて話題提示して、人財育成の効率を高めた。</p>

平成25年度～平成27年度 学校による点検及び評価の推移(久木小学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実	
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実	<p>行動プラン</p> <p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①単元計画に基づき、毎時間の授業展開の工夫改善を図る ②少人数指導、チームティーチング、小集団等、多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図る</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①単元計画に基づき、毎時間の授業展開の工夫改善を図る ②少人数指導、チームティーチング、小集団等、多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図る</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①単元計画に基づき、毎時間の授業展開の工夫改善を図る ②少人数指導、チームティーチング、小集団活動等、多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図る</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①継続的な課題であり、取り組みを続けたい。 ②児童の学力向上に取り組むべく、学習形態の工夫、スクールライフサポーターなどを活用し基礎学力の定着を図った。人的環境の充実を望む。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①継続的な課題であり、引き続き取り組みを続けたい。 ②児童の学力向上に取り組むべく、単元の中においても学習集団の実態に合わせ、チームティーチングや少人数指導などを効果的に取り入れ、基礎・基本の定着を目指した。本校児童の学習の定着状況を確認し、課題がどの学年の何に起因しているかを全職員で調査研究した(算数)。これは、本校の教育課程を編成する上においても、また、校内研究(算数)を推進する上においても非常に重要な資料となっている。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①継続的な課題であり、引き続き取り組みを続けたい。 ②児童の学力向上に取り組むべく、単元の中においても学習集団の実態に合わせ、チームティーチングや少人数指導などを効果的に取り入れ、基礎・基本の定着を目指した。昨年度の調査に基づき、学年内で取り組みを進めた。</p>
② 「読解力」向上の取り組みの推進	<p>行動プラン</p> <p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①国語科、各教科、道徳、総合的な学習の時間を通して、言語活動の充実を図る</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①国語科、各教科、道徳、総合的な学習の時間を通して、言語活動の充実を図る</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①国語科、各教科、道徳、総合的な学習の時間を通して、言語活動の充実を図る</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①各教科・領域において言語活動の充実を目指す授業づくりを進めた。特に、校内研究において算教科に取り組み、授業実践を通し研究を深めた。次年度も継続する。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①各教科・領域において言語活動の充実を目指す授業づくりを進めた。校内研究においては、昨年度に引き続き、授業実践を通して研究を進めてきた。上記「①成果と課題」の調査結果(算数)からは、低学年の読解力や理解力、文章理解力、経験域の狭さなども課題として挙がってきている。言語活動の充実を図るためにも、低学年指導の在り方についても考えていきたい。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①言語活動の充実が学力を高める手段であって目標ではないが、重要な事柄であるとの認識に基づき、校内研究において取り組んでいる。</p>
③ 読書活動の推進	<p>行動プラン</p> <p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①読書活動推進全体計画に基づき、児童の成長を踏まえた指導の充実を図る ②司書教諭、学校図書館指導員、学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する ③お話会による読み聞かせ等の活動を行う</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①読書推進活動全体計画に基づき、児童の成長を踏まえた指導の充実を図る ②司書教諭、学校図書館指導員、学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する ③お話会による読み聞かせ等の活動を行う</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①読書推進活動全体計画に基づき、児童の成長を踏まえた指導の充実を図る ②司書教諭、学校図書館指導員、学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する ③お話会による読み聞かせ等の活動を行う</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①計画通り実施できた。引き続き、学年に応じた読書指導の充実を目指していきたい。 ②児童の間に読書活動が定着している。図書委員会の活動も自主性を増している。 ③学年の実態に応じた内容を設定することができた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①計画通り実施することができた。引き続き、学年に応じた読書指導の充実を目指したい。 ②朝読書の割合も増え、児童の間に読書活動が定着している。図書委員会の活動がより主体的になってきている。 ③学年の実態に応じた内容を設定することができた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①計画通り実施することができた。引き続き、学年に応じた読書指導の充実を目指したい。 ②朝読書が定着している。図書委員会の活動がより主体的になってきており、図書ボランティアは後期から入る必要はなくなった。 ③学年の実態に応じた内容を設定することができた。</p>
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	<p>行動プラン</p> <p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちの教育的ニーズに応じ、具体的な支援を行う。 ②教育研究所、子育て支援課、児童相談所等の外部機関と連携を深める。 ③幼・保・小・中連携を深め、情報交換を密にする。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちの教育的ニーズに応じ、具体的な支援を行う ②教育研究所、子育て支援課、児童相談所等の外部機関と連携を深める ③幼・保・小・中連携を深め、情報交換を密にする</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちの教育的ニーズに応じ、具体的な支援を行う ②教育研究所、子育て支援課、児童相談所等の外部機関と連携を深める ③幼・保・小・中連携を深め、情報交換を密にする</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①定期的に児童を見取り、情報共有を行い、必要に応じてケース会議等を設定することができた。引き続き、児童・保護者への支援や対応の充実を図りたい。 ②支援教育推進巡回指導員・スクールカウンセラーと連携し、支援に役立てることができた。 ③特に、幼稚園・保育園、療育相談との連携を深めることができた。今後継続していきたい。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①定期的に児童や学習集団を見取り、情報共有を行い、必要に応じてケース会議等を設定し、具体的な対応について検討することができた。ケース会議を定期的に実施することで、児童の変容や課題などを確認し、保護者の理解を得ることにつながる事案もあった。 ②巡回相談員・スクールカウンセラーと連携し、支援に役立てることが出来た。 ③幼稚園、保育園、療育相談との連携を深めることが出来た。中学進学に向け、中学校と定期的に連携を図ることが出来た。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①課題を抱えた児童等については定期的に、突発的な事案については適宜、情報共有を行い、必要に応じてケース会議等を設定し、具体的な対応について検討することができた。ケース会議を定期的に実施することで、児童の変容や課題などを確認し、保護者の理解を得ることにつながる事案もあった。また、巡回指導員・スクールカウンセラーにつなげることができた。 ②支援教育推進巡回指導員・スクールカウンセラーと連携し、支援に役立てることが出来た。児童相談所・子育て支援課とも連携が進んでいる。 ③幼稚園、保育園、療育相談室との連携を深めることが出来た。中学進学に向け、中学校と定期的に連携を図ることが出来た。</p>

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①学級指導の中で基礎的な生活習慣等の指導を行う</p> <p>②学校・保健だより等を通して情報を発信する</p> <p>③学級懇談、個人面談等の機会を利用し、保護者と連携した取り組みを進める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①全職員の一致した取り組みが重要である。特に、全校集会での話の聞き方の向上が見られた。日常的な指導の継続の必要を感じる。</p> <p>②学校だより、保健だよりなどの通信は、実態に応じ計画的・意図的に発行することができた。</p> <p>③各クラスで取り組んだ。保護者の理解には差があり、一層の努力を必要とする。</p>	<p>①学級指導の中で基礎的な生活習慣等の指導を行う</p> <p>②学校・保健だより等を通して情報を発信する</p> <p>③学級懇談、個人面談等の機会を利用し、保護者と連携した取り組みを進める</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①全職員の一致した取り組みが重要である。全校集会での話の聞き方に児童の成長がみられる。各学級においては、担任が必要に応じ、現状に合った指導を丁寧に繰り返してきたことの成果が出てきたと感じる。</p> <p>②学校だより、保健だより、学校ホームページなどの情報発信は、意図的効果的に行うことが出来た。</p> <p>③各クラスで取り組んだ。保護者の理解には差があるので、引き続き、担任の思いが伝わる、保護者の思いを受け止める、丁寧な連携を意識していきたい。</p>	<p>①学級指導の中で基礎的な生活習慣等の指導を行う</p> <p>②学校・保健だより等を通して情報を発信する</p> <p>③学級懇談、個人面談等の機会を利用し、保護者と連携した取り組みを進める</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①各学級において、担任が必要に応じ、現状に合った指導を丁寧に繰り返してきたことの成果が出てきている。基礎的な生活習慣の確立については家庭との連携を今まで以上に進めていきたい。</p> <p>②学校だより、保健だより、学校ホームページなどの情報発信は、効果的に行うことが出来た。</p> <p>③保護者の理解には差があるので、引き続き、実態に応じた対応を図って行きたい。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う</p> <p>②日常のあいさつを心掛けたり、コミュニケーションを深めたりする取り組みを行う</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題</p> <p>①道徳教育の全体計画に基づき、日常化を目指す取り組みが進んだ。</p> <p>②朝会、学級指導等を通して取り組んだ。日常化を図るべく、保護者・地域の協力を得ながら継続していきたい。</p>	<p>①道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う</p> <p>②日常のあいさつを心掛けたり、コミュニケーションを深めたりする取り組みを行う</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①道徳教育の全体計画に基づき、日常化を目指す取り組みを進めることが出来た。</p> <p>②朝会、学級指導等を通して取り組んだ。以前よりあいさつの声が聞こえるようになってはきた。更なる日常化を図るべく、保護者・地域の協力を得ながら継続した取り組みをしていきたい。</p>	<p>①道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う</p> <p>②日常のあいさつを心掛けたり、コミュニケーションを深めたりする取り組みを行う</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①道徳教育の全体計画に基づき、日常化を目指す取り組みを進めることが出来た。また、道徳の教科化について教員で情報共有を図った。</p> <p>②「学校づくりアンケート」ではあいさつについて、保護者・児童とも「できている」との評価が高かった。更なる日常化を図るべく、保護者・地域の協力を得ながら継続した取り組みをしていきたい。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①稲作り、大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う</p> <p>②キャンプ、修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学習支援ボランティアを活用し、体験学習に取り組んだ。稲作、大豆づくり、味噌作りは、久木小の体験学習として位置づいている。継続的な取り組みを大切にしていきたい。</p> <p>②計画通り実施することができた。特別活動の改善点である「よりよい人間関係を築く力」「本物の自然や文化の価値や大切さを実感する機会」を意識し、一層の活動の充実を図りたい。</p>	<p>①稲作り、大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う</p> <p>②キャンプ、修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学習支援ボランティアを活用し、体験学習に取り組んだ。稲作、大豆づくり、味噌作りは、久木小の体験学習として位置づいている。継続的な取り組みを大切にしていきたい。</p> <p>②計画通り実施することが出来た。特別活動の改善点である「よりよい人間関係を築く力」「本物の自然や文化の価値や大切さを実感する機会」を意識し、一層の活動の充実を図りたい。</p>	<p>①稲作り、大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う</p> <p>②キャンプ、修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学習支援ボランティアを活用し、体験学習に取り組んだ。稲作、大豆づくり、味噌作りは、久木小の体験学習として位置づいている。継続的な取り組みを大切にしていきたい。</p> <p>②林間学校の取り組みについて、今年度、検討委員会を立ち上げて再検討を行い、教育課程上の課題について今後取り組んでいことを確認した。</p>
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	<p>①保健安全年間計画、給食指導年間計画等に基づいた指導を進める</p> <p>②校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①計画通りに実施することができた。</p> <p>②芝を植えることで土壌の改良が進み、水はけが良くなっている。芝の管理は、地域の教育力を活用し、保護者・地域を中心に対応を図ることができた。年間を通した芝の定着を目標としたい。</p>	<p>①保健安全年間計画、給食指導年間計画等に基づいた指導を進める</p> <p>②校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①計画通りに実施することが出来た。</p> <p>②芝の管理は、地域の教育力を活用し、保護者・地域を中心に対応を図ることが出来た。校庭のどの場所が芝の定着率が高いかなどの研究を重ねた。結果、校舎に沿ったところをグリーンベルトにすることが効果的であること、3月下旬に植えた芝が定着すれば、約半年緑の芝の中で教育活動を行えることなどの予測を持つことが出来た。次年度は、検証し方向性をまとめていきたい。</p>	<p>①保健安全年間計画、給食指導年間計画等に基づいた指導を進める</p> <p>②校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①計画通りに実施することが出来た。</p> <p>②芝の管理は、地域の教育力を活用し、保護者・地域を中心に対応を図ることが出来た。次年度以降は、今年度、教育総務課と確認したことを踏まえて取り組みを進めて行きたい。</p>

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 学校安全の推進	<p>①防犯教室、不審者対応訓練を行い、子どもたち、教職員の防犯意識を高める</p> <p>②PTA、地域パトロール体制と連携し、子どもの安全確保に取り組む</p> <p>③防災アドバイザーによる地域の状況確認と防災・減災の在り方について検討を進める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①年間計画通り訓練等を実施した。継続的指導により防犯意識を高めた。</p> <p>②地域と連携した取り組みは継続している。PTA予算から学校用備蓄品(水、ビスケットなど)を購入し、教室棟屋上入口に保管することができた。</p> <p>③防災アドバイザーを活用し、防災体制の見直しを図った。それにより、震度5弱以上(津波警報)の際の避難について確認することができた。引き続き、防災体制について研究・検討及び整備を図ってきたい。</p>	<p>①防災教育年間計画の作成に取り組む</p> <p>②防犯教室、不審者対応訓練を行い、子どもたち、教職員の防犯意識を高める</p> <p>③PTA、地域パトロール体制と連携し、子どもの安全確保に取り組む</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①これまで行ってきた避難訓練や引取り訓練などを見直し、年間を見通した「防災教育年間計画」としてまとめた。この中には、授業との関連や防災意識を育てるためのオリエンテーションなども組み入れた。次年度、実施しながら検証・研究を進めたい。</p> <p>②年間計画通りに訓練等を実施した。継続的指導により、児童の防犯意識を育てたい。</p> <p>③地域と連携した取り組みは継続している。特に、見守り隊の地道な活動により地域の防犯意識が高まっていると感じる。児童には「自分の命は自分で守る」意識を育てるべく、PTA・地域との連携をさらに進めていきたい。</p>	<p>①防災教育年間計画の作成に取り組む</p> <p>②防犯教室、不審者対応訓練を行い、子どもたち、教職員の防犯意識を高める</p> <p>③PTA、地域パトロール体制と連携し、子どもの安全確保に取り組む</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①前年度作成した「防災教育年間計画」に従い計画的に取り組んだ。</p> <p>②年間計画通りに訓練等を実施した。継続的指導により、児童の防犯意識を育てたい。</p> <p>③地域と連携した取り組みは継続している。今年度は、近隣の保育園との連携を進めることができた。</p>
② 問題行動等への対応の推進	<p>①「久木小学校いじめ防止基本方針」に基づいた指導の充実を図る</p> <p>②教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図り、子どもや保護者のニーズに具体的支援が行えるよう努めていく</p> <p>③外部機関やスクールカウンセラー、巡回指導員等との連携を深める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①基本方針に基づいた指導を実践した。</p> <p>②ケース会議等を踏まえ、課題を抱える児童(保護者)への対応を進めることができた。校内での共通理解も進んだ。</p> <p>③巡回相談員、スクールカウンセラー等を活用し、児童支援を進めることができた。今後も一層の連携を図りたい。</p>	<p>①「久木小学校いじめ防止基本方針」に基づいた指導の充実を図る</p> <p>②教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図り、子どもや保護者のニーズに具体的支援が行えるよう努めていく</p> <p>③外部機関やスクールカウンセラー、巡回相談員等との連携を深める</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①基本方針に基づいた指導を実践した。</p> <p>②ケース会議等を踏まえ、課題を抱える児童(保護者)への対応を進めることが出来た。校内での共通理解も進んだ。</p> <p>③支援教育推進巡回指導員、スクールカウンセラー等を活用し、児童支援を進めることが出来た。必要な時にケース会議を持つことや、定期的に振り返りを行い、短期・中期目標を確認するなどが定着してきたと感じる。今後も一層の連携を図りたい。</p>	<p>①「久木小学校いじめ防止基本方針」に基づいた指導の充実を図る</p> <p>②教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図り、子どもや保護者のニーズに具体的支援が行えるよう努めていく</p> <p>③外部機関やスクールカウンセラー、巡回相談員等との連携を深める</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①基本方針に基づいた指導を実践した。</p> <p>②ケース会議等を踏まえ、課題を抱える児童(保護者)への対応を進めることが出来た。校内での情報共有・共通理解も進んだ。</p> <p>③支援教育推進巡回指導員、スクールカウンセラー等を活用し、児童支援を進めることが出来た。必要な時にケース会議を持つことや、定期的に振り返りを行い、短期・中期目標を確認するなどが定着してきたと感じる。今後も一層の連携を図りたい。</p>
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<p>①小・中の連携を目指し、協議しながら取り組みを進める</p> <p>②幼稚園・保育園と連携した、支援教育に取り組む</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①中学校教諭による6年各クラスでの授業(算数・外国語・体育)を2月ごろに行ったり、夏休みにバレーボールとバドミントンの部活体験を実施したりした。また、中学校教諭の学校参観による児童理解なども実施することができた。</p> <p>②新入学児童を迎える集会を開いたり、各幼稚園・保育園への参観など、職員交流の手立ての充実を図った。</p>	<p>①小・中の連携を目指し、協議しながら取り組みを進める</p> <p>②幼稚園・保育園と連携した、支援教育に取り組む</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①複数回にわたる小学校の授業見学、小学校の朝会で生徒が合唱発表、中学校教諭の6年生出前授業、夏休み中の部活体験など、年間を通して連携を深めることが出来た。</p> <p>②新入学児童を迎える集会を開いたり、各幼稚園・保育園へ参観したりするなど、職員交流の手立ての充実を図った。</p>	<p>①小・中の連携を目指し、協議しながら取り組みを進める</p> <p>②幼稚園・保育園と連携した支援教育に取り組む</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①複数回にわたる小学校の授業見学、中学校教諭の6年生出前授業、夏休み中の部活体験など、年間を通して連携を深めることが出来た。</p> <p>②新入学児童を迎える集会を開いたり、各幼稚園・保育園へ参観したりするなど、職員交流の手立ての充実を図った。</p>
④ 国際教育の推進	<p>①小学校外国語活動の授業を通し、コミュニケーション能力の育成を図る</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)の効果的活用を図る</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①逗子市外国語活動ガイドラインに基づいて、外国語活動の実践に取り組んだ。</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)とのコミュニケーションに努め、より良い指導を考えることができた。課題は、IEA(国際教育指導助手)が毎年替わってしまうことである。</p>	<p>①小学校外国語活動の授業を通し、コミュニケーション能力の育成を図る</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)の効果的活用を図る</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成できなかった</p> <p>成果と課題</p> <p>①逗子市外国語活動ガイドラインに基づいて、外国語活動の実践に取り組んだ。</p> <p>②昨年度とは違う形でIEA(国際教育指導助手)が配置されたこともあり、これまで以上に、IEA(国際教育指導助手)とコミュニケーションを取りながら外国語活動を進めていくことに困難があった。次年度は、今年度の課題を踏まえてより良い連携を図ることが出来るよう努めたい。</p>	<p>①小学校外国語活動の授業を通し、コミュニケーション能力の育成を図る</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)の効果的活用を図る</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①逗子市外国語活動ガイドラインに基づいて、外国語活動の実践に取り組んだ。</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)とのコミュニケーションに努め、より良い指導を考えることができた。課題は、IEA(国際教育指導助手)が毎年替わってしまうことである。今年度、教員とIEA(国際教育指導助手)との間で構築した関係を、また次年度は一からはじめなければならない。</p>

【久木小学校】

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	<p>①子どもの発達段階に応じたキャリア教育の在り方について研究・実践を図る ②教育活動全般を通じて、児童が自尊感情を高め、より良い人間関係を築くことに努める</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①社会科や生活科、総合的な学習の時間等の中で、ゲストティーチャーを招いて実践することができた。 ②教育活動全般を通し、全職員で全児童を育てる視点を持って指導に当たることができた。日常的な取り組みの継続が必要と感じている。</p>	<p>①子どもの発達段階に応じたキャリア教育の在り方について研究・実践を図る ②教育活動全般を通じて、児童が自尊感情を高め、より良い人間関係を築くことに努める</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①社会科や生活科、総合的な学習の時間等の中で、ゲストティーチャーを招いて実践することが出来た。 ②教育活動全般を通し、全職員で全児童を育てる視点を持って指導に当たることが出来た。今後も、日常的な取り組みの継続が必要と感じている。</p>	<p>①子どもの発達段階に応じたキャリア教育の在り方について研究・実践を図る ②教育活動全般を通じて、児童が自尊感情を高め、より良い人間関係を築くことに努める</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①社会科や生活科、総合的な学習の時間等の中で、ゲストティーチャーを招いて実践することが出来た。 ②教育活動全般を通し、全職員が共通理解をして「キャリア教育」の視点を持ちながら指導に当たることができたと自信を持って言えない。今後も、日常的な取り組みの継続が必要と感じている。</p>
行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	<p>①福祉学習年間計画をもとに、教科・総合的な学習の時間等を通して、福祉学習に取り組む ②社会福祉協議会との連携を図り、福祉教育の推進を図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①年間指導計画に基づき、取り組みを行った。次年度も継続して取り組みたい。 ②福祉学習(車いす介助体験学習など)の計画・実施に関わって連携を図ることができた。今後も連携を続けたい。</p>	<p>①福祉学習年間計画をもとに、教科・総合的な学習の時間等を通して、福祉学習に取り組む ②社会福祉協議会との連携を図り、福祉教育の推進を図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①年間指導計画に基づき、取り組みを行った。次年度も継続して取り組みたい。 ②福祉教育の計画・実施に関わって連携を図ることが出来た。</p>	<p>①福祉学習年間計画をもとに、教科・総合的な学習の時間等を通して、福祉学習に取り組む ②社会福祉協議会との連携を図り、福祉教育の推進を図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①年間指導計画に基づき、取り組みを行った。担当者が適宜、取り組みについて声をかけていた。次年度も継続して取り組みたい。 ②社会福祉協議会の計画・実施に関わって連携を図ることが出来た。</p>
行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	<p>①教科・総合的な学習の時間等を通して、環境学習に取り組む ②逗子市の施策(グリーンカーテン等)を環境教育に生かす</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①総合的な学習全体計画に基づき、各学年で取り組むことができた。 ②地域の方々と連携し「いのちの森事業」に取り組んだ。</p>	<p>①教科・総合的な学習の時間等を通して、環境学習に取り組む ②逗子市の施策(グリーンカーテン等)を環境教育に生かす</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①総合的な学習全体計画に基づき、各学年で取り組むことが出来た。 ②今年度もグリーンカーテンを育てることで、環境教育の一助と成すことが出来た。</p>	<p>①教科・総合的な学習の時間等を通して、環境学習に取り組む ②逗子市の施策(グリーンカーテン等)を環境教育に生かす</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①総合的な学習全体計画に基づき、各学年で取り組むことが出来た。 ②今年度もグリーンカーテンを育てることで、環境教育の一助と成すことが出来た。</p>
行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	<p>①発達段階に応じた情報機器操作内容を明確にし、情報機器活用能力の育成を図る ②情報リテラシーの育成に向けて、パソコン環境の整備を行うとともに、情報モラルの育成も図る</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題 ①情報教育指導計画(全体計画)に基づいた指導を継続することで、全校の児童への指導の確実な定着をめざしたい。 ②情報教育担当者を中心に、総合的な学習の時間を通して取り組んでいる。次年度への継続課題としたい。</p>	<p>①情報教育指導計画をもとに情報教育に取り組む ②情報リテラシーの育成に向けて、パソコン環境の整備を行うとともに、情報モラルの育成も図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①情報教育指導計画に基づいた指導を実践した。 ②「携帯やスマートフォンに係る光と影」など、今日的課題について校内で十分課題共有し、指導に当たる必要があると感じている。次年度への継続課題としたい。</p>	<p>①情報教育指導計画をもとに情報教育に取り組む ②情報リテラシーの育成に向けて、パソコン環境の整備を行うとともに、情報モラルの育成も図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①情報教育指導計画に基づいた指導を実践した。 ②携帯やスマートフォンに関する課題など、校内で十分課題共有し、指導に当たるところまでは行かなかった。次年度への継続課題としたい。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	①地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める ②学校だよりやホームページ等で、学校の情報を広く伝える (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①地域教育協議会の運営が円滑に進められた。学校への理解・協力が進んでいると感じる。継続して取り組みたい。 ②学校だよりを地域に回覧することにより、本校の教育活動等の理解が地域にも広がってきたと感じる。ホームページの更新を定期的に行うことができなかったため、次年度に向けて改善を図りたい。	①地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める ②学校だよりやホームページ等で、学校の情報を広く伝える (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①地域教育協議会の運営が円滑に進められた。学校への理解・協力が進んでいると感じる。継続して取り組みたい。 ②学校だよりを地域に回覧し始めて1年半が経つ。以前に比べ、本校の教育活動等への理解が地域にも広がってきたと感じる。更に、今年度に入りホームページの更新を週に数回行ってきた。本校の教育活動を確認する保護者も増えてきていると感じる。また、災害時には、ホームページからそれに関わる情報を取ることが出来るようにトップページに工夫を施した。今後も、更なる改善を図り、適切な情報公開を目指したい。	①地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める ②学校だよりやホームページ等で、学校の情報を広く伝える (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①地域教育協議会での取り組みの結果、学校への理解・協力が進んでいると感じる。継続して取り組みたい。 ②学校だよりを地域に回覧し始めて本校の教育活動等への理解が地域にも広がってきたと感じる。次年度に向けて、ホームページが市全体で変わることで、今後も、更なる改善を図り、適切な情報公開を目指したい。
② 地域教育力の活用	①久木小サポーターシステムを活用し、学習支援、学校環境整備支援活動を進める ②校庭の芝生管理等の作業をサポーターシステムの協力を得て行う (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①大豆作り、味噌作り、稲作は継続して取り組んだ。教職員と保護者・地域とのコミュニケーションを目的とした「わくわくフェスティバル」は、大盛況で目的を十分果たすことができたと感じる。次年度も実施したい。 ②課題は多いが、地域との協力・連携は十分に取れるようになっている。維持管理に関わって、より良い方法の研究・試行を進めたい。	①久木小サポーターシステムを活用し、学習支援、学校環境整備支援活動を進める ②校庭の芝生管理等の作業をサポーターシステムの協力を得て行う (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①大豆作り、味噌作り、稲作は継続して取り組んだ。教職員と保護者・地域とのコミュニケーションを目的とした「わくわくフェスティバル」は、毎年参加者も多く、目的を十分に果していると感じる。 ②課題は多いが、地域の協力・連携は十分である。維持管理等々に関わって、より良い手立ての研究・試行を進めたい。	①久木小サポーターシステムを活用し、学習支援、学校環境整備支援活動を進める ②校庭の芝生管理等の作業をサポーターシステムの協力を得て行う (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①大豆作り、味噌作り、稲作は継続して取り組んだ。教職員と保護者・地域とのコミュニケーションを目的とした「わくわくフェスティバル」は、毎年参加者も多く、目的を十分に果していると感じる。次年度は、地域の行事に、管理職以外の教員が参加できるようにしていきたい。 ②課題は多いが、地域の協力・連携は十分である。維持管理等々に関わって、より良い手立ての研究・試行を進めたい。
③ 学校評価を生かした学校の改善	①学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす ②学校づくりアンケートを実施し、保護者・地域の意見・感想を踏まえ、学校運営の参考とする (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①年間3回の学校関係者評価委員会を開催し、学校運営についての助言を受けた。児童の学習・生活の様子が分かるように開催時期を工夫したことで、より具体的な助言を得ることができた。 ②学校づくりアンケートを11月に実施し、次年度への課題を整理することができた。 また、教育活動で大切にすること、連携を図ることなどについて、学校・保護者・地域で確認を図ることができた。	①学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす ②学校づくりアンケートを実施し、保護者・地域の意見・感想を踏まえ、学校運営の参考とする (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①年間3回の学校関係者評価委員会を開催し、学校運営についての助言を受けた。児童の学習・生活の様子が分かるように開催時期を工夫したことで、より具体的な助言を得ることが出来た。その助言を参考に、学校経営方針の振り返りと次年度に向けた確認を行っている。 ②昨年から様式を変更した学校づくりアンケートを今年度も実施した。アンケートを集約することで、本校の課題を整理し、次年度の方向性を学校・保護者・地域で共有することが出来た。今年度は、児童へのアンケートも実施した。	①学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす ②学校づくりアンケートを実施し、保護者・地域の意見・感想を踏まえ、学校運営の参考とする (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①年間3回の学校関係者評価委員会を開催し、学校運営についての助言を受けた。行事の日に開催するなど時期を工夫したことで、より具体的な助言を得ることが出来た。その助言を参考に、学校経営方針の振り返りと次年度に向けた確認を行っている。 ②学校づくりアンケートを児童・保護者に実施し、集約することで、本校の課題を整理し、次年度の方向性を確認することができた。今年度は、ホームページの改修時期とアンケート結果の掲載時期が重なってしまい、まだ、結果を保護者や地域にお知らせすることができていない。

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>①委託研究推進校として、取り組んだ成果を研究発表会において発表する ②外部講師の活用を積極的にを行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①全担任が算数科を中心に公開授業を実施した。研究を通して確認できた子どもの姿をもとに、次年度への課題を明確にすることができた。 ②外部講師の研修を受けることで、授業づくりの具体について学ぶことができた。</p>	<p>①本校の研究テーマを踏まえて授業研究に取り組み、授業力の向上をめざす ②外部講師の活用を積極的にを行う</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①全担任が算数科を中心に公開授業を実施した。研究を通して確認できた子どもの姿をもとに、次年度への課題を明確にすることが出来た。 ②外部講師の研修を受けることで、授業づくりの具体について学ぶことが出来た。次年度は、年3回の研修を予定している。(講師:横浜国立大学 池田敏和教授)</p>	<p>①本校の研究テーマを踏まえて授業研究に取り組み、授業力の向上をめざす ②外部講師の活用を積極的にを行う</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①全担任が算数科を中心に公開授業を実施した。研究を通して確認できた子どもの姿をもとに、次年度以降の2年間の研究の取り組み方向性を明確にすることが出来た。 ②外部講師の研修を受けることで、授業づくりの具体について学ぶことが出来た。(講師:横浜国立大学 池田敏和教授)今後も指導を仰いでいきたい。</p>
② 授業評価の活用	<p>①評価規準を生かした授業実践に取り組み、評価規準の見直し、検討を行う ②外部講師による授業評価を生かした授業づくりを行う</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①指導と評価の一体化を踏まえ、評価規準を意識した授業づくりを進めることができた。 ②研究授業の際の指導助言を授業に生かすように取り組んだ。</p>	<p>①学習状況調査の分析を活用する ②外部講師による授業評価を生かした授業づくりを行う ③評価規準を生かした授業実践に取り組み、評価規準の見直し、検討を行う</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①逗子市の分析、学校独自の分析を踏まえ、当該学年の児童の良さを伸ばし、課題については共有するように努めた。 ②研究授業の際の指導助言を授業に生かすよう、ブロック研究を主に取り組んだ。 ③指導と評価の一体化を踏まえ、評価規準を意識した授業づくりを進めることが出来た。</p>	<p>①学習状況調査の分析を活用する ②外部講師による授業評価を生かした授業づくりを行う ③評価規準を生かした授業実践に取り組み、評価規準の見直し、検討を行う</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①逗子市の分析、学校独自の分析を踏まえ、課題については共有し、指導の工夫改善に取り組んだ。 ②研究授業の際の指導助言を授業に生かすよう、主に、ブロック研究に取り組んだ。研究会でも意見が活発に交わされ、取り組み意識も更に高まった。 ③指導と評価の一体化を踏まえ、評価規準を意識した授業づくりを進めることが出来た。</p>
③ 研修事業の充実	<p>①初任研、年次経験者研修において、校内協力体制を作り、研修指導に当たる ②校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する ③逗子市教育指導教員を積極的に活用する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①計画的な研修が実施できた。 ②校内研究において全担任が算数科を中心に研究授業を行った。教育研究所の各種研修会に積極的に参加した職員が増加した。しかしながら、校内における選流が課題である。 ③臨任・非常勤だけでなく経験の浅い教員への指導にも活用することができた。</p>	<p>①初任研、年次経験者研修において、校内協力体制を作り、研修指導に当たる ②校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する ③逗子市教育指導教員を積極的に活用する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった ③達成した</p> <p>成果と課題 ①計画的な研修を実践し、まとめることが出来た。 ②校内研究において全担任が算数科を中心に授業実践をしてきている。しかし、研修会及び教育研究所主催各種研修会への参加は、多くの職員が参加しているとは言えない状況にある。参加率が以前より増えてきているとはいえ、継続課題としたい。 ③臨任・非常勤、経験の浅い教員への指導に十分活用することが出来た。</p>	<p>①初任研、年次経験者研修において、校内協力体制を作り、研修指導に当たる ②校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する ③逗子市教育指導教員を積極的に活用する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった ③達成した</p> <p>成果と課題 ①計画的な研修を実践し、まとめることが出来た。 ②校内研究において全担任が算数科を中心に授業実践をしてきている。研修会及び教育研究所主催各種研修会への参加は、以前より増えてきているが、平日に複数の研修会・研究会が重なった場合には学校事情として参加を控えてもらうこともあった。 ③学校所属の「少人数指導・校内指導教員」及び研究所所属の「教育指導教員」を、臨任・非常勤、経験の浅い教員への指導に十分活用することができ、指導を受けた教員も含め、学校としてその指導に感謝している。</p>

平成25年度～平成27年度 学校による点検及び評価の推移(小坪小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実	<p>①校内研究で得られた成果を具体的な授業の中で活かす実践を積み上げる</p> <p>②基礎・基本の習得のための指導の工夫に取り組む</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①「コミュニケーション力の育成」を目指した研究の成果を授業実践に活かすことができた。</p> <p>②基礎・基本の習得に向け、児童の実態把握から、指導法の工夫・改善に努めた。</p>	<p>①研究の成果を踏まえた教育課程の見直しに着手する</p> <p>②基礎的・基本的な知識・技能の習得のための指導の工夫をさらにすすめ、定着度について検証する</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①研究の成果を踏まえ新たな課題として「既習事項を活かす」ことにより、より「確かな学力」を育むことにつながった。</p> <p>②基礎・基本の習得に向け、児童の実態を把握し、習熟度別の指導体制を取り入れるようになった。</p>	<p>①教育課程の見直しをさらに進め、改善を図る</p> <p>②基礎的・基本的な知識・技能活用を図る学習活動を重視し、検証する</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①算数科教科研究の成果を教育課程に活かすことができた。</p> <p>②基礎的・基本的な知識・技能が活用できる授業を目指し、考えを表現できる児童を育てる手立てについて研究を進めた。</p>
② 「読解力」向上の取り組みの推進	<p>①各教科等における「言語活動の充実」のあり方について再確認する</p> <p>②コミュニケーション能力の育成に取り組んできた成果を授業を通して検証する</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①研究のまとめとして成果と課題を共有するため、提案授業の教科を絞ったため、各教科における「言語活動の充実」については全体で確認することができなかった。</p> <p>②2年間の研究のまとめとして成果を授業を通して検証することができた。</p>	<p>①「逗子市読解力向上プラン」を通じて言語活動のさらなる充実を図る</p> <p>②各教科等において「言語活動の充実」をめざすうえで「育てたい力」を明確にする</p> <p>(評価)</p> <p>①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①読解力の充実に関しては各教科の学習において意図的に取り組んだが、「読解力向上プラン」の活用には至らなかった。</p> <p>②各教科で「育てたい力」を意識することにより、言語活動の充実についても取り組むことが出来た。</p>	<p>①読解力向上に向けて、学年ごとに授業実践を検討し、改善を図る</p> <p>②各教科等において「言語活動の充実」をめざすうえで「育てたい力」を明確にした授業実践に取り組む</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①各学年、テーマをもって授業研究に取り組み、改善を図ることができた。</p> <p>②授業のねらいを明らかにし、児童と共有しながら学習を進める手立てを研究することができた。</p>
③ 読書活動の推進	<p>①読書活動につながる教育内容・指導方法を工夫し実践する</p> <p>②家庭との連携を図り、読書の習慣づけを図る</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①朝の一斉読書等、読書活動の充実については計画的に取り組んだ。</p> <p>②読み聞かせボランティアの活動を通して保護者にも読書の習慣づけの重要性を啓発した。</p>	<p>①各学年、各教科で、図書室を利用した学習を推進する</p> <p>②継続して、読書の習慣化をめざし、取り組む</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①各教科の学習において、問題解決的な授業計画が充実し、図書室を利用する機会が増えた。</p> <p>②引き続き、読み聞かせボランティアの活動を通して保護者にも読書の習慣づけの重要性を啓発した。</p>	<p>①市立図書館と連携し、学校図書館の学習情報センターとしての機能を高める</p> <p>②発達段階に応じた読書活動のあり方を検討し、多様な活動を展開する</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①各学年の学習内容に応じて、多くの教科の中で問題解決的な授業に取り組み、市立図書館での本を活用した。</p> <p>②保護者にも読み聞かせのボランティア活動の協力をいただき、図書委員会でも低学年に向けて読み聞かせなどの活動を行った。</p>
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	<p>①支援教室立ち上げ、教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の機動性を高める</p> <p>②スクールカウンセラー・支援教育推進巡回指導員・うるおいフレンドの活用をすすめ、保護者と学校が子どものニーズに対して共通理解を深め、協働して支援の充実を図る</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①教育相談コーディネーターを中心とした支援教育の組織的な取り組みの充実を図ることができた。</p> <p>②支援教育推進巡回指導員による各教室の見取りを充実させ、必要に応じて支援会議を行い、組織的な支援の充実を図った。</p>	<p>①支援教室の活用方法について検証し、支援の充実を図る</p> <p>②保護者・地域に対して校内支援体制についての情報を発信し、理解を深める</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①支援教室の運用が具体化し、個別支援が組織的に行われるようになった。</p> <p>②校内支援体制の取り組みについて、保護者、地域に情報発信し、理解を得ることができた。</p>	<p>①校内支援体制のさらなる充実をめざし、研修等も設定し、教職員の指導力の向上を図る</p> <p>②子どものニーズの多様化に対応し、地域の教育力の活用も検討する</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①支援の必要な児童についての研修を随時行い、日々の授業に生かすことができた。</p> <p>②学生ボランティアなども積極的に活用した。</p>

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①あいさつ運動を推進し、規律正しい生活の中で基本的な生活習慣の向上をめざす</p> <p>②家庭と連携し、食習慣や家庭学習を含めた生活習慣の確立をめざす</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①あいさつ の重要性を折りに触れて指導し、行動目標としてあいさつの定着に取り組んだ。</p> <p>②給食便り、保健便り等を定期的に発行し、基本的な生活習慣の定着の重要性を伝え、意識の向上を促した。</p>	<p>①学校・家庭・地域の情報や行動の情報交換を密にして連携を深める</p> <p>②保護者・地域の方々を対象とした講演会や研修会を行い、それぞれが担うべき役割を再確認する</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①行動目標を「あいさつ」として設定していることが地域、保護者に理解され、その視点からの学校理解が深まった。</p> <p>②引き続き、給食便り、保健便り等を定期的に発行し、基本的な生活習慣の定着の重要性を伝え、意識の向上を促した。</p>	<p>①食育・健康教育・保健教育等の取組を通して、基本的な生活習慣の定着の成果を検証する</p> <p>②児童自らが自分の生活習慣を見直し、自立への意欲を持てるような取り組みを行う</p> <p>(評価)</p> <p>①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①基本的な生活習慣の大切さについて様々な場面で指導をおこなったが、成果を検証するには至らなかった。</p> <p>②「自分の健康は自分で守り育てる。」ことができない子どもの育成を目指して、給食・保健便りを発行し、掲示物等を作成した。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①道徳の時間を要として様々な学習活動の中で、発達段階に応じた人権意識の育成に取り組む</p> <p>②異年齢集団の活動を通して、規範意識の向上を図り互いに思いやる心情や、奉仕的な心情を養う</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①道徳の時間を要として人権に関わる指導を意図的に進めてきたが、教育活動全体に関わる必要があるため、今後さらなる充実を目指していく。</p> <p>②全校で「たてわり班」を構成し年間をとおして「たてわり活動」に取り組み、成果を上げた。</p>	<p>①さらに道徳の授業の充実を図り、人権意識の涵養、命について考える機会とする</p> <p>②学校支援地域本部と連携し、地域の人材・環境を生かした道徳の授業実践を展開する</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成できなかった</p> <p>成果と課題</p> <p>①道徳の時間だけでなく、学校生活全般を通して、命について考える機会を設定した。</p> <p>②地域の教育力の活用は様々な場面で意図的に活用したが、道徳の授業実践に結び付けることは難しかった。</p>	<p>①教育課程全体を見直し、様々な教育活動におけるねらいを明確にすることで道徳授業の充実を図る</p> <p>②全体計画を見直し、地域との連携の中で、6年間を見通した実践的な道徳教育の推進を図る</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成できなかった</p> <p>成果と課題</p> <p>①様々な教育活動の中に道徳の視点を取り入れ取り組むことが意識されるようになった。</p> <p>②6年間を見通した道徳教育の推進には至らなかったが、「特別な教科道徳」について理解を深める中で今後達成したい。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>H24(2012)年度取組内容</p> <p>①たてわり集団を組織し、学校行事の中で活用していく</p> <p>②学校行事・児童会行事を通して育てたい力を明確にし、内容の充実を図る</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①たてわり班を活用し、運動会、遠足等の学校行事を企画することができ、リーダーシップとフォローシップの育成に取り組んだ。</p> <p>②学校評価の充実を目指す中で、学校行事での「つけたい力」を学校全体で共通理解するように努めた。</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①たてわり集団での活動を積み重ね、主体的な人間関係作りに取り組む</p> <p>②学校行事・児童会行事を通して問題解決的な学習を進める</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①たてわり班の活用が学校行事の中心として位置づいてきた。</p> <p>②学校行事での「つけたい力」を学校全体で共通理解するように努め、指導と評価の一体化が定着しつつある。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①たてわり集団での活動を積み重ね、主体的な人間関係作りに取り組むとともに思考力・判断力・表現力の育成も意識して取り組む</p> <p>②体験活動で育てたい力を明確にし、6年間の指導の体系化を図る</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①高学年が低学年に適切にリーダーシップをとり、活動を行っている様子が見られた。低学年は高学年に協力しようという姿が見られるようになった。</p> <p>②低、中、高とそれぞれのめあてを明確にして取り組んだ。</p>
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①食に対する正しい知識と望ましい食生活・食習慣を身に付けるための食育指導に計画的に取り組む</p> <p>②発達段階に応じた禁煙・薬物・性教育等の健康教育を推進し、家庭へも情報発信する</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①各教科の指導内容から食育に関するものを洗い出し、意図的に取り組むことはできたが、学年ごとの段階等まだ、今後さらなる充実が必要である。</p> <p>②養護教諭を中心に発達段階に応じた健康教育を推進することができた。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①各学年の食育に関するこれまでの取り組みを体系化していく</p> <p>②健康教育を推進する中で、健康の意義について保護者の理解を深める</p> <p>(評価)</p> <p>①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①栄養教諭による食育指導が充実してきたが各学年の体系化までには至っていない。</p> <p>②養護教諭を中心に発達段階に応じた健康教育を推進するとともに、保健だより等で保護者に意図を周知していくことができた。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①食育について、授業を保護者にも公開することで改善を図る</p> <p>②健康教育を通して、自己認識を深める指導のあり方を探る</p> <p>(評価)</p> <p>①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①各学年で食育の授業を行ったが、保護者への公開は今後の課題である。</p> <p>②自分の心と体について理解を深め、自他共に尊重することができる子どもの育成を目指した。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 学校安全の推進	<p>①児童自らが体験を通して危険予測・危険回避の能力を培うため、安全教育を計画的に実施する</p> <p>②児童の安全な学校生活の確保と緊急避難所としての機能向上のため、環境整備に努める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①訓練だけに終わらない防災教育のあり方を意識し日々の教育活動の中に位置づけてきた。</p> <p>②PTAと連携し、避難路の整備、非常食の備蓄に取り組んだ。</p>	<p>①各教科の中で思考力・判断力の育成を充実させることにより、児童の危機管理能力を向上させるような実地訓練を計画・実施することを含む、防災教育の充実を図る</p> <p>②様々な、災害を想定し、安全確保のための環境整備をさらにすすめる</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①資料を活用しながら、各学年の発達段階に即した防災教育を道徳の授業等教育課程上に位置づけた。</p> <p>②大規模災害の想定を拡大し、避難の仕方を検討、実践するなど環境整備を推進した。</p>	<p>①地域の子どもを地域で守ると意識の醸成に向けた発信をより充実させる</p> <p>②危険回避能力の育成を目指し、日々の教育活動のなかで意図的に取り組む</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①防災教育に活用できる資料等そろえ、各学年での指導の充実にも努めた。</p> <p>②校外学習の際などに、大規模災害が起きた場合の行動について指導した。</p>
② 問題行動等への対応の推進	<p>①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立するとともに、様々な場面をとらえ、児童の規範意識や温かい人間関係作りを推進する</p> <p>②児童理解を深めるための研修を実施し、問題行動への対応について、教職員の共通理解を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①朝会や学級指導を通して、ルールの大切さを指導し、規範意識の醸成に努めた。</p> <p>②児童指導に関する研修を年間を通して実施し、児童の様々なニーズへの対応力の向上に努めた。</p>	<p>①校内相談体制の向上を目指し、外部機関との連携をさらに推進する</p> <p>②児童理解に対する校内研修を充実させ、問題行動の予防的指導に取り組む</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①スクールカウンセラーや支援教育推進巡回指導員のアドバイスのもと、支援教室の運用を具体化することができた。</p> <p>②児童指導に関する研修が定着しつつあり、日々の実践の中で活用することが出来ている。</p>	<p>①家庭や外部機関との連携を推進し、さらに組織的な対応を目指す</p> <p>②児童理解に対して事例研究を中心に研修を進め、人権等に配慮した学級・学年・学校経営をすすめる</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①必要な場面でケース会議を実施し、組織的な対応を行った。</p> <p>②児童理解に関する研修を行い、それらを生かして人権などに配慮した学級・学年・学校経営を行う努力をしている。</p>
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<p>①個人情報保護に十分配慮しつつ、幼保小中の連携を進め、学校生活の安心安全の向上を図る</p> <p>②小中連携では、体育や外国語活動、行事等で交流を推進する中で、中1ギャップの解消をめざす</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①学習面からの幼保との連携を深めると同時に、新入学児童に対しては実際に見学する等して実態把握に努め、いわゆる小1プロブレムの回避に努めた。</p> <p>②卒業にあたっては着実な引継ぎに努める等したが、日常的な教科での連携は難しかった。</p>	<p>①入学時に幼・保だけではなく、教育研究所や療育関係機関とも連携し、児童に対する職員間の共通理解、情報の共有も図る</p> <p>②小・中連携では行事や授業だけでなく、児童指導、生徒指導でも理解と連携を推進する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①入学児の幼・保参観をきめ細かく行うと同時に療育の観点からの聞き取りも行い指導体制の構築に努めた。</p> <p>②卒業にあたっては中学校への着実な引継ぎに努め、担任だけではなく、教育相談コーディネーター同士の情報共有も行ったが行事や授業での接続は難しかった。</p>	<p>①幼稚園・保育園と相互の参観等を推進し、課題を共有しつつ個々の役割の明確化を検討する</p> <p>②9年間を見通したカリキュラム上の連携や児童指導の情報交換を推進する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①秋祭りやようこそ集会に、幼稚園や保育園の年長児を招待し、小学校の教育内容を理解してもらえるように努めた。</p> <p>②幼・保・小の連携推進委員会での情報交換や、新入学児童の聞き取りを行い、幼・保・小間で情報の共有化を図った。</p>
④ 国際教育の推進	<p>①多様な文化を理解するための学習活動を各学年の発達段階に応じて取り入れる</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)の効果的な活用をはかり、諸外国の文化や歴史・自然等に関心を深めるような取り組みをする</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①IEA(国際教育指導助手)を活用し、各学年の発達段階に応じた国際教育の推進に努めた。</p> <p>②海外の行事について学習の中に取り入れ、楽しみながら諸外国の文化への理解を深めた。</p>	<p>①外国語活動の中でコミュニケーション力の育成や国際教育における、異文化理解を通して、多様性を尊重し受け入れていく態度を育てる</p> <p>②各学年の教育課程上に、異文化理解、多様性の尊重を意図した学習を取り入れる</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①IEA(国際教育指導助手)を活用し、各学年の発達段階に応じた国際教育の推進に努めた。</p> <p>②海外の行事について学習の中に取り入れ、楽しみながら諸外国の文化への理解を深めた。</p>	<p>①発達段階に応じた国際理解やコミュニケーション力の育成を推進する</p> <p>②小坪小学校の国際教育のあり方をまとめ、6年間を通した学びを教育課程上に位置づける</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①IEA(国際教育指導助手)を活用し、授業以外の場面(休憩時間・給食時間等)で子どもたちと関わってもらうことで国際理解やコミュニケーション力の育成を推進できた。</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)との意思疎通が難しく、授業担当者との打ち合わせと相違があるなど、授業の内容に課題があった。</p>

【小坪小学校】

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①キャリア教育について、研修を実施し、子どもの発達段階に応じて、自己の生き方について考える学習を体験的に取り入れる ②総合的な学習の時間の全体計画を見直す	①キャリア教育に対する、教職員の共通理解を図り、取り組みについて検討する ②総合的な学習の時間の探究活動をキャリア発達に即して見直す	①キャリア発達を意識した取り組みを実施し、カリキュラムとして残す ②生活科から繋がる6年間の教育活動全体をキャリアの視点で見直し、キャリア教育の充実を図る
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ①達成できなかった ②達成した	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	成果と課題 ①総合的な学習の時間等で自己の生き方について考える取り組みはなされてきたが学校全体での共通理解を図るための研修の設定は今後の課題である。 ②3～6年の取り組みは全体計画に沿って実践されたが、小規模校の中で、組織的な見直しを図ることは難しかった。	成果と課題 ①総合的な学習の時間の全体計画を見直す中で、キャリア教育の視点を組み込むことの必要性は共通理解してきた。 ②3～6年の取り組みを全体計画に沿って実施するように働きかけたが、キャリア発達に即して活動を設定するまでには至らなかった。	成果と課題 ①たてわり活動の充実を図る中で学年に応じたキャリア発達を意識した取り組みを実践できた。 ②特別活動を中心に取り組んできたが、教育活動全体で取り組んでいることの共通理解は図られなかった。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	①市の社会福祉協議会等の機関と連携を図り、発達段階に応じた体験的な福祉教育を実施する ②学校生活のあらゆる場面で、発達段階に配慮した人権教育を実施し、人権感覚の醸成を図る	①各学年の福祉体験活動を整理し、小坪の特色を活かした福祉教育の推進を図る ②日常的な人権教育を推進し、人権感覚の向上に意識的に取り組む	①体験からの学びを重視し、体験だけに終わらない日常的な実践力を育てる福祉教育の推進をめざす ②人権に対する研修を継続し、人権意識の向上を図るとともに、地域・保護者への発信も充実させる
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成できなかった ②達成した	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	成果と課題 ①総合的な学習の時間において、各学年の発達段階に即した福祉学習の取り組みが推進され地域、外部団体との連携が深まった。 ②日頃から教職員の人権意識の向上に努め、教育活動全体の中で人権教育がなされるよう努めた。	成果と課題 ①総合的な学習の時間において、各学年でも福祉学習に取り組んだが地域の特色を生かすまでには至らなかった。 ②日常の教育活動における教職員の人権感覚をさらに向上させるための研修を実施した。	成果と課題 ①総合的な学習の時間において、「アイイボランティア」を活用し、日常生活に生かす学習を実践することができた。 ②日頃から教職員の人権意識の向上には努められたが、地域・保護者への発信の充実には至らなかった。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	①各学年の年間指導計画の中で環境教育に関わる活動を洗い出す ②地域教育力を活用し、環境に関係する体験的な活動を取り入れる	①環境教育の全体計画を作成し、カリキュラム上の位置づけを明らかにする ②地域や外部団体との連携を深め、環境教育の充実を図る	①環境教育の全体計画を作成し、各学年での取り組みを整理する ②児童の環境保護に対する意識を育て、環境保護への体験的な取り組みが日常化するような学びの手だてを構築する
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成できなかった ②達成した	(評価) ①達成できなかった ②達成した
	成果と課題 ①総合的な学習の全体計画の中で、環境教育については4年生に特設されているが、他学年の教科・道徳指導の中でも実施されていることを全体で共有した。 ②支援地域コーディネーターを活用し、ワカメの刈り取り等地域の特性を活かした体験的な活動が設定された。	成果と課題 ①総合的な学習の時間の全体計画の中で、環境教育の位置づけが明確にされているが、カリキュラムの中の洗い出しはまだ着手できていない。 ②支援地域コーディネーターを活用し、環境に関わる体験活動の充実が図られた。	成果と課題 ①4年生・環境保健委員会では計画的に取り組むことができたが、各学年の取り組みを整理することについては着手段階である。 ②環境保健委員会では朝会で劇やクイズなどで環境保護を呼びかけ、川の清掃活動や廃油の石鹸作りを行った。4年生では体験学習や調査活動を充実して取り組み環境保護の意識が高まっている。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	①教員が積極的にICTを活用した授業に取り組むことにより、発達段階に応じた情報リテラシーの育成に取り組む ②情報を取捨選択し、正しく利用する能力を養うとともに、情報の発信者としてのモラルの育成を図る	①引き続き、ICT(情報通信技術)機器を活用した授業に取り組み、教員のスキルの向上を図る ②情報活用能力の伸長を通して、判断力・表現力を養う	①情報活用能力の発達段階に応じた指導のあり方を検討し、学校全体で取り組む ②学習の様々な場面でICT(情報コミュニケーション技術)の効果的な活用がなされるように意図的に取り組む
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①各教室のICT環境を活用し、授業場面で多くの実践がなされた。 ②携帯電話・スマートフォンなど新しい情報機器における情報モラルの醸成について課題を把握し、保護者の意識向上に努めた。	成果と課題 ①パソコンの入れ替えにより、各教室のICT(情報通信技術)環境がさらに充実し、授業場面で多くの実践がなされた。 ②児童の情報機器活用能力が進んでいく中、それに伴うトラブルも避けられない状況を認識し、携帯電話教室の実施や、情報モラルについて指導し、判断力の育成を図った。	成果と課題 ①職員研修でタブレットを使った情報モラル研修を実施し、児童の情報活用の実態を把握した。また、携帯電話教室の実施や、情報モラルについて指導し、児童の情報活用能力の向上を図った。 ②各教室のICT機器を活用し、様々な授業場面で多くの実践がなされた。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	<p>①学校の教育活動を積極的に公開し、保護者・地域と課題を共有することで学校運営の充実を図る</p> <p>②個人情報の保護に十分配慮しつつ、学校だよりやホームページで情報の発信を進める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①行動目標について具体的な実践からの実効性について話し合いをもち、今後の方向性を決めることができた。</p> <p>②学校評価のためのアンケートを今後の教育実践の中で活かすことができるように工夫・改善を図った。</p>	<p>①授業参観や「学校に行こう週間」等保護者・地域への公開の場を活用し、学校教育目標や取組の実態などの周知を図る</p> <p>②日常の授業だけではなく、研究会なども公開することにより、学校運営への理解を求める</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題 ①「学校へ行こう週間」等で保護者、地域の方に学校の様子を公開することはできたが、そのねらいや取り組みの工夫等が伝わり、学校に対する理解が深まったとは言えない。</p> <p>②引き続き、アンケート項目の工夫改善に取り組んだ。</p>	<p>①様々な公開において、意見を集約し、支援・協力を得るようにする</p> <p>②個人情報に配慮しつつ、ホームページや学校便りによる、情報の公開をさらにすすめ、相互理解による協働体制を構築する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①学校だよりや地域の会合等様々な場面で学校の教育活動の様子を情報発信し、協力を依頼してきた。</p> <p>②ホームページの更新に時間がかかり、タイムリーな情報発信が難しかった。</p>
② 地域教育力の活用	<p>①地域コーディネーターを中心に、学校支援地域本部と連携を図り、学校教育の一層の充実をめざす</p> <p>②保護者や地域にボランティア登録をすすめ、地域本部のネットワークづくりを推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①学校支援地域協議会の充実を図り、積極的な問題提起を行い、コーディネーターを中心に積極的な活動を行った。</p> <p>②地域人材の積極的な活用は図ったがボランティア登録の働きかけには至らなかった。</p>	<p>①学校支援地域本部を通し、保護者や地域に求める活動の見直しを図り、より意義のある連携を推進する</p> <p>②地域との連携を深める中で、地域素材の掘り起こしを進め、学習活動の充実を図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①学校支援地域協議会の活動について見直し、独自の活動として校内の環境整備に取り組んだ。</p> <p>②地域人材の掘り起こしに努め、地域講師として活動してもらうことができた。</p>	<p>①児童の地域参加をすすめる中で、教職員と保護者・地域の方々の円滑なコミュニケーションの推進を図る</p> <p>②地域教育力の活用を年間計画の中に位置づける</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①わかめの種付け、しめ縄づくりなどの活動を通して、地域の方とのコミュニケーションを図ることができた。</p> <p>②学校支援地域本部事業の年間計画の中に地域の方の指導を仰ぐ学習を計画した。</p>
③ 学校評価を生かした学校の改善	<p>①学校教育目標における重点目標や行動目標の自己評価を活かし、学校評価の実効性を高める</p> <p>②学校評価を生かして改善点を把握し、教育条件の整備を行い、それを保護者・地域に発信していく</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ②行動目標について具体的な実践からの実効性について話し合いをもち、今後の方向性を決めることができた。</p> <p>②学校評価のためのアンケートを今後の教育実践の中で活かすことができるように工夫・改善を図った。</p>	<p>①学校教育目標との関連という視点から、評価項目や評価方法の改善に取り組む</p> <p>②学校評価に基づく、改善点を明らかにし、保護者・地域と課題を共有できるようにする</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①学校教育目標の具現化をめざした重点を設定し、それに沿った評価項目を設定した。</p> <p>②学校評価の結果を学校だよりで保護者・地域に発信し、改善点を明確にすることができた。</p>	<p>①PDCAサイクルの円滑な実施により、学校改善が図られているかどうかを検証する</p> <p>②学校評価に基づき、明らかになった課題を次の3年間の計画に盛り込む</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①年2回の保護者・児童アンケートをもとに評価委員会での指導を受け、学校改善が図られているか検証した。</p> <p>②学校評価に基づき、課題を明らかにし、学校経営案に反映してきた。次年度からの計画にも反映していく予定である。</p>

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>①学習指導案の事前研究、研究授業、事後研究など、校内研究の充実を図る</p> <p>②これまでの取り組みを検証し、成果と課題を明確にし、次につながるまとめをする</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学年・ブロックを主体とした授業研究が活発に行われた。</p> <p>②市内だけでなく、近隣の地区にも呼びかけた研究全体会を実施し研究の成果と課題を発表することにより、次につながるまとめをすることができた。</p>	<p>①研究テーマに基づき、6年間で育てたい力を明確にする</p> <p>②校内研究を通して教員個々の指導力の向上を目指すとともに、チームとしての協働の意識を深める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①これまでの研究の蓄積をもとに新たなテーマを設定し、算数における既習事項を軸に6年間の見通しを持つ体制を整えた。</p> <p>②ブロックの研究組織での取り組みを中心に全員が授業を公開し指導力の向上を図った。</p>	<p>①授業研究を通して、更に研究を深め、授業改善に取り組む</p> <p>②学校全体としての指導力向上に向けた取り組みの成果を検証し、改善を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①どの学年も授業提案を行い、授業研究会を行った。研究の成果を日々の授業に生かすことができた。</p> <p>② 授業研究会の成果や課題を各学年でまとめた。それらを、学校全体で共有する機会をもち、次年度の授業改善に役立てられるようにできた。</p>
② 授業評価の活用	<p>①指導と評価の一体化について教員の共通理解を深め、授業改善に努める</p> <p>②校内研究を通じ、授業評価を教員同士で行うことにより、研究に対する参画意識を高める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①日々の授業参観や校内研究への取り組みにより、指導と評価の一体化については共通理解が図られ授業改善につなげることができた。</p> <p>②学年、ブロックでの研究推進に意図的に取り組み、事前研、事後研の中で相互の授業評価が行われた。</p>	<p>①授業評価のあり方や活用する方法について、共通理解を深める</p> <p>②学校の教育力の向上につながるような授業評価のあり方を引き続き検討していく</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①日々、授業のねらいの明確化を特に意識して取り組むことが共有されつつあり、目標に沿った授業評価が行われるようになった。</p> <p>②引き続き、学年、ブロックでの研究推進に意図的に取り組み、事前研、事後研の中で相互の授業評価が行われた。</p>	<p>①指導と評価の一体化に基づくカリキュラムの改善を実施する</p> <p>②授業評価についても学校評価を行い、成果と課題を明らかにする</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題 ① 指導と評価について意識した授業研究を行ったが、カリキュラムに十分反映されているとは言えない。</p> <p>② 学校評価アンケートや全国学力学習状況調査の結果を精査し、成果や課題を明らかにすることができた。</p>
③ 研修事業の充実	<p>①自主的な教員研修が行われるよう、支援体制づくりをすすめ、時間の確保や機材等、環境の整備を図る</p> <p>②OJTを組織的に推進し、「チーム小坪」の協働を推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①各分掌の中から必要な研修について自主的に設定するようになり、必要な環境の整備に努めるようになった。</p> <p>②年齢・経験年数のアンバランスから、ミドルリーダーの育成が難しく、組織的にOJTを推進するには至らなかった。</p>	<p>①教職員のキャリア形成に資するような研修を実施し、指導力の向上を図る</p> <p>②校内研修の成果が学校全体の指導力の向上につながるよう、組織的に取り組む</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①今年度の指導の重点から、必要な研修を計画し、積極的に取り組んだ。</p> <p>②児童の実態や教員のニーズに沿った研修が設定され、日々の学級、学年経営に活かすことが出来た。</p>	<p>①研修による指導力の向上が核となるような学校運営組織の改善に取り組む</p> <p>②教員の自主的な研修が、授業に活かされ、学校全体の指導力の向上につながるような体制作りを目指す</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題 ① 指導力の向上を意識した研修を実施することはできたが、学校運営組織の改善までには至らなかった。</p> <p>② 普段から職員室内等において、指導力向上につながる自主研修のような形が見られるようになった。</p>

平成25年度～平成27年度 学校による点検及び評価の推移(池子小学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実		
行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容	
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実	①学習状況調査などのデータや日々の見取りに基づいて子どもの実態を把握し、授業研究の取り組みを通して指導方法の工夫と改善を図る ②少人数やチームティーチング等、多様な学習形態を工夫し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る	①今まで取り組んできた地域教育力を生かした学習支援ボランティア等をより活用し、個を支援する学習環境を整える ②基礎的・基本的な知識・技能がどれだけ子どもたちに定着しているかを検証し、より効果的な学習形態の工夫改善(指導と評価の一体化)を図るとともに、それらを活用した思考力・判断力・表現力の育成にも力を入れる	①他校・他地域の取り組み例等も積極的に学び、再度今までの取り組みの見直しを行い、教員が研究会だけでなく日常的にお互いの授業を見合うなど、授業改善の体制づくりを整える ②学習形態の工夫により育んだ基礎的・基本的な知識・技能を生かし、これらを活用した思考力・判断力・表現力を深める授業の工夫改善を図る	
	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成できなかった	(評価) ①達成した ②達成した	
	成果と課題 ①児童の実態を見ながらブロック間でも情報交換し、研究授業を通して指導方法の改善を図った。今後も学力向上を目指し、学習状況調査などのデータも活用し、学校全体で取り組みたい。 ②多様な学習形態を活用し、学習の定着を図った。	成果と課題 ①今年度は地域の学習素材や教育力の更なる活用に向け、各教科や特に生活科・総合的な学習の時間の具体的な場面で個を支援する教育活動ができた。 ②授業力向上に向け、個々のニーズに合った指導支援に繋がるケースが増えてきているが、合理的な配慮を踏まえた更なる検証、工夫が必要である。	成果と課題 ①昨年度の実践を踏まえ、様々な研究会へ積極的に参加しながら、校内においては全クラス公開の研究授業の実践を重ねた結果、指導力や職場内の研修意欲の向上につながった。 ②校内組織を見直し、インクルーシブ教育を軸としながら、支援シートを効果的に活用した授業の工夫改善に努めることができた。	
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①学習状況調査などの結果を踏まえ、本校児童の特性を分析し、読解力向上のために各教科や教科外の活動において言語活動の活性化を図る ②すべての教育活動の中で、コミュニケーション能力の育成を意識して取り入れることをめざす	①読解力向上のための言語活動の実践内容を各学年の年間計画にのせ、6年間で子どもたちにとってより効果的な取り組みとなっているか分析・検討を進める ②コミュニケーション能力の育成が効果的に行われているかを振り返る機会を日常的に設け、授業実践の工夫改善を図る	①前年度までの課題等を踏まえ、活発な言語活動を取り入れたよりよい授業実践の工夫改善を図る ②学年内の交流、また他学年との交流、さらに保護者・地域との関わりの中で活動・発表場面を設けるなど、より高度なコミュニケーション能力の育成に取り組む	
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成できなかった	
	成果と課題 ①学習状況調査などの結果から、本校児童の特色を知り、各学年で言語活動の活性化に努めた。 ②各学年、各学級で行う教育活動の中で意識的に言語活動の場を設け、コミュニケーション能力の育成をめざした。	成果と課題 ①言語活動の実践が6年間で子どもたちにとってより効果的な取り組みとなるよう総合的学習や生活科と関連させながら、カリキュラムに反映させた。 ②授業実践の工夫改善を図り、引き続き、コミュニケーション能力の育成が効果的に行われているかを振り返る機会を日常的に設けた。	成果と課題 ①特に生活科・総合的な学習の時間とも関連付けした学習内容を計画し、ペアや小グループでの対話を意識的に取り入れながら日々の授業改善を行った。 ②コミュニケーション能力の育成を目指し、ペアや小グループでの対話から全体共有へのプロセス等、異なる他者との多様な対話を充実させるための取り組み方を、職員間で共有したり、研修したりする事を、今後も継続して取り組む必要がある。	
③ 読書活動の推進	①図書室の利用指導を行うと同時に、各教科の中で、図書室を利用した学習を推進する ②蔵書のよりよい充実を図り、学習情報センター及び読書センターとして、学校図書館の機能向上をめざす	①司書教諭、学校図書館指導員、学校支援ボランティアの連携と、効果的な活用を進め、読書活動の充実を図る ②市立図書館との連携を深め、学級文庫の充実に努める。また、蔵書のデータをパソコンに入力し、検索を容易にするため、校内のデータベース化を目指す	①地域との連携を図りながら読み聞かせを行うなど児童の発達段階に応じた読書活動を推進する ②市立図書館と連携し、学校図書館の学習情報センター、読書センターとしての機能の充実を図る	
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した	
	成果と課題 ①各教科の学習における調べ学習で図書室を積極的に利用した。図書室でそろわない資料については、図書室での団体貸し出しや図書館のパックでの貸し出しなどを活用した。 ②絵本、理科や社会、総合的な学習の時間等の調べ学習に活用できる資料まで整理、購入し、図書室の整備、充実に努めた。	成果と課題 ①学習内容に合わせて市立図書館の貸し出しを利用し年間を通して活用できたと共に、学級文庫用のリサイクル本を充実させることができた。次年度は、各教室の学級文庫として配置していきたい。 ②蔵書数、購入数、廃棄数などはデータ化できたが、検索を容易にするためのデータベース化には至らなかった。次年度も継続して進めていきたい。	成果と課題 ①年間を通して、地域の方に素話を聞いていただくお話を実施した。低学年には、図書館指導員が図書室の時間に読み聞かせや本の紹介を行った。中、高学年においては、朝読書の時間を設けたり、図書室の資料を用いて社会科や総合的な学習の時間に調べ学習を行った。 ②学校図書館連携・支援サービスモデル校となり、市立図書館と連携をとり、多くの資料を子どもたちに提供することができた。	
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、組織の連携を図るとともに、児童のニーズを適切に把握し、ケース会議・チーム会議等を開いて支援に向けた具体的な対応を進める ②支援教育推進巡回指導員を中心とした支援教室を確立させる	①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、組織の連携を図るとともに、児童のニーズを適切に把握し、ケース会議・チーム会議等を開いて支援に向けた具体的な対応を進める ②支援教育推進巡回指導員を中心とした支援教室を充実させ、児童理解の研修等を通して、授業力、学級経営力の向上をめざす	①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、組織の連携を図るとともに、児童のニーズを適切に把握し、ケース会議・チーム会議等開いて支援に向けた具体的な対応を進める ②巡回指導員を中心とした支援教室を充実させる	
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した	
	成果と課題 ①年に2回児童指導研修会を実施し、支援や配慮が必要な児童理解ができた。何か問題が起きたときに、早急・適切に対応できた。 ②支援が必要な児童に支援教育推進巡回指導員による支援教室で学習することによって、ソーシャルスキルが高まった。教材も増え、活用できた。	成果と課題 ①年2回の他に毎月児童の情報共有を全職員でした。今年度は児童相談所、県スクールソーシャルワーカー、子育て支援課、教育相談所相談員等に参加していただき、ケース会議を複数回行えたことで支援が適切かつ充実したものになった。 ②支援教育推進巡回指導員に具体的なソーシャルスキルに関する研修をしていただき、役立てることができた。	成果と課題 ①学年・ブロック会、月1回の校内支援委員会、職員会議後の児童理解等、個別に支援が必要な児童について全体で情報共有を図り、ケース会や支援会議で、具体的な支援計画を立てた。教育相談コーディネーターが中心となり、一斉授業の中での個別支援や、休み時間や放課後の個別学習、家庭学習のサポートを保護者と連携し、個に応じた指導が充実された。 ②巡回チームによる学級観察のフィードバックにより、教育相談コーディネーターを中心に1次支援の向上に努め、児童の学習意欲を高めることができた。	

I 子どもたちの学力向上 ー 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①あいつつ運動を推進し、規律正しい生活を心がけることで基本的な生活習慣の育成をめざす ②保護者・地域・関係諸機関と連携し、情報交換や協同事業を通して家庭教育力・地域教育力の向上を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①正門前での朝の交通指導で、校長があいつつ運動を推進することにより、学校全体のあいつつ運動も活性化したと考える。 ②学校支援地域本部事業など、保護者・地域・関係諸機関との連携も密に行い、特に地域教育力を十分に活かすことができた。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①学校からの「たより」や参観・懇談など、様々な機会を通して保護者・地域・関係諸機関などへ積極的に情報発信をしていくことで、さらなる連携を図る ②児童を取り巻く環境の変化に応じた健全育成を図るため、保護者や地域を対象にした講演会(研修会)を積極的に開催し、子どもを見守り、育てるための考える場を設定する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①学校便り、学年便り等、定期的に発行され、学校からの積極的な発信に繋がった。HPは年度末に新たな形での更新ができたが、全職員での研修が必要である。 ②子どもたちの規範意識の高さは、学校、地域、保護者の連携の結果である。また、委員会やたて割り活動を通した学校をあげての取り組みの効果が出ている。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①前年度までの子どもの基本的な生活習慣の定着について実態調査をし、さらなる取り組みの工夫改善を図る ②保護者・地域・関係諸機関と協力し、講演会・懇談会等を計画し、より密接な連携・協力体制と丁寧な情報交換を図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①子どもの実態を踏まえ、健康について、学校からの積極的な発信を重ね、家庭と学校が一体となって生活習慣の工夫・改善に努めることができた。 ②今年度も保護者・地域・学校が一体となって様々な取り組みを行い、地域の中の学校としての存在を示すことができた。 また、子どもの健やかな成長を目指した活動に対してPTA・地域からは全面的な協力を受け、充溢した活動ができた。その成果は子どもの姿に反映されている。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①道徳の授業を要として、様々な学習活動の中にも道徳的な内容を積極的に取り入れることで、道徳教育の充実を図る ②各種体験活動の充実を図り、その活動を通して心に響く道徳教育を実践する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①各教科と道徳との関連が示されるように担任が働きかけ、道徳の授業だけでなく、様々な学習の場の中で、道徳的価値を見なおすように努めた。 ②様々な体験の中で、心に響き生活に活かされる授業の充実を図っていく。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①人を思いやる心、命を大切にすることを重点に、児童一人ひとりの心に響く教育を学校・家庭・地域と連携を密にしながら推進する ②学校支援地域本部と連携し、地域の人材や特性を生かした道徳教育の実践に取り組む</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①学校教育の要である道徳教育は、普段の生活の中で活かされなければならない。本校では生きた題材を元に子どもたちの心に響く授業を意識し公開することができた。 ②出生地学習は自尊感情の向上に繋がることが意識した心をはぐくむ授業の実践を行うことができた。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①道徳教育の全体計画を見直し、道徳授業以外との密接な連携をとりつ、日常的な学習の中で計画的・発展的な指導に取り組む ②6年間の全体計画を見直し、保護者・地域との連携の基に、児童一人ひとりの豊かな心を育むための道徳教育を推進する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①普段の生活の隅々まで道徳教育を意識した活動(学級・委員会・縦割り活動・学校行事など)の実践を行った。規範意識や自己肯定感の高さはその成果と考える。 ②6年間の全体計画をしっかりと構築し、出生地学習(地域学習)を意識した取り組みにより、保護者・地域からの評価が高まった。地域から愛される学校・児童として、豊かな心を育む道徳教育の推進も着実に進んでいる。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①地域の特性を生かした体験活動(自然体験、福祉体験、勤労体験、遊び体験等)を通して、社会性や協調性を育成する ②社会見学・校外学習・宿泊行事・異学年との交流行事などを通して、集団生活のマナーや責任感を育むとともに、思いやりや信頼関係を育成する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①地域の教育力を活用し、社会性や協調性を育成することができた。 ②ふれあい遠足・ふれあい集会・たてわり活動などを通して異学年が交流しお互いに思いやり、信頼関係を育成することができた。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①学校に講師を招いての体験活動だけでなく、子どもたちが積極的に地域へ出て行って取り組めるような活動を増やすことで、より効果的な学習活動を目指す ②各種体験活動等を通して、体験の中から課題を見つけ、その課題解決に向けて自主的に取り組んでいくような活動を計画し推進する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①子どもたちが地域へ出て行く活動については、昨年度までのものに比べ、今年度新たに企画したものも多く実施することができた。次年度は、特に地域の高齢の方とふれあえるような体験活動を工夫していきたい。 ②総合的な学習の時間など、体験を通してさらに学習を深めていけるような活動に取り組むことができた。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①6年間を通した地域の特性を生かした学習計画を作成し、それらが子どもたちの社会性や協調性の育成にどれだけ役立っているかの検証を行い、よりよい計画づくりに生かす ②各種体験活動を実施するにあたり、学校・保護者・地域が密接に連携し、子どもたちにとって豊かな体験となるよう、計画的で効果的な活動を推進する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>①ねらいと子どもたちに付けさせたい力を明確にしながら教育課程に位置づけ、地域の特性を活かしながらズシツの方々との交流などの体験活動を実施することができた。 ②総合的な学習、生活科など、地域コーディネーターを介して、保護者や地域の方の協力を得て、発展的な学習につながる体験活動を実施することができた。</p>
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①食育に関する全体計画に基づき、食教育を計画的に推進する ②健康教育について、児童の体力や健康状態を把握し、教職員間で共通理解を図るとともに、家庭や関係行政機関等との連携しながら計画的に推進していく</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①食育に関する全体計画に基づき、栄養士による食育の授業や、給食指導を計画的に行うことができた。今後も各学年と連携をとり継続して実施していく。 ②児童の発達段階に応じた健康教育を様々な場面を通じて実践することができた。今後も教職員間の共通理解をはかりながら実践を継続していく。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①各学年の食育に関する取り組みを体系化し、食育指導、体力づくり、心身の成長発達について正しく理解させるための実践を推進する ②健康教育を推進する中で、家庭と連携し生涯を通じて健康・安全な生活を送れるための基礎が養われるよう継続的に推進していく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①食育に関する全体計画に基づき、栄養士、養護教諭とも連携をとりながら、各学年が教科との関連を持たせながら進めていくことができた。今後も、食育の視点を持ち進めていく。 ②児童の発達段階に応じた健康教育を様々な場面を通じ実践することができた。家庭との連携は、おたよりやホームページを通じての発信を行った。今後、より相互通行の連携がとれるよう工夫していきたい。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①各学年の食育に関する取り組みを、継続的に推進し、家庭との連携を深め推進していく ②健康教育を推進する中で、家庭と連携し生涯を通じて健康・安全な生活を送れるための基礎が養われるよう継続的に推進していく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①食育に関する全体計画に基づき、栄養士、養護教諭とも連携をとりながら、各学年が教科や季節の行事等との関連を持たせながら進めていくことができた。今後も、引き続き食育の視点を持ち進めていく。 ②児童の発達段階に応じた健康教育を様々な場面を通じ実践することができた。家庭との連携は、おたよりや試食会での説明などを通じて発信を行った。今後も引き続き、より相互通行の連携がとれるよう工夫していきたい。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 学校安全の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①児童自らの危機予測・危機回避能力の育成を目指し、安全教育を計画的に実施し、日々の教育活動の中で意図的に取り組む</p> <p>②交通安全教室・誘拐防止教室・自転車教室・安心安全教室実施し、地域と連携し、児童の安全に対する意識の向上を図る</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①防災・安全指導年間計画に基づき、避難訓練や道徳活動の中で危機予測・危機回避能力を培う指導を行ってきた。さらに、様々な場面を想定した避難訓練を実施し、実際の行動に結びつけるようにしていきたい。</p> <p>②警察等の外部機関と連携し、安全教室等を開催した。また、教職員の研修も行い安全に関する意識を向上することができた。今後も継続して実施していきたい。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①児童が様々な体験を通して、危機予測・危機回避能力を養えるように、実地訓練を計画・実施していく</p> <p>②地域との連携を通して児童の実態を踏まえた交通安全教室・誘拐防止教室・自転車教室・安心安全教室を実施し、安全に対する意識の向上を図る。また、より良い環境を整備していく</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①防災・安全指導年間計画に基づき、避難訓練や5年生における総合学習、シェイクアウト訓練等、様々な場面を設定し危機予測・危機回避能力を培う指導を行ってきた。今後も計画的に行っていく。</p> <p>②警察・消防等の外部機関や地域ボランティアと連携し、訓練や安全教室、総合的な学習の時間の授業等を行うことができた。教職員研修も安全防災に関する意識向上につなげる事ができた。今後も継続していく。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①児童が様々な体験を通して、危機予測・危機回避能力を養えるように、実地訓練を計画・実施していく</p> <p>②様々な災害を想定し、安全確保のための環境整備をさらにすすめる</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①防災・安全指導年間計画に基づき、避難訓練や5年生における総合学習、シェイクアウト訓練、低学年への新たな安全教室等、様々な場面を設定し危機予測・危機回避能力を培う指導を行ってきた。今後も教科の学習等と関連させながら計画的に行っていく。</p> <p>②警察・消防等の外部機関や地域ボランティアと連携し、訓練や安全教室、総合的な学習の時間の授業等を行うことができた。教職員研修も安全防災に関する意識向上につなげる事ができた。今後も継続していく。</p>
② 問題行動等への対応の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立し、スクールカウンセラー・巡回指導員・うるおいフレンド等を活用しながら組織的対応を図る</p> <p>②個人情報の保護に配慮しつつ、幼稚園・保育園や中学校との連携を深め、支援に役立てる</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①スクールカウンセラーや巡回指導員、うるおいフレンド、外部機関等と連携し早急・適切に対応ができた。</p> <p>②幼稚園や保育園との連携を深め、入学予定の支援体制の充実に努めた。また、中学校とも連携を強化し、入学後の支援に役立つようになった。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立し、スクールカウンセラー・支援教育推進巡回指導員・うるおいフレンド等を活用しながらより充実した組織的対応を図る</p> <p>②教育研究所・子育て支援課等の専門機関との連携を密にし、子ども一人一人の課題に応じた支援を積極的に行う</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①支援や配慮が必要な児童には、スクールカウンセラーや支援教育推進巡回指導員にアドバイスをいただきながら、早急・適切に対応ができた。毎年心のアンケートを実施し、即対応ができています。</p> <p>②外部機関と連携を密にし、各児童に合った支援ができた。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立し、スクールカウンセラー・巡回指導員・うるおいフレンド等を活用しながらより充実した組織的対応を図る</p> <p>②教育研究所・子育て支援課等の専門機関との連携をより密にし、子ども一人一人の課題に応じた支援を積極的に行う</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①支援や配慮が必要な児童には、巡回チームにアドバイスをいただきながら、早急・適切に対応ができた。心のアンケートについての内容の見直しを行った。年2回実施し、児童の実態に合わせて対応ができた。</p> <p>②外部機関との連携、地域・保護者と連絡を密にし、各児童の個別の支援を行うことができた。</p>
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①幼稚園・保育園と相互の参観等をさらに推進し、課題を共有しつつ個々の役割の明確化を検討する</p> <p>②9年間を見通したカリキュラム上の連携や児童指導の情報交換を推進する</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①幼・保・小担当者会において、情報交換や公開行事参観などを通して、教育内容等の相互理解と幼児・児童間の交流を推進することができた。今後も継続的な連携をはかりたい。</p> <p>②中学校の学校訪問や出前授業など連携をはかり、中学校入学に向けて、支援体制の充実に努めた。今後も、継続的な連携をはかっていく。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①個人情報の取扱いに、より一層配慮しつつ、幼・保・小・中の連携を進め、学校生活の安心・安全の向上を図る</p> <p>②小・中連携では、体育や外国語活動、行事等で交流を推進する中で、中1ギャップの解消を目指す</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①幼・保・小連携推進連絡調整会議において、情報交換や公開行事参観などを通し、相互理解と幼児・児童間の交流を推進することができた。今後も継続していきたい。</p> <p>②中学校との外国語活動や体育科の出前授業など連携をはかり、中学校入学に向けての児童の授業参観や部活見学、生徒会活動説明会など、学校間の交流が深まった。今後も、継続的な連携をはかっていく。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①幼・保連携では、行事での交流のみならず、児童に対する共通理解、情報の共有も図る</p> <p>②小・中連携でも行事や授業だけでなく、児童指導、生徒指導でも理解と連携を推進する</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①幼・保・小担当者会において、児童の情報交換を積極的に行うことで相互理解を図れた。また、公開行事参観などを通して幼児・児童間の交流を推進することができた。今後も継続していきたい。</p> <p>②中学校との外国語活動や体育科の出前授業など連携をはかり中学校入学に向けての児童の授業参観や部活動見学、生徒会活動についての説明会など学校間での交流は深まっている。今後も継続的な連携と新たな連携方法を考えていく。</p>
④ 国際教育の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①多様な文化に触れる内容の学習活動を各学年の発達段階に応じて取り入れる</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)の効果的な活用をはかり、諸外国の文化や歴史・自然などに関心を高めるような取り組みをする</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①それぞれの学年の発達段階に応じて、IEA(国際教育指導助手)との協力の下、全学年が国際教育に取り組んだ。</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)と事前に話し合い、IEA(国際教育指導助手)の出身国の話から、様々な国の文化や特徴について取り上げ、授業づくりをした。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①外国語活動や国際理解の授業を通して、異文化活動についてふれ、多様性を尊重し受け入れていく態度を育てる</p> <p>②各学年の外国語活動、国際理解の授業に、異文化理解、多様性の尊重を意図した学習を取り入れる</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①それぞれの学年の発達段階に応じて、IEA(国際教育指導助手)との協力の下、国際教育にて異文化を知ることに取り組んだ。</p> <p>②児童がより興味をもつ内容をIEA(国際教育指導助手)と考え、授業作りをした。様々な地域や国の文化にふれ、授業を展開した。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①外国語活動や国際理解の授業を通して、異文化理解、自分から他者と関わるコミュニケーション力の育成を推進する</p> <p>②池子小学校の国際教育のあり方をまとめ、6年間を通した学びを教育課程上に位置づける</p> <p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①それぞれの学年の発達段階に応じて、IEA(国際教育指導助手)との協力の下、国際教育にて異文化を知ることに取り組んだ。また、何を言わんとしているのか理解しようとする子どもたちの姿も育ってきた。</p> <p>②校内職員研修を実施し、外国語活動への考え方や授業づくりについて学ぶ機会を設けた。また、年間計画を作成し、より発展的に学習が展開できるようにした。</p>

【池子小学校】

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①子どもの発達段階に応じて、自己の生き方について考える学習を体験活動を通して取り入れる ②保護者や地域の協力を得て、調べ学習や体験学習を充実させる	①キャリア教育に対する教職員の共通理解を図り、子どもの発達に応じた様々な「生き方の教育」について検討し、その取り組みを実践する ②調べ学習や体験学習のねらいを再確認し地域教育力の効果的な活用を図る	①教育活動全体をキャリア教育からの視点で見直し、カリキュラムとして残していけるようにする ②地域教育力のさらなる活用を図り、キャリア教育の充実を図る
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①4年生での2分の1成人式 6年生のラーメン作り・八景島シーパラダイス飼育員体験・市長との話をとおして自己の生き方や今後の職業選択について考えることができた。 ②保護者や地域のお店(畳店 豆腐店)の協力を得て調べ学習や体験学習が充実した。	成果と課題 ①総合的な学習の年間カリキュラムを作る中、4年生6年生でキャリア教育を位置づけ教職員の共通理解を図った。 ②地域や保護者の方を効果的に活用した体験的な学習を引き続き行った。	成果と課題 ①総合的な学習の時間の年間カリキュラムではなく4年生6年生の特別活動の中にキャリア教育を位置づけ教職員の共通理解を図った。 ②地域支援本部事業などで地域や保護者の方を効果的に活用し キャリア教育の充実を図ることができた。
⑥ 福祉教育の推進	①市の社会福祉協議会等の機関と連携を図り、発達段階に応じた体験的な福祉教育を実施する ②NPO等の外部団体や保護者と連携し、発達段階に配慮した福祉教育・人権教育を推進する	①各学年の福祉体験活動を整理し、発達段階に応じた学校全体としての福祉教育の推進を図る ②日常的な福祉教育・人権教育を推進し、人権感覚の向上に意図的に取り組む	①体験からの学びを重視し、体験だけに終わらない日常に生きる福祉教育の推進を目指す ②人権に対する研修を継続し、人権意識の向上を図ると共に地域・保護者への発信も充実させる
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①市の社会福祉協議会と連携する活動はなかったが学年ごとに体験的な福祉教育を実施した。 ②学年の発達段階に応じた様々な活動をおして地域教育力を生かして日常に生きる福祉を学ぶ機会を増やした。	成果と課題 ①市の福祉協議会と連携し、発達段階に応じた体験的な福祉教育を積極的に取り組むことができた。 ②各教科や、ユニセフ募金などの活動を通して、自分たちにできることを考えたり、他者を尊重する態度を培うことができた。	成果と課題 ①市の福祉協議会と連携し、発達段階に応じた体験的な福祉教育を積極的に取り組むことができた。体験だけでなく、ユニバーサルデザインについての学習へつなげることができた。 ②教職員の人権意識を高める研修を実施し、また、ユニセフ募金、東日本特別募金などの児童会活動を通して、自分や他者を尊重する態度を培うことができた。
⑦ 環境教育の推進	①環境教育の全体計画を作成し、各学年での取り組みを整理し、積極的に活動を行う ②環境教育担当者会での情報交換や、関係諸機関との連携を進め、日常的な活動として環境教育に取り組む	①各学年の全体計画を見直し、取り組む行動事項と目標を明確に示し、環境教育を積極的に推進する ②保護者・地域、さらに関係諸機関との連携を深め、子どもたちの環境への意識を育む	①6年間を通した、地域の特性を生かした環境教育全体計画を作成し、よりよい環境教育の推進を目指す ②環境に対する意識を深めさせ、子どもたち自らが積極的に活動を展開できるように取り組みを目指す
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①全体計画に基づき、各学年や委員会・全校で活動を行った。 ②関係機関と連携し学習を行ったり、全校行事などで日常的に環境教育に取り組んだ。	成果と課題 ①総合的な学習の時間の年間カリキュラムともからめながら、各学年の全体計画を見直し、取り組む行動目標や内容について、共通理解をはかり、次年度以降も進めていくことを確認した。 ②関係機関と連携した学習活動を引き続き行った。	成果と課題 ①発達段階に合わせて、各教科と総合と関連付けた環境教育を地域の方と協力しながら学校全体で取り組むことができた。 ②返子市の有料ゴミ袋の標語デザインコンクールに応募、返子市環境フェスティバルに環境学習の作品を出展するなど、児童が積極的に環境教育に取り組んだ。
⑧ 情報教育の推進	①教員が積極的にICTを活用した授業に取り組むことにより、発達段階に応じた情報リテラシーの育成に取り組む ②情報を取捨選択し、正しく利用する能力を養うとともに、情報の発信者としてのモラルの育成を図る	①ICT(情報通信技術)を活用した「授業の充実」と「分かる授業」の実現を積極的に図る ②情報活用能力の伸長を通して、判断力・表現力を養う	①情報活用能力の発達段階に応じた指導のあり方を検討し、学校全体で取り組む ②学習の様々な場面でICT(情報コミュニケーション技術)の効果的な活用がなされるように意図的に取り組む
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①情報教育の推進と、教職員の共通理解を図るため、来年度の「情報教育年間指導計画」の作成を行った。 ②今後はできあがったものを基に単元研究に取り組んでいきたい。	成果と課題 ①情報教育年間指導計画のもとに単元研究に取り組み、学年に応じて実践した。 ②ICT(情報通信技術)を活用し、児童の意欲や関心を高めることができた。今後も、機器の活用を工夫しながら取り組みたい。	成果と課題 ①情報教育年間計画のもとに、発達段階に応じた指導の充実に取り組んだ。 ②ICT(情報コミュニケーション技術)の効果的な活用、学校放送などを利用し児童の意欲や関心を高めるよう子どもたちに分かりやすい授業づくりに取り組んだ。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	<p>①学校、学年、学級便り等による保護者、地域への適正な情報発信の改善を図る</p> <p>②学校支援地域本部事業の継続性の確保と改善</p>	<p>①学校、学年、学級便り等による保護者、地域への適正な情報発信の実施</p> <p>②学校支援地域本部事業の継続性の確保と改善</p>	<p>①学校、学年、学級便り等による保護者、地域への適正な情報発信の実施</p> <p>②学校支援地域本部事業の継続性の確保と改善</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①学校からの情報は、各学級・学年・学校・分掌からのたよりを通して発信することができた。学校だよりは、発行日にほぼ地域へも配付することができた。</p> <p>②学校支援地域本部事業は、様々な活動が活発に実施された。しかし、学校が主導で動いているので、今後は、地域コーディネーターなどと密に連携し、地域コーディネーターが主体的に動ける場も増やしていきたい。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①今年度も、学校からの情報発信として、各学級・学年・学校・係からのたよりを通して、保護者・地域に発信することができた。また、年度の後半には、学校ホームページを随時更新し、学校の様子をタイムリーに伝えることができた。</p> <p>②地域コーディネーターと連携し、学校支援地域本部事業を適切かつ活発に実施することができた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①学校・学年・学級だよりなどを通して、保護者や地域に定期的に情報を発信することができた。学校ホームページについても、随時更新しながら、学校の様子を発信することができた。</p> <p>②地域コーディネーターと連携し、前年度踏襲ではなく、今年度の児童の様子や学習内容の見直しを持って学校支援地域本部事業の活動を行うことができた</p>
行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
② 地域教育力の活用	<p>①地域コーディネーターを中心とした地域支援活動の調整と改善</p> <p>②地域ボランティアの活動の充実と、学校との双方向の交流の検討</p>	<p>①地域支援コーディネーターを中心とした地域支援活動の調整と改善</p> <p>②地域ボランティアの活動の充実と、学校との双方向の交流の推進</p>	<p>①地域コーディネーターを中心とした地域支援活動の調整と改善</p> <p>②地域ボランティアの活動の充実と、学校との双方向の交流の継続</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①地域コーディネーターを中心に、ふれあい作品展の出展を呼びかけていただき、展示を積極的に協力していただいた。</p> <p>②学校の環境整備を中心に活動していただき、結果として、よりよい意義深い活動が展開された。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①地域支援CDを中心に、学校行事や各教科活動での支援やふれあい作品展の出展を呼びかけていただき、多くの作品の出展協力を得ることができた。</p> <p>②学校評議員会で今年度の活動の協力を通年で呼びかけ、環境整備など協力していただいたことをその都度報告した。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①地域コーディネーターを中心に、学校地域行事や学校行事活動での支援や教育課程に沿った地域教育力の協力をいただいた。</p> <p>②通年で地域の力を取り入れるべく、地域の教育力を活用した様々な教育活動を行うことができた。その活動は、各教科や特に生活科、総合的な学習の時間の具体的な場面で活かされ子どもの生きる力に繋がっている。</p>
行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
③ 学校評価を生かした 学校の改善	<p>①重点化した目標設定と、学校評価アンケートの実施場面と内容の検討</p> <p>②学校評価アンケートを生かした教育活動の点検と見直し</p>	<p>①改善された学校評価アンケートの実施方法の工夫と分析</p> <p>②学校評価アンケートを生かした教育活動の点検と見直し</p>	<p>①改善された学校評価アンケートの実施方法の工夫と分析</p> <p>②学校評価アンケートを生かした教育活動の点検と見直し</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>児童・保護者・地域による学校評価の他、学校関係者評価委員会での助言をもとに、教育活動の点検と見直しを図ることができた。今後は、児童・保護者による授業評価など、様々な評価方法を検討し工夫改善に努めたい。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①学校評価アンケートの改善と実施方法の工夫を心がけ、沢山の方々からのアンケートをいただくことができた。今後は実施時期(季節)の検討が必要である。</p> <p>②学校関係者評価委員会の指導・助言をいただきながら、全職員で共有し、教育活動に専念することができた。それがアンケート結果に繋がっている。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①学校評価アンケートについては、毎年見直しを行い実施、分析している。ほぼ肯定的な意見をいただいているが、新たな教育的課題に向けて、今後も検討していく必要がある。</p> <p>②学校評価、学校関係者評価委員会の指導、助言を受けて、教育活動に専念することができた。今後も外部の声に対して謙虚に耳を傾けながら教育活動を推進していきたい。</p>

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
<p>行動プラン</p> <p>① 授業研究の充実</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①中学校との連携による授業実践と6年間の指導体系の見直しを図る ②学校全体としての指導力向上に向けた取り組みの成果を検証し、改善を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学年ブロックごとにめざす子どもの姿や達成のための手立てを設定してブロックごとの事前研究を行い、縦のつながりを重視した校内研究をすすめた。 ②外部の講師を招いて校内研究の内容に具体的な指導を受け、指導力の向上を図ることができた。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①研究テーマに基づいて、6年間で育てたい児童の姿を明確にする ②校内研究を通じて、個々の教員が指導力を高め、授業の改善を進めていく。学校全体で目標が達成できるように意識を高める</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①研究テーマに基づいて、6年間で育てたい児童の姿を明確にし、その姿を実現するために総合的な学習の時間と生活科のカリキュラムの見直しを行った。 ②個々の教員が授業改善に向けて、総合的な学習の時間と生活科のカリキュラムの見直しに取り組み、今後に向けて共通理解を行った。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①授業研究を通して研究の推進を図り、授業改善にさらに取り組んでいく ②学校全体としての指導力向上・授業改善の取り組みの成果を検証し、成果と課題を明らかにする</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①生活・総合の校内研究では、各教科との関連と子どもたちの見取りから授業改善に取り組んだ。 ②担当が年一回以上の研究授業を行い、指導力の向上に努めた。そして、授業実践をもとに、次年度の年間計画見直し、改善案を示し、全職員で共有した。</p>
<p>行動プラン</p> <p>② 授業評価の活用</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①授業評価に対する、教員の共通理解を深め、授業の改善に努める ②校内研究の中で、授業の評価を教員同士で行い、研究に全員で取り組む意識を高める</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学校関係者評価委員に校内研究の講師を兼ねていただくことにより、校内研究による授業改善をさらに進めることができた。 ②校内研究に取り組む意識が以前に増して高くなり、ブロックでの話し合いを活発に行うことができた。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①授業評価のあり方や活用の仕方について、検討していく ②授業の改善につながるような評価のあり方を引き続き検討していく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①②実際に児童や保護者などによる授業評価の実施までにはいたらなかったが、より有効な授業評価のあり方について検討することができた。次年度は確実に実施できるよう、さらに検討を重ねていきたい。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①学校の教育力の向上につながるような評価のあり方を検討していく ②指導と評価の一体化に基づくカリキュラムの改善を検討していく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①講師(巡回指導員も含む)の指導の下、全クラス授業公開を重ね、他の教員や講師からの評価を授業力向上に結びつけることができた。 ②今年度は特に生活科・総合的な学習の時間におけるカリキュラムの改善と充実に関心が、昨年度作成した年間指導計画を活用し、効果的な授業実践ができた。</p>
<p>行動プラン</p> <p>③ 研修事業の充実</p>	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①学校内のOJTを機能させ、自主的で活発な教員研修が行われるよう、時間の確保を図る ②授業づくりに直接つながるよう、研究研修部を中心に計画的に研究・研修を実施する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①初任者に対しては、学校全体で指導・支援していく体制が作られている。 ②他校の授業参観や発表会に参加することを通して、校内研究で課題となることや参考にしたいことを明確にできた。また、研修会を設定し学力向上に向けてこれからの課題を明確にできた。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①学校内のOJTが日常的に機能するように、教職員がお互いに声をかけあいながら取り組む ②研究研修計画をもとに、実践指導力向上のための効果的な研究・研修に取り組む</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①経験の浅い教職員に対しては、日常的に学校全体で指導・支援していくよう声を掛け合っている。 ②校内研究で、総合的な学習の時間と生活科のカリキュラムを見直す際には、講師による研修も取り入れながら取り組んだ。また、児童指導・保健安全に関するさまざまなニーズに対応できるような研修を年間を通して行った。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①学校内のOJTが日常的に有効に機能しているかを検証し、さらなる工夫改善した取り組みを推進する ②研究・研修が教職員一人ひとりの専門性を高めるとともに学校の組織力を高め、質の高い授業実践ができているかを検証し、今後の改善に生かす</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①初任者に対しては、学校全体で指導・支援していく体制が作られている。授業力向上研修や教育指導教員の方にも初任者の指導をしていただくなど体制の充実を図った。 ②計画的に校内の研修会を設定することにより、教職員の指導力の向上を図ることができた。校内研究では一人ひとりが授業を行うことにより実践的な力をつけることができた。</p>

平成25年度～平成27年度 学校による点検及び評価の推移(逗子中学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実	
行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実	①指導法の工夫改善を図り、効果的な少人数・習熟度別・チームティーチングの実践・検証 ②学習支援情報(個人学習カルテ)の作成と、教科相談等の支援活動の実施 ③校内研究と連動した研修の実施と授業改善	①指導法の工夫改善を図り、効果的な少人数・習熟度別・チームティーチング及び少人数学級の実践・検証 ②学習支援情報(個人学習カルテ)の作成と、教科相談等の支援活動の実施 ③校内研究と連動し、「生徒一人ひとり」に視点をあてた研修の実施と授業改善	①指導法の工夫改善を図り、効果的な少人数・習熟度別・チームティーチング及び少人数学級の実践・検証 ②学習支援情報(個人学習カルテ)の作成と、教科相談等の支援活動の実施 ③校内研究と連動し、「生徒一人ひとり」に視点をあてた研修の実施と授業改善
	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①数学、英語を中心に単元や授業のねらいとの関連で、少人数習熟度別授業やチームティーチングを実施した。 ②個人学習カルテを作成し、保護者面談や教科相談に活用した。 ③横浜国立大学の両角准教授をスーパーバイザーとして、年間2回の公開授業と11月の授業研究(3クラス)を中心に校内研究を進めた。	成果と課題 ①数学、英語を中心に単元や授業のねらいとの関連で、少人数習熟度別授業やチームティーチングを実施した。 ②個人学習カルテを作成し、保護者面談や教科相談に活用した。 ③横浜国立大学の両角准教授や有元教授をスーパーバイザーとして、年間2回の公開授業と11月の授業研究(3クラス)を中心に校内研究を進めた。また、教育研究所の先生方とも連携して生徒一人ひとりが生きる学級づくりについて研修を進めた。	成果と課題 ①英語を中心に、単元や授業のねらいとの関連で、少人数習熟度別授業やチームティーチングを実施した。 ②個人学習カルテを作成し、保護者面談や教科相談に活用した。 ③校内研究と連動し、各教科で教科デザインを作成した。また学びのプランを作成し、年間2回の公開授業と11月の授業研究(3クラス)を中心に校内研究を進めた。
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①言語活動の充実を重視した各教科での年間指導計画の作成 ②社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力の育成(生徒の自己評価) ・言語、シンボル、テキストを活用する能力 ・知識や情報を活用する能力 ・テクノロジーを活用する能力	①言語活動の充実を重視した各教科での年間指導計画の作成 ②社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力の育成(生徒の自己評価) ・言語、シンボル、テキストを活用する能力 ・知識や情報を活用する能力 ・テクノロジーを活用する能力 ③6月・1月に行う生徒の自己評価の肯定的な自己評価を5ポイント程度上げる	①言語活動の充実を重視した各教科での年間指導計画の作成 ②社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力の育成(生徒の自己評価) ・言語、シンボル、テキストを活用する能力 ・知識や情報を活用する能力 ・テクノロジーを活用する能力 ③6月・1月に行う生徒の自己評価の肯定的な自己評価を5ポイント程度上げる
	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①校内研究のテーマと関連付けて年間指導計画を作成した。 ②6月と1月の年間2回全生徒に自己評価をしてもらい、過半数を超える肯定的な自己評価を得た。	成果と課題 ①校内研究のテーマと関連付けて年間指導計画を作成した。 ②6月と1月の年間2回全生徒に自己評価をもらい、過半数を超える肯定的な自己評価を得た。 ③2年「ある程度ついていける」というポイントにおいては、課題が残った。	成果と課題 ①校内研究のテーマと関連付けて、年間指導計画を作成した。 ②10月と1月の年間2回、全校生徒に自己評価をもらい、過半数を超える肯定的な自己評価を得た。 ③各教科、前期と比較して後期には、ポイントがおおむね上昇した。
③ 読書活動の推進	①学習情報センターとしての学校図書館機能の充実 ②朝読書を中心とした読書活動の充実 ③市立図書館との連携	①学習情報センターとしての学校図書館機能の充実 ②朝読書を中心とした読書活動の充実 ③市立図書館との連携	①学習情報センターとしての学校図書館機能の充実 ②朝読書を中心とした読書活動の充実 ③市立図書館との連携
	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①総合的な学習の時間を中心に活用した。 ②年間2回の読書週間で「朝読書」を行い、校長・教頭も含めて「読み聞かせ」を行った。 ③市立図書館の図書の借り受けを中心に連携を図った。	成果と課題 ①総合的な学習の時間を中心に特別活動の時間にも行った。 ②年2回の読書週間で「朝読書」を行い、校長・教頭・教務・学年の先生方が「読み聞かせ」等を行った。 ③市立図書館の図書の借り受けを中心に連携を図った。	成果と課題 ①総合的な学習の時間を中心に、特別活動の時間にも行った。 ②年2回の読書週間で「朝読書」を行うことができた一方、「読み聞かせ」の実践はできなかった。 ③市立図書館の図書の借り受けを中心に、連携を図った。
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実 ②学習支援員、スクールカウンセラー、心の教室相談員、ボランティア等の人的リソースを有効に活用した。支援教室等、個に応じた支援の実施 ③学習環境・授業のユニバーサル化を図るための、スクールスタンダードの検証	①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実 ②学習支援員、スクールカウンセラー、心の教室相談員、ボランティア等の人的リソースを有効に活用した。支援教室等、個に応じた支援の実施 ③学習環境・授業のユニバーサル化を図るための、スクールスタンダードの検証と定着	①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実 ②学習支援員、スクールカウンセラー、心の教室相談員、ボランティア等の人的リソースを有効に活用した。支援教室等、個に応じた支援の実施 ③学習環境・授業のユニバーサル化を図るための、スクールスタンダードの定着 ④特別支援学級と個別支援・支援教室での協同学習の実施
	(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった	(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった	(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった ④達成した
	成果と課題 ①二人の教育相談コーディネーターを中心に、毎月の校内支援委員会及び関係諸団体とのネットワーク会議等機能した。 ②取り組みの成果として不登校生徒数の減少(18名から14名)をみた。 ③教室前面の掲示板上にカーテンを設置し、教室環境の構造化を図ったが、まだ緒についたばかりである。	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心に全職員による支援体制を築いたので、昨年度以上に生徒理解が進み、成果が上がった。 ②支援教室の生徒利用の生徒が4名になり、それぞれが目的をもった生活ができるようになったことが成果である。 ③去年の継続に留まった。	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心に、巡回チーム等による支援体制を築いたので、昨年度以上に生徒理解が進んだ。 ②支援教室の生徒利用の生徒が0名になり、それぞれが目的をもった生活ができるようになったことが成果である。 ③去年の継続に留まった。 ④協同学習により生徒の活動場所ができ、登校意欲につながり成果を上げた。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①保護者等と連携した、生徒の基本的な生活習慣の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の朝食を必ずとる(80%以上) ・「孤食率」の低下を呼びかける(35%未満) ・家庭でルールをつくり、子どもに家族の一員としての自覚を促す <p>②学校からの多様な手段による情報発信と、保護者・地域との密な連携</p>	<p>①保護者等と連携した、生徒の基本的な生活習慣の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の朝食を必ずとる(85%以上) ・「孤食率」の低下を呼びかける(30%未満) ・家庭でルールをつくり、子どもに家族の一員としての自覚を促す <p>②学校からの多様な手段による情報発信と、保護者・地域との密な連携</p>	<p>①保護者等と連携した、生徒の基本的な生活習慣の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の朝食を必ずとる(90%以上) ・「孤食率」の低下を呼びかける(25%未満) ・家庭でルールをつくり、子どもに家族の一員としての自覚を促す <p>②学校からの多様な手段による情報発信と、保護者・地域との密な連携</p>
	<p>(評価)</p> <p>①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①朝食は全校生徒の9割以上がほぼ毎日取っているが、他は半数以下であった。</p> <p>②学校便り、学年便り、学級通信に加え、校長通信を月2回程度発行し、ホームページにも掲載した。</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①保護者と連携して基本的な生活習慣の定着をめざしたが、食育については不十分であった。</p> <p>②学校だより、ホームページ等で連携がとれた。</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①保護者と連携して、基本的な生活習慣の定着をめざしたが、食育についての取り組みは不十分であった。</p> <p>②学校だより、ホームページ等で連携がとれた。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①道徳の時間における指導と、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育との連動</p> <p>②全校道徳等、道徳の時間の新たな手法についての検討(全校道徳年間3回以上実施)</p> <p>③地域人材活用の授業実践(年間2回以上)</p>	<p>①道徳の時間における指導と、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育との連動</p> <p>②全校道徳等、道徳の時間の新たな手法についての検討(全校道徳年間4回以上実施)</p> <p>③地域人材活用の授業実践(年間3回以上)</p>	<p>①道徳の時間における指導と、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育との連動</p> <p>②全校道徳等、道徳の時間の新たな手法についての検討(全校道徳年間5回以上実施)</p> <p>③地域人材活用の授業実践(年間4回以上)</p>
	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学習情報で連携を図っている。今後、一覧表を作成する。</p> <p>②年間3回の全校道徳を実施した。</p> <p>③全校道徳で地域人材を活用した。</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学習情報で連携を図っている。今後、一覧表を作成する。</p> <p>②年間3回の全校道徳を実施した。</p> <p>③全校道徳で地域人材を活用した。</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①学習情報で連携を図っている。今後、一覧表を作成する。</p> <p>②全校道徳で教材及び内容を工夫した。</p> <p>③全校道徳や学年道徳で、地域人材を活用した。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①キャリア教育・市民性教育を柱として、総合的な学習の時間や特別活動を中心に、地域に根ざした体験活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代的な教育課題 ・学校行事の縦割りブロック活動 ・自然体験活動 ・職業体験 ・修学旅行 	<p>①キャリア教育・市民性教育を柱として、総合的な学習の時間や特別活動を中心に、地域に根ざした体験活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代的な教育課題 ・学校行事の縦割りブロック活動 ・自然体験活動 ・職業体験 ・修学旅行 <p>②3年生で3年間の市民性教育の集大成としての発表会を保護者・地域に公開して行う</p>	<p>①キャリア教育・市民性教育を柱として、総合的な学習の時間や特別活動を中心に、地域に根ざした体験活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代的な教育課題 ・学校行事の縦割りブロック活動 ・自然体験活動 ・職業体験 ・修学旅行 <p>②3年生で3年間の市民性教育の集大成としての発表会を保護者・地域に公開して行う</p>
	<p>(評価)</p> <p>①達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①次年度3年生が、市への提言を行う予定。</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①3年生が修学旅行を通じて学んできたことを「どのようにして逗子市に活かせるのか」ということについて市への提言を行った。</p> <p>②市長にも来校していただき、多数の来校者の中、発表会を実施できた。</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①修学旅行を通して、学んできたことを発表する中で、逗子市との違いや奈良・京都の文化について学習した。</p> <p>②保護者・地域に公開し、多数の来校者の中、発表会を実施できた。</p>

【逗子中学校】

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	①体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践、充実 ・体育授業のチームティーチング(教員3名による指導) ・ラジオ体操 ・マラソン大会 ②地域やPTAと連携した食育の推進	①体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践、充実 ・体育授業のチームティーチング(教員3名による指導) ・ラジオ体操 ・マラソン大会 ②地域やPTAと連携した食育の推進 ③チャレンジデーの取り組みを学校として企画し、自主参加を呼びかける	①体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践、充実 ・体育授業のチームティーチング(教員3名による指導) ・ラジオ体操 ・マラソン大会 ②地域やPTAと連携した食育の推進 ③チャレンジデーの取り組みを学校として企画し、自主参加を呼びかける
	(評価) ①達成した ②達成できなかった	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①三つの具体例をすべて取り組んだ。 ②1・2年生の技術家庭科で食育の授業を行ったが、PTAを巻き込むには至っていない。	成果と課題 ①体育科の人数を確保する必要がある。 ②1・2年生の技術・家庭科で食育の授業を行った。「餅つき」を通して地域・PTAの協力を得て推進できた。支援学級では、畑を作るなどの活動を通して、充実させることができた。 ③長縄に学校全体で取り組んだが、家庭への啓蒙活動を充実させる必要がある。	成果と課題 ①体育科の人数を確保する必要がある。 ②3学年では、2年次に調べ学習を行い、奈良・京都の食文化について学習した。支援学級では、引き続き畑を作るなどの活動を通して、充実させることができた。 ③来年度は、参加方法を変更して行う。(エントリーカードを各クラスに配布し、その場で記入してもらう)

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 学校安全の推進	<p>①CAP(子どもへの暴力防止プログラム)等を活用した不審者対策、安全教育の充実と逗子中学校防災計画の見直し</p> <p>②大地震・津波を想定した避難訓練・災害時伝言ダイヤル訓練等の充実</p> <p>③地域と連携した防災訓練における、中学生が主体的に活動する場面設定</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①CAP(子どもへの暴力防止プログラム)以外にも県警の安全教育を実施し、本校の防災計画も見直した。</p> <p>②年間3回の避難訓練、年間3回の災害時伝言ダイヤル訓練を実施した。</p> <p>③池子小学校で行った「避難所運営訓練」に中学生がボランティアとして参加した。</p>	<p>①逗子警察署生活安全課等を活用した不審者対策、安全教育の充実と逗子中学校防災計画の見直し</p> <p>②大地震・津波を想定した避難訓練・災害時伝言ダイヤル訓練等の充実</p> <p>③地域と連携した防災訓練における、中学生が主体的に活動する場面設定</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①不審者対策の講演会などを実施し、安全教育を徹底した。また、防災についても避難訓練等徹底した。</p> <p>②年3回の避難訓練や災害伝言ダイヤル訓練を実施し成果をあげた。</p> <p>③逗子中で実施された避難所訓練に参加し成果をあげた。</p>	<p>①逗子警察署生活安全課等を活用した不審者対策、安全教育の充実と逗子中学校防災計画の見直し</p> <p>②大地震・津波を想定した避難訓練・災害時伝言ダイヤル訓練等の充実</p> <p>③地域と連携した防災訓練における、中学生が主体的に活動する場面設定</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①不審者対策の講演会などを実施し、安全教育を徹底した。また、防災についても避難訓練等徹底した。</p> <p>②年3回の避難訓練や災害伝言ダイヤル訓練を実施し成果をあげた。</p> <p>③池子小学校区避難所運営訓練に参加し、成果をあげた。</p>
② 問題行動等への対応の推進	<p>①スクールカウンセラー、うるおいフレンド(心の教室相談員)、学習支援員の効果的な活用と、継続的な校内相談体制の再検討</p> <p>②いじめ・不登校への予防的な相談の実施と研究所等他機関との密な連携</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①教育相談コーディネーターを中心に、人材の活用と情報の共有化を推進した。</p> <p>②研究所にお願いして「構成的グループエンカウンター」の手法による学級づくり、研究所スーパーバイザーによる研修会を実施した。</p>	<p>①スクールカウンセラー、うるおいフレンド(心の教室相談員)、学習支援員の効果的な活用と、継続的な校内相談体制の再検討</p> <p>②いじめ・不登校への予防的な相談の実施と研究所等他機関との密な連携</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①教育相談コーディネーターを中心に人材の活用と情報の共有化を推進し成果をあげた。</p> <p>②研究所や支援教室の利用等で、全職員の共通理解のもとで成果をあげた。今後この態勢で実施していきたい。</p>	<p>①スクールカウンセラー、うるおいフレンド(心の教室相談員)、学習支援員の効果的な活用と、継続的な校内相談体制の再検討</p> <p>②いじめ・不登校への予防的な相談の実施と研究所等他機関との密な連携</p> <p>③生徒指導連絡会の週1回開催</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①教育相談コーディネーターを中心に、人材の活用と情報の共有化を推進し、成果をあげた。</p> <p>②教育研究所や支援教室の利用等で、全職員の共通理解のもとで成果をあげた。教育相談コーディネーターが相談に加わった。</p> <p>③実施できた。</p>
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<p>①小・中学校間で、教員の授業交流の実施</p> <p>②小・中学校、9年間を見通した「学び方」のカリキュラム作りの検討</p> <p>③湘南保育園との連携の模索(職業体験)</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①池子小学校で体育教員が、逗子小学校で英語教員が授業を行った。</p> <p>②モデルを提示した。</p> <p>③湘南保育園をはじめ、沼間愛児園、桜山保育園、双葉保育園、聖マリア幼稚園で職業体験を実施した。</p>	<p>①小・中学校間で、教員の授業交流の実施</p> <p>②小・中学校、9年間を見通した「学び方」のカリキュラム作りの実施</p> <p>③湘南保育園との連携</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①池子小で体育教員、逗子小で英語教員が授業を行った。</p> <p>②モデルを提示した。</p> <p>③湘南保育園をはじめ、沼間愛児園、桜山保育園、双葉保育園で職業体験を引き続き実施した。</p>	<p>①小・中学校間で、教員の授業交流の実施</p> <p>②小・中学校、9年間を見通した「学び方」のカリキュラムに基づいた実践</p> <p>③湘南保育園との連携の充実</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①英語教諭が逗子小と池子小で、それぞれ授業を行った。</p> <p>②モデルを提示した。</p> <p>③湘南保育園をはじめ、沼間愛児園、桜山保育園、双葉保育園で職場体験を引き続き実施した。また吹奏楽部・図書委員会や夏の講座などで逗子高校と連携を行った。</p>
④ 国際教育の推進	<p>①異文化を理解し、多文化と共生するために、地域人材の活用を図りながら、授業や行事を通じた、コミュニケーション能力の育成</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)の効果的な活用による生徒のコミュニケーション能力の育成及び国際教育の実施</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <p>①地域人材の活用まで及ばなかった。</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)を活用し、「日本の学校、オーストラリアの学校」を紹介した。</p>	<p>①異文化を理解し、多文化と共生するために、地域人材の活用を図りながら、授業や行事を通じた、コミュニケーション能力の育成</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)の効果的な活用による生徒のコミュニケーション能力の育成及び国際教育の実施</p> <p>③市民性教育の一環として、修学旅行において、在住の外国人や観光客に住みやすのインタビューをして、観光都市逗子のあり方を考える</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果と課題</p> <p>①地域人材の活用まで及ばなかった。次年度からは、地区内でのIEA(国際教育指導助手)の交流に取り組んでいきたい。</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)を活用し、アメリカの地域や文化を紹介した。</p> <p>③修学旅行において、外国人とコミュニケーションをとるのは時間的にも難しい。</p>	<p>①異文化を理解し、多文化と共生するために、地域人材の活用を図りながら、授業や行事を通じたコミュニケーション能力の育成</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)の効果的な活用による生徒のコミュニケーション能力の育成及び国際教育の実施</p> <p>③市民性教育の一環として、修学旅行において、在住の外国人や観光客に住みやすのインタビューをして、観光都市逗子のあり方を考える</p> <p>(評価)</p> <p>① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果と課題</p> <p>①前年度と同様に、地域人材の活用まで及ばなかった。</p> <p>②国際教育指導助手を活用し、アメリカの地域や文化を紹介した。</p> <p>③国際教育の理念の周知から、はじめなければならない。</p>

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①職業体験学習の実施等によりキャリア教育の推進 ②学校行事・生徒会活動の充実 ③キャリア教育・市民性教育のカリキュラムづくり	①職業体験学習の実施等によりキャリア教育の推進 ②学校行事・生徒会活動の充実 ③キャリア教育・市民性教育のカリキュラム完成	①職業体験学習の実施等によりキャリア教育の推進 ②学校行事・生徒会活動の充実 ③キャリア教育・市民性教育のカリキュラムの実践と検証
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①例年通り59箇所以上の事業所の協力で職業体験を実施した。 ②PTA及び学校支援地域本部の協力の下、取り組んだ。 ③取り組みの2年目ということで、カリキュラム作りを行った。	成果と課題 ①例年通り39箇所の事業所の協力で職業体験を実施した。 ②PTA及び学校支援地域本部の協力のもと、取り組んだ。 ③取り組みの3年目ということで、修学旅行の学習活動をもとに、逗子市への提言ということで発表することができた。	成果と課題 ①事業所の協力を得て、45事業所の協力で職場体験を実施した。 ②PTA及び学校支援地域本部の協力の下、ディベートなどに取り組んだ。 ③修学旅行での学習成果を、逗子市への提言という形で発表できた。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	①福祉体験学習の実施による豊かな心の育成 ②市民性教育の一環として、社会福祉の理解を深め、地域と協働した生徒の社会性の伸長	①福祉体験学習の実施による豊かな心の育成 ②市民性教育の一環として、社会福祉の理解を深め、地域と協働した生徒の社会性の伸長 ③地域ボランティアに積極的に参加するよう呼びかける	①福祉体験学習の実施による豊かな心の育成 ②市民性教育の一環として、社会福祉の理解を深め、地域と協働した生徒の社会性の伸長 ③地域ボランティアに積極的に参加するよう呼びかける
	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①社会福祉協議会と連携して中学生にできるボランティアを模索したが、実現に至っていない。 ②市役所福祉部の協力の下、1年生を対象に講演会を実施した。	成果と課題 ①・②共に社会福祉協議会と連携し、3年生対象に福祉教育の授業を実施した。 ③田越川清掃活動、万引き防止キャンペーン等、新しい試みにも参加した。次年度も継続して行っていきたい。	成果と課題 ①・②共に社会福祉協議会と連携し、3学年を対象に福祉教育を実施した。来年度は、他学年にも実施していきたい。 ③逗子市民まつりや逗子サミット(携帯電話の使い方)などに参加した。次年度も継続して行っていきたい。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	①生徒会活動を中心とした、ホタルの里づくりの推進 ②市民性教育の一環として、地域と協働した環境教育の実践	①生徒会活動を中心とした、ホタルの里づくりの推進 ②市民性教育の一環として、地域と協働した環境教育の実践 ③地域ボランティアに積極的に参加するよう呼びかける	①生徒会活動を中心とした、ホタルの里づくりの推進 ②市民性教育の一環として、地域と協働した環境教育の実践 ③地域ボランティアに積極的に参加するよう呼びかける
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	成果と課題 ①6月に本校裏の川で合計十数匹の蛍を確認した。 ②学校支援地域本部及び池子地区の住民と一緒に地域清掃を実施した。	成果と課題 ①初夏に天候が悪く、ホタルをあまり確認できなかった。餌のカワニナを飼育中だが、水槽に照明が欲しい。 ②昨年度の反省を受けて12月中に3月の日程を決めて、地域清掃の連絡を行った。また来年度は総務会の方針で、10月にも地域清掃を行う予定である。また、保健委員会を中心に芝生の育成を行った。 ③田越川の清掃活動など、新しい試みにも多く参加した。	成果と課題 ①ホタルの観察は、3回実施できた。餌のカワニナの育成やホタルの幼虫の捕獲にも取り組んだ。 ②10月は、地域との連携がうまくできなかったが、3月は地域との連携を取り、実施できた。 ③地域清掃を2回に増やした結果、ボランティア人数が増加した。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	①市民性教育の一環として、ICTを活用したプレゼンテーションを取り入れた授業を学年ごとに編成 ②ICTの「光と闇」に関する情報セキュリティについて、生徒・保護者の理解促進	①市民性教育の一環として、ICT(情報通信技術)を活用したプレゼンテーションを取り入れた授業を学年ごとに編成し、発達段階に応じた情報活用能力の育成 ②ICT(情報通信技術)の「光と闇」に関する情報セキュリティについて、生徒・保護者の理解促進	①市民性教育の一環として、ICT(情報コミュニケーション技術)を活用したプレゼンテーションを取り入れた授業を学年ごとに編成し、発達段階に応じた情報活用能力の育成 ②ICT(情報コミュニケーション技術)の「光と闇」に関する情報セキュリティについて、生徒・保護者の理解促進
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①1年生はデジタルカメラ、2年生はオーバーヘッドカメラ、3年生はパワーポイントを活用して発表会を実施した。 ②県警の協力の下、7月に全校生徒を対象として携帯電話の危険性について講演会を実施した。	成果と課題 ①1年生は実物投影機、2・3年生はパワーポイントを活用して行事などの発表会を実施した。特に3年生については、Z-Learningの視点より市長や教育委員会の協力の下、情報活用能力の育成に努めた。 ②県警の協力の下、7月に全校生徒を対象として携帯電話の危険性について講演会を実施した。	成果と課題 ①1年生は実物投影機、2・3年生はパワーポイントを活用して、行事などの発表会を実施した。 ②神奈川県警察の協力の下、7月に全校生徒を対象として、携帯電話の危険性について講演会を実施した。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①毎日を「学校公開日」と設定し、家庭・地域との連携を図る ②授業を保護者・地域に授業公開する機会を年間5回以上設定 ③情報を学校便り、ホームページ、校長通信等で積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①毎日を学校公開日としたが、実際には参観者はいなかった。 ②年間5回の授業公開を実施した。 ③事例として挙げたものすべてに取り組んだ。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①毎日を「学校公開日」と設定し、家庭・地域との連携を図る ②授業を保護者・地域に授業公開する機会を年間5回以上設定 ③情報を学校便り、ホームページ、校長通信等で積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進 ④池子地区総務会にも出向き、情報発信していく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題 ①PTA役員を中心に授業見学が行われた。 ②年間5回の授業公開を行った。 ③事例として挙げたもの全てに取り組んだ。 ④学校長が参加した。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①毎日を「学校公開日」と設定し、家庭・地域との連携を図る ②授業を保護者・地域に授業公開する機会を年間5回以上設定 ③情報を学校便り、ホームページ、校長通信等で積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進 ④池子区総務会にも出向き、情報発信していく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題 ①2年を中心に、授業や行事練習の参観が行われ、学年の雰囲気づくりに効果があった。 ②早めにお知らせを出し、参観しやすした。 ③ホームページは、移行のため調整中である。学校便りは予定通り発行したが、原稿担当者が締切前に出すことが課題である。 ④学校長が参加した。</p>
② 地域教育力の活用	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①地域の担い手としての生徒の育成と、地域行事への積極的な参加(参加者数50人以上) ②学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化・学校支援地域本部における地域コーディネーターの目的別複数配置・小、中、高連携の模索</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①避難時運営訓練や地域の運動会、せせらぎ祭りに延べ100人以上が参加した。 ②事例として挙げたものすべてに取り組んだ。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①地域の担い手としての生徒の育成と、地域行事への積極的な参加(参加者数100人以上) ②学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化 ・学校支援地域本部における地域コーディネーターを活用した人材発掘 ・小・中・高連携の充実</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①市民まつりや川清掃、万引き防止キャンペーン、池子小児童への劇上演などに延べ100人以上が参加した。 ②芝生ボランティア、花壇整備、全校道徳への支援をいただき新たな人材を発掘した。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①地域の担い手としての生徒の育成と、地域行事への積極的な参加(参加者数150人以上) ②学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化 ・学校支援地域本部における地域コーディネーターの目的別複数配置 ・小、中、高連携の推進</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①池子小学校区避難所運営訓練や地域の運動会、せせらぎ祭りに100人以上が参加した。 ②花壇整備、中高生ディベート大会、文化祭での餅つき、マラソン大会、平和イベントへの支援をいただいた。</p>
③ 学校評価を生かした 学校の改善	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①年度の重点を明確にして評価のポイントを絞り、アクションにつながる学校評価を実施する</p> <p>(評価) ①達成した</p> <p>成果と課題 ①年度の重点を校長通信でお知らせし、保護者へのアンケートも実施した。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①年度の重点を明確にして評価のポイントを絞り、アクションにつながる学校評価を実施する ②学校評価保護者回答集計を保護者に協力を求める等、情報共有し、改善策を検討していく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①年度の重点をお知らせし、保護者へのアンケートも実施した。 ②スキャナーによる集計が行えたので、保護者に回答集計作業の協力までは求めなかったが、学校日より等で全校配布した。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①年度の重点を明確にして評価のポイントを絞り、アクションにつながる学校評価を実施する ②学校評価保護者回答集計を保護者に協力を求める等、情報共有し、改善策を検討していく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①年度の重点をお知らせし、保護者や学校関係者へのアンケートも実施した。 ②集計結果は、学校日より等で全校配布した。課題については、関係する分掌で改善策を考え実施することができた。</p>

③ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①学習評価の工夫による授業改善 ②授業研究の積極的実践(1人年2回以上)の実施 ③スーパーバイザー、横浜国立大学附属横浜中学校を活用した研究の充実保護者・学校関係者による授業評価の実施 ④教科会を中心とした組織的授業研究</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した ④ 達成した</p> <p>成果と課題 ①校内研究の中で取り組んだ。 ②一人年間2回の研究テーマに沿った授業公開を実施した。 ③すべて取り組んだ。 ④週1回の教科会を時間割に組み込んで取り組んだ。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①学習状況調査等、客観的な評価を学習評価の工夫による授業改善にいかしていく ②授業研究の積極的実践(1人年2回以上)の実施 ③スーパーバイザー、横浜国立大学附属横浜中学校を活用した研究の充実保護者・学校関係者による授業評価の実施と保護者・学校関係者による授業評価の実施 ④教科会を中心とした組織的授業研究</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題 ①校内研究の中で取り組むとともに、教科会の話題として盛り込んだ。 ②一人年間2回の研究テーマに沿った授業公開を実施した。 ③すべて取り組んだ。 ④週1回の教科会を時間割に組み込んで取り組んだ。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①学習状況調査等、客観的な評価を学習評価の工夫による授業改善にいかしていく ②授業研究の積極的実践(1人年2回以上)の実施 ③スーパーバイザー、横浜国立大学附属横浜中学校を活用した研究の充実と保護者・学校関係者による授業評価の実施 ④教科会を中心とした組織的授業研究</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した</p> <p>成果と課題 ①校内研究の中で取り組んだ。次年度は指導と評価の一体化を目指し取り組んでいきたい。 ②一人年間2回の研究テーマに沿った授業公開を実施した。 ③校内研究の中で実施した。 ④教科情報を見直すとともに、「まなびのプラン」を新たに作成した。</p>
② 授業評価の活用	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①保護者・関係者による授業評価の実施と授業改善 ②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」の実施と、課題を明確にした授業改善</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①授業公開日に実施した。 ②校内研究と関連させて、すべて取り組んだ。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①保護者・関係者による授業評価の実施と授業改善 ②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」の実施と、課題を明確にした授業改善 ③教員相互による授業評価用紙の検討</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①授業公開日に実施した。 ②校内研究と関連させて、すべて取り組んだ。 ③今後作成していく。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①保護者・関係者による授業評価の実施と授業改善 ②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」の実施と、課題を明確にした授業改善 ③教員相互による授業評価用紙の検討 ④教科会としての授業評価用紙の活用を図る</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった ④達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①授業公開日に実施した。 ②校内研究に関連させ取り組んだ。 ③今後作成していく。 ④今後作成していく。</p>
③ 研修事業の充実	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①計画的な校内研修会を通じた人材育成 ②校内の人材育成(OJT)の取り組み強化・メンター制、BS制 ③自主参加研修の企画運営</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①1月に「コミュニケーション能力の向上」を目的に研修会を実施した。 ②教員個々との面接を通して、メンター及びBS(Brother and Sister)を確認するとともに、メンタリングシートを対象者に配付した。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①計画的な校内研修会を通じた人材育成 ②校内の人材育成(OJT)の取り組み強化・メンター制、BS(Brother and Sister)制 ③自主参加研修の企画運営</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①授業指導における、支援のあり方にも目を向け、実践できた。 ②一定の成果はあったが、次年度は時間を確保することも必要である。 ③勤務時間外の設定は、保護者対応等があり、難しいことがわかった。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①計画的な校内研修会を通じた人材育成 ②校内の人材育成(OJT)の取り組み強化・メンター制、BS(Brother and Sister)制 ③自主参加研修の企画運営</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①授業指導における、支援のあり方にも目を向け、実践できた。 ②一定の成果はあったが、次年度は時間を確保することも必要である。 ③夏季および冬季休業期間中に設定し、年2回実施できた。</p>

平成25年度～平成27年度 学校による点検及び評価の推移(久木中学校)

I 子どもたちの学力向上

1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実	<p>①指導法の工夫改善を図る(わかったから定着・活用へ)</p> <p>②少人数指導での習熟度別指導の充実(成果の明確化)</p> <p>③個人カルテ(学習支援シート)の利用の推進</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①年間を通じて教科毎に計画的に授業研究を行い授業改善を行った。</p> <p>②数学は2、3年生で少人数指導を行った。外国語では全学年で少人数指導とチームティーチングを効果的に用いることができた。</p> <p>③支援を要する生徒について作成・活用ができた。</p>	<p>①指導法の工夫改善を図る(3年間を見据えた系統立てた指導の在り方を探る)</p> <p>②少人数指導での習熟度別指導とチームティーチング指導での指導工夫の充実と成果の明確化</p> <p>③補習体制の充実(長期休業中及び日常的な実施の工夫・改善)</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①3年間を見据えた各教科の系統立てた指導計画ができた。</p> <p>②教職員の配置により英語・数学での少人数授業が全学年で出来ないところがあった。それに代わり国語、理科でチームティーチング授業を行う事ができた。</p> <p>③1年を通じて補習授業が計画的に行えた。</p>	<p>①3年間を見据えた系統立てた指導の在り方を探り、指導法の工夫改善を図る</p> <p>②少人数指導での習熟度別指導とチームティーチング指導での指導工夫の充実と成果の明確化</p> <p>③長期休業中及び日常的な補習に工夫改善を重ね体制を充実させる</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①授業研究の実施により指導法の工夫改善を実施することができた。</p> <p>②教員の疾病により実施できない教科ができてしまった。</p> <p>③補習授業を計画的に実施することができた。</p>
② 「読解力」向上の取り組みの推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①久木中学校としての言語活動の充実を教科指導全体を通じて計画的に推進する</p> <p>②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力の育成を図る(教科の課題としてレポート作成、プレゼン発表を推奨する)</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①朝学活から教科等において時期的に取り組むことができた。</p> <p>②総合的に学習や行事等において計画的に取り組むことができた。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①久木中学校としての言語活動の充実を教科指導全体で計画的かつ系統立てて進める</p> <p>②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する(教科の課題としてレポート作成、プレゼンテーション発表を推奨する)</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①教科指導全体での言語活動の充実が出来なかった、今後は系統性の部分に絡めて行えればよい。</p> <p>②教科の課題としてのプレゼンテーション発表はよく進める事ができているがレポート作成については教科にとわらず指導をする必要がある。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①本校の言語活動の充実を教科指導全体で計画的かつ系統立てて進める</p> <p>②教科の課題としてレポート作成、プレゼン発表をすすめる。その中で様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①言語活動を意図的に取り入れた授業を、各教科で実践することができた。</p> <p>②教科だけでなく、道徳や総合学習の時間にも実施する必要がある。</p>
③ 読書活動の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める</p> <p>②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化させる</p> <p>③朝の読書を推進する(学校支援地域本部事業の活用)</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①学習利用としての学校図書館の機能は高まった。</p> <p>②指導員を中心として読書指導や調べ学習の場として活性化ができた。</p> <p>③年間を通じて計画的に取り組むことができた。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める(対人関係づくりに活かす)</p> <p>②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化させる</p> <p>③朝の読書を推進する(学校支援地域本部事業の活用や全教職員・図書委員会による読み聞かせ活動を取り入れる)</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①図書館指導員と教科担当の連携のもと、図書館の利用が高まった。</p> <p>②学校図書館指導員と生徒会図書委員会が連携して図書館利用が高まってきている。</p> <p>③年間2回、延べ4回の読み聞かせをクラスで取り入れられている。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める</p> <p>②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化させる</p> <p>③学校支援地域本部事業の活用や全教職員・図書委員会による読み聞かせ活動を取り入れた朝の読書活動を推進する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①市立図書館との連携も始めることができた。</p> <p>②学校支援ボランティアを活用することができなかった。</p> <p>③全教職員による朝の読書活動は推進され、定着してきた。</p>
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	<p>H25(2013)年度取組内容</p> <p>①生徒の正しい見立てに基づき、一人ひとりの生徒の状況に応じた支援方法、指導体制の研究を進める</p> <p>②生徒が安心して学べる学習集団を形成するとともに、生徒が授業に意欲的に参加できる授業づくりを進める</p> <p>③学校支援地域本部などとの連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①支援教育委員会を中心に全職員が生徒理解できる体制を作っている。</p> <p>②授業のユニバーサル化に絡めて取り組むが進んでいる。</p> <p>③地域との連携に計画的に進めることができています。</p>	<p>H26(2014)年度取組内容</p> <p>①生徒の正しい見立てに基づき、一人ひとりの生徒の状況に応じた支援方法、指導法、指導体制の研究を進める</p> <p>②生徒が安心して学べる学習集団を形成するとともに、生徒が授業に意欲的に参加でき「わかった」から「定着・活用」ができる授業づくりを進める</p> <p>③学校支援地域本部などとの連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①一人ひとりの生徒に合わせた支援の仕方が定着してきた。</p> <p>②生徒達が集中できる環境が定着し始め今後は生徒自らが活用できるような設定が必要である。</p> <p>③学校行事への参加を含め保護者・地域と連携して行う事ができた。</p>	<p>H27(2015)年度取組内容</p> <p>①生徒の見立てを、一人ひとりの生徒の状況に応じた支援方法、指導法の研究に生かす</p> <p>②生徒が安心して学べる学習集団を形成するとともに、生徒が授業に意欲的に参加でき「わかった」から「定着・活用」ができる授業づくりを進める</p> <p>③学校支援地域本部や地域などと連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①一人ひとりに応じた支援法が浸透してきた。</p> <p>②生徒が安心して学べる学習集団の形成に時間がかかってしまっている。</p> <p>③学校支援ボランティアの協力数をさらに増やす必要がある。</p>

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	①家庭・学校・地域との連携を基に基本的な生活習慣の育成を図る ②学校からの情報発信をはじめとする保護者・地域間での情報の共有化、課題の明確化により、課題解決のための家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める	①家庭・学校・地域との連携をもとに基本的な生活習慣の育成を図る(小・中の連携のもとに) ②学校からの情報発信をはじめとする保護者・地域間での情報の共有化、課題の明確化により、課題解決のための家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める	①小学校との連携をおこないながら基本的な生活習慣の育成を図る ②学校からの情報発信をもとに保護者・地域で情報を共有し、課題を明確にし、その解決のために家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ①達成した ②達成できなかった	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①学年、学級懇談会を通して家庭との連携で基本的な生活習慣の育成が図れた。 ②メールサービスや各便りによる共有化は図れたがホームページの更新が今後の課題である。	成果と課題 ①地域・保護者・学校が連携してあいさつなどの基本的な生活習慣の育成ができた。 ②学校便りや学年・学級だよりの発行から情報の共有化が行われ保護者・地域と協力して課題の解決ができた。	成果と課題 ①小学校や保護者に基本的な生活習慣について共通認識を持つことができた。 ②学校での出来事を家庭、学校、地域と共有することができた。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	①道徳教育の重要性を共通理解し全ての教育活動を通して道徳性を養う ②発達段階に応じた指導内容の重点化を行い、道徳教育推進教師を中心に全教師が全教育活動の中で協力して道徳教育を推進し、規範意識の向上に努める ③学校が保護者・地域の協力を得ることにより地域社会や家庭において、相手の立場に立って考え、人を思いやれる心を育てる	①道徳教育の重要性を理解し全ての教育活動の中から道徳性を培えるように進める ②発達段階に応じた指導内容の重点化を行い、道徳教育推進教師を中心に全教師が全教育活動の中で協力して道徳教育を推進し、更なる規範意識の向上に努める ③体験学習を重視するとともに地域講師の採用、生徒が感動を覚える題材の開発と活用を行い「命」を大切にすることを育てる	①全ての教育活動の中で道徳性を培うように推進する ②道徳推進教師を中心に全教師がすべての教育活動の中で道徳教育を推進する。発達段階に応じた指導内容の重点化を行い、規範意識の向上に努める ③体験学習を重視し、地域講師の授業が生徒に感動を与える題材を開発し、その活用によって「命」を大切にすることを育てる
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	①学校生活の流れの中で教科を絡めて取り組むことができた。 ②各学年毎に年齢に合わせて3年間の見通しを持って取り組んだ。 ③学年に応じて地域講師を呼び、生徒の興味関心を持てるように取り組んだ。	成果と課題 ①年ごとに生徒の様子が変わり指導の仕方でも併せて変える必要がある。 ②3年間を見据えた系統性がある指導ができることが一番良いが生徒達の状態を見極めるのに時間がかかりすぎた。 ③生徒の体験をもとに命を大切にすることを育てる必要がある。	成果と課題 ①道徳性の育成には全教職員が共通理解の元実施していく必要がある。 ②一部の生徒に規範意識の定着が見られず、それが全校に波及している。 ③地域講師による授業の普遍化を必要とする。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
③ 豊かな体験活動の推進	①行事を通して生徒会活動や、総合的な学習の時間における体験的学習を進める ②地域との連携による社会奉仕活動やボランティア活動の体験的な学習を積極的に進め社会性や協調性を育てる	①行事を通して生徒会活動や、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める ②地域との連携による社会奉仕活動やボランティア活動の体験的な学習を積極的に進め社会性や協調性を育てる取り組みを更に進める	①行事を通して生徒会活動や、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める ②地域との連携によるボランティア活動や体験的な学習を積極的にすすめ、社会性や協調性を育てる取り組みを更に進める
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	①学年行事や生徒会地域行事を通じて進めることができた。 ②職業体験学習・進路学習に加えて地域清掃などの協力を得ることができた。	成果と課題 ①計画的に地域行事に参加し、体験出来る学習ができた。 ②学校支援地域本部事業と連携して地域清掃などに取り組むことができた。	成果と課題 ①生徒会活動の重要性をさらに伝えていく必要がある。 ②さらに、地域との連携した取り組みを増やしていく必要がある。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	①食育の推進のために特別委員会を設置し、従来より行っている各教科の学習に基づき久木中学校としての食教育について指導方針を明確にし健康・体力作り等の発達段階に応じた推進をする ②飲酒・喫煙、薬物乱用に関する問題など家庭と学校との連携を基にして外部機関等と連携して健康教育を積極的に進める ③性教育について発達段階を踏まえた正しい指導を進める	①食育の推進のために特別委員会を設置し、従来より行っている各教科の学習に基づいた久木中としての食教育について指導方針を明確にし発達に応じた健康・体力作り等を系統的に推進する ②飲酒・喫煙、薬物乱用に関する問題など、家庭と学校との連携を基にして外部機関等との連携を図りながら積極的に健康教育を進める ③性教育について性教育全体計画に基づいて系統的に正しい指導を進める	①食育の推進のために各教科などの組織を使って学習に基づいた本校の食育について指導方針を明確にし、発達段階に応じた健康・体力作り等を系統的に推進する ②飲酒・喫煙、薬物乱用など、健康に関する問題など、家庭、学校、外部機関等との連携を図りながら積極的に健康教育を進める ③性教育について性教育全体計画に基づいて系統的に踏まえた正しい指導を進める
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①全体計画に基づいて取り組み推進ができた。 ②外部機関との協力連携により推進することができた。 ③全体計画に基づいて取り組み推進ができた。	成果と課題 ①今後、食育全体計画に基づいた取り組みを教科と絡めてできるように計画すれば良い。 ②外部機関と連携して喫煙防止教室、薬物乱用教室などの取り組みができた。今後、危険ドラッグ等の取り組みを入れて行ければさらに効果的である。 ③性教育全体教育に基づいた取り組みを発達段階に応じて進めることができた。	成果と課題 ①学校教育課と連携して食育について推進していく。 ②外部機関との連携により推進していくことができた。 ③全体計画に則った取り組みを進めていくことができた。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 学校安全の推進	①CAP(子どもへの暴力防止プログラム)をはじめとする安全教育や防犯教室などに加え携帯電話、PCIに関する新たな課題に関して積極的に取り組んでいく ②学校防災計画を見直し、市の防災マニュアルに連携できるよう取り組んでいく ③校内の防災訓練を計画的に実施し、地域避難所訓練や地域機関との連携を深める	①防犯教室などに加え携帯電話、SNS関連に関する新たな課題に関して積極的に取り組んでいく ②学校防災計画を見直し、市の防災マニュアルに連携できるよう取り組んでいく ③校内の防災訓練を計画的に実施し、地域避難所訓練や地域機関との連携を深める	①防犯教室などに加え携帯電話、SNS関連の新たな課題に積極的に取り組んでいく ②学校防災計画を見直し、市の防災マニュアルと連携できるよう取り組む ③校内の防災訓練を計画的に実施し、学区の避難所訓練や地域機関との連携を深める
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①年間計画に基づいて各教室を実施した。 ②市防災計画に基づき見直しを進めた。 ③地域保育園等や市地域防災訓練と連携した訓練を行う事ができた。	成果と課題 ①年間計画に基づいて外部機関と連携して実施することができた。 ②③防災計画に基づいて訓練を実施したが天候等により保育園との合同訓練は延期となった。	成果と課題 ①新たな方法での避難訓練を実施することができた。 ②③学校防災計画を見直すことと地域と連携した訓練をすることができた。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
② 問題行動等への対応の推進	①生徒指導を充実させ、生徒の規範意識や温かい人間関係づくりを高め、全教職員が意図的・組織的に教育活動を進める ②生徒指導担当・教育相談コーディネーターが中心となって管理職・全職員が連携を取りながら組織的な指導体制を確立し対応していく	①生徒指導を充実させ、生徒の規範意識や温かい人間関係づくりを高め、全教職員が意図的・組織的に教育活動を進める ②生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となって管理職・全職員が連携を取りながら組織的な指導体制を確立し対応していく(いじめ対応等) ③関係諸機関との連携を密に図り生徒一人ひとりの課題に応じた支援を計画的に行う	①生徒指導を充実させ、生徒の規範意識を向上させ、温かい人間関係づくりを含め、全教職員が意図的・組織的に教育活動を進める ②いじめ対応等に関して生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となって管理職・全職員が連携を取りながら組織的な指導体制を確立し対応していく ③関係諸機関との連携を密に図り生徒一人ひとりの課題に応じた支援を計画的に行う
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①、②支援教育委員会を中心に学校全体での取り組みを行い生徒・職員の意識の向上を図れた。 ③地域諸機関との連絡連携を計画的に取り問題解決を図ることができた	成果と課題 ①毎日の打ち合わせで生徒の情報を共通理解のもと、全職員が教育活動を進める事ができた。 ②支援教育委員会を中心に定期的に生徒からの生活アンケートの情報、教師の教育活動による情報を収集し指導・対応した。 ③外部機関との連携によりケース会議を開くことにより計画的に支援ができた。	成果と課題 ①生徒支援に関して朝の打ち合わせで共通理解を図ることができた。 ②いじめへの対応をすすめることができた。 ③外部機関との連携と情報共有を進めることができた。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	①入学してくる生徒がスムーズに中学校生活のスタートができ、安心して学校生活が送れるよう、子ども一人ひとりの成長を支え、個に応じた指導を進めるため情報の共有と連携を推進する ②小学校と協働して義務教育9年間を見据えたカリキュラムの工夫、授業体験、部活体験などの活動を進める	①入学してくる生徒がスムーズに中学校生活をスタートさせることができ、安心して学校生活が送れるよう一人ひとりの成長を支え、個に応じた指導を進めるために必要な情報の共有と連携を積極的に進める(小学校への出前授業・夏休みの教室) ②小学校と協働して義務教育9年間を見据えたカリキュラムの工夫、授業体験、部活体験などの活動を進め、小・中学校連携のもと児童・生徒の成長を図る	①小学校への出前授業・夏休みの教室などの実施で新入生がスムーズに中学校生活をスタートができ、安心して学校生活が送れるよう一人ひとりの成長を支える。学区の小学校と個に応じた指導を進めるために必要な情報の共有と連携を積極的に進める。 ②学区の小学校と協働して義務教育9年間を見据えたカリキュラムの工夫、授業体験、部活動体験などの活動を進め小・中連携をはかる。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心に小学校との情報交換を行い中学校の指導に結びつけることができた。 ②各小学校の研究授業・研究発表などへの参加を積極的に行うことと小学校への出前授業を行う事ができた。	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心に小学校との情報交換ができて中学校生活へ活かすことができた。 ②生徒の合唱発表での小学校訪問、夏季休業中の部活体験、出前授業など連携が図れた。	成果と課題 ①小学校へ生徒理解のための授業参観を実施することができた。 ②小学生への授業や部活動の体験をおこなうことができた。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
④ 国際教育の推進	①国際社会に生きる日本人としての資質の向上を目指し、学校に派遣されているIEA(国際教育指導助手)を様々な教育活動において積極的な活用を推進する ②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体等との交流を行い国際社会に生きる子ども達の育成を進める	①国際社会に生きる日本人としての資質の更なる向上を目指し、派遣されているIEA(国際教育指導助手)を様々な教育活動において積極的な活用を進める ②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体・一般外国人との交流を図れるような工夫をし国際社会に生きる子ども達の育成を進める	①国際社会に生きる日本人としての資質の更なる向上を目指し、国際教育指導助手とともに様々な教育活動において積極的な活用を進める。 ②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体・一般外国人との交流を図れるような工夫をし国際社会に生きる子ども達の育成を進める。
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①外国語の学習だけでなくIEA(国際教育指導助手)を活用して外国の生活習慣なども学習した。 ②対外的団体などを活用して国際教育を図る必要がある。	成果と課題 ①IEA(国際教育指導助手)の計画的活用が積極的にできた。 ②外部機関(カモノハシプロジェクト)の活用ができ国際状況の学習ができた。	成果と課題 ①国際教育指導助手との連携はうまくいった。 ②総合的学習の時間に外国人留学生等と交流を持つことができた。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①職業の選択を始めとし、自分の将来を見据えた有意義な人生のあり方を自らが体験し学ぶための中学校での指導計画を作成する ②地域・保護者・関係諸機関との連携を図り職業についての理解を図り、発達に応じて地域での職業体験を行う	①職業の選択を始めとし、自分の将来を見据えた有意義な人生のあり方を自らが体験し学ぶための中学校3年間の指導計画を作成し系統だった指導を進める ②地域・保護者・関係諸機関との連携を図り職業についての理解を図り、発達に応じて地域社会での職業体験を進める	①職業の選択を始めとし、自分の将来を見据えた有意義な人生のあり方を自らが体験し学ぶために中学校の指導計画を作成し系統だった指導を進める ②地域・保護者・関係諸機関との連携を図り職業についての理解を深め、発達に応じて地域社会での職業体験を進める
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ② 達成した
	成果と課題 ①3年間を見通した進路指導計画を作成し推進できている。 ②職業体験学習やキャリア学習などを地域・保護者を活用して取り組んだ。	成果と課題 ①生徒達の将来を見据えた進路指導に活かすことができた。 ②生徒達の職業に対する理解学習のキャリア教育講演会など地域・保護者の協力を得て取り組むことができた。	成果と課題 ①学年に応じた進路学習を行い、キャリアについて考えることができた。 ②地域・保護者等の協力を得て、キャリア講演会や職業体験学習を実施することができた。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	①発達段階に応じた福祉教育を推進し体験学習を通して理解を深める ②地域・仲間との活動を通して思いやりの心、社会奉仕の精神などを育成する	①発達段階に応じた福祉教育を推進し体験学習を通して理解を深め生活の中で活用が出来るようにする ②地域・仲間との活動を通して思いやりの心、社会奉仕の精神などを育成し生活の中で活用ができるようにする	①発達段階に応じた福祉教育を推進し、体験学習を通して理解を深め生活の中で活用出来るようにする ②地域・仲間との活動を通して思いやりの心、ボランティアの精神などを育成し学校生活の中で活用できるようにする
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ② 達成した
	成果と課題 ①福祉体験学習を計画的に行い理解・関心を深める取り組みをした。 ②生徒会活動の一つとして地域清掃活動や餅つき大会・募金活動を通じて育成できた。	成果と課題 ①福祉防災教室と結めた中での福祉教育学習を通して学習することができた。 ②学校警察連絡協議会の活動を通して生徒会が中心となって、小学生のテリリタイムや地域の行事への参加を行った。	成果と課題 ①心プロジェクトの応援を得ながら福祉教育を実施することができた。 ②地域でのボランティア活動に参加する生徒が増えてきている。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	①地域・保護者との連携から環境に対する意識、熱意、見識を育てる ②環境学習の指導計画に基づき目標を明確にし積極的に推進する ③身近にある太陽光発電の施設を利用し、それを理解し環境に対する意識の向上を図る	①地域・保護者との連携から環境に対する意識、熱意、見識を育て活用する ②環境学習の指導計画に基づき目標を明確にし活動を積極的に行う ③太陽光発電の施設を利用して、環境に対する意識を育て生活の中で生かせるようにする	①地域・保護者との連携により環境に対する意識、見識を育てる ②環境学習の指導計画に基づき目標を明確にし活動を積極的に行う ③太陽光発電施設を利用して、環境に対する意識を育て生活の中で生かせるようにする
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ② 達成した ③ 達成できなかった
	成果と課題 ①ずし市環境会議会員を講師に環境教育を計画的に取り組んだ。 ②リサイクルセンター見学やミックスペーパー等計画的に取り組んだ。 ③ずし市環境会議会員の環境学習においてデータを活用する取り組みを行った。	成果と課題 ①田越川の清掃活動参加などの活動を通して環境に対する意識づくりができた。 ②生徒会が中心となってミックスペーパーの収集を計画的に取り組み、夏休みにリサイクルの仕組みも見学した。 ③データは活用しているが更なる取り組み方を検討する。	成果と課題 ①ずし市環境会議のメンバーによる授業を実施することができた。 ②生徒会が中心となり校内でのリサイクル活動を実施することができた。 ③データ収集装置の故障により活用することができなかった。

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	①ICT機器を用いた授業や映像を活用したプレゼンテーションを取り入れ、発達段階に応じた「情報活用能力」を育成する ②情報モラル教育の育成を図り、あふれる情報を取捨選択し正しく活用できる力を育てる	①情報教育全体計画に基づいて機器を用いた授業や映像を活用したプレゼンテーションが、発達段階に応じたおこなえるよう系統立てた育成をする ②情報モラルの育成を図り、あふれる情報を一人ひとりが正しく理解して、それを正しく活用できる力を育てる	①情報教育全体計画に基づいて機器を用いた授業を実施する。生徒が映像を活用したプレゼンテーションを、発達段階に応じたおこなえるよう系統立てて指導する ②情報モラルの育成を図り、情報を取捨選択する能力を一人ひとりが正しく理解して、活用できる力を育てる
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①各学習計画の中で計画的に機器利用を取り入れ育成している。 ②技術の授業及び地域機関を利用して情報モラル・携帯電話の学習を実施した。	成果と課題 ①学年行事での生徒の取り組みを生徒がプレゼンテーションするなど計画的に行う事ができた。 ②技術の学習を中心に情報モラルについて取り組み、学校の取り組みとしてSNSなどを含めた指導を行った。	成果と課題 ①機器は充実してきたが、パソコン室の収容人数に限りがあり、生徒が一斉に利用できる状況にはない。 ②情報モラルについては、技術科だけでなく、他教科や特別活動でも指導を行った。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	①学校だよりを地域へ配布する。また、ホームページの構成を見直すとともに、更新を定期的に行う ②青少年育成推進の会を始めとする地域の団体との関係を深め、学校への理解を深め支援・協力を得る	①学校だよりを地域へ配布する。また、ホームページの構成を見直すとともに、更新を定期的に行う ②青少年育成推進の会をはじめとする地域の団体との関係を深め、学校への理解を深め地域と学校の支援・協力体制が確立できるようにする	①学校だよりを地域へ発信する。また、ホームページの構成を見直すとともに、更新を定期的に行う ②青少年育成団体等地域との関係を深め、学校への理解を深め地域と学校の支援・協力体制が確立できるようにする
	(評価) ①達成できなかった ②達成した	(評価) ①達成できなかった ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①たより等については計画的に行う事ができているがホームページの更新等できていない。 ②各地域の青少年育成推進の会、地域行事に計画的・積極的に参加できている。	成果と課題 ①学校だより・学年・学級だよりは計画的に発行できているがホームページの更新を計画的に行うようにする。 ②地域と学校が生徒の情報を共有できていて協力して支援体制がとれるようになってきた。	成果と課題 ①ホームページの更新は計画的に実施することができた。 ②青少年育成団体との関係を深め、学校との情報の共有を図ることができるようになった。
② 地域教育力の活用	①学校支援地域本部に組織を統合して地域コーディネーターを中心とした学校支援の具体的な活動を進める ②学校関係者評価委員会、学校評議員会、地域教育協議会、保護者・地域の個々の意見を十分に把握し、教育活動に反映していく	①地域コーディネーターを中心とした学校支援の具体的な方法を模索し地域と協力的な活動を進める ②学校関係者評価委員会、学校評議員会、地域教育協議会、保護者・地域の個々の意見を十分に把握し、教育活動に反映していく	①地域コーディネーターを中心とした学校支援の具体的な方法を模索し地域と協力的な活動を進める ②学校関係者評価委員会・地域教育協議会を通じて、保護者・地域の個々の意見を十分に把握し、教育活動に反映していく
	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①地域コーディネーターを中心に地域と学校が連携協力して活動を取り組めた。 ②多くの意見を戴くことができ、次年度の計画に反映していく。	成果と課題 ①地域と協力して、いろいろな行事などに計画的に参加活動が出来ている。 ②学校行事への参加、授業参観などを通して多くの活動に参加して戴き反省・意見を教育活動に反映していく。	成果と課題 ①地域コーディネーターと学校の支援について具体的に進めることができた。 ②次年度の教育活動に生かせるような意見をいただくことができた。
③ 学校評価を生かした 学校の改善	①生徒・保護者にアンケートを適宜実施し、自己評価に取り入れる ②自己評価に対する保護者・地域、学校評価委員会、学校評議員会等からの改善等の指摘を次年度の校運営(計画)に反映していく	①生徒・保護者にアンケートを適宜実施し、自己評価の中に取り入れ次回への取り組みや計画に活かしていく ②自己評価に対する保護者・地域、学校関係者評価委員会、学校評議員会等からの改善等の指摘を次年度学校運営(計画)に反映していく	①生徒・保護者に学校評価アンケートを実施し、自己評価の中に取り入れ、学校運営への取り組みや計画に活かしていく ②自己評価に対して学校関係者評価委員会、地域教育協議会、PTA等からの改善に関して次年度の学校運営に反映していく
	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①行事を行う毎に生徒・保護者・地域の方々にアンケートを実施し取り入れている。 ②意見等を踏まえて次年度の計画実施に反映していく。	成果と課題 ①行事アンケートや学校評価アンケート結果を踏まえた計画をしていく。 ②学校評価や学校関係者評価委員会などの時期を早め、次年度の計画に取り入れられるようにした。	成果と課題 ①アンケート結果を学校運営に生かせる仕組みを作ることができた。 ②学校評価などは時期を早めて実施することができた。

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 授業研究の充実	①研究授業の積極的な実践を推進し指導方法の工夫改善にや課題研修レポートの作成に役立てる ②指導助言に適切な講師を依頼し、研修の充実と指導力の向上を図る ③研修、研究会の成果を共有し教職員全体の資質向上を図る	①研究授業の積極的な実践をおこない指導方法の工夫改善を進め教師個々の授業力向上を図る ②指導助言に適切な講師を依頼し、教員研修の充実と教師個々の指導力向上を図る ③研修、研究会の成果を共有し教職員全体の資質向上と授業力向上を図る	①研究授業の積極的な実践をおこない指導方法の工夫改善を進め教師個々の授業力向上を図る ②研究会には指導助言に適切な助言者を依頼し、教員研修の充実と教師個々の指導力向上を図る ③研修、研究会の成果を共有し教職員全員の資質向上と授業力向上を図る
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①研究授業後に授業案を見直し訂正したレポートの提出を義務化した。 ②外部講師を招いての実践的研修会を計画的に行った。 ③全体研修やグループ研究会を計画的に実施し成果の共有を図った。	成果と課題 ①年2回の研究授業を義務化し、自ら授業の工夫改善に取り組み授業力向上に努めた。 ②計画的な教員研修の充実を図り、教員の指導力向上につながった。 ③教職員同士が自ら、研修会を開き、資質向上を図るなど成果が見られた。	成果と課題 ①研究授業を実施し、授業の工夫改善を行うことができた。 ②校内研究会という組織を使った研究会を実施することができた。 ③校内研究会で研究研修の成果の共有を図ることができた。
② 授業評価の活用	①校内研究における授業を中心として授業評価・改善活用を進める ②生徒、保護者、外部関係者による授業評価を行い、より良い授業づくりに取り組み教育活動の向上につなげる ③保護者・地域と連携した授業評価の取り組みを行い教育活動の向上につなげる	①校内研究における授業評価・改善活用を進め授業に活かす ②生徒、保護者、外部関係者による授業評価を行い、より良い授業づくりに取り組み教育活動の向上につなげる ③保護者・地域と連携した授業評価の取り組みを行い教育活動の向上につなげる	①校内研究における授業評価をもって授業改善に活用し、授業に活かす ②生徒、保護者、学校関係者による授業評価を行い、より良い授業づくりに取り組み教育活動の向上につなげる ③保護者・地域と連携した授業評価の取り組みを行い、教育活動を向上させる
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①全教職員が授業のユニバーサル化を意識して取り組むことができた。 ②、③授業アンケートを行い、評価を真摯に受け止める授業改善に繋げる取り組みをした。	成果と課題 ①各教科ごとの授業アンケートにより授業改善を図っている。 ②③生徒自らが授業アンケートに答えたり、保護者・外部関係者が公開授業を見たりして意見をいただき授業改善につなげている。	成果と課題 ①教科毎の授業アンケートにより授業改善を図ることができた。 ②③生徒自らが答えた授業アンケートや、保護者・外部関係者が公開授業を参観した際の意見を授業改善につなげている。
③ 研修事業の充実	①学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの研修を計画的に進め教職員の力量の向上を進める ②久木中「教師のスタンダード」づくりを推進する	①学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの研修を計画的に進め教職員の力量の向上を進める ②久木中学校の生徒に合わせた「教師のスタンダード」づくりを進める	①教育活動全体で教師が身につけておくべき資質や能力の向上を図る研修を計画的に進め教職員の力量のため ②本校生徒に合わせた「教師のスタンダード」づくりを進める
	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	成果と課題 ①授業のユニバーサル化と関わって計画的に進め全教師の力量につながった。 ②小中学校の教職員にアンケートを実施し、まとめている途中で、来年度に向けて取り組んでいる。	成果と課題 ①新しい教職員が増えたことも含めて一度行った研修も確認も含めて再研修した。 ②ユニバーサル・デザイン尺度づくりとスタンダードづくりを合わせた形で進めている。	成果と課題 ①学びたいという自主研修会を実施することができた。 ②年々の生徒の変化に教師側の研修内容の変化が追いついていない。

平成25年度～平成27年度 学校による点検及び評価の推移(沼間中学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実		
行動プラン ①「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実	H25(2013)年度取組内容 ①夏季休業中に実施する発展的・補充的学習(サマーチャレンジ)を保護者・生徒に周知し、参加を促す ②少人数学級での指導が有効となるよう指導の工夫・改善を行い、検証する	H26(2014)年度取組内容 ①夏季休業中に実施する発展的・補充的学習(サマーチャレンジ)の参加人数の増加を図る ②3年生で少人数学級を、また少人数指導、チームティーチング等、効果的な学習形態の工夫・改善を、数学、保健体育、技術、英語で実施する	H27(2015)年度取組内容 ①夏季休業中に実施する発展的・補充的学習(サマーチャレンジ)の参加人数の増加を図る ②数学と英語の全学年、1・3年生の理科及び3年保健体育で、少人数指導、チームティーチング等、効果的な学習形態の工夫・改善を実施する	
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した	
	成果と課題 ① 定着してきた。 ② 次年度も継続して研究する必要がある。	成果と課題 ① 補充的学習(いわゆる補習)は、教師側が指定しているので除外するが、今年度は発展的な学習として、生涯学習的な講座も組み入れたことで、昨年度参加者49名に対し、今年度参加者94名と倍増した。次年度は、地域の方にも講座を持っていたきたい。 ② 市の小規模校加配、数学の教員配置ができなかったため、数学で取り組みなかった。	成果と課題 ① サマーチャレンジでは、生涯学習的な講座を18講座、参加人数276名で、地域講師の講座も3講座と目標を達成できた(一人2講座まで受講可とした)。今後一層、地域講師の講座も増やしていきたい。 ② 理科の実験などはチームティーチングを中心に数学と英語は習熟度別を基本にと、指導法の工夫を行うことが出来た。	
行動プラン ②「読解力」向上の取り組みの推進	H25(2013)年度取組内容 ①各教科指導の中で、言語活動を基に思考力・判断力・表現力等を身につけさせる取り組みを実践するように、全校体制で研究していく ②総合的な学習の時間や特別活動の中で、「読解力」向上の取り組みを取り入れるよう、全校体制で研究していく	H26(2014)年度取組内容 ①本校の「目指す生徒像」と関連させて、あらゆる教育活動において「言語活動」の充実の取り組みを試行する	H27(2015)年度取組内容 ①本校の「目指す生徒像」と関連させて、あらゆる教育活動において「言語活動」の充実の取り組みを推進する	
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した	
	成果と課題 ① 研究授業を全員実施し、研究テーマにせまり全校体制で研究することができた。 ② 各自課題解決学習を実施し、資料活用能力を発達し、まとめ学習などで発表する力を培う。	成果と課題 ① 横浜国立大学・米澤准教授をアドバイザーに、「生徒自ら考え、判断し、創造する授業を目指して～input intake outputを意識した授業づくり～」を研究テーマとして、年間7回の校内研修会、年間1回全員の公開授業と年間1回の研究授業(3クラス)を実施した。今年度はあるべき授業スタイルの共有化が中心であったので、次年度は、実践に一層力を注ぎたい。	成果と課題 ① 前年度を受けて、今年度は「実践の年」と位置付け、横浜国立大学・米澤准教授をアドバイザーに年間6回の校内研修会、年間2回全員の公開授業と年間1回の研究授業を実施した。また、同大付属鎌倉中学校の教諭に模擬授業と講義をお願いし、研究テーマに沿った授業を実践した。次年度は、評価方法についても研究を続けたい。また、教科の年間指導計画と「目指す生徒像」との関連を図りたい。	
行動プラン ③読書活動の推進	H25(2013)年度取組内容 ①図書委員会を中心に、読書活動の活性化のための新企画を提案し、実行を図る ②市立図書館等との連携・協力の下に、カリキュラムのねらいを把握し、学習情報センターとしての機能の充実に努める	H26(2014)年度取組内容 ①朝の読書週間を設定し、読み聞かせを実施する ②市立図書館等との連携・協力の下に、カリキュラムのねらいを把握し、学習情報センターとしての機能の充実に努める	H27(2015)年度取組内容 ①朝の読書週間を設定し、読み聞かせを実施する ②市立図書館等との連携・協力の下に、カリキュラムのねらいを把握し、学習情報センターとしての機能の充実に努める	
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	
	成果と課題 ①、②市立図書館等との連携・協力の下、学習情報センターとしての機能の充実はさらに確立していくよう努める。	成果と課題 ①年間2回の朝の読書週間を実施し、2回目に読み聞かせの実践を行った。 ②市立図書館との連携は日常化してきた。また、授業で図書館を使う取り組みも年間を通して行った。	成果と課題 ①年間2回の朝の読書週間を実施し、2回とも読み聞かせやブックトークの実践を行った。市立図書館職員の協力も得られた。 ②今年度は特に、沼中ラーニングと絡めて、1年生の横浜めぐりの資料を市立図書館から借り受けた。	
行動プラン ④校内支援体制を活用した支援教育の推進	H25(2013)年度取組内容 ①支援を必要とする生徒について校内リソースを活用しながらの支援プランを作成検討し、実行に移せる方法を確立させる ②困り感を持つ生徒と特別支援学級との共同学習のあり方を検討していく	H26(2014)年度取組内容 ①支援を必要とする生徒について具体的な支援プランを検討し、支援シートや支援教室を活用しながら支援を進める ②困り感を持つ生徒に対する個別の学習指導を必要に応じて進めていく	H27(2015)年度取組内容 ①支援を必要とする生徒について具体的な支援プランを検討し、支援シートや支援教室を活用しながら支援を進める ②困り感を持つ生徒に対する個別の学習指導を必要に応じて進めていく ③授業のユニバーサル化に着手する	
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	
	成果と課題 ①、②学年職員や支援時間担当が対応しても同時に複数の生徒に支援が必要な場合人材不足だったので人的リソースの再配置を考える必要がある。	成果と課題 ①支援教室での個別指導を行った(年間3名)。また、火曜日の放課後に、希望者を募って「学習会」を実施した。 ②教育相談コーディネーターを二人体制とし、5月をスクール・カウンセラーや研究所の心理の専門家などによるアセスメント月間と位置づけて、不登校生徒及び通常級で困り感を抱く生徒を特定し、個別の指導を行った。結果として登校できるようになった生徒も2名いた。	成果と課題 ①支援教室でのソーシャル・スキル・トレーニング(SST)を2名の生徒対象に行い、支援シートを作成した。また、火曜日の「自学自習の会」も定着し、毎回10名程度の生徒が参加した。 ②長欠生徒を対象とした個別の学習(1日2時間程度)を5名対象に実施し、上記支援教室でのソーシャル・スキル・トレーニング(SST)もスクールカウンセラー相談コーディネーターを中心に、週に1回程度、2名の生徒に実施した。結果として登校できるようになった生徒が1名いた。ただ、不登校生徒への対応が遅いという保護者からのご指摘もあり、「達成できなかった」とした。 ③明星大学の中田正敏先生の「インクルーシブな学校づくりにおける学習研究活動～支援というコンセプトの導入～」と題した講演を受け、校内研究とも関連させながら、授業のユニバーサル化に着手できた。また、クラス間で指導の差が出ないように、掃除の仕方や決まり等について「スクールスタンダード」をつくった。	

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>①各種おたより、保護者会等で家庭での基本的な生活習慣を依頼する情報発信していく</p> <p>②学校生活で睡眠不足等で体調が悪い生徒については、保護者と密に連絡をとりあう</p> <p>③教職員からすすんであいさつをする</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①、②、③基本的な生活習慣の育成については、特別活動や総合的な学習なども活用していきたい。</p>	<p>①各家庭に対して、睡眠確保・朝食の摂取・家庭のルールづくりを依頼し、状況を把握する</p> <p>②学校生活で睡眠不足等で体調が悪い生徒については、保護者と密に連絡をとりあう</p> <p>③教職員からすすんであいさつをする</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①6月と1月で、生徒アンケートを実施したが、1月時点で睡眠が7割以上、朝食摂取が9割以上、家庭のルールづくりが4割程度の肯定的な回答を得た。家庭における、家族としての役割分担を継続してお願いしたい。</p> <p>②、③日常的な対応ができています。</p>	<p>①各家庭に対して、睡眠確保・朝食の摂取・孤食を減らす・家庭のルールづくりを依頼し、状況を把握する</p> <p>②学校生活において、睡眠不足等で体調が悪い生徒について、保護者と密に連絡をとりあう</p> <p>③教職員からすすんであいさつをする</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①6月と1月で、生徒アンケートを実施したが、1月時点で睡眠が7割以上、朝食摂取が9割以上、家庭のルールづくりが4割程度の肯定的な回答を得た。孤食については、1・2年生の9割以上、3年生で8割がほぼ誰かと一緒に食事をしているという、本校生徒の実態がわかった。</p> <p>②は定着している。③は生徒会とも連携して、「切り替えゾーン」をつくり、挨拶及び丁寧な言葉遣いの推進運動を展開した。学校評議員からも「沼中生は挨拶をきちんとしてくれる」という評価を頂いた。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>①行事や体験学習の関連を利用しねらいの深化が可能な、道徳教育カリキュラム及び教材の情報共有を図る</p> <p>②地域講師や地域機関等との連携を利用した授業や体験学習の情報共有をしていく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①道徳教育カリキュラム及び教材の情報共有を図る。</p> <p>②地域講師や地域機関等との連携を利用した授業は、計画的に実施し研究することができた。</p>	<p>①発達段階に応じて、行事や体験学習との関連を図り、ねらいの深化を図る</p> <p>②発達段階に応じて、地域講師や地域機関等との連携を利用して、ねらいの深化を図る</p> <p>③3年間が見通せる、道徳の学習一覧作成に取り組む</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①各学年の年間指導計画に明示した。</p> <p>②特に、今年度は湘南三浦教育事務所管内、道徳教育推進教師を対象とした授業公開を11月に実施し、2年生の授業で地域講師3人の協力が得られた。</p> <p>③各学年の年間指導計画を一枚にした。今後、その関連性を精査していきたい。</p>	<p>①発達段階に応じて、行事や体験学習との関連を図り、ねらいの深化を図る</p> <p>②発達段階に応じて、地域講師や地域機関等との連携を利用して、ねらいの深化を図る</p> <p>③道徳的判断力や実践力を養う授業の工夫を行う</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①年間指導計画に従って、各学年の担当を中心に継続的に取り組めた。また、今年度は生徒会と美術部に依頼して、本校のマスコットキャラクターを作成し、愛校心の醸成にも努めた。</p> <p>②市の社会福祉協議会の協力を得て、1年生と3年生で「心の授業」を実施した。</p> <p>③4月の授業参観では3年生が、11月の授業参観では2年生が道徳の公開授業を実施し、生徒に考えさせる授業に取り組んだ。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>①、自然体験学習、修学旅行がより有効な課題解決学習の場となるように深化を図る</p> <p>②職場体験の2日間を継続し、これまで以上にキャリア教育のねらいの深化が可能なよう工夫・改善する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①課題解決学習の場として取り組み、まとめ学習の形態を工夫した。</p> <p>②職場体験学習の定着をはかりキャリア教育のねらいにせまるよう工夫改善することができた。</p>	<p>①沼中ラーニングと自然体験学習、修学旅行等の取り組みを関連付ける(1年生から)</p> <p>②職場体験の2日間を継続し、これまで以上にキャリア教育のねらいの深化が可能なよう工夫・改善する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①1年生「横浜めぐり」の調査テーマとして、逗子の観光・こみ・歴史をテーマに事前学習し、横浜の現状と比較した。</p> <p>②2日間、42事業所での「2年生職場体験」を実施した。学校関係者評価委員会では、受け入れ側の事情も考え、1日でも目的が達成できるのでは、という声があった。</p>	<p>①沼中ラーニングと自然体験学習、修学旅行等の取り組みを関連付ける(1・2年生)</p> <p>②2日間の職場体験を継続し、これまで以上にキャリア教育のねらいの深化が可能なよう工夫・改善する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①1年生では前年度同様の取り組みが出来た。また、2年生の自然体験学習では、山梨と逗子の自然・文化比較、職場体験は「逗子の将来像」と絡めて取り組めた。</p> <p>②2日間、29事業所での「2年生職場体験」を実施した。2日間の実施が継続できるよう、学校評議員や逗子市商工会等の協力をどう得られるかが今後の課題である。</p>
④ 食育と体力づくり・健康教育の推進	<p>①薬物乱用・喫煙防止等、発達段階に応じて学習させることと並行して、普段の食生活についてよりよく改善しようとする意識を持たせる</p> <p>②部活動や家庭でのスポーツ体験に対する意欲を喚起し、自らの健康管理が大切な能力であることを知らせていく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①体育科としては授業で適切に扱い、普段の食生活については保健委員会などとタイアップし行えた。</p> <p>②部活動において部活協議会を通じ、それぞれの部活動における意欲を喚起できた。自らの健康管理は保健体育科とし、適切に指導をおこなった。</p>	<p>①薬物乱用・喫煙防止等、発達段階に応じて学習させることと並行して、普段の食生活についてよりよく改善しようとする意識を持たせる</p> <p>②身体的自立を目指し、自ら身体づくりや食育、健康づくりに取り組めるよう促す</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①学年ごと、また全校で、外部講師を招いたり養護教諭から講演等を実施した。</p> <p>②保健体育科や部活動を通じて指導を図ったが、全国体力運動能力テストの結果からは、あまり成果が見えなかった。</p>	<p>①薬物乱用・喫煙防止等、発達段階に応じて学習させることと並行して、普段の食生活についてよりよく改善しようとする意識を持たせる</p> <p>②身体的自立を目指し、自ら身体づくりや食育、健康づくりに取り組めるよう、学校全体で促す</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①学年ごと、また全校で、外部講師を招いたり養護教諭からの講演等を実施したりした。</p> <p>②保健体育科では、「沼中スペシャル」(体力づくりの準備運動)や「私のバロメーター」(学習カード)をつつて計画的に取り組んだ結果、例年の本校の1年生のデータに比べ、「ハンドボール投げ」と「反復横跳び」に顕著に結果が表れた。また、部活動、チャレンジデーでの取り組みを実施した。食育は、市の管理栄養士による授業及び給食指導の中で行った。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 学校安全の推進	<p>①防災アドバイザー、逗子警察等の連携の下に、事故防止及び安全点検、危険箇所の除去を定期的・継続的に行う</p> <p>②沼間小学校区避難所運営委員会との連携下、生徒が自らの命を守るようとする危機管理意識の向上を図る</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①生徒の手による防災マップの取り組みをおこなうことができた。 ②継続的に実施したい。</p>	<p>①保健委員会等がリーダーシップをとり、生徒自らが危機管理意識をもち、安全点検に参加する</p> <p>②地域講師を迎えての授業に避難所運営訓練を導入し、身近な体験活動等を通した防災教育を行う</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題 ①まだまだ、生徒自らの危機管理意識をもった取り組みにはいたっていない。 ②ふれあいデーや避難訓練時に、避難所運営委員会・消防署等の協力を得て、アルファ米をもどす・救急搬送の方法・消火器の扱い方・煙体験等、様々な体験を行うことができた。</p>	<p>①保健委員会等がリーダーシップをとり、生徒自らが危機管理意識をもち、安全点検に参加する</p> <p>②地域講師を迎えての授業に避難所運営訓練を導入し、身近な体験活動等を通した防災教育を行う</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①毎月、教職員による安全点検は実施していたが、それに加え、保健委員会が毎日行っている清掃チェックと同時に、校内の安全点検を行う取り組みに着手した。 ②ふれあいデーでは実施できなかったが、避難訓練に際して、逗子市消防署の協力を得て、救急搬送の方法・消火器の扱い方・煙体験等、様々な体験を行った。</p>
② 問題行動等への対応の推進	<p>①共生社会に向けて生徒が互いの困り感を認め合い助け合える温かい学級づくりに努める</p> <p>②道徳の時間や生徒会活動を通して、規範意識を培い生徒自らがいじめを許さない集団を作っていくよう指導していく</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①生徒会活動を通して規範意識を高める指導は課題である。 ②教員だけでなく社会福祉協議会などの関係団体にも協力してもらう。</p>	<p>①安心・安全な学級づくりに向けて、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の手法を学ぶ</p> <p>②本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、問題行動の防止に向けた取り組みを実施する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①研究所の協力の下、複数回の研修や実際に授業を行った。研修図書も購入したので、今後とも研修を継続したい。 ②定期的な生活アンケートとともに、日常的に生徒を見ることを大切に、いじめの早期発見・早期対応に努めた。</p>	<p>①安心安全な学級づくりに向けて、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の手法及び学級づくりの自己チェック表・解説を活用する</p> <p>②本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、問題行動の防止に向けた取り組みを実施する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した</p> <p>成果と課題 ①研究所の協力の下、1年生で全クラス2回の構成的グループエンカウンターの手法を用いた、学級づくりの授業を実施した。今後の一層の展開が求められる。自己チェック表・解説の活用については、全教員で授業の自己チェックを実施し、学校の傾向を分析できた。 ②定期的な生活アンケートを工夫し、氏名記載の調査に変えたことで、調査後の対応が図りやすくなった。</p>
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<p>①教職員研修等で小中連携を深め、学びの連続性を追及し家庭学習の定着を図っていく</p> <p>②学校間の信頼関係を構築し、9年間の学習や生徒指導を意図的、効果的に行っていく</p> <p>③授業参観等に参加していく</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①、②、③中学校へ授業参観にきてもらうことはできたが小学校の授業参観をすることはなかなか時間調整が難しかった。</p>	<p>①教職員研修等で小・中連携を深め、学びの連続性を追及し家庭学習の定着を図っていく</p> <p>②小・中9年間を見通した、「学び方のカリキュラムづくり」に着手する</p> <p>③小・中での授業参観や出前授業等実施する</p> <p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p> <p>成果と課題 ①小・中合同研修会で、学びの連続性をテーマにしたが、家庭学習の定着は検証できていない。 ②小・中合同研修会において、9年間の学びのカリキュラム原案を提示することができた。今後、この原案を元に、できることから実践化していきたい。 ③英語の出前授業や、複数回の相互の授業参観を実施した。</p>	<p>①教職員研修等で小・中連携を深め、学びの連続性を追及し家庭学習の定着を図っていく</p> <p>②小・中9年間を見通した、「学び方のカリキュラムづくり」を具体化する</p> <p>③小・中での授業参観や出前授業等実施する</p> <p>④小・中連携研修会で、小・中の模擬授業を行い研究する</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成できなかった ③達成した ④達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①小・中連携研修のテーマが「アクティブラーニング」だったため、取り組めていない。 ②中学校からの原案に対し、小学校からは未だ回答をもらっていない。 ③英語や体育の出前授業や、複数回の相互の授業参観を実施した。 ④中学校教員による模擬授業のみ行った。小学校は次年度に先送りした。</p>
④ 国際教育の推進	<p>①多様な文化を理解し共生できるよう小学校外国語活動との連携の下に、意識を育てていく</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)のより効果的な活用を研究していく</p> <p>(評価) ①達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①、②外国語の授業だけでなくIEA(国際教育指導助手)が学校行事などにかかわりをもつことができた。このことを継続したい。</p>	<p>①校外活動等で、自ら、国際交流の機会を見つけ、発表していく等、実践の機会を模索していく</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)のより効果的な活用を研究していく</p> <p>(評価) ①達成できなかった ②達成した</p> <p>成果と課題 ①沼中ラーニングのテーマとして、国際教育を取り入れられなかった。 ②英語の授業で、IEA(国際教育指導助手)を活用し、国際理解教育を実施した。</p>	<p>①学校として、国際教育・多文化共生教育に取り組む</p> <p>②IEA(国際教育指導助手)のより効果的な活用を研究していく</p> <p>(評価) ①達成した ②達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①昨年度に続き、市の国際教育研究授業は本校で行ったが、学校全体としては取り組めていない。 ②英語の授業で、IEA(国際教育指導助手)を活用し、国際理解教育を実施した。</p>

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①1年「将来の夢」、2年「職場体験」、3年「義務教育終了後の進路」と、段階的に自分の生き方を考えさせる ②職場体験2日間実施し、ねらいを深化していく (評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①学年別に計画的に自分の生き方を考えることができた。 ②職場体験は定着し、ねらいにせまることができた。	①3段階のカリキュラムの流れと並行して、市民性教育に着手する ②職場体験を2日間実施し、ねらいをより深化していく (評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①1年生で、市長の講話や経済観光課・観光協会・資源循環課・教育研究所などの機関に協力いただいて、「沼中ラーニング」(キャリア教育と市民性教育の統合)に着手した。 ②2年生で、42事業所において2日間の職場体験を実施し、事前事後指導も含めて、ねらいを達成できた。	①3段階のカリキュラムの流れと並行して、市民性教育の実践とカリキュラム化を進める(1・2年生) ②職場体験を2日間実施し、ねらいをより深化していく (評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①1年生は昨年度同様、2年生は「自然体験学習」で山梨と逗子の自然・文化比較、「職場体験」を「逗子の将来像」と絡めて取り組んだ。 ②2日間の職場体験を「仕事を知る」と同時に、逗子市内の事業所・事業主が逗子市の将来像をどう描いているか、調査することで、3年次の市への提言につなげる活動に取り組んだ。
⑥ 福祉教育の推進	①学校生活のあらゆる場面で実践することで、福祉・人権への意識を高め、差別、偏見を許さない集団をつくっていく ②外部機関を積極的に導入し、性教育、精神障害やストレス回避について学習をさせる (評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①、②外部講師を招いて授業を実施し福祉・人権への意識を高めることができた。	①学校生活のあらゆる場面で実践することで、福祉・人権への意識を高め、差別、偏見を許さない集団をつくっていく ②外部機関を積極的に導入し、性教育、精神障害やストレス回避について学習をさせる (評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①、②外部講師を招いて3年生を対象に授業を実施し、福祉・人権への意識を高めることができた。	①学校生活のあらゆる場面で実践することで、福祉・人権への意識を高め、差別、偏見を許さない集団をつくっていく ②外部機関を積極的に導入し、性教育、精神障害やストレス回避について学習をさせる (評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①、②外部講師を招いて3年生を対象に授業を実施し、福祉・人権への意識を高めることができた。特に3年生では、社会福祉協議会の協力で「手話」の講座を設定し、聴覚障がい者への理解を深めることが出来た。
⑦ 環境教育の推進	①環境委員会を中心に、学校の自然環境を自らの手で守っていく姿勢を育てる ②学校支援地域本部、P&T(本校保護者と学校との連携組織)の方々の協力を仰ぎ、地域の大人たちが自然を守ろうとする姿勢をみせることで、自然を守る大切さを知らせる (評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①環境委員会の生徒の手により生物の飼育や学校の自然環境を大切にす取り組みをおこなった。 ②学校支援地域本部、P&T(本校保護者と学校との連携組織)の方々と連携をとり、学校の自然環境づくりに努めることができ、生徒に自然を守る大切さを知らせることができた。	①環境委員会から、企画を出させ、環境教育を実行していく ②学校支援地域本部、P&T(本校保護者と学校との連携組織)の方々の協力を仰ぎ、地域の大人たちが自然を守ろうとする姿勢をみせることで、自然を守る大切さを知らせる (評価) ①達成できなかった ② 達成した 成果と課題 ①環境委員会からの企画提出にはいたらなかった。 ②校内の花いっぱい運動や地域清掃等、取り組みが恒常化してきた。	①環境委員会から、企画を出させ、環境教育を進めていく ②学校支援地域本部、P&T(本校保護者と学校との連携組織)の方々の協力を仰ぎ、地域の大人たちが自然を守ろうとする姿勢をみせることで、自然を守る大切さを知らせる (評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①環境委員会が主導して、ゴミの減量化に取り組み始めた。 ②校内の花いっぱい運動や地域清掃等、取り組みが定着した。
⑧ 情報教育の推進	①ICTを活用した指導の充実を図り、「分かる授業」を研究する ②教科におけるICTを活用した生徒の発表を指導していく (評価) ①概ね達成した ② 概ね 達成した 成果と課題 ①ICTを活用した授業は継続して取り組む必要がある。 ②ICTを活用した生徒の発表は継続指導が必要である。	①ICT(情報通信技術)を活用した指導の充実を図り、「分かる授業」を実践する ②教科におけるICT(情報通信技術)を活用した生徒の発表実践を増やしていく (評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①②数値的なデータはないが、授業にICT(情報通信技術)を活用する取り組みは数多く見られた。	①ICT(情報コミュニケーション技術)を活用した指導の充実を図り、「分かる授業」の実践を検証し、改善する ②教科におけるICT(情報コミュニケーション技術)を活用した生徒の発表実践を増やしていく (評価) ①達成した ② 達成した 成果と課題 ①授業のユニバーサル化の取り組みと関連させて、視覚的な情報提供として、オーバーヘッドカメラやプロジェクターを活用した授業を多く取り入れた。 ②「目指す生徒像」のコンピテンシーを身に付けさせるべく、授業や行事の発表など意識的にICT(情報コミュニケーション技術)を活用した。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	<p>①P&T(本校保護者と学校との連携組織)として、返P連(返子市PTA連絡協議会)に加入すべきか検討する</p> <p>②学校公開等あらゆる場面で地域・保護者との学校課題の共有を図り、情報発信していく</p> <p>③青少年育成推進の会、沼間小学校区地域連合会等との外部機関との連携を深める</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①、②、③ PTAへの加盟については議論が始まったばかりである。</p>	<p>①P&T(本校保護者と学校との連携組織)として、返P連(返子市PTA連絡協議会)に加入すべきか検討する</p> <p>②学校公開等あらゆる場面で地域・保護者との学校課題の共有を図り、情報発信していく</p> <p>③関係機関との連携を密に図り、学校情報を発信していく</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①PTA加盟は、現状すぐには難しいと判断し、現在のP&T組織の強化を図ることから着手した(保護者の役割を増やしたり、規約改正し、前年度に運営役員三役を選出) ②今年度より、毎月2回のペースで、校長通信「こぶしの花」を発行した(2月13日時点で24号発行) ③学校評議員会や住民自治協議会へも参加し、連携を図った。</p>	<p>①P&T組織の強化を一層図る</p> <p>②学校公開等あらゆる場面で地域・保護者との学校課題の共有を図り、情報発信していく</p> <p>③関係機関との連携を密に図り、学校情報を発信していく</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題 ①規約改正により、前年度に選出された運営役員三役を中心として、P&Tの活動が保護者主体のものに変わってきている。 ②毎月2回程度、校長通信「こぶしの花Ⅱ」を発行し、学校経営や校長の思いなど情報提供した。(3月4日時点で26号発行) ③学校評議員会の場や住民自治協議会へも参加して、「校長通信」や「学校便り」など配布し、情報発信した。</p>
② 地域教育力の活用	<p>①学校支援地域本部の協力で、教科の授業等にも地域講師、学校教育支援ボランティアの活用を積極的に行っている</p> <p>②図書館ボランティアを継続し、開館時間を増やすとともに生徒の読書活動を保障する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①、②図書館ボランティアは継続できたが開館時間を増やすことはできていない。</p>	<p>①学校支援地域本部の協力で、教科の授業等にも地域講師、学校教育支援ボランティアの活用を積極的に行っている</p> <p>②図書館ボランティアを継続し、開館時間を増やすとともに生徒の読書活動を保障する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①道徳の授業で地域講師を活用するなどしたが、今後一層教科等で地域人材の活用を図りたい。 ②定着した。</p>	<p>①学校支援地域本部の協力で、教科の授業等にも地域講師、学校教育支援ボランティアの活用を積極的に行っている</p> <p>②図書館ボランティアを継続し、開館時間を増やすとともに生徒の読書活動を保障する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ①サマーチャレンジ、総合的な学習(沼中ラーニング)、特別活動、道徳の授業では多くの地域講師を活用したが、教科では理科のみで、今後の課題である。 ②今年度は、図書館ボランティアが見つからず、開館時間を増やすことが出来なかった。</p>
③ 学校評価を生かした 学校の改善	<p>①学校関係者評価委員会での意見は必ず改善策を考え、実行していく</p> <p>②授業参観保護者授業評価もマークシート方式に改善することで迅速に結果を出せるようにし、改善案を学年会で作成する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①、②マークシート方式に改善することで多様な集団の集計ができるようになった。</p>	<p>①学校関係者評価委員会での意見は必ず改善策を考え、実行していく</p> <p>②授業参観保護者授業評価もマークシート方式に改善することで迅速に結果を出せるようにし、改善案を学年会で作成する</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①学校関係者に小学校・高校・大学の関係者を置き、小・中・高・大を見据えた教育について議論した。 ②学校の重点取り組みを明示し、文章で評価いただいた。具体的な激励や改善につながる意見が頂戴できた。</p>	<p>①学校関係者評価委員会での意見は必ず改善策を考え、実行していく</p> <p>②保護者・地域からは、文章だけでなくマークシート方式のよさも加味しながら評価をいただき、改善につなげる</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ①昨年度末いただいたご意見を精査し、取り組むところから早急に改善を図った。 ②学校の重点取り組みを明示し、多数の保護者からご意見を頂戴できるように、今年度はマークシート方式を加味して実施し、回答していただいた人数が149名と、昨年度の51名を大きく上回った。ただ予想されたことだが、文章による回答は19名と少なくなってしまうことは課題である。また、「沼中ラーニング」「校内研究」「支援教育」の項目で「わからない」が30%を超えており、情報提供・周知に課題があった。</p>

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H25(2013)年度取組内容	H26(2014)年度取組内容	H27(2015)年度取組内容
① 授業研究の充実	①グランドデザインを校内研究会で作成する ②年間1人2回は授業公開する (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①グランドデザインについて校内研究会で提案し、作成することができた。 ②全員が授業公開をし、授業力向上に役立てることができた。	①グランドデザインの見直しと、それに基づいた授業実践を行う ②年間1人2回は授業公開する (評価) ① 達成した ② 達成できなかった 成果と課題 ①グランドデザインを校長より提示し、コンピテンシーレベルの力をどう付けていくのか、協議した。 ②年間1回の授業公開にとどまった。	①グランドデザインに基づいた授業実践の成果と課題を明らかにする ②年間1人2回以上、研究と関連させた公開授業を実施するとともに、年間指導計画に生徒主体の授業を明示する (評価) ① 達成した ② 達成できなかった 成果と課題 ①授業実践の成果と課題は、校内研究の中で明らかにしてきた。ただ、「目指す生徒像」のコンピテンシーを、授業の年間指導計画に明示するつもりであったが、教科用図書採択の年でもあったので、次年度に先送りした。 ②年間一人2回以上の公開授業は行えたが、①に書いた理由で、生徒主体の授業を年間指導計画に明示することは先送りした。
② 授業評価の活用	①生徒による授業アンケートは教科ごとに集計し、教科の課題として検証・改善をめざす ②授業参観では地域・保護者が評価しやすいように、新しい書式でアンケートを作成する (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①、②アンケート用紙は教員用保護者用と文言をわかりやすくする必要がある。	①前年度の検証・改善結果が良い方向に向かっているか再検証する ②授業参観では地域・保護者が評価しやすいように、新しい書式でアンケートを作成する (評価) ① 達成できなかった ② 達成した 成果と課題 ①年間2回の授業アンケートをとり、1回目の分析・検証から改善、2回目の検証と流れを考えていたが、2回目が実施できていない。 ②アンケートの実施はできたが、回収率はあまり高くない。今後の課題である。	①前期・後期に年間2回の授業アンケートをとり、前期の課題を後期に活かしその成果を検証する ②授業参観では地域・保護者が評価しやすいように、新しい書式でアンケートを作成する (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①年間2回の授業アンケートをとり、1回目の分析・検証から改善、2回目の検証へとつなげることが出来た。 ②アンケートは例年通り実施したが、回収率の向上は図れていない。
③ 研修事業の充実	①支援が必要な生徒へのかかわり方や授業内での指導・支援方法について校内研修を企画し実践する ②研修に適切な日時を設定し、目的に応じて外部講師を活用し、研修の効果を高める (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①夏と年度末の休業中に研修を企画し、実践できた。 ②さらに学校の状況にあわせた研修を企画し、実践したい。	①教育のユニバーサル化に向けた研修に着手する ②授業研究のスーパーバイザーを選任し、適切なアドバイスをいただく (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①研修とともに、教室前の掲示板にロールカーテンを取り付け、学習環境の構造化を計ったり、スキルスタンダードの作成に着手した。今後は、授業のユニバーサル化に発展させたい。 ②横浜国立大学・米澤准教授をスーパーバイザーに、年間3回の講演で、本校が目指すべき授業スタイルの共有化を図った。	①授業のユニバーサル化に向けた研修に着手する ②横浜国立大学・米澤准教授を授業研究のスーパーバイザーとして依頼し適切なアドバイスをいただくとともに、同大附属鎌倉中学校の協力を仰ぎ、授業研究を進める (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①明星大学の中田正敏先生の「インクルーシブな学校づくりにおける学習研究活動～支援というコンセプトの導入～」と題した講演を受け、校内研究とも関連させながら、授業のユニバーサル化に着手できた。 ②横浜国立大学・米澤准教授をアドバイザーに年間6回の校内研修会、年間2回全員の公開授業と年間1回の研究授業を実施した。また、同大附属鎌倉中学校の教諭に模擬授業と講義を依頼し、研究テーマに沿った授業を実践した。次年度は、アクティブラーニングにおける評価方法についても研究を継続したい。また、教科の年間指導計画と「目指す生徒像」との関連を図りたい。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（事務の委任等）

第二十五条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。
 - 一 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。
 - 二 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
 - 三 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
 - 四 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
 - 五 次条の規定による点検及び評価に関すること。
 - 六 第二十七条及び第二十九条に規定する意見の申出に関すること。
- 3 教育長は、教育委員会規則で定めるところにより、第一項の規定により委任された事務又は臨時に代理した事務の管理及び執行の状況を教育委員会に報告しなければならない。
- 4 教育長は、第一項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第一項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

（教育委員会の意見聴取）

第二十九条 地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかなければならない。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（抜粋）
（19 文科初第 535 号 平成 19 年 7 月 31 日 文部科学事務次官通知）

第一 改正法の概要

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしたこと。（法第 27 条）

第二 留意事項

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

- ① 今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。
- ② 現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取組を行っている場合には、その手法を活用しつつ、適切に対応すること。
- ③ 点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者から意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

逗子市教育委員会 教育部教育総務課

〒249-8686

神奈川県逗子市逗子5-2-16

TEL046-873-1111

FAX046-872-3115

E-mail kyouiku@city.zushi.kanagawa.jp